

# 令和元年度地域学校協働活動事例集

No	都道府縣市名	市町村名	活動名	関係する学校
1	北海道	中札内村	中札内村地域協働型学校づくり協議会	中札内村立中札内小学校 中札内村立上札内小学校 中札内村立中札内中学校
2		安平町	安平町ふるさと教育・学社融合推進事業	安平町立安平小学校 安平町立遠浅小学校 安平町立早来小学校 安平町立追分小学校 安平町立早来中学校 安平町立追分中学校 北海道立追分高等学校 はやきた子ども園 おいわけ子ども園
3	青森県	鱒ヶ沢町	鱒ヶ沢町地域学校協働本部	鱒ヶ沢町立西海小学校 鱒ヶ沢町立舞戸小学校 鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校
4		十和田市	大深内中学校学校運営協議会	十和田市立大深内中学校
5	宮城県	東松島市	鳴瀬未来中学校学校運営協議会	東松島市立鳴瀬未来中学校
6	秋田県	北秋田市	合川小学校地域学校協働本部	北秋田市立合川小学校
7		男鹿市	船川第一小学校地域学校協働本部	男鹿市立船川第一小学校
8		由利本荘市	西目小学校学校運営協議会	由利本荘市立西目小学校
9	山形県	小国町	白い森地域学校協働本部	小国町立小国小学校 小国町立叶水小学校 小国町立小国中学校 小国町立叶水中学校 山形県立小国高等学校
10	福島県	大玉村	大玉村地域学校協働本部	大玉村立大玉中学校 大玉村立玉井小学校 大玉村立大山小学校 大玉村立玉井幼稚園 大玉村立大山幼稚園
11		会津若松市	湊地区地域学校協働本部	会津若松市立湊小学校 会津若松市立湊中学校
12		西郷村	西郷村地域学校協働本部	西郷村立西郷第一中学校 西郷村立西郷第二中学校 西郷村立川谷中学校 西郷村立熊倉小学校 西郷村立小田倉小学校 西郷村立米小学校 西郷村立羽太小学校 西郷村立川谷小学校
13	群馬県	下仁田町	下仁田町地域学校協働本部	下仁田町立下仁田小学校 下仁田町立下仁田中学校
14		伊勢崎市	宮郷中学校学校運営協議会・ 宮郷地区挨拶運動推進協力委員会	伊勢崎市立宮郷中学校 伊勢崎市立宮郷小学校 伊勢崎市立宮郷第二小学校 伊勢崎市立宮郷幼稚園

# 令和元年度地域学校協働活動事例集

No	都道府縣市名	市町村名	活動名	関係する学校
15	埼玉県	久喜市	太東学園コミュニティ・スクール委員会	久喜市立太東中学校 久喜市立太田小学校 久喜市立久喜東小学校
16		羽生市	須影小学校応援団	羽生市立須影小学校
17		新座市	新座市子どもの放課後居場所づくり事業 大和田ココフレンド	新座市立大和田小学校
18	千葉県	市川市	塩浜学園 はまっこくらぶ・はまっこサポート	市川市立塩浜学園
19		睦沢町	睦沢町地域学校協働本部	睦沢町立睦沢小学校
20	東京都	杉並区	方南小学校支援本部	杉並区立方南小学校
21		三鷹市	東三鷹学園コミュニティ・スクール委員会	三鷹市立第一小学校 三鷹市立北野小学校 三鷹市立第六中学校
22		板橋区	中台小学校支援地域本部	板橋区立中台小学校
23		多摩市	多摩市立多摩中学校地域学校協働本部	多摩市立多摩中学校
24	新潟県	佐渡市	八幡小学校 学校運営協議会	佐渡市立八幡小学校
25		見附市	今町小学校地域学校協働本部	見附市立今町小学校
26		関川村	関川村地域学校協働本部	関川村立関川小学校 関川村立関川中学校
27	石川県	能美市	宮竹小学校学校運営協議会	能美市立宮竹小学校
28		かほく市	金津小学校学校運営協議会	かほく市立金津小学校
29	山梨県	昭和町	押原中学校学校運営協議会	昭和町立押原中学校
30	長野県	木島平村	木島平村学校運営協議会	木島平村立木島平小学校 木島平村立木島平中学校
31		飯田市	座光寺の子どもを語る会	飯田市立座光寺小学校
32	岐阜県	恵那市	自分とふるさとを愛する子を育てる「岩村プラン」	恵那市立岩邑小学校 恵那市立岩邑中学校
33		高山市	一之宮地区学園連絡会	高山市立宮小学校 高山市立宮中学校
34		郡上市	郡上北高 地域とともに発展（KCD）プロジェクト	岐阜県立郡上北高等学校

# 令和元年度地域学校協働活動事例集

No	都道府縣市名	市町村名	活動名	関係する学校
35	静岡県	掛川市	大浜中学校区子ども育成支援協議会	掛川市立大浜中学校 掛川市立大坂小学校 掛川市立千浜小学校 掛川市立千浜幼稚園 私立おおさか認定こども園 私立千浜保育園
36	愛知県	大治町	大治町学校支援地域本部	大治町立大治中学校 大治町立大治小学校 大治町立大治南小学校 大治町立大治西小学校
37		江南市	古北小コミュニティ・スクール	江南市立古知野北小学校
38		一宮市	北方中学校区学校運営協議会	一宮市立北方小学校 一宮市立北方中学校
39	三重県	四日市市	四日市市立水沢小学校コミュニティスクール運営協議会（きらら委員会）	四日市市立水沢小学校
40		名張市	青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会 教育・文化部会	名張市立百合が丘小学校
41	滋賀県	草津市	笠縫東学区地域協働合校推進協議会	草津市立笠縫東小学校
42	京都府	舞鶴市	青葉中学校地域支援協議会	舞鶴市立青葉中学校
43		南丹市	摩気高山子ども未来塾	南丹市立園部小学校 南丹市立園部第二小学校
44		精華町	精華西中学校区地域連携プロジェクト	精華町立精華西中学校 精華町立東光小学校 精華町立精華台小学校
45	大阪府	富田林市	甘南備広場	大阪府立富田林支援学校
46	奈良県	奈良市	地域フォーラム ～高校生からの提言～	奈良県立西の京高等学校
47		天理市	櫛小プロジェクト協議会	天理市立櫛本小学校
48		御所市	大正「学び力」育成委員会	御所市立大正中学校
49		天理市	地域社会とつながったキャリア教育	奈良県立二階堂高等学校
50	和歌山県	有田市	港小学校地域学校協働活動	有田市立港小学校
51		串本町・古座川町	串本古座高等学校地域協議会	和歌山県立串本古座高等学校
52		田辺市	大塔地域学社融合推進協議会	田辺市立鮎川小学校 田辺市立大塔中学校
53		串本町	西向小・中コミュニティスクール	串本町立西向小学校 串本町立西向中学校

# 令和元年度地域学校協働活動事例集

No	都道府縣市名	市町村名	活動名	関係する学校
54	島根県	大田市	大田西中学校区地域学校協働活動	大田市立仁摩小学校 大田市立温泉津小学校 大田市立大田西中学校
55	岡山県	早島町	早島町地域学校協働本部	早島町立早島小学校 早島町立早島中学校
56		真庭市	中和小学校地域学校協働本部	真庭市立中和小学校
57	広島県	府中市	府中明郷学園学校運営協議会	府中市立府中明郷学園
58		山県郡安芸太田町	安芸太田町子ども会連合会	広島県立加計高等学校
59		北広島町	芸北分校あすなるプロジェクト	広島県立加計高等学校芸北分校
60	山口県	長門市	学校と地域をつなぐ協議会	長門市立油谷小学校
61		山口市	大内・小鯖協育ネット	山口市立大内中学校 山口市立大内中学校氷上分校 山口市立大内小学校 山口市立大内南小学校 山口市立小鯖小学校
62		岩国市	みんNa元気Daネット	岩国市立灘中学校 岩国市立灘小学校 岩国市立中洋小学校
63	徳島県	東みよし町	足代小学校運営協議会	東みよし町立足代小学校
64	愛媛県	新居浜市	垣生校区学校支援地域本部	新居浜市立垣生小学校
65		鬼北町	愛治小学校区地域学校協働本部	鬼北町立愛治小学校
66	高知県	土佐町	土佐町学校応援団推進本部	土佐町立土佐町小学校 土佐町立土佐町中学校
67		香美市	香長っ子もりあげ隊	香美市立香長小学校
68		大月町	大月町地域学校協働本部	大月町立大月小学校 大月町立大月中学校
69		室戸市	室戸高校地域協働学習	高知県立室戸高等学校
70	福岡県	春日市	春日小学校 地域学校協働本部	春日市立春日小学校
71		太宰府市	水城小学校地域学校協働本部	太宰府市立水城小学校
72		広川町	広川町教育力向上本部	広川町立広川中学校 広川町立上広川小学校 広川町立中広川小学校 広川町立下広川小学校

# 令和元年度地域学校協働活動事例集

No	都道府縣市名	市町村名	活動名	関係する学校
73	長崎県	東彼杵町	コミュニティ・スクール 「東彼杵っ子応援隊」	東彼杵町立千綿小学校 東彼杵町立彼杵小学校 東彼杵町立東彼杵中学校
74		大村市	松っ子応援隊	大村市立松原小学校
75		壱岐市	瀬戸コミュニティ・スクール	壱岐市立瀬戸小学校
76	熊本県	山鹿市	地域に貢献し、地域に愛される鹿本中	山鹿市立鹿本中学校
77		荒尾市	さくらやま学校運営協議会	荒尾市立桜山小学校
78		水俣市	鶴の子育成協議会	水俣市立湯出小学校
79	大分県	由布市	挾間中学校区地域学校協働活動	由布市立挾間小学校 由布市立由布川小学校 由布市立石城小学校 由布市立谷小学校 由布市立挾間中学校
80		佐伯市	佐伯市鶴谷中学校区ネットワーク会議	佐伯市立鶴谷中学校 佐伯市立佐伯小学校 佐伯市立佐伯東小学校 佐伯市立渡町台小学校□
81		臼杵市	さしう地区振興協議会	臼杵市立佐志生小学校
82	鹿児島県	志布志市	伊崎田校区青少年育成活動	伊崎田学園志布志市立伊崎田小学校 伊崎田学園志布志市立伊崎田中学校
83		鹿屋市	かのや学校応援団串良地域学校支援活動	鹿屋市立串良小学校 鹿屋市立串良中学校
84		いちき串木野市	生冠中学校学校運営協議会	いちき串木野市立生冠中学校
85	沖縄県	沖縄市	安慶田小学校地域学校協働本部	沖縄市立安慶田小学校
86	埼玉県 さいたま市	さいたま市	鈴谷小スクールサポートネットワーク	さいたま市立鈴谷小学校
87		さいたま市	岸中学校スクールサポートネットワーク	さいたま市立岸中学校
88		さいたま市	市立浦和高等学校地域学校協働活動	さいたま市立浦和高等学校
89	神奈川県 横浜市	横浜市	並木第四小学校地域学校協働活動	横浜市立並木第四小学校
90		横浜市	寺尾小学校地域学校協働活動	横浜市立寺尾小学校

# 令和元年度地域学校協働活動事例集

No	都道府縣市名	市町村名	活動名	関係する学校
91	新潟県 新潟市	新潟市	南浜中学校地域学校協働本部	新潟市立南浜中学校
92		新潟市	関屋小学校地域学校協働本部	新潟市立関屋小学校
93		新潟市	西特別支援学校地域学校協働本部	新潟市立西特別支援学校
94	京都府 京都市	京都市	みつばの森・みつば幼稚園学校運営協議会	京都市立みつば幼稚園
95		京都市	梅小路小学校学校運営協議会「梅っ子パートナーズ」	京都市立梅小路小学校
96	青森県 青森市	青森市	浦町地区学校支援地域本部	青森市立浦町中学校 青森市立堤小学校 青森市立葺町小学校 青森市立橋本小学校 青森市立浦町小学校
97	埼玉県 川口市	川口市	岸川中学校・学校応援団	川口市立岸川中学校
98	石川県 金沢市	金沢市	金沢市立犀川小地域学校協働本部	金沢市立犀川小学校
99	岐阜県 岐阜市	岐阜市	方県地域コミュニティ活動	岐阜市立方県小学校
100	奈良県 奈良市	奈良市	若草中学校区地域教育協議会	奈良市立若草中学校 奈良市立鼓阪小学校 奈良市立佐保小学校 奈良市立鼓阪北小学校 奈良市立佐保幼稚園 奈良市立若草こども園

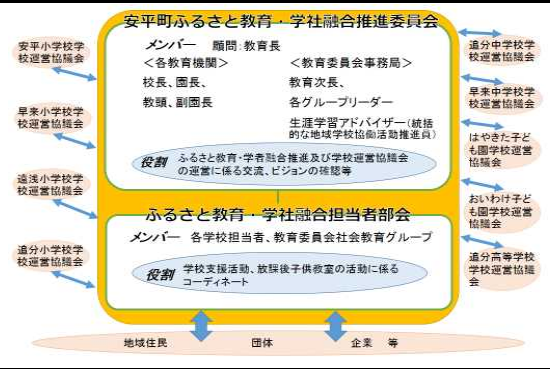


こんな活動です

# 「町は子どもたちを育てる大きな学校」の視点で教育活動を支援する取組

北海道安平町		●活動名 安平町ふるさと教育・学社融合推進事業			●関係する学校名 安平町立安平小学校 安平町立遠浅小学校 安平町立早来小学校 安平町立追分小学校 安平町立早来中学校 安平町立追分中学校 北海道追分高等学校 はやきた子ども園 おいわけ子ども園		
協働活動開始年度	平成20年度	関係学校数	9校	のべ学級数	33学級	のべ児童・生徒数	399人
活動区分	学校支援活動		—		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	2人		—		24人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	初)H25.7.1(追分小) 終)H30.4.1(追分高校)					134人	
参考URL	—						
●連絡先		安平町教育委員会 社会教育グループ		☎		0145-29-7036	

## 体制図



●活動の概要・経緯

安平町では、地域総がかりの教育の実現を目指し、平成25年7月の追分小学校を皮切りに学校運営協議会の設置を進め、平成30年4月に北海道追分高等学校が設置したことにより、町内の全ての教育機関(子ども園2、小学校4、中学校2、高等学校1)への学校運営協議会の設置することとなった。

地域学校協働活動については、社会教育担当者と各校に置かれている「ふるさと教育・学社融合担当者(地域連携担当教諭)」が連携し、学校における教育活動や地域貢献への取組を一体的にコーディネートしており、幼・小・中・高間の交流授業をはじめ、地域を知るための「ふるさと学習」や地域人材を活用した「学社融合授業」を積極的に行うなど活動の充実に努めている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- はやきた子ども園では、「はやきただからできる」乗馬体験や自然体験等を推進しているほか、園の取組を地域住民が共有する目的で、地域向けの園開放日「みんなの参観日」を設定するなど、地域とのネットワークを重視した取組を推進している。
- 遠浅小学校では、学校運営協議会において、学校と地域のそれぞれの立場から、「災害時における避難所生活の体験が必要」との意見が出されたことを契機に、町をはじめ、町内外の関係機関や自治会、子ども会などが連携して、「遠浅地区防災キャンプ事業」を実施しており、災害時の協力体制構築の一助となっている。
- 町内の中学校と追分高校については、20以上の事業者による受け入れ協力のもと、職業体験を継続して行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- コーディネート機能の充実を図るため、社会教育担当者が地域の窓口、各校のふるさと教育・学社融合担当者等が学校の窓口となり、各活動を推進している。
- 活動の継続発展・推進の取組の充実に向け、町の放送事業「あびらチャンネル」でCSの取組を町内全体に発信するほか、各学校でもCS通信を定期的に発行し、それぞれの活動の交流や町全体に向けたCSの認知度を高める取組を行っている。
- 町内全小学校において、地域の農家や農業団体の協力のもと、収穫から稲刈りまでをサイクルとした「米学習」を小学5年生の授業として実施するなど、地域の特性を生かした活動を授業として実施している。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 安平町は、これまでも地域と学校が連携し、地域の人的・物的資源を活用した学校支援活動に取り組んできたが、私立の子ども園を含む町内全ての学校にCSが導入され、子ども園や小学校の行事に中学校や高校が協力するなど、異なる校種の運営協議会との結びつきが強くなった。
- CSの取組が充実する過程で、「学校が取り組むこと」「地域が取り組むこと」「学校と地域が連携・協働して取り組むこと」がより明確になり、地域住民が主体となった朝の見守り活動が実施されるようになるなど、「地域住民の一人ひとりが、町の子どもたちを育てる当事者である」という意識が高まった。
- 追分高校の生徒がより地域と接する機会が多くなり、ボランティアなど地域に貢献する活動に取り組む生徒が増えつつある。

## ●その他

平成30年度に北海道追分高等学校(道立学校)が学校運営協議会を設置したことにより、子ども園から高等学校までの一貫した方針を掲げた目標設定が可能になり、全町一体となった取組の推進に向け調整を重ねているところである。



のはやきた子ども園と早来小との交流



遠浅地区防災キャンプ事業(簡易ペットづくり)



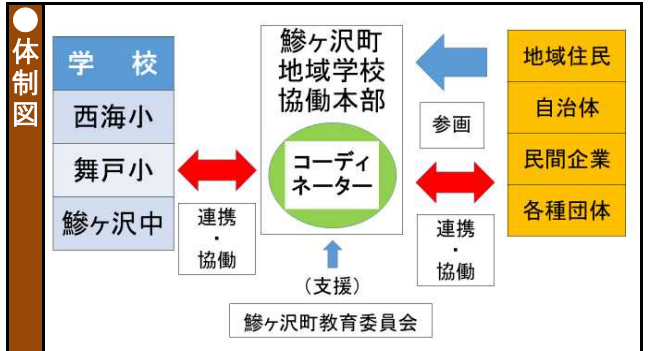
こんな活動です

# チーム鯉ヶ沢でふるさとを愛する人づくりを推進！

青森県鯉ヶ沢町	●活動名	●関係する学校名
	鯉ヶ沢町地域学校協働本部	鯉ヶ沢町立西海小学校 鯉ヶ沢町立舞戸小学校 鯉ヶ沢町立鯉ヶ沢中学校

協働活動開始年度	平成 30 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	24 学級	のべ児童・生徒数	496 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		3人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	令和2年4月1日設置予定	—	508人	—	—		
参考URL	<a href="http://www.town.aiigasawa.lg.jp/">http://www.town.aiigasawa.lg.jp/</a>						

●連絡先 鯉ヶ沢町教育委員会 教育課 ☎ 0173-72-2111



●活動の概要・経緯

鯉ヶ沢町地域学校協働本部は、平成30年度に小学校2校、中学校1校にコーディネーターを1名ずつ配置し活動をスタートした。各校のコーディネーターは、地域や学校の実態に詳しいことから、学校の教育的ニーズを的確に把握し、幅広い地域人材の紹介や連携促進に取り組んでいる。また、定期的に教育委員会に出向き、自治体・民間企業・各種団体等からの情報や地域住民の要望等を確認し、学校と地域の橋渡し役となって活動している。活動は始まってまだ間もないが、次年度からの学校運営協議会の設置を契機に、学校が核となり過疎化や伝統芸能の継承者不足等、地域が抱える課題解決に向けた取組が期待される。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 西海小学校・・・クラブ活動において地域住民が各種目（スポーツクラブ、グラウンドゴルフ、パソコン、茶道、料理）の講師となり活動を行っている。教員にとっては指導技術を学ぶ良い機会となるとともに、クラブ選択の幅が広がることから児童・保護者からも好評である。
- 舞戸小学校・・・読み聞かせグループによる授業前の各クラスでの読み聞かせや、地元農家を招いた総合的な学習の時間での農業体験等、地域の方々が講師となり取り組んでいる。読み聞かせグループにとっては、スキルアップを図る良い機会となっている。
- 鯉ヶ沢中学校・・・コーディネーターが中心となり職業体験の受け入れ先を見つけ、交渉・連絡等を行っている。また、地域住民が学校の庭の環境整備や定期的に図書室の整理などを行っている。職業体験は、町内の企業にとって自社をPRする貴重な機会となっている。
- 小学校・中学校共通・・・町無形文化財保存会による、地元民謡の「鯉ヶ沢甚句」の踊りの指導を受け運動会で披露している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 各学校にコーディネーターの部屋を設置することで、学校とコーディネーターとの打ち合わせが日常的に行われ、学校のニーズに合った地域学校協働活動が効果的に行われている。また、教職員のみならず、幅広い地域住民等が気軽にコーディネーターの部屋に立ち寄ることができるように、学校及びコーディネーターがアットホームな雰囲気づくりに努めている。
- コーディネーターに携帯電話が貸与され、外部機関等との連絡・調整が迅速に行われている。
- コーディネーターが定期的に教育委員会に出向き、自治体・民間企業・各種団体等からの情報や地域住民の要望等を確認し、学校と地域の橋渡し役となっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校と地域を繋ぐ窓口をコーディネーターに一本化したことで、コーディネーターを中心に学校・家庭・地域の距離が縮まり、地域学校協働活動の良さが表れてきた。また、活動を行っている地域住民（ボランティア等）も活動する楽しさや子どもと触れ合う喜びを感じることで、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が地域住民の中に広がってきた。新たな動きとして、地域興し活動を行っている高校生が小学校の運動会に出向き、活動の補助や地域おこし活動のPR等を始めたことで、地域住民全体に「私たちの鯉ヶ沢町」を盛り上げていこうとする雰囲気が広がりはじめている。

## ●その他

地域人材を活用することで、教員だけでは指導できない茶道やパソコン等のクラブ活動、農業体験等、児童・生徒の貴重な体験活動が効果的に行われ、教職員の負担軽減にもなっている。また、地域にとっては、これからのまちづくりの後継者としての人材育成に期待が込められている。



が担ソ西  
広当コ海  
がす小  
る等  
。このク  
ことでラ  
、節活  
児童動  
の地（茶  
域選道  
住民道  
・民  
・肢がパ



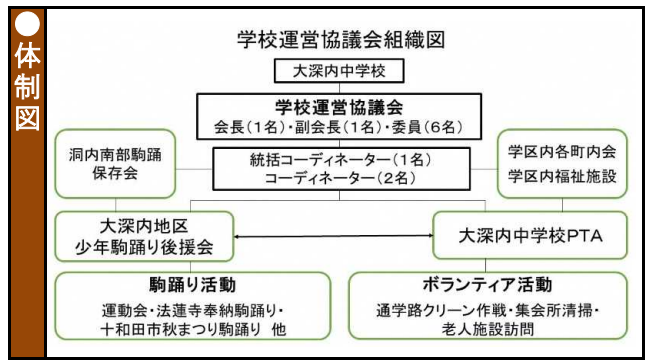
い継活舞  
る者用戸  
。とし小  
として  
の農合  
的期  
な待  
が験な  
。習  
め地  
ら域  
の時  
れ間  
て後

# 地域に貢献する学校日本一を目指して ～ 駒踊りとボランティア活動を通して～

青森県十和田市	●活動名 大深内中学校学校運営協議会	●関係する学校名 十和田市立大深内中学校
---------	-----------------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	3 学級	のべ児童・生徒数	36 人
活動区分	—	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人				2人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成28年4月1日		32人				
参考URL	—						

●連絡先	十和田市教育委員会 指導課	☎ 0176-23-5111
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

○地域の伝統芸能である「南部駒踊り」を、地域の駒踊り保存会の協力と指導を仰ぎながら、本校の教育活動に取り入れて今年度で49年目を迎える。十和田市の秋まつりへの駒踊りの出演や老人施設訪問での駒踊り披露など、幅広く活動している。

○学区内の小学校の学校運営協議会と連携しながら、学区内の清掃ボランティアを実施したり、各町内会と連携して各集会所等の清掃ボランティアも実施している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①本校の駒踊り活動を支援いただいた駒踊り保存会、大深内地区少年駒踊り後援会の協力により、伝統芸能を長年にわたり継承している。
- ②地域の理解と協力を得るため、学校だより等を学区内の全世帯に配布している。配布については保護者が各町内会に自主的に働きかけている。
- ③駒踊りや各ボランティア活動の原資として、町内会の全世帯から出資をいただいている。

### 【実施に当たっての工夫】

活動の推進について、年3回開催する学校運営協議会での意見交換を大切に、教育活動のねらいと地域の求める姿を調整したり、相互理解しながら活動を計画・立案している。また、人口減少などの地域が抱える問題点や各団体・町内会の情報交換を密に行いながら、地域課題解決のための取組を模索している。

駒踊りやボランティア、各町内会への連絡・調整については、保存会会長及び学校運営協議会委員1名がコーディネーターとなり、日程や参加人数のとりまとめ、必要物品の手配を行うことで、教職員の負担を軽減している。また、地域の代表者が学校の教育活動と地域をコーディネートすることで、学校と地域の相互理解や協力体制が深まっている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

十和田市秋まつりへの出演で、本校の活動が広く市民に周知されるとともに、他市町村の老人施設での駒踊り披露により十和田市の伝統芸能についての宣伝効果をもたらしている。また、活動に保存会等の協力を得ることで本校生徒と地域の大人との繋がりが深まり、地域による生徒の見守り活動の一助としても機能している。

学区内小学校や各町内会、老人施設等と連携したボランティア活動を実施することで、郷土理解が深まるとともに郷土愛が育まれ、生徒の地域に貢献しようとする意欲・態度の高まりが見られている。また、ボランティア活動を通じた各地域の人々との交流から、各町内会が中学生の活動を広報で紹介するなど、地域の活性化に貢献できている。

## ● その他

- 左: 五所川原市の特別養護老人ホームで駒踊りを披露。施設入所者から大歓迎を受ける。
- 右: 学区内の集会所を町内会と協力して、町内及び付近に在住する生徒が清掃ボランティアを行う。



り特別養護老人ホームでの駒踊り披露



町内会と協力した、地域の集会所での清掃ボランティア

# 鳴瀬の生徒は、学校・保護者・地域で育てる

宮城県東松島市	●活動名 鳴瀬未来中学校学校運営協議会	●関係する学校名 東松島市立鳴瀬未来中学校
---------	------------------------	--------------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	10 学級	のべ児童・生徒数	212 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	—			13人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成27年5月25日設置		50人				
参考URL	<a href="http://www.narusemirai-j.higashimatsushima-c.ed">www.narusemirai-j.higashimatsushima-c.ed</a>						

●連絡先	東松島市役所生涯学習課	☎ 0225-82-1111
------	-------------	----------------

●体制図

<方針>  
 ①学校運営協議会をより機能的にするため「教育活動サポート班」「地域活動サポート班」「安全活動サポート班」の3つの班を組織し、班毎に企画・運営の場を設置する。  
 ②班の構成メンバーは、学校運営協議会委員のほか、班のサポーター及び教員とし、必要に応じて、活動に関係する団体にも依頼する。

※班サポーターとは、学校運営協議会から推薦された方々と、必要に応じて保護者、地域住民にサポーターメンバーを募集し、応募によって活動を希望した方で構成する。

```

    graph TD
      A[学校運営協議会] --> B[教育活動サポート班]
      A --> C[地域活動サポート班]
      A --> D[安全活動サポート班]
    
```

●活動の概要・経緯

本市は東日本大震災直後から子供たちの心のケアを中心に被災校の学習環境整備、生涯学習施設の復旧や円滑な学校統合に向けた取組を進めてきた。教育委員会でも「地域とともに育つ学校、学校とともに育つ地域」の理念の下、地域の復興とともに地域の核となる学校づくりを推進するため、全小中学校で学校運営協議会制度の導入を決めた。鳴瀬未来中学校は県内中学校で最も早く、学校運営協議会を設置した学校である。時代の変化に対応し、地域資源を十分に活用した創意ある教育課程を編成し、学校・家庭・地域が一体となり、連携・協働して生徒の教育活動に取り組んでいる。地域の人々に支えられ学んでいくことで、生徒たちも将来の自分がどんな姿でありたいかなど、自らの志をしっかりと持ち、地域への愛着を感じながら地域学校協働活動に取り組んでいる。本市のコミュニティ・スクールのモデル校として、学校と地域の結びつきを年々強化し、その取組を各種研修会等で広く発信している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成28年度から始めた『ジョブ・カフェ』は、主に東松島市、石巻市を中心に活躍する職業人の方々から、中学2年生がその職業について話を聞く会である。平成30年度からは、生徒の進路に対する意識を早い段階から高めようと、1年生からこの『ジョブ・カフェ』に参加することとした。本活動への生徒の学習意欲は年々高まっている。比例するように講師を引き受ける企業等も増え、平成30年度は19の団体に協力をいただいた。毎年講師を引き受けている団体は同じ内容とならないようにアイデアを凝らし、実際の作業体験ができる場を設定したり、作業する姿を実際に見せたりしている。さらにはお菓子作りをその場でを行い、その場で試食できる場を設けるなど年々充実した取組となっている。この取組は学校運営協議会の中で委員が提案し、実現の運びとなったものである。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・ 職場体験学習の前に実施することで、各職業に対するイメージを広げ、実際に職場体験を行うことでさらに理解を深められるようにしている。
- ・ 講師として参加した企業、個人から新たな講師へとつなげてもらえるように、働き掛けを行っている。
- ・ 東松島市で育ち、将来、東松島市に貢献する人づくり、仕組みづくりにつなげている。
- ・ 生徒に近い年代の講師（職業人）に来ていただくことで、将来の自分へのイメージを膨らませ、これからの生き方につなげようとする気持ちを育てている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

年々、本取組にご協力頂ける企業、個人事業者が増え、各講師が自分の携わっている仕事のやりがいや魅力を生徒に伝えようと積極的に参加している。説明だけでなく実物を持参したり体験活動を取り入れたりと工夫をしている。1年生にとっては様々な職種があることを知るとともに、働くことを実感することができる。2年生は、3週間後にある職場体験学習に向けての意識づけとなり、ジョブ・カフェで講師になった職場に訪問する生徒もいることから、地域の社会人とのつながりも作ることができる。また、本活動は保護者も参観でき、家庭で進路について話題にする機会となっている。「地域とともに育つ学校、学校とともに育つ地域」の理念の下、地域の人々に支えられ、ともに学び合うなかで、地域への愛着を膨らませ、笑顔いっぱい学習に励む生徒たちの姿が印象的である。

## ● その他

地元の個人営業の職業人から行政、株式会社・有限会社など幅広い職業関係者から話を聞いたり、実演・実習に取り組んだりした。30年度参加企業として、「(有)アグリードなるせ」「東松島市漁業振興協会」「航空自衛隊元パイロット」「(株)櫻井建設」「RAIN WE DDING」など19団体ある。



説明や実物の内容を確認しただけでは見ることが、映像



今年の内容が充実した実習です。柱の組み立てを体験

こんな活動です

# 地域と学校を結ぶ合川小学校地域応援団 ～学校は地域の第二公民館～

秋田県北秋田市	●活動名 合川小学校地域学校協働本部	●関係する学校名 北秋田市立合川小学校
---------	-----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	201 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	—	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	1人			4人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成31年4月1日設置		161人				
参考URL	<a href="http://www.kumagera.ne.jp/aisho/">http://www.kumagera.ne.jp/aisho/</a>						

●連絡先	北秋田市立合川小学校	☎	0186-67-6120
------	------------	---	--------------

## ●体制図



●活動の概要・経緯  
本校は、統合7年目の歴史の新しい学校である。統合と同時に、地域学校協働本部事業を立ち上げ、4名の地域コーディネーターが学校からの要望や学校と地域や各種団体との橋渡しに取り組んできた。また、平成30年4月には、地域コーディネーターが中心となって「合川小学校地域応援団」を立ち上げ、学校と地域とが双方向の連携・協力が進んできている。平成31年4月に地域の企業や地域学校協働活動推進員の方を含めた14名の委員で学校運営協議会を立ち上げ、「企画・運営部会」「学習支援部会」「地域連携部会」「評価部会」の4部会を構成した。地域とのつながりを密にして、地域の意見や思いを学校教育に反映させながら、地域と共にある学校づくりに取り組んでいる。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①多様な学習支援：合川小地域応援団を募集・結成し、「学校行事」「農園活動」「授業・クラブ」等、得意分野で学校の教育活動に参画。  
地域学校協働活動推進員がコーディネートし、全8クラブで、地域の方が先生となって指導するクラブ活動を実施。
- ②学校安全ボランティア「見守り隊」：登校時の見守り、年2回の協議会の実施。
- ③公民館や他機関との連携：地域で活躍する方の作品展「ふれあい展」を年2回校内（多目的室）で開催。「福祉の集い」への参加。  
放課後の子どもの居場所づくりとして放課後子ども教室を公民館で開催。多様な学習の機会・体験の機会の提供。  
○タブレットやロボット制作キットを使用したプログラミング教室。（地元コンピュータースクール）  
○季節の花を利用したフラワーアレンジメント体験。（地元花苗店）  
○芋掘り体験や掘った芋を使った調理体験、郷土料理の調理体験。
- ④情報発信：学校報の全戸配付、他団体の諸会議での学校の取組説明。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・各活動終了後に推進員同士の情報交換を行い、次の活動がスムーズに進むようにする。
- ・学校、地域学校協働活動推進員、公民館の連携を密にし、活動のねらいの共有化と関係機関とのマッチングを図る。
- ・合川小学校応援団員の募集を続け、多様な活動にも対応できる力を蓄積していくように努める。
- ・「できるときに、無理せず、できることを」の精神で、活動が永く続くようにしていく。
- ・学校での活動が地域に見えるように、学校報やHPを活用して情報発信していく。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域と学校、社会教育施設、各種団体が広く連携したことで、「地域の子どもは地域で育てる」という意識の醸成につながってきている。自分の特技を生かして学校運営に参画したい、子どもたちと一緒に活動したい等、地域の人たちが学校に足を運ぶようになってきた。学びの場として学校から地域に出かけたり、地域と学校が双方向に関わり合う機会が増えてきた。  
子どもたちにとっても、たくさんの地域の人と関わり合うことで、将来の夢や目標を近くにもつことができるようになっていく。また、地域の人たちから声をかけていただいたり一緒に活動をしたりすることで、「自分のことを見てくれている人がいる」「自分を応援してくれる人がいる」など、自己肯定感を高めることにもつながっている。

## ●その他

9月には、祖父母や合川小学校地域応援団、公民館サークルの方たちと一緒になべっこ交流会を実施している。地域の遊び名人の方から昔遊び（独楽・メンコ・紙相撲・あや取り等）を教えてもらう。昼食には、秋田名物「だまこ鍋」を一緒に作ったり、食べたりしながら交流を図っている。



昔遊び体験を伝授する遊び名人から昔遊び



「なべっこ交流会」の交流「だまこ鍋」を食べながら

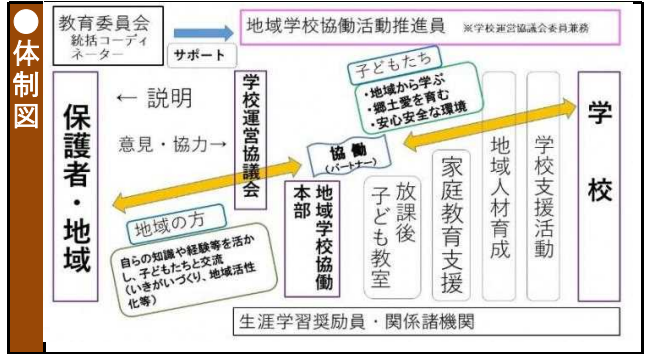
こんな活動です

# 地域は学校と！学校は地域とともに！ みんなが主役♪ふるさと愛を育もう♪

秋田県男鹿市	●活動名 船川第一小学校地域学校協働本部	●関係する学校名 男鹿市立船川第一小学校
--------	-------------------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	162 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	—	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人				1人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成28年4月1日設置			116人			
参考URL	<a href="http://www2.namahage.ne.jp/~funaichi/">http://www2.namahage.ne.jp/~funaichi/</a>						

●連絡先	男鹿市教育委員会 生涯学習室	☎ 0185-24-9133
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

「地域の子どもは地域で育てる」という男鹿市地域学校協働本部を母体に、船川第一小学校に配置した地域学校協働活動推進員が地域コーディネーターとなって、学校運営協議会と連携しながら、学校と地域・関係団体をつなぐ活動をしている。また、放課後子ども教室では、放課後児童クラブと連携し、地域人材を積極的に活用することで、子どもたちが普段学ぶことのできない様々な体験活動を実施し、安全・安心な居場所づくりに努めている。伝統行事を地域の方々と体験することにより郷土愛を深め、将来の盆踊りの踊り手や太鼓打ちなどの後継者を育成している。保護者が集まる学校行事等に家庭教育支援チームが積極的にに関わり、家庭教育支援活動を行っている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域は学校と、学校は地域とともに:地域学校協働活動推進員が地域と学校を結ぶ様々なコーディネートをしている。
- ②体験学習機会の充実:放課後子ども教室「放課後#144ラボ」は、「子どものヨガ体験」や「ものづくり体験」等、子どもの興味・関心を踏まえた内容を実施している。船川児童クラブと連携することにより、安全・安心な居場所での活動になっている。
- ③安全・安心な環境:安全ボランティアによる登下校の見守りを行い、子どもたちの安全を確保しながら世代間交流にもつなげている。
- ④未来に伝えたい地域の文化と伝統:生涯学習奨励員が講師となり、地域に伝わる「盆踊り体験」や男鹿市発祥の民謡「秋田船方節」等、地域の伝統行事を体験しながら、地域の「ひと、もの、こと」とふれあう機会を多くもつことで、郷土愛を深めるとともに、伝統文化の継承にもつながっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①よりよい取組を行うために、地域学校協働活動推進員を、学校運営協議会の委員として委嘱している。
- ②地域をよく知る地域学校協働活動推進員が、学校や学校運営協議会の意見・要望をくみ取りながら、様々な人材や活動団体・グループ等が学校と協働できる体制づくりを行っている。
- ③地域学校協働活動推進員のネットワークを広げ情報共有することで、他の学校での実践例を取り入れるなど、地域の実情に合った「よりよい活動」となるよう改善を図りながら実施している。
- ④地域の「ひと、もの、こと」を活用し、子どもたちが地域のよさや特色に気付く体験学習を多く取り入れている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①学校運営協議会で決めた「地域住民とふれあう盆踊り体験」を行うことで、子どもたちは地域のよさやありがたさに気付き、伝統文化継承への関心を高めた。
- ②地域学校協働活動の実施により、地域と学校の関わりが増えたことで、地域住民の学校に対する敷居が低くなり、学校や子どもたちの活動への理解が深まった。
- ③地域講師が放課後子ども教室や正課クラブ活動等で子どもたちとふれあうことで、自らの生涯学習への意欲を高め、生きがいきづくりにつながっている。

## ● その他

オガグリーンテック株式会社が、ボランティアで校地内の樹木の剪定などを行った。



盆踊り体験「ダダダゴ」で運動会で披露するぞ！



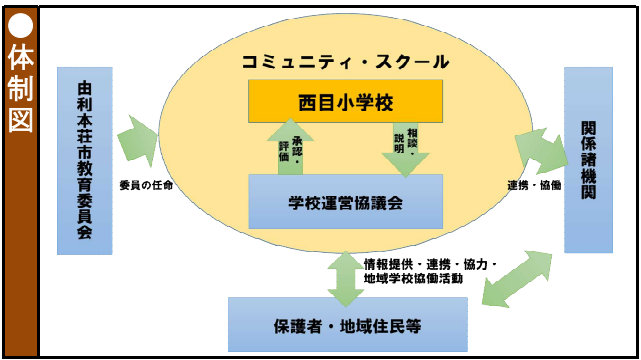
男鹿発祥の民謡「秋田船方節」を(放課後子ども教室)

# 地域を愛し、地域から愛される学校づくり

秋田県由利本荘市	●活動名 西目小学校学校運営協議会	●関係する学校名 由利本荘市立西目小学校
----------	----------------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	286 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成26年12月25日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 20人	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.city.yurihonjo.akita.jp/edu/nishime-es/">http://www.city.yurihonjo.akita.jp/edu/nishime-es/</a>						

●連絡先	由利本荘市教育委員会生涯学習課	☎ 0184-32-1332
------	-----------------	----------------



●活動の概要・経緯  
平成26年度から、学校運営協議会を主体として、地域住民や保護者、地域団体、教育委員会等と連携しながら、学校教育目標である「ふるさとに学び、主体的にたくましく生きる子どもの育成」を実践している。  
学校支援活動として、6年生の植樹・職場体験、5年生の稲の苗づくり・かかし製作・田植え・稲刈り等の体験学習、4年生の福祉体験、3年生のりんご栽培体験学習、1・2年生の野菜づくりの活動、月3回の読み聞かせ・太鼓クラブを地域の方々から学んだり、一緒に活動したりしている。中でも、キャリア教育とふるさと学習の一環であるかかしプロジェクト（「かかしでつなごう西目の輪」）の活動は、地域住民や幼稚園、中学校、高等学校を巻き込んだ活動となっており、西目地域での大きな行事として位置付けられている。  
放課後子ども教室「キビー西目教室」は、学校内に設置され、毎日（週5回）開催されている。さらに、地域の事業として地域住民や地元企業の方を講師に迎え、夏休休業中の水泳教室やサーフィン教室、ボランティア体験、おもしろ科学工作など特色ある活動を実施している。

## ● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①教育環境整備…児童会と地域団体が連携し、校地内の親水公園やピオトープの美化・整備などリサイクル活動を行っている。
  - ②学校安全の取組…地域住民やPTA、学校運営協議会、地域団体等が連携し、登下校の見守りや通学路の安全確認を行っている。
  - ③かかしプロジェクト（「かかしでつなごう西目の輪」）…かかしづくりを通して、地域住民や保護者、幼稚園児童、中学校・高等学校の生徒と交流を深めている。
  - ④多彩な授業支援…社会科や生活科、総合的な学習の時間、ふるさと学習、正課クラブ等への授業支援を行っている。
  - ⑤読み聞かせ活動…地域の読み聞かせグループにより、月に3回、朝の活動の時間に実施している。
  - ⑥あいさつチャレンジデー…毎月始めの朝に、中学校や地域団体、PTA、学校運営協議会等と連携したあいさつ運動を行っている。
  - ⑦キビー西目教室…平日は毎日（週5回）開催し、放課後の学習支援や異学年の子どもたち同士の交流及び対人関係を構築している。
  - ⑧地域の事業…地域住民や地元企業の方を講師に迎え実施している。水泳教室（大手門温水プール「遊泳館」スタッフ）、サーフィン教室（クラジングサーフ店長）、ボランティア体験・おもしろ科学工作（地域の方）
- 【実施に当たっての工夫】
- ①地域学校協働活動に係る関係団体のメンバー（地域コーディネーター含む）が学校運営協議会の構成員になっているため、相互に情報交換や相互理解が図りやすく、協議会決定事項が効果的に反映されている。
  - ②年間の計画に基づき実施されているため、担当者との綿密な連絡や相談、情報の共有化がなされている。
  - ③地域学校協働活動の取組・内容等を学校報やホームページに掲載し、学校と地域の連携・協働について積極的に情報発信している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・様々な活動に取り組んでいることにより、地域の方々の学校理解が深まり、地域に根ざした学校づくりが進められている。
- ・地域ぐるみで登下校の見守りや通学路の安全確認を行うことで、子どもたちの安全・安心の確保につながっている。
- ・地域の様々な人々との交流を通して、子どもたちのコミュニケーション能力と学習に対する興味・関心が高まり、地域のよさを実感しながらふるさとを愛する気持ちが育まれている。
- ・「かかしプロジェクト」や「あいさつチャレンジデー」等の活動を通して、異学年交流が充実し、幼・小・中・高の連携が一層図られた。

## ● その他

本地域は、旧西目町時代から「小さな町の大きな文化」を掲げ、文教施策が盛んな地域であった。その伝統が今でも地域の方々の学校に対する協力に反映されている。地域学校協働活動を通して、より一層の地域連携を図ることで、地域を愛し、地域に愛される学校づくりを実践してきたい。



小学校前庭に幼児・小・中・高の地域住民等、約六百名が集まりかかし製作



朝、街頭や学校前でのぼり旗を掲げ、地域の方々と一緒にあいさつ運動

こんな活動です

# 地域総がかりの地域学校協働活動 - 町民みんなが白い森子ども応援隊に -

山形県小国町		●活動名 白い森地域学校協働本部			●関係する学校名 小国町立小国小学校 小国町立叶水小学校 小国町立小国中学校 小国町立叶水中学校 山形県立小国高等学校		
協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	5 校	のべ学級数	31 学級	のべ児童・生徒数	579 人
活動区分	学校支援活動	—					
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数				配置人数	
	1人	3人				3人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成26年10月1日指定	400人					
参考URL	<a href="http://www.town.oguni.yamagata.jp">www.town.oguni.yamagata.jp</a>						
●連絡先	小国町教育委員会 教育振興課 生涯学習担当			☎ 0238-62-2141			



●活動の概要・経緯

小国町では、ブナの木肌と雪に共通する「白」をキーワードとして町全体を「白い森」と名付け、保小中高一貫教育構想を核として、学校運営協議会や白い森地域学校協働本部が連携・協働し、子どもたちの学びに多くの方々に関わる町民総がかりの協働体制を展開している。

平成29年度、統括コーディネーター・地域コーディネーターを教育委員会に配置し、町立小中学校と県立高校の各学校運営協議会が参画する合同学校運営協議会を設置している。子どもの見守りや読み聞かせ活動等には、白い森地域学校協働本部が中心的役割を担い、学校運営協議会委員も学校パートナーとして参加するなど、学校や地域を舞台に多彩な活動を展開している。

## ● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- 学校パートナーとしての学校支援活動
    - ・子ども見守り隊・・・児童の登下校を見守る学校安全パートナー。学校運営協議会が学校からの提案を具体化した。
    - ・昼休み、みんなで図書室へ行こう！・・・読み聞かせパートナーが主体的に企画。中学校での取り組みを踏まえ、小学校へと活動範囲を拡大させた。
  - 地域体験学習講座・・・学校教育の補完機関である白い森学習支援センター事業における閉校校舎利用の取り組み。
  - 放課後子ども教室：おぐに放課後子ども教室「めっちゃ」・「まご楽校」、かのみず放課後子ども教室「ひだまり」における豊かな学びの提供。
  - 白い森子ども体験教室：地域教育力・体験活動推進協議会主催、自然の特性を活かした体験学習プログラムの提供。

## 【実施に当たっての工夫】

統括的な地域学校協働活動推進員がCSディレクターを兼ねることにより、町内小中高校の地域学校協働活動をより効果的にコーディネートできる体制を整え、目標の共有化を図ることで、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進している。各協議会の自主性を尊重しながらも、合同学校運営協議会では共通の考え方に基つき、統一的な取り組みを実施する体制を構築している。

また、子どもたちに対して多彩な学びの場を保障できるよう、パートナーシップ企業をはじめ、多くの関係団体や関係機関、ならびにサポーターが関わり、全町「白い森子ども応援隊」として連携・協働する環境づくりに努めている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 「白い森子ども応援隊」が目指す町民総がかりの学校支援体制に対する理解が拡大したことにより、町民全体で子どもを育てる気運が醸成され、地域教育力の高まりが感じられる。
- 地域学校協働活動の展開により、地域における学校や児童・生徒への好意的見方が増えると同時に子どもたちとの関わりを通じた町民ボランティアの有用感や生きがいづくりにつながるなど、双方向の互恵関係が次の活動意欲、地域創生につながっている。
- 中高生が地域学校協働活動のボランティアとして参画できる機会を提供することで、ボランティアの芽が育まれ、人的つながりが生まれるとともに、協働活動が将来へと充実・展開していくことが期待できる。

## ● その他

白い森学習支援センターが小学高学年を対象に実施している「プログラミング講座」は、コンピューターに堪能な元教諭やパートナーシップ企業であるクアーズテック(株)、日本重化学工業(株)の若手社員に協力してもらい、より高度なプログラミングに親しむ機会を提供している。



若手エンジニアによる「白い森学習支援センター」のプログラミング講座指導



行「読み聞かせ」による「昼休み読み聞かせパートナー」による図書室へ

こんな活動です

# 「地域と共に歩む学校」を実現するための連携・協働

福島県大玉村	●活動名	●関係する学校名
	大玉村地域学校協働本部	大玉村立大玉中学校 大玉村立玉井小学校 大玉村立大山小学校 大玉村立玉井幼稚園 大玉村立大山幼稚園

協働活動開始年度	平成 30 年度	関係学校数	5 校	のべ学級数	44 学級	のべ児童・生徒数	1052 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	地域未来塾	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		—	
	1人	2人		2人		—	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成23年4月1日設置	—	172人	—	—		
参考URL	<a href="https://www.vill.otama.fukushima.jp/kyouiku_bunka/gotama_kyouiku/chihikigakkou_kvoudouhonbu/">https://www.vill.otama.fukushima.jp/kyouiku_bunka/gotama_kyouiku/chihikigakkou_kvoudouhonbu/</a>						

●連絡先	大玉村教育委員会 教育部 生涯学習課	☎ 0243-48-3139
------	--------------------	----------------

●体制図

●活動の概要・経緯

平成21年5月、本の読み聞かせや校外活動の補助、環境整備等の学校への支援のための学校支援ボランティア活動を開始。同年9月には、学習やスポーツ等さまざまな体験学習を通じて、子どもの安全な居場所の確保のための放課後子ども教室活動を開始。平成29年度から「大玉村学校支援地域本部」から「大玉村地域学校協働本部」へ名称を変更し、協働活動、学校支援、放課後子ども教室の3つの柱により、より多くのより幅広い層の地域住民、団体等が参画を呼びかけ、従来の「支援」から「連携・協働」へ、「個別」から「総合化・ネットワーク化」を目指している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ① 村行事(交通安全鼓笛隊パレードや村防災訓練等)や公民館事業へ参画し、地域との関わりを取り入れた学習活動を実践している。
- ② 協働活動、学校支援、放課後子ども教室の各ボランティアの垣根を超えて(兼務)活動することにより、子ども達と顔が見える活動ができる。
- ③ 放課後児童クラブ(1～6年生対象)と放課後子ども教室(4～6年生対象)で子どもの居場所づくりのため全学年をサポートしている。
- ④ 幼・小・中一貫的教育構想の実現に向けて、大玉村地域学校協働本部とおおたま学園コミュニティ・スクール委員会との、2大パッケージにより、連携を強化することで、充実した子どもたちの豊かな学びを支えている。
- ⑤ 「共に学ぶ『おおたま未来塾』」では、主に中学3年生の学習支援のため、地域住民や大学生等の講師による学習サポーター事業を開催している。

### 【実施に当たっての工夫】

「大玉らしさを生かした地域学校協働活動の推進」にむけて、地域学校協働活動、学校支援ボランティア、放課後子ども教室に各コーディネーターを1名配置し、地域・学校・家庭が一体となり、より多くの地域住民等の関わりによって、子どもたちの豊かな学びを支え育むとともに、大人も共に学び合う(学びの還元と循環)活動を実施した。また、地域の資源(人・もの・こと)を最大限に生かしつつ、子どもも大人も地域を知ってもらう活動も併せて行っている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域学校協働活動モデル地区として3年目を迎え、少しずつではあるが、地域と学校が共に歩み寄りながらの事業が展開されている。そのひとつが、大玉中学校生徒が企画立案した「おおたまコミュニティ・フェスタ」の開催。おおたま夏まつりの前夜祭イベントとして、ステージでの催しや屋台販売などを自ら考え、大玉村商工会青年部並びに大玉村地域学校協働本部が共に参画し、地域の元気発信の基盤づくりが生まれてきた。また、中学3年生の学習支援を目的とした「共に学ぶ『おおたま未来塾』」(夏季休業時には、小学5・6年生を対象とした未来塾も開設)の開催により、地域全体で児童生徒の学力の向上を図るとともに、地域社会の活性化にも寄与している。

## ● その他

金曜日は放課後の子どもたちの安全な居場所づくりのため、平成21年より放課後子ども教室を開催。小学4～6年生を対象に、野菜の苗植えやスポーツ、食育等の活動を行っている。3年生以下については、村社会福祉協議会の「放課後児童クラブ」で全学年を網羅している。



さ地域のボランティアと一緒(玉井)に苗植え



流しソーメンに使う竹を自分たちで加工・組立て(大山)

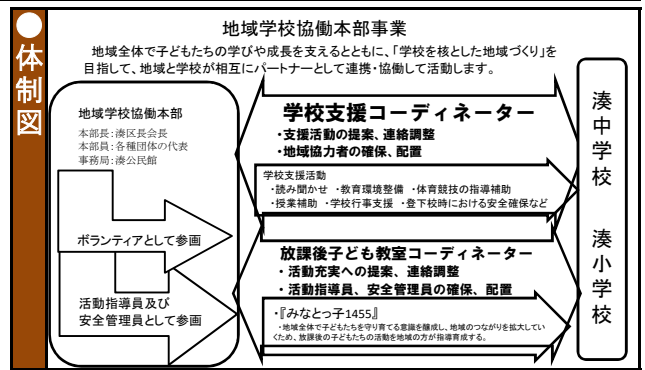




# 地域と学校がともに子どもたちの学びと成長を支え、郷土愛を育む

福島県会津若松市	●活動名	●関係する学校名
	湊地区地域学校協働本部	会津若松市立湊小学校 会津若松市立湊中学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	89 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	—	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—		4人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	令和元年8月30日設置		45人				
参考URL	<a href="https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/">https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/</a>						
●連絡先	会津若松市湊公民館		☎ 0242-93-2461				



●活動の概要・経緯

湊小学校は平成11年4月1日に各大字単位に設置されていた4校が統合し設立された。統合前は地区の学校として地区住民の大多数が学校支援に携わっていたが、統合後の児童数の減少に伴い、保護者負担が増大してきたことから、湊地域全体で学校を支援する必要性が高まってきたことが、本部設置の背景にある。設置前は、保護者主体の支援で、読み聞かせや通学時の安全確保などに地域団体がボランティアとして活躍していたが、調整役のコーディネーターが置かれたことにより、ボランティアの円滑な確保と支援の量的、質的な拡大が図られている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

湊地区が中山間地域に位置することから、地域の協力のもとで野菜の植え付け、収穫体験や学校林の除伐、川の水環境学習に加えて、長期休業中の学習会を開催している。

この学習会の講師に地域の高校生、大学生を充てることで、先輩と後輩の絆をつくり、将来のコミュニティ形成に寄与しようとするともに、児童・生徒に未来の自分の進路を考える機会を設けている。

平成30年度には「放課後子ども教室」を開始し、学習指導員及び安全管理員を地域の方が務め、活動内容に地域に関する題材を取り込むことで、郷土愛を育むことを目指している。

### 【実施に当たっての工夫】

地域学校協働本部は、湊区長会をはじめとした地区の各種団体等を本部員とし、本部長には区長会長が就任して設立されている。設立に当たっては個々の団体長へ個別に説明するとともに、毎月開催される定例会の中で地区の新規事業としてスタートすることを確認し、事業内容を定期的に報告、説明している。

さらに事業の概要とボランティア募集について記載したチラシを作成し、湊区長会の協力を得て地区の全世帯への回覧とともに、毎月1日に湊地区の全世帯に配布している「公民館だより」に本部のコーナーを設けて活動状況や当月のボランティアの日を広報することにより、事業への認知度を高め、地域全体で学校を支援し子どもたちを育てていこうとする意識を醸成している。

また、毎月16日を学校支援ボランティアの日として定め、図書整理や環境整備のために地区住民が誘いあって来てもらうこととしている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 参加するボランティアの方々が、指示されてではなく、自主的・主体的に「地域が学校を支援する」という目的をもって参加する良い循環になってきている。
- 学校側もこの事業を頼りにし、パートナーとして認め、教育課程に位置付けられたことで、担当が代わっても支援内容が引き継がれることとなった。
- 地域全体で教員と学校を応援し支える雰囲気醸成されたことにより、教員が余裕をもって子どもたちに向き合うことができるとともに、参加したボランティアも地域社会に貢献する喜びを得ている。
- 学校側からも、地域のイベントで中学校全校生徒がEXILE(エグザイル)直伝のダンス「湊ザイル」を披露していることや、「サギソウを育て、郷土を愛する心を育てる」ことを目指して学校の授業の一環に「サギソウ植栽講習会」を取り入れ、8月の展示会に出品するなど地域と学校が貢献しあう好循環を生み出している。

## ● その他

- 企業・NPOとの連携「ほろむいイチゴ四季の里」：平成11年に会津若松市湊地区の農家を中心に都市と農村の交流を目的に結成された団体で、純米吟醸酒づくり体験やそば打ち体験のコースを設けて都市部の参加者を受け入れている。特に児童の体験のために構成員の畑を提供し、さつまいもやヤーコンを育てており、できた野菜を学校に提供し、給食に利用されている。
- 学習支援の内容：生活科「畑の作り方」「生きもの探し」「町探検同行」「楽しい秋探し」「昔あそび」「だんごさし」「サツマイモ料理」総合的な学習「湊の野菜植え付け」「学校林除伐」「川の水環境」「枝豆収穫」「ヤーコン収穫」「豆腐もち作り」家庭科「玉結び等」音楽「民謡・お囃子」体育「クロスカンリースキー」など



敬老会でのダンス披露・湊中

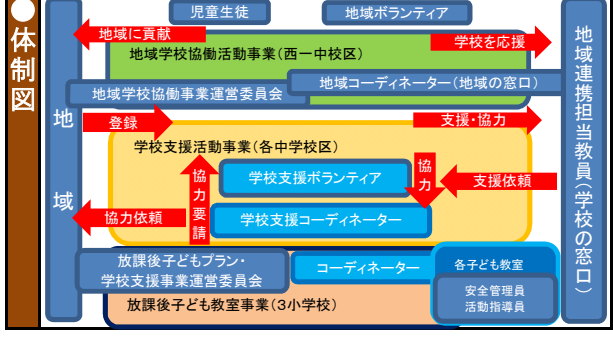


野菜収穫・湊小

こんな活動です

# 地域人材を生かした人づくり・村づくり・絆づくり

福島県西郷村		●活動名 西郷村地域学校協働本部		●関係する学校名 西郷村立西郷第一・西郷第二・川谷中学校、 西郷村立熊倉・小田倉・米・羽太・川谷小学校	
協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	8 校	のべ児童・生徒数	40 学級 930 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人		
学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	ボランティアの数	延べ登録人数 205人	企業・NPO等との連携	無
参考URL	<a href="https://www.vill.nishigo.fukushima.jp/">https://www.vill.nishigo.fukushima.jp/</a>				
●連絡先	西郷村教育委員会 生涯学習課		☎ 0248-25-2371		



●活動の概要・経緯

【学習支援事業】《西郷第一中学校区で実施》  
 対象者：熊倉・米・羽太小学校児童。西郷第一中学校生徒。熊倉・米・羽太児童館。  
 開催日：小学校は週1～2日。中学生は土曜日。児童館は週2～4日。夏休み・冬休み(学習教室)。  
 【地域活動・ボランティア活動】《西郷第一中学校区》村立幼稚園・小学校の運動会準備係。村行事の補助役員。学区内、公共施設清掃ボランティア活動。  
 ※ コーディネーター、地域担当者、活動指導員の打合せ(隔週1回)や運営委員会の開催(年2回)  
 【放課後子ども教室事業】《村内》対象者：1～6年生開催日：水、金の週2日※コーディネーター、安全管理員、活動指導員の打合せ(月1回)や運営委員会の開催(年2回)  
 【学校支援事業】《村内》実施学区：西郷第一・西郷第二・川谷学校支援本部の3支援本部で実施。  
 西郷第一(熊倉小、米小、羽太小、西郷第一中)・西郷第二(小田倉小、西郷第二中)・川谷(川谷小、川谷中)  
 コーディネーターの配置、各学校やボランティアの調整、連絡役として、各支援本部にコーディネーターを配置。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 【学習支援】  
 ○地域人材を生かして学習教室を実施。内容は基本的な学習から発展的・応用的な学習まで、系統的に学習したり、自分の苦手な学習をしたり、個人に合った学習スタイル。小学校は放課後、小学校の特別教室、夏・冬休み学習教室、中学生学習教室は村文化センター、児童館は放課後、児童館で実施。宿題、プリント、ドリル、予習や復習、前学年の復習等学習。いずれも個々の学力向上を目指し、個別対応で実施。
- 【地域活動・ボランティア活動】  
 ○「自分達ができることをまず取り組もう」と地域に目を向け、各行事に参加してボランティア活動を行っている。  
 幼稚園・小学校の運動会の準備係。西郷村一周駅伝・クロスカントリー大会、市町村駅伝の補助役員。地域の清掃ボランティア活動。ごみ拾い。公共施設のロビーや外周りの清掃活動。  
 【放課後子ども教室】  
 ○下校後、午後4時40分まで活動を行う。活動内容は宿題、読書、お絵かき、オセロ、トランプ、鬼ごっこ、縄跳び、バドミントン、ボール遊び。年間80回、合同のイベント3回。
- 【学校支援】  
 ○各学校の要望に応じ、支援本部のコーディネーターが学校支援ボランティアに対し支援活動を要請。  
 ○地域ボランティアやPTA、西郷村子どもの安全見守り隊と連携し、登校時の見守り、安全指導、学習支援活動、登下校の見守り、学校畑の作業、持久走のコース安全管理、資源回収の手伝い、家庭科補助、森林学習、昔遊びなど。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①各学校や施設等に地域学校協働活動の活動内容の説明を行い、趣旨の共通理解を図る。
- ②各学校の行事や日課表を参考に連携・協働活動として共有できることを確認し取り組めることから実施する。
- ③地域人材の活用による地域との連携・協働の推進や地域連携協働活動の知名度をアップするため広報活動や各校において説明会を行う。
- ④担当者、コーディネーター、連携担当教員との「打ち合わせ会」を実施し、意見を交換し共通理解を図り、各校へ情報を伝え共有する。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 【地域学校協働】  
 ・参加児童・生徒からは、「分からないところが分かった」「曖昧だったところが理解できた」「簡単なやり方が分かった」など好評であった。  
 ・学習塾に行けない子や不登校ぎみの子も参加。学習意欲に繋がった。  
 ・児童生徒の地域清掃活動を見て、地域の方の意識が変わり、集会所や公民館の清掃活動が計画的かつ活発になった。
- 【放課後子ども教室】  
 ・スポーツリクレーションやお話会等を通し、教室間の交流が図られ、子ども同士のコミュニケーションの場となった。
- 【学校支援】  
 ・支援を行うことで学校側の負担も減り、また子どもたちも地域のボランティアの方々と触れ合う機会が増え地域コミュニティの活性化に繋がった。

## ● その他

「地域の子どもは地域で守ろう」を合言葉に、今後もより多くの方々に関わってもらえるよう、様々な意見を取り入れながら事業内容を工夫している。  
 ・地域の教育力を活用することで、地域と学校が双方向で連携できるようになり、互いの理解が深まることで、地域のさずなづくりへとつながった。



（夏休みの学習教室  
（西郷村文化センター））



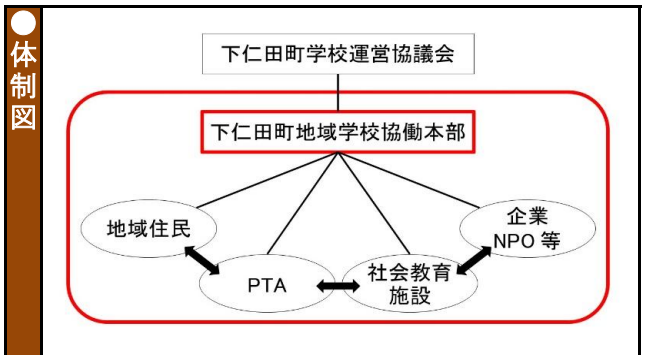
西郷第一中学校生徒の地域ボランティア（清掃活動）

こんな活動です

# 子供と地域、ともに元気に！ — 地域学校協働活動とCSの一体的推進 —

群馬県下仁田町	●活動名	●関係する学校名
	下仁田町地域学校協働本部	下仁田町立下仁田小学校 下仁田町立下仁田中学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	269 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—			
	1人	4人	—				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成31年4月1日設置	56人	—				
参考URL	<a href="https://www.town.shimonita.lg.jp/m03/m04/m01/index.html">https://www.town.shimonita.lg.jp/m03/m04/m01/index.html</a>						



●連絡先	下仁田町教育委員会 生涯学習係	☎ 0274-82-2115
------	-----------------	----------------

●活動の概要・経緯

下仁田町では、保護者アンケートをもとにした社会教育委員からの提言を受け、子供たちの安全安心な居場所づくり等を目的に、平成27年度に「下仁田町放課後子ども教室」を開設した。また、土曜日の教育活動推進のための取組である「下仁田土曜スクール」や、郷土を愛し、郷土を誇りに思う児童・生徒の育成を目指し、小中学校の9年間で郷土・下仁田町を体系的に学ぶ「下仁田学習」等、様々な地域学校協働活動に取り組んできた。

また、平成31年の4月には学校や地域の方々と協議を重ね、準備してきた学校運営協議会を設置した。現在は、これまでの地域学校協働活動に加え、学校運営協議会で熟議されたことについて、統括的な地域コーディネーターを中心に、学校や地域の各種団体と情報共有や連携を図りながら、取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①下仁田町放課後子ども教室: 放課後の子供たちの安全安心な居場所であるとともに、学習支援や書道、絵画・料理教室、スポーツの指導等、様々な体験活動を行うことで、多様な学習機会を提供。
- ②下仁田土曜スクール: 土曜日の教育活動推進のために、地域のNPO法人「DNA」の大学生を講師に招き、ICTを活用した学習支援や体験活動、子供たちの悩み相談、進路指導等を実施。
- ③郷土学習「下仁田学習」: 「郷土を愛し、郷土を誇りに思う児童・生徒の育成」を目指し、小中学校の9年間で下仁田町のことを体系的に学ぶ取組。下仁田学習の指導については、学校の教職員だけでなく、地域の様々な方々も中心的な役割を担っている。
- ④登下校時の見守り: 子供たちの安全な登下校のために、更生保護女性会の方々が見守り活動を実施。

### 【実施に当たっての工夫】

下仁田町放課後子ども教室については、コーディネーターである地域の方を中心に、地域の多くの方々が教室の運営に関わっている。また、長期休みには地域の方々が特技を生かした様々な体験プログラムを提供しており、充実した講座となっている。

下仁田土曜スクールについては、ICTを活用した学習支援に加え、プログラミング学習を取り入れる等の工夫をしている。また、レクレーションや悩み相談等、大学生との交流の時間も設けており、地域の子供が減少している中で、貴重な時間となっている。

下仁田学習については、農家や食生活改善推進員、社会教育施設職員、ボランティア等、多くの地域の方々の専門性や意欲を生かせるようにしており、理解と協力が得られている。

登下校時の見守り活動については、多くの児童生徒が利用しているスクールバスの下車後の不安という学校課題から始まったものだが、徒歩通学者にも危険な箇所はあるという地域からの意見があり、バス通学、徒歩通学関係なく、定期的に行っている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

下仁田町では、子供たちの健やかな成長や地域の方々の充実した生活のために、地域学校協働活動の推進に力を注いでいる。そのため、学校や地域の方々、NPO、社会教育施設等が連携し、継続的な活動が行われている。

また、これらの活動を実施していくことで、より親密な相互のつながりが求められるようになってきた。そこで、平成31年4月に学校運営協議会を設置した。学校運営協議会が設置されることで、地域の様々な団体の代表者と学校が、子供や地域の現状や課題等について共通の認識を持てるようになった。さらに、学校と地域との連絡・調整を行う統括的な地域コーディネーターが機能し、学校のニーズと地域の方々(諸団体等)の特性がマッチした地域学校協働活動が行えるようになった。特に児童生徒のICT活用能力の高まりやボランティア登録数の増加など学校と地域の双方の活性化につながっている。今後は、様々な地域住民やNPO、社会教育施設等が緩やかなネットワークを形成し、これまで以上に総合的かつ継続的な取組となることが期待できる。

## ● その他

郷土学習「下仁田学習」: 座学だけでなく、体験活動も数多く組まれている。  
下仁田土曜スクール: NPO法人「DNA」の大学生を講師に招き、大学生との交流を大切にしながら学習支援や体験活動を実施。



下仁田学習の植え替え

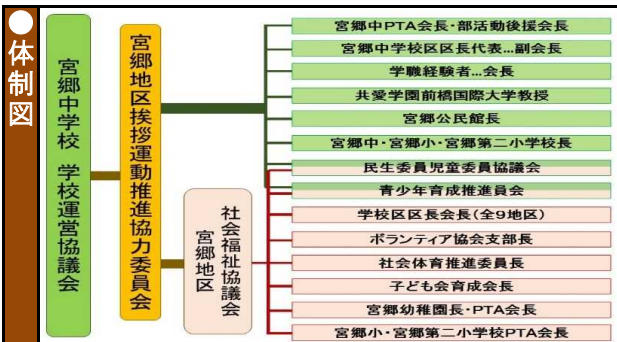


ICTを活用した土曜スクール

こんな活動です

# 地域ぐるみで子どもたちを育てるネットワークづくり —学校・家庭・地域が三位一体となって取り組む挨拶運動の実践から—

群馬県伊勢崎市		●活動名 宮郷中学校学校運営協議会・宮郷地区挨拶運動推進協力委員会			●関係する学校名 伊勢崎市立宮郷中学校 伊勢崎市立宮郷小学校 伊勢崎市立宮郷第二小学校 伊勢崎市立宮郷幼稚園		
協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	87 学級	のべ児童・生徒数	2357 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	2人		—		26人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		
	平成28年4月1日指定		—	172人	無		
参考URL	<a href="http://www.isesaki-school.ed.jp/miyagouchu/">http://www.isesaki-school.ed.jp/miyagouchu/</a>						
●連絡先	伊勢崎市教育委員会生涯学習課			☎ 0270-27-2794			



●活動の概要・経緯

・伊勢崎市立宮郷中学校は、平成28年度にコミュニティ・スクールの指定を受け、平成30年度には、伊勢崎市のコミュニティ・スクール全11校の推進モデル校として指定された。以後、宮郷中学校学校運営協議会(以下、学校運営協議会と記す)を中核としながら、宮郷地区全体の子供たちの健全育成を目指した運営を行い、地域の子供たちのよりよい成長を願い、地域の小学校・幼稚園と連携しながら、家庭や地域社会との協働活動で地域の教育の活性化に努めている。

・宮郷地区挨拶運動推進協力委員会(以下、本委員会と記す)は、平成29年2月に開催した学校運営協議会にて、協働する活動のテーマを決めて取り組んでいく方針が決議され、同年6月の学校運営協議会において、挨拶運動をテーマにして、宮郷中学校区の学校園と家庭、地域が一体となって連携・協働していくことが決議された。その後、宮郷地区区長会及び宮郷地区社会福祉協議会、宮郷小学校・宮郷第二小学校の学校評議委員会等との協議を重ね、平成29年12月に、本委員会を学校運営協議会の下部組織として立ち上げ、第1回目の活動が平成30年2月16日にスタートした。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①本委員会は学校運営協議会と宮郷地区社会福祉協議会の委員で構成された学校・家庭・地域が三位一体となった組織。
- ②宮郷地区の小中学校で取り組んでいる挨拶運動を地域に広げる形で実施。
- ③毎月16日を「挨拶運動の日」と定め、各町区の拠点・活動時間を決めて計画的に実施。
- ④挨拶運動は(1)未来を担う子供たちを育てる(2)宮郷地区内のコミュニケーションの向上を図る(3)犯罪・いじめを防止するの3つを目的とする活動であり、運動を通して地域の活性化も図っている。子供と大人が共に取り組む地域課題解決への取組としている。
- ⑤本委員会(会議)は年間3回(6月・10月・2月)、現状の把握と課題等を共有した上でさらなる充実に向け、公民館で開催。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・宮郷地区は9つの町区からなり、各町区毎に2カ所の拠点を決めて挨拶運動に取り組んでいる。学校園を含めると全体で22カ所の拠点を挨拶運動を実施している。拠点に来られない住民には、自宅前で声掛けを行うよう依頼している。
- ・宮郷中学校の美術部の生徒が啓発ポスターを作成し、各学校園をはじめ、各町区に配布し、掲示して周知を図っている。
- ・子供たちが挨拶運動に関する標語を作成し、回覧板で全家庭に回覧している。
- ・挨拶運動のための幟旗を宮郷地区社会福祉協議会で50本作成し、各拠点に立てて挨拶運動を盛り上げている。
- ・年間3回、町内回覧板にて実施予定日を知らせたり、実施風景写真を掲載したりしている。
- ・本活動の事務局を宮郷中学校学校運営協議会副会長及び公民館長が務め、活動の計画や会議の運営、広報・周知を担っている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・学校運営協議会委員及び宮郷地区の区長、民生委員、青少年育成推進員、宮郷幼稚園・宮郷小学校・宮郷第二小学校の学校評議員会の代表等により組織される推進体制により、宮郷地区全体で子供たちを健全に育てていこうとする気運が高まってきている。
  - ・地域ぐるみの挨拶運動が回覧板等を通して地域に広く周知され、継続的に取り組むことができている。
  - ・宮郷地区の大人から子供までが一体となった「オール宮郷」として、コミュニケーション力の向上に向けて取り組むことができている。
  - ・子供たちが安全・安心に登校できるようになり、「地域の方々に見守られている」という意識が子供たちの中に芽生えている。
  - ・子供たちの挨拶に対する意識も高まっており、学校評価では「よくできている」と答えた生徒が約95%であった。
  - ・本委員会が学校中心ではなく、地域住民を中心とした組織となり、主体的に運営されていることは2年間の取組の大きな成果である。
- この取組によって地域ぐるみで子供を育てていくネットワークが構築できており、今後は、公民館で実施している放課後子供教室など、挨拶や登下校の見守り以外にも活動を広げ、地域で行われている様々な地域学校協働活動を効果的につなげて実施していく。

## ●その他

挨拶運動によって構築されたネットワークを基に、今後も宮郷地区の子供たちの健全育成のため、学校・家庭・地域が三位一体となって取り組むよりよい活動を本委員会のメンバーとともに考えていきたい。



地域ぐるみで取り組んでいる本委員会の様子



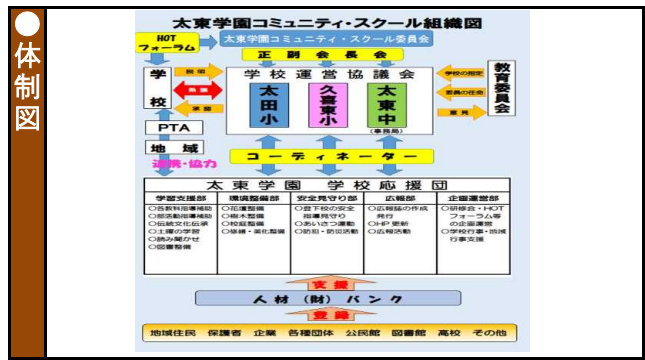
幟旗を掲げている様子

# 「地域を愛し、未来をひらく、たくましい児童生徒の育成」 ～地域とともに、9年間をつなぐ学びを通して～

こんな活動です

<b>埼玉県久喜市</b>	<b>●活動名</b> 太東学園コミュニティ・スクール委員会	<b>●関係する学校名</b> 久喜市立太東中学校 久喜市立太田小学校 久喜市立久喜東小学校
---------------	-----------------------------------	---

協働活動開始年度	平成 22 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	41 学級	のべ児童・生徒数	1293 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	2人		地域学校協働活動推進員等の数	5人		
	指定・設置日	平成28年4月1日指定		ボランティアの数	494人		企業・NPO等との連携
参考URL	<a href="http://www.kuki-city.ed.jp/taidou-i/">http://www.kuki-city.ed.jp/taidou-i/</a>						



●連絡先 久喜市教育委員会 生涯学習課・指導課 ☎ 0480-22-5555

●活動の概要・経緯  
太東学園コミュニティ・スクール委員会は、平成28年に市内小中学校全校の設置に先駆け、太田小学校、久喜東小学校、太東中学校の3校に学校運営協議会を設置し、3校の連携のために設置されたものである。小中一貫教育の視点から、中学校区の地域総がかりで児童生徒の育成を目指して活動している。各校の学校運営協議会だけでなく、3校合同のコミュニティ・スクール委員会や正副会長会を開催し、運営を行っている。主な活動として、地域住民や保護者、教職員が一堂に会し、提示されたテーマについて話し合う「HOTフォーラム」や、地域の方を講師に総合的な学習の時間や土曜学習など、キャリア教育も実践している。また、学校と地域が連携・協働し、合同防災訓練や環境美化活動などを行っている。これらの取組は、久喜市のコミュニティ・スクールの牽引だけでなく、他県や他の市町村からの視察も数多く受け入れたり、「2018全国コミュニティ・スクール研究大会in三笠」にて事例発表したり、コミュニティ・スクールの普及にも寄与している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①児童生徒の保護者や地域の方々、学校運営協議会委員、教職員等が一堂に会し、「HOTフォーラム」を開催している。昨年度は、「地域とともにつくる太東学園の学び ―いま、学校・家庭・地域ができること―」をテーマにワークショップ形式で行った。②「土曜の学習」では、地元のアスリートを講師に招いたランニング教室や、地域の方々主導での漢字検定・数学検定の運営を行い、地域に開いた学習の場を提供した。中学生のキャリア教育の一環として、地域の方をゲストティチャーとして、いろいろな職業について話を聞いたり、社会体験チャレンジで地域の商店や企業で体験学習をしたりした。③「合同防災訓練」では、小学校では「災害図上訓練(DIG)」を地域の方々と共にやり、大人・子どもそれぞれの目線から危険箇所についての認識を深め、地域の防災について意識を高めた。中学校では、地域の方を講師に「カスリーン台風について学ぶ」を題目に、当時の様子を振り返り日頃の準備の大切さ等について学び、地域の防災訓練にも実際に参加した。④「環境美化活動」では、中学校では剪定隊を結成し定期的に地域の方から指導を受け作業を進めた。徐々に生徒も地域のボランティアの方々も参加者が増え、周囲に浸透してきた。⑤放課後子供教室では、小学校を会場に、多様な講座を開設している。子供たちの体験機会が増加し、子供たちの可能性を広げるための貴重な学びの場となった。

### 【実施に当たっての工夫】

①学校だより・学校ホームページ・各校PTA広報紙・学校運営協議会だより等により、機会をとらえた情報提供を行った。また、コミュニティ・スクールカレンダーを作成し、学校ホームページに掲載するとともに、各地区で回覧を行った。カレンダーの内容は、3校の年間の行事予定を集約したものであり、誰もが一目で、いつ、どのような取り組みを実践しているのかわかるようになっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の方々が、気軽に学校に入り作業等をしている様子から、地域と学校の距離が縮まり、「地域の学校」という意識が高まった。協働活動を行うことで、児童生徒も学校の外に目が向くようになり、地域の活動への参加が増加するようになった。中学生が小学校で実施するサマースクールでの学習支援ボランティアに参加したり、中学校の教員が兼務校発令で小学校で授業を行ったりすることで、中学校に対する不安の解消につながっている。また、小学生は、中学生へのあこがれを抱いたり、中学生は見られていることによる意識の向上が図られた。「HOTフォーラム」での熱議の様子から地域の方々の熱気が伝わり、地域の「学校のために」という思いがひしひしと感じられ、地域の活性化が図られている。

## ●その他

太田小学校では、NPO法人「久喜の自然を愛する会」が学校のピオトープの環境整備やそれを生かした昆虫の観察学習等を実践している。また、放課後子供教室でも自然観察の講座を実施している。



久喜東小学校の放課後学習希望した小学生4、5、6を対象とした



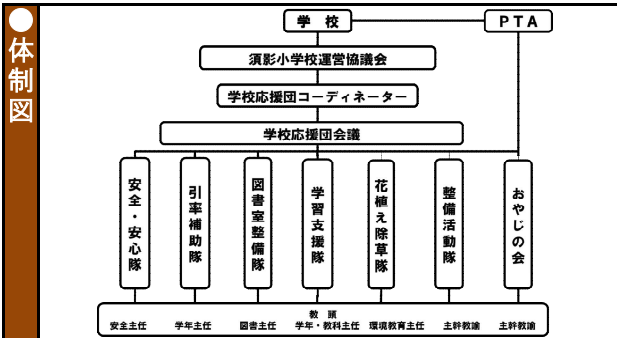
太田小学校2017年度ピオトープコンクール奨励賞受賞

こんな活動です

# 地域と共に創る 確かな絆と笑顔あふれる学校づくり

～子供・教員、保護者、地域が輝く学校応援団～

埼玉県羽生市		●活動名 須影小学校応援団				●関係する学校名 羽生市立須影小学校			
協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	300 人		
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習		—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	1人				1人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有		
	平成29年5月1日設置			80人					
参考URL	<a href="http://www.city.hanyu.lg.jp/school/sukage/">www.city.hanyu.lg.jp/school/sukage/</a>								
●連絡先	羽生市教育委員会 学校教育課				☎ 048-561-1121				



●活動の概要・経緯  
須影小学校応援団は、学校運営協議会、学校応援団コーディネーター、学校応援団会議を受け、組織的に各隊の推進委員を中心として計画的に活動している。平成29年に学校運営協議会が設置され、おやじの会も組み入れ体制図のように再編した。目指す子供の姿を、「地域とのつながりの中で、人とつながり、相手を思いやれる子供」とし、地域と学校が共有して活動している。年2回の学校応援団会議では、団員全員と計画、実施、来年度の課題を教員とともに協議し、各隊の推進委員と教頭を窓口に進めている。  
おやじの会は、防災教育を意識して、4年生以上の希望者を対象に学校体育館で1泊2日のキャンプを青少年育成会の協力も得て行っている。平成30年度は47名の参加で実施した。段ボールハウスでの寝泊りや非常食での食事等、地域・保護者にも好評を得ている。取組については、須影コミュニティスクール通信で保護者・地域にも発信している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校応援団の組織的、計画的活動  
・学校応援団は組織図の7つの隊で組織されている。80名近くの登録があり、各隊ごとに推進委員を中心に進められている。  
・安全・安心隊は、下校時の見守りで学校から低学年と一緒に歩いて毎日行っている。また、整備活動隊は、安全に関わりブランコの柵や「すかげ山」の土管のふちカバー、プールの道からの目隠し柵と元プロ集団で大掛かりな整備を行い、学校の安全に寄与している。
- ②地域課題解決学習、おやじの会の活動  
・防災を意識したサマーキャンプで、地域の方と泊を伴うふれあいと防災学習や学校に泊まるという体験が子供たちの心の成長につながっている。おやじならではのパワーとふれあいが、学校応援団の高齢化への一つの策であると考えている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①須影コミュニティ・スクール通信やホームページ等で活動状況を発信し、学校便りと共に地区回覧することで情報共有している。
- ②学校応援団の方々への感謝の会を年間指導計画に位置付け、感謝の手紙や給食と一緒に食べるふれあいの時間を大切にしたい会を設定している。
- ③学校応援団の団員の募集を年2回行い、下校時の見守り隊員の不足を呼び掛け、学校応援団の拡充を図っている。
- ④須影公民館事業ともコラボして、ムジナモ保存会の方を総合的な学習に招いてお話を聞いたり、茶道の先生とのコンタクトと場所の提供等、新たな関わりを模索している。また、須影公民館審議会や須影つながる会等でも情報発信し、地域と学校がwin-winの関係になるよう、学校に期待されていることや学校ができることも話し合いながら協力を得ている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・学校応援団の方々から、様々な教育活動の中で支援を受け、児童が地域の方から学んだり、触れ合ったりしてつながりをもつ中で、児童の相手を思いやる言動が多く見受けられるようになってきている。  
・地域の方々の子供たちや学校に対する願いが様々な場で聞けるようになった。地域の祭りでは、児童の参加を促すとともに教員も参加したり、民生委員さんとコラボして地域の80歳以上の方への手紙を書いて配ったりすることで、さらに、学校と地域がつながるヒントを得ることができた。  
・学校応援団会議等で、PDCAサイクルでの活動の見直しが行われるとともに、人間関係が築かれ継続して行われている。

## ●その他

学校緑化「須影100年の森計画」をテーマとした活動を学校応援団の強力なバックアップで展開。(観察池・なかよし山・ピオトープの整備、ムジナモやホタルの観察飼育、ベンチ作成等)また、サマーキャンプは、地域の中小企業から段ボール等の物資の協賛を受けて実施。



おやじの会による防災意識を深めた学校での様子



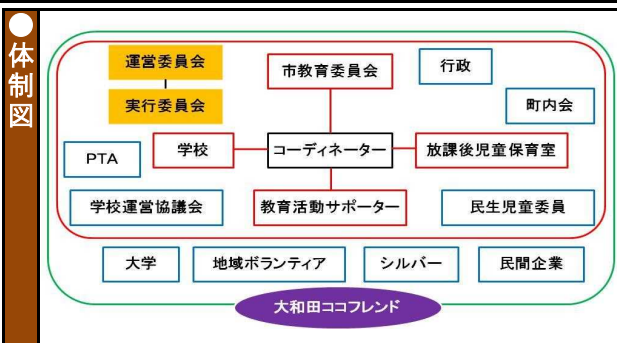
須影公民館とのコラボと環境との関わりを聞いていく様子

# 学校・家庭・地域でともに見守る子どもたちの成長 ～子どもたちを通じて 広がるつながり～

埼玉県新座市	●活動名 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 大和田ココフレンド	●関係する学校名 新座市立大和田小学校
--------	--------------------------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	27 学級	のべ児童・生徒数	918 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	放課後子供教室	地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.city.niiza.lg.jp/soshiki/44/kokofure-4.html">http://www.city.niiza.lg.jp/soshiki/44/kokofure-4.html</a>						

●連絡先	新座市教育委員会生涯学習スポーツ課	☎ 048-424-5362
------	-------------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成14年度から土曜日の子どもたちの居場所づくりとして「新座っ子ばわーあつぷくらぶ」事業を市内全17小学校等で開設し、児童に定着していったと同時に、待機児童ゼロの本市の放課後児童保育室の大規模化・狭隘化は年々進んでいった。そこで平成22年度に、子どもたちが放課後に安全な学校内で安心して過ごせる居場所を新たにつくるという方向性が固まり、平成24年度に初めて2校開設した。以後毎年開設校を増やし、現在は13校で放課後も長期休業日も毎日開設。大規模校の大和田小学校では当初余裕教室がなく、開設が難航していたが、多くの保護者の設置要望を受け、教室数の増設を機に平成29年度に開設した。ココフレンドは宿題などに取り組む「学習の時間」と自由に遊ぶ「自由時間」で構成されているが、大和田ココフレンドの新たな取組として、長期休業日の自由時間の前に「読書タイム」を設けた。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・元教員のコーディネーター3名と地域の方々である教育活動サポーター20名で運営。サポーターは町内会、青少年育成団体を通じて協力者を募集。サポーターのうち6名が男性。ココフレンドが地域デビューのきっかけ、地域住民をつなぐ場となっている。
- ・学校及び放課後児童保育室と連携して、毎年合同避難訓練を実施。
- ・長期休業日を中心に体験活動的プログラムを実施。企業連携：英語・ダンス・科学講座。地域大学との連携：理科実験教室・ニュースポーツ・食育講座。コーディネーター・サポーターのネットワーク：地域ボランティアによる演奏会・抹茶体験・新座の歴史学習等。スタッフの特技や経験：工作、紙ヒコーキ大会、読み聞かせ、バドミントン教室等。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・登録児童550名超の大和田小学校では日々の参加も多いため、常時2教室をココフレンド専用の活動教室として使用。2教室、校庭、体育館を活動拠点とし、イベント内容や参加状況により、図工室等の特別教室も活用。
- ・低学年と高学年の活動教室が異なるが活動時間中の教室移動を可能とし、異年齢集団ができるようにしている。特に長期休業中は上級生が下級生の面倒をみている。
- ・放課後児童保育室と共有している校庭は、教育活動サポーター及び保育室支援員が双方の児童を見守っている。
- ・学校応援団「読書ボランティア」でもあるサポーターが、ココフレンドでICT機器を使った読み聞かせを実施。
- ・地域住民が下校時間に合わせて防犯パトロールを実施。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・学校内で複数の目で見守ることで、児童の安全な居場所を確保できている。また、ココフレンドで学年を超えたふれあいの機会ができ、社会性が身に付いている。学校に馴染めなかった児童もココフレンドに来てから、いきいきと活動しており、居場所として定着している。
- ・児童と教育活動サポーターがつながることで、地域で挨拶を交わしたり、日常の見守りにもつながっている。
- ・サポーター同士のつながりが、他の地域活動へのつながりに発展するなど、成果が上がっている。
- ・サポーターのこれまでの経験や特技を、児童とのふれあいや支援に生かしている。また、保護者から子育て相談を受けることもある。
- ・大和田ココフレンドの開設により、放課後児童保育室の夏休みの入室者が減少した。

## ●その他

- ・企業との連携で質の高い英語・ダンス・科学の講座を実施。大学との連携で学生と児童が共に楽しく学べる理科実験教室・ニュースポーツ・食育講座を実施。
- ・頭と身体を使い、自分たちで工夫をして遊びを見つけることができるようになった。



による文字学食育講座  
園女子大学学生



地域ボランティアによる  
抹茶体験

こんな活動です

# ふるさとを愛し、自ら夢を持ち、心豊かでたくましく生きる塩浜っ子

千葉県市川市		●活動名 塩浜学園 はまっこくらぶ・はまっこサポート			●関係する学校名 市川市立塩浜学園		
協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	337 人
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習		地域人材育成		
	—		放課後子供教室				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人				1人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成28年5月12日設置			150人			
参考URL	<a href="http://www.shiohama-tyu.ichikawa-school.ed.jp/">http://www.shiohama-tyu.ichikawa-school.ed.jp/</a>						
●連絡先	市川市立塩浜学園			☎ 047-397-4421			

●体制図



●活動の概要・経緯  
平成25年度に「学校支援コーディネーター」が配置され、学校支援活動が一層推進されてきた。同時期に「小中一貫校設置検討委員会」が発足し、小中の学びの連続性を重要視してきた。その後、平成27年度に小中一貫校「塩浜学園」として開校し、平成28年度に千葉県内初の義務教育学校となったと同時に、学校運営協議会を設置し、市川市初のコミュニティ・スクールとして、研究モデル校として地域と学校の連携・協働を推進してきた。地域学校協働活動推進員を2名配置し(うち、1名は統括)、地域学校協働本部を「はまっこ・サポート」と名付け、地域にある団体との連携・協働を進めている。また、9年間を貫くカリキュラム「塩浜ふるさと防災科」の学習の中で、地域との関わりを多く持った活動が展開されている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ◎塩浜ふるさと防災科  
9年間を貫く学習で、地域、防災について学ぶ。8～9年生はゼミ形式(塩ふるゼミ)で実施。
- ◎はまっこ・サポート(地域学校協働本部)  
・他団体とのネットワークを活かし、協力・共催するなど、開催方法を工夫し、多くの活動を展開している。
- ◎はまっこ・夢・大学  
聖徳大学の教授陣の他、様々な方を講師に迎え、公開講座を実施することで地域の文化センター機能を担うとともに、はまっこくらぶのボランティアの育成も担っている。

【実施に当たっての工夫】

小規模校で学区も小さく、大部分が住宅公団と市営住宅から成り立っている地域である。学校運営協議会は、地域の核となる団体の代表者が多く、それをまとめる会長には、聖徳大学・聖徳大学短期大学部 増井三夫 副学長が務めている。学校運営協議会＝地域学校協働本部の関係性が成り立ち、地域と学校の連携・協働が進みやすい状況である。年間5回の会議では、深い協議がなされている。まさに、地域の声を学校運営に反映させている。また、塩浜学園の独自科目である「塩浜ふるさと防災科」を進めていく中で、地域との連携・協働を意識した取組がなされている。はまっこ・サポートでは、学園の行事をサポートし、地域と近隣の高校・団体と協働して塩浜まつりを企画・実行している。また、はまっこ・夢・大学では、地域課題の解決に資する講座の開催を通じて、塩浜学園への興味関心を高め、学園へのサポート・ボランティア協力を募っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校運営協議会の強力なバックアップの元、様々な取組を行う事が出来た。塩浜ふるさと防災科では、地域の活性化をテーマに取り組んだ7～8年生が、マンション内にあるNPOが運営するカフェと連携し、地域行事を主催するなど、学校が積極的に地域と連携・協働を進めることで、学園への興味関心が高まり、地域住民のサポートやボランティア協力者が集まりやすくなってきている。また、地域での行事(ラジオ体操・夏祭り)の活性化も見られている。地域にある様々な団体のネットワークが強まり、学校の活動に参画する機会が増え、教育活動に幅と厚みが出てきている。また、地域住民にとって、学校が核となり、個々の生きがいづくりにつながり、学校を核とした地域振興が醸成されてきている。

●その他

2020年8月の新校舎完成に向け、塩浜学園に期待する地域の思いが大きくなってきています。



塩浜ふるさと防災科の「ハロウィン地域活性化ゼミ」が開催された。



「はまっこ・夢・大学」の講座を開催し、水戸健康美津子先生(聖徳大学補佐)が講師を務めた。





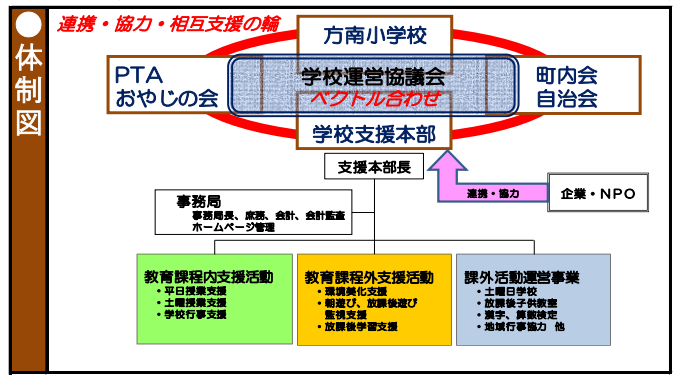
こんな活動です

# 「共に生きる子」「よりよく生きる子」を育む地域学校協働の輪

東京都杉並区	●活動名	●関係する学校名
	方南小学校支援本部	杉並区立方南小学校

協働活動開始年度	平成22年度	関係学校数	1校	のべ学級数	17学級	のべ児童・生徒数	483人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	1人	3人					
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成24年4月1日設置	435人					
参考URL	<a href="https://www.sugi-chiiki.com/team_hounan/">https://www.sugi-chiiki.com/team_hounan/</a>						

●連絡先	杉並区教育委員会 学校支援課 学校支援係	☎ 03-3312-2111
------	----------------------	----------------



『すべては子供たちのために』の共通目標のもと、日本の未来を担う方南小学校の子供たちの健やかな成長をサポートするため平成22年に設立した方南小学校支援本部は、地域住民・卒業生・ボランティアの強固なネットワークで学校を支援する『方南小学校の応援団』です。「本の読み聞かせ」や「放課後遊び」等、地域ぐるみで子供の健全育成に取り組む活動は15年以上の歴史がありますが、学校支援本部の設立と同時に全ての活動を一元化し①教育課程内支援②教育課程外支援③課外活動運営事業の三つを柱としています。特に自治会や町内会をはじめとする地域住民との協働活動に重点を置き「方南ぼんおどり」「ホタルを観る会」「職場体験」等、『地域と共に発展する開かれた方南小学校』を目指しています。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①教育課程内支援活動：職場体験、町探検、伝統文化の伝承授業支援等では地域の商店街や公共施設の協力・支援を仰ぎ、土曜授業ではゲストティーチャーの調整、また遠足・社会科見学の引率補助等、学校の運営計画の円滑な遂行を多彩な人材で支援しています。
- ②教育課程外支援活動：朝遊び・放課後遊びの監視支援や放課後学習活動を通して安全で安心して過ごせる校内生活環境の確保と整備。また、本校の特色である「むさし野の森」を活用してホタルを幼虫から飼育し、「ホタルを観る会」を協働で開催しています。
- ③課外活動運営事業：方南ぼんおどり、餅つき大会、算数サポート、放課後こども教室、わくわく漢字教室、パレエ教室、剣道体験教室、漢字検定・算数検定等、知・徳・体のバランスを視野に入れた独自の活動を企画し、地域住民と学校の協力を得ながら諸活動を積極的に展開しています。

### 【実施に当たっての工夫】

- 方南小学校の共有ビジョン『みんなで学び、共に生きる学校』の具現化に向けて学校・支援本部・地域住民で「チーム方南」を形成し、常にベクトル合わせを行い(共有)、共に知恵や力を出し合って(共創)います。
  - ・学校運営協議会の場を活用した諸活動の企画段階からの学校・支援本部・地域間の相互理解と協力体制の確立
  - ・「方南井戸端会議」の定期開催による「チーム方南」構成メンバー間の意思疎通と率直な意見交換
- 赴任された先生方に子供たちの住居環境や遊びの場を実際に観てもらい地域の特徴をより深く理解する「町案内」を毎年四月に実施しています。
- 社会関係資本を生かした協働活動(児童館、デイサービス施設、お寺の方々との連携)の積極的な導入・展開を図っています。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供たちにとっては「毎日学校にたくさんの大人がいる」ことで多様な大人たちとのコミュニケーションを通して『地域に守られて安心して生活できる』ことを実感している。また、諸活動に参加することで地域への愛着を深めたり、日本の伝統文化の素晴らしさに対する理解力の醸成に役立っている。先生方とは支援や応援が必要な時に「気軽に」支援本部に声をかけていただける相互理解・信頼の関係が構築されている。地域の大人たちはボランティア活動を通して子供たちと触れ合うことで人生百年時代の新たな生き甲斐の発見・発掘に繋げるとともに、ぼんおどりやホタルを観る会に参加することで学校との距離感が飛躍的に縮まり、地域ぐるみでの児童に対する犯罪の未然防止に役立っている。

## ● その他

フェイスブックも活用した支援本部ホームページを開設し、写真を多用して諸活動の実施状況を広く発信することで地域の理解・協力を促進しています。



「ホタルの幼虫の飼育」は一部を児童の家庭に委託している

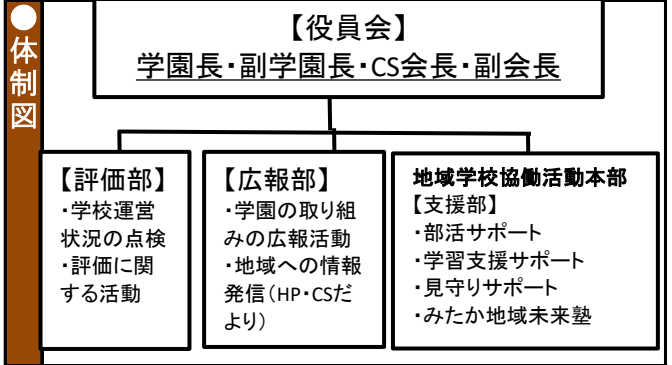


「方南ぼんおどり」は地域の伝統を伝える行事として定着

# 地域の子供は地域で育てる！

～子供たちを中心につなげる家庭・地域・学校力は豊かなコミュニティを創り出す～

東京都三鷹市		●活動名 東三鷹学園コミュニティ・スクール委員会				●関係する学校名 三鷹市立第一小学校 三鷹市立北野小学校 三鷹市立第六中学校			
協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	51 学級	のべ児童・生徒数	1686 人		
活動区分	学校支援活動	—		—		—			
	地域未来塾	放課後子供教室		—		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		—		
	2人		—		2人		—		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有				
	平成20年4月1日設置	—	240人	—	—				
参考URL	<a href="http://www.mitaka-schools.jp/higashimitaka/index.html">http://www.mitaka-schools.jp/higashimitaka/index.html</a>								
●連絡先	三鷹市教育委員会事務局指導課			☎ 0422-45-1151					



●活動の概要・経緯

○平成20年4月に、第一小学校・北野小学校・第六中学校の3校が、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校、「東三鷹学園」として開園した。同時に設置された、東三鷹学園コミュニティ・スクール委員会では、「みんなで育てよう！自信をもち、イキイキと生きる東三鷹っ子」を合言葉に活動している。

○地域学校協働活動本部として東三鷹学園コミュニティ・スクール委員会支援部会が、みたか地域未来塾や教育活動を支援する「サポート隊」の運営、「地域人財」活用等の調整を行ってきた。地域交流活動等への保護者・地域住民の参画促進、地域の伝統文化や豊かな自然環境を次世代に継承する多世代交流活動も大切にしている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域交流活動：地域農家の協力のもと中学生の農業体験・親子ジャガイモ掘り大会の実施、「地域人財」を生かした伝統文化学習を推進している。
- ②「教員とコミュニティ・スクール委員」「保護者とコミュニティ・スクール委員」との熟議：学校、保護者、地域が子供たちの学びや育ちについて、目的や方向性を共有しながら支援できるよう、共通理解を図る場を設けている。学校や子供をめぐる課題解決に向けた、それぞれの立場での取り組みについて議論し、それぞれの活動に繋げている。
- ③サポート隊の活動：「みたか地域未来塾」の運営(学習支援員の研修や進行管理)、校外での体験学習での教育活動の安全管理や算数習熟度別指導での学習支援、小学校各クラスで読み聞かせの実施など。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・活動を実施するにあたり、学校と連携し、ニーズを把握し、ICTを活用して「人財派遣」、ボランティアの募集を行い、教員の負担が大幅に軽減されている。
- ・学習支援や授業補助のほか、見守り活動、行事の手伝いといった幅広い活動を企画し、多くの「地域人財」が活躍できる仕組みを作っている。
- ・各活動について、コミュニティ・スクール委員会では、毎年、保護者、地域を対象にアンケートを行い、効果を検証し、改善を加えながら、子供たちにとってよりよい活動になるよう支援している。
- ・広報部が中心となりそれぞれの活動の内容や様子についてコミュニティ・スクールだよりやホームページ等を通じて情報発信し、「人財」確保に繋げている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・子供たちが地域の方々と接する機会が多くなることで、思いやりの心や地域の方々と協力して活動する大切さを学び、豊かな人間性を育むことができる。また、活動が定着しており、地域の方々から信頼され喜ばれている。
- ・地域の活動として単体で行われていたものが、コミュニティ・スクールが学校と地域をコーディネートすることにより、横のつながりが生まれ、地域活動に盛り上がりが出てきた。学校への理解が進み、教育活動への協力体制が広がった。
- ・ボランティア延べ参加者数は昨年度2,739人であった。地域からの学校への理解も進み、教育活動への協力体制が広がっている。今後は、コミュニティ・スクール推進員(地域学校協働活動推進員)を2名配置し、地域と学校のつながりをより強めていく。

## ●その他

学園の活動を年間を通して評価・検証するPDCAサイクルを確立しており、本地域学校協働活動についても評価・検証対象事業に位置付け、改善事項の具現化に取り組んでいる。サポート隊事務局がスムーズに運営できるよう、手引き等を作成し持続可能な取り組みを大切にしている。



「農業体験」が中学校と地域協力を農家が中学生



「サポート隊」として登録してみたい

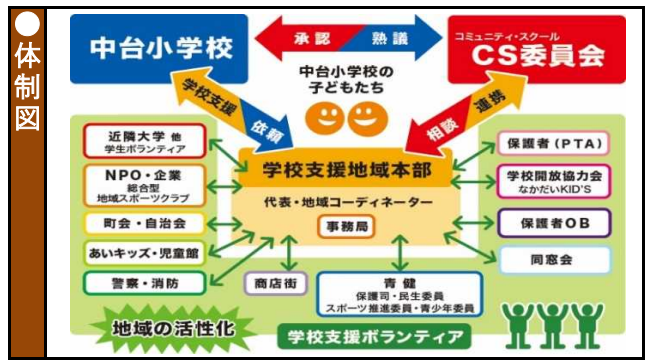


# 地域の信頼と豊かなキャリア資源が育む子供の未来 ～人と人をつなぎ育てる中台小～

東京都板橋区	●活動名 中台小学校支援地域本部	●関係する学校名 板橋区立中台小学校
--------	---------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童・生徒数	407 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人				
学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置予定	ボランティアの数	延べ登録人数 388人	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.ita.ed.jp/edu/nakades/">http://www.ita.ed.jp/edu/nakades/</a>						

●連絡先 板橋区教育委員会事務局 地域教育力推進課 ☎ 3579-2619



●活動の概要・経緯

○活動の基本は毎月定期的コーディネーター会議。授業支援の内容、確認、依頼、お礼の打合せを実施。授業支援は①学年ごとの支援②学校行事支援③学力、体力向上支援④キャリア教育支援⑤学校依頼支援、他に次世代のコーディネーター育成に向けた研修を実施。支援ボランティアは町会、商店街、NPO法人、企業等、地元の協力者を資源とし依頼書を配付している。保護者はPTA活動協力を前提に地域の一人としてボランティア協力を依頼している。コミュニティ・スクール推進委員会が設置され、教職員との熟議の機会に相互理解も深まり、人と人をつなぎ育てる中台小の力となっている。

○子供の居場所としてH18年度より実施した中台小学校開放協力会(いきいき寺子屋事業:なかだいKID'S)が母体となり、H25年度より代表者1名、地域コーディネーター2名にて学校支援地域本部を開始した。基本的に学校と保護者と地域の関係性を明確にし、PDCAで常に、よりよく改善推進に取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○中台小学校の要望を確認し、各学年の先生方と打合せを密にしなが授業支援を展開。①1・2年生と特別支援学級:花蓮の泥こねと分根植え。3年生:町探検「こども110番」「安全マップ作成」「商店街見学」。4年生:キャリア教育「1/2の成人式」。5年生:さくら草育成(さくら草学びのエリアの学校が集い、さくら草まつりを実施)。6年生:中台小の歴史を学ぶ(卒業生より中台小の昔話)。②マラソン大会、オリンピック・パラリンピック授業ではプロの支援をいただき全校児童と一緒に体験出来る様に努める。③スポーツテスト、放課後学習、読み聞かせでは、子供の潜在的な興味を引出し、楽しく伸ばせるように努める。④漢字検定は児童の他家族の受検も可能にし、家族での学習取り組みを支援している。⑤保護者会への出席を促すため、未就学児の保育(お話の会)を実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

○定期的なコーディネーター会議を実施し、活動の予定や依頼内容、役割分担や進行、反省、お礼まで、学校(教員)との連携を心掛けている。また活動の予定表を児童に配布し、学校支援活動、なかだいKID'S活動、PTA活動を把握できるようにしている。学校支援活動のポイントは、教員の希望・要望を理解し地域性を活かしたマッチングとなるような連携を心掛けている。そして安全で落ち着いた授業環境となるように配慮しボランティアへの丁寧な対応に努めている。また学校支援地域本部事業への理解を深めるため、活動のパネルを校内に掲示している。コミュニティ・スクール推進委員会を始め保護者や地域ボランティアの理解・協力は大変大きく、活動終了後はお礼状を通じ感謝の気持ちを届け、継続的な支援につなげている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

中台小学校支援地域本部の活動は、中台小学校の教育を支える大きな力である。日々の教育活動の授業ボランティアの手配は、迅速かつ的確に行い、活動範囲は郷土愛学習・スポーツ推進・漢字検定・数学検定など多岐に渡っている。そのお陰で、全校児童が質の高い体験学習を安全かつ専門性の高いものになっている。本校の研究である「キャリア教育」も地域人材の発掘・育成により実りあるものになっている。児童の自己有用感が高まり、地域教育力の高まりにより学校教育全体が充実できている。そして、中台小学校支援地域本部が核となって、『板橋区コミュニティ・スクール導入推進校』となり、本気で学校を支え、学校運営に携わろうというコミュニティ・スクール委員や保護者が増えてきた。児童・教員・保護者・地域の方々も含めて、感謝の気持ちでいっぱいである。

## ● その他

○中台小学校は花蓮の学校を目標に学校・児童・保護者・地域そして中学生の協力で40種類以上の花を咲かせています。また起伏のある学校の地形を利用したマラソン大会では、町会交通部の方々の安全な見守りのお陰で、力強い走りや応援が冬の風物詩である。

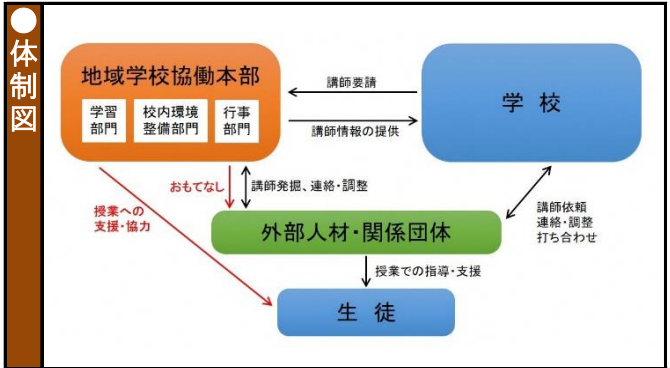


一な花蓮の初体験。育成も地域指導者と



なりマラソン大会を支援する。見守りやボランティアの活躍を支える心。安全

東京都多摩市		●活動名 多摩市立多摩中学校地域学校協働本部			●関係する学校名 多摩市立多摩中学校		
協働活動開始年度	平成24年度	関係学校数	1校	のべ学級数	15学級	のべ児童・生徒数	453人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		2人		2人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成31年4月1日設置		56人				
参考URL	<a href="http://schit.net/tama/ihutama/?page_id=13">http://schit.net/tama/ihutama/?page_id=13</a>						
●連絡先	多摩市立多摩中学校			☎ 042-375-7023			



●活動の概要・経緯

平成24年度に多摩中学校支援地域本部を立ち上げ、2名の教育連携コーディネーター（多摩市版地域コーディネーター）を配置して学校支援活動を開始した。教育連携コーディネーターを中心に本部事務局を組織し、学校や地域住民、企業等との連絡・調整及び活動の企画・実施を行い、総合的かつ継続的に活動している。平成30年度は、体制を整えて多摩中学校地域学校協働本部に名称を変更するとともに、より多くの地域住民の参画を得るために新たな活動を企画し、延べ800名を超えるボランティアが活動に参加した。また、令和元年度からはコミュニティ・スクールを導入し、地域と学校が、目標や育みたい子供像を共有しながら連携・協働し、地域と学校の特色を活かしながら多種多様な活動を展開している。

## ●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①学習部門…1年生「地域巡り」、2年生「伝統文化継承会」、3年生「キャリア教育」、特別支援学級F組「自立活動の支援」を中心に、地域未来塾や各種検定試験の運営を行っている。
  - ②校内環境整備部門…畑・花壇の整備を行うほか、野外活動部の指導やPTA緑化ボランティアと連携して活動している。収穫した野菜は地域との交流事業等で使用している。
  - ③行事部門…PTAと連携して入学式・卒業式・運動会・避難所宿泊訓練等の学校行事を支援するほか、本部主催で地域との交流事業（そうめん流し、芋煮会、野点）を実施している。

- 【実施に当たっての工夫】
- 地域学校協働本部の中でも活動ごとに部門を設けて、役割分担ができています。月に1回本部の定例会を開き、学校と本部及びそれぞれの活動について、子供たちの様子等に関する情報交換を行っている。また、本部の活動に関する反省会を行い、次の活動の改善に活かしている。
  - 地域学校協働活動推進員を中心に、教育委員会、学校、地域、ボランティア、関係団体等と密に連絡を取り、連携している。
  - 地域学校協働活動推進員が学校運営協議会の委員になることで、学校と地域で目標や育みたい子供像を共有しながら活動することができています。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 自分が住んでいる地域の伝統・文化を学んだうえで、国際理解教育の一環として「海外生徒日本体験プログラム」の中で海外生徒のホームステイを受け入れ、自国の文化を紹介しておもてなしするとともに海外の伝統・文化について理解を深めることにより、グローバルな人材育成及びコミュニケーション力を身に付けている。
- 地域との交流事業を通じて、子供たちは地域の方を学校にお招きしておもてなしすることで「ありがとう」と感謝される経験をし、ボランティア活動に関心を持つとともに、地域への愛着を育むことができる。地域の方は子供たちの活動を実際に見ることで学校への理解を深め、地域ぐるみで子供たちを育む意識が持てる。

## ●その他

中学生が地域の方と交流する場を作るため、地域学校協働本部主催の行事を継続して開催している。これまで毎年夏に「そうめん流し」、秋に「芋煮会」を、令和元年からは春に「野点」を開催した。



地域との交流事業  
「野点」



地域との交流事業  
「そうめん」

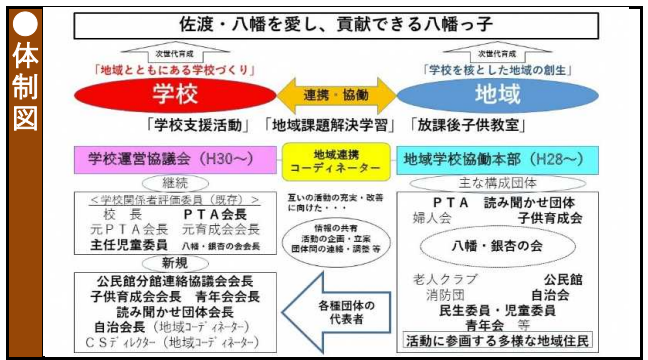
こんな活動です

# 地域を愛し、貢献できる八幡っ子の育成を目指して

- 学校・家庭・地域が一体となった取組の推進 -

新潟県佐渡市	●活動名	●関係する学校名
	八幡小学校 学校運営協議会	佐渡市立八幡小学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	64 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習					
	—	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—		3人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			無
	平成30年4月1日設置		87人				
参考URL	<a href="http://yahata-es.sado.ed.jp/">http://yahata-es.sado.ed.jp/</a>						



●連絡先	佐渡市教育委員会 社会教育課	☎ 0259-58-7356
------	----------------	----------------

●活動の概要・経緯

地域活動の中心的な役割を担っている団体「八幡・銀杏の会」を地域学校協働本部の中核に据え、学校と地域・諸団体が互いにつながりを持ち、様々な活動を進めてきた。平成30年度4月には、佐渡市教育委員会のモデル校指定を受け、「八幡小学校学校運営協議会」を設置し、佐渡市で最初のコミュニティ・スクールとして、学校と地域・保護者が一体となって、「佐渡・八幡を愛し、貢献できる八幡っ子」を目指した取組を進めている。

平成30年度の放課後子供教室運営委員会において、これまで長期休業に本の読み聞かせボランティアグループ「みんなわくわく会」が計画・開催してきた「夏休みわくわく宿題教室」や「書き初め教室」等の取組を、放課後の子供の居場所づくりの視点から「八幡っ子放課後子供教室」として位置付けた。令和元年度は、通年実施に拡充し「八幡っ子放課後子供教室」を開催している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①各団体による地域行事・イベントの開催…子供の主体的な参加が、ふるさと八幡のよさを実感することにつながっている。
- ②子供の登下校見守り活動…スクールガードリーダーや警察との連携。多くの地域住民・保護者による「ながら守り隊」の活動。
- ③地域学習をテーマとした総合的な学習の時間への支援…佐渡・八幡の自然や文化、歴史を探究する学習への支援活動。
- ④地域人材を活用した体力づくり(ボールの投げ方教室・テニス教室・大縄跳び教室・ニュースポーツ教室等)
- ⑤地域との協働及び地域貢献に向けた地域との熟議…学校運営協議会での「熟議」による地域の課題の共有・地域のために何ができるかを子供に考えさせる。

### 【実施に当たっての工夫】

学校と地域にあった既存の諸団体とをつなぎ、これまでそれぞれが単独で行ってきた活動を充実・発展させる形で取り組んでいる。各団体をつなぐことで、複数の団体による協力体制が築かれ、より効果的な地域学校協働活動を計画・開催することができている。また、ボランティアも、学校がもつ既存の学校支援ボランティアだけではなく、自治会や分館、社会教育関係団体や生涯学習グループ、地域の人たちをつなぐことで、多様な学習支援ボランティアの選択が可能となっている。さらに、地域コーディネーターやCSディレクターが、学校と地域との橋渡し役となり、ゲストティーチャーの選定、校外学習先との連絡調整などの役割を果たし、学校職員の負担が軽減されるとともに、年度替わりや職員の異動等があっても、継続した地域学校協働活動としての取組が期待できる。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民が学校に足を運ぶ機会が増え、子供たちと地域住民との距離が縮まった。地域の方は児童に対して「子供たちに八幡のよさを実感してもらい、将来の八幡を担ってほしい」と期待を寄せている。また、互いに顔が見える関係を築くことで、子供たちの登下校等における安心・安全の確保にもつながっている。H31年4月に実施した全国学力・学習状況調査において、「今、住んでいる地域の行事に参加していますか。」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。」の質問に対する児童の肯定的評価がいずれも100%になるなど、全国平均と比較して、顕著に高い結果となった。学校と地域との日常的・継続的な活動が、地域住民・子供たちの地域に対する肯定的な認識へとつながっている。

## ●その他

放課後の子供の居場所づくりとして、平成30年度に運営協議会を立ち上げ、「八幡っ子放課後子供教室」の取組を開始した。毎回、魅力的な活動が工夫され、多くの参加がある。この取組が新たなボランティアスタッフの掘り起こしにつながった。地域課題学習では、地域の方から地域の課題である「『越の松原』の再生」についてプレゼンテーションソフトを用いて分かりやすい説明があった。



地域の草野球チームによるボールの投げ方教室



佐渡地域の安心・安全を守るための出発式

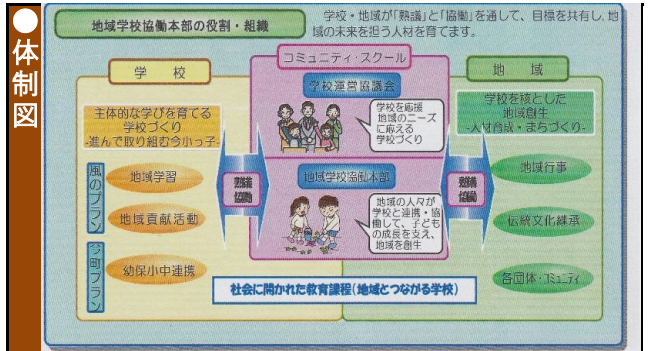
こんな活動です

# 「進んで取り組む今小っ子」の育成をめざして — 学校・保護者・地域の協働によるコミュニティづくり —

新潟県見附市	●活動名	●関係する学校名
	今町小学校地域学校協働本部	見附市立今町小学校

協働活動開始年度	平成 30 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	23 学級	のべ児童・生徒数	405 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	2人		10人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成23年4月1日設置		78人	無			
参考URL	<a href="http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~imasho/">http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~imasho/</a>						

●連絡先	見附市教育委員会学校教育課	☎ 0258-62-1700
------	---------------	----------------



●活動の概要・経緯

当校はこれまで重点目標「進んで取り組む今小っ子」の実現に向けて、地域の自然・人・伝統文化に根ざした教育活動を推進してきた。ふるさとを知り、愛着をもつ子どもを育てるために、日ごろから子どもたちをよく知り支えている保護者・地域・外部組織の代表を学校運営協議会及び地域学校協働本部に迎え、「共に子どもを育てる」という視点から熟議を重ね、協働した取組を進めることとした。また、地域協働の推進役として教育コーディネーターが積極的にかかわり、地域に関する情報提供、各教育活動の企画立案や外部機関との調整役を担っている。さらに、学校(教職員・児童)の願いや思いを教育活動に反映させるため、地域連携推進担当(教務主任)が調整役となり、教育コーディネーターや地域との連携を図っている。

## ●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ① 伝統的な文化・行事や地域学習への協力: 大風合戦・今町べと人形伝承、防災スクールなどに物心両面から全面的に協力。
  - ② 社会に開かれた教育課程の編成: 地域連携型総合カリキュラム編成をとおして、学校・地域が共にめざす子どもの姿を描き活動を展開。年間5回、推進員、教職員、児童を構成員とした熟議の場を設定。
  - ③ 学校行事等を通じた地域貢献・協働: 学校・地域が参加する「ふたばチャレンジウォーク」や「オータムフェスティバル」を毎年実施。
  - ④ 各団体と協働した地域活性化の取組: 小中PTA・防犯団体等と連携した「地域あいさつ運動」の展開、学校運営協議会と連携した「学校Deイルミネーション」開催、PTAと連携した「みんなでラジオ体操プロジェクト」・おやじバンド活動の展開。

### 【実施に当たっての工夫】

- 既存の教育活動・取組を整理・統合しながら取組を進めることにより、効率的・継続的な取組となるようにしている。
- 地域・学校が共に考え実践する「熟議」「協働」の場を意図的・計画的に設定することにより、双方にとって意義ある教育活動や実践を創出している。
- 協働の推進役として教育コーディネーターや推進員が積極的にかかわり、企画・運営、諸活動の調整役を担っている。また、PTA、外部諸団体との連絡調整、情報提供、人材活用を支援しており、教職員の負担軽減にもつながっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ① 児童・保護者の高い学校好感度  
市共通アンケート結果から、地域や学校に対する児童の愛着の高さ、地域連携や特色を生かした教育活動に対する保護者の評価の高さが表れている。学校運営協議会及び地域学校協働本部事業導入前から「共創郷育」を教育理念に掲げ、地域連携に取り組んできた見附市だからこの結果と考える。
- ② 地域連携教育プログラムの創出  
地域学校協働本部導入により、学校は、これまで取り組んできた地域にかかわる学習を見直し、ねらいを明確にしたり学年間の関連や系統性を整理したりすることができた。教職員も、常に「地域」という視点を持ち、教育活動の実践やカリキュラム作りに取り組むようになってきた。

## ●その他

各学年の総合的な学習の時間における課題解決のための調べ学習や学習成果のまとめ。発信のための表現ツールとしてICTを活用している。(例: 佐渡の自然・伝統文化<6年>日本の食糧生産<5年>7.13水害の記録や防災施設<4年>各地の伝統文化<3・4年>)



伝統文化「大風の絵付け」を教わる児童の姿



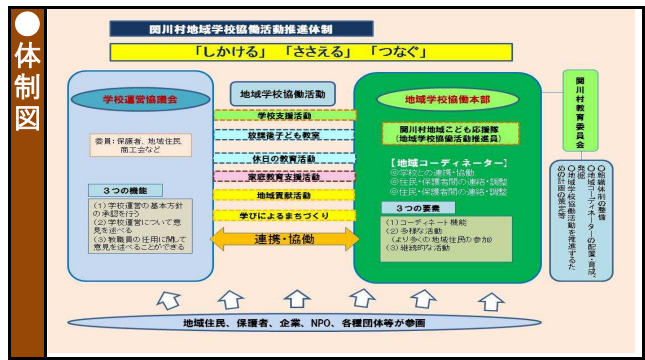
地域学校協働活動推進員と児童との熟議の様子

こんな活動です

# 地域に子どもの輝く姿を！ 一ふるさと関川を愛し 誇り 発展させるひとづくり

新潟県関川村	●活動名	●関係する学校名
	関川村地域学校協働本部	関川村立関川小学校 関川村立関川中学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	343 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
	—	放課後子供教室	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人	8人	8人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成29年4月1日設置	—	114人	—	—		
参考URL	<a href="http://es.sekikawa.ed.jp/">http://es.sekikawa.ed.jp/</a> <a href="http://jhs.sekikawa.ed.jp/">http://jhs.sekikawa.ed.jp/</a>						



●連絡先 関川村教育委員会 教育課 生涯学習班 ☎ 0254-64-1491

●活動の概要・経緯

○当村教育の基本理念「ふるさと関川を愛し 誇り 発展させるひとづくり」の実現に向け、学校運営協議会と地域子ども応援隊（地域学校協働活動推進員）が両輪となって取組を進めている。また、教育課に配置の地域コーディネーターが、学校と地域、関係団体をつなぎ、取組を充実させ、成果が上がるようにしている。

○学校運営協議会事務局、地域学校協働本部事務局、小中学校の地域連携担当教員及び地域コーディネーターで連絡会を組織し、実働的な活動になるように取り組んでいる。

○放課後の子どもの居場所づくりとして、公民館が中心となり元教員や地域住民をスタッフに、毎週火曜日に「せきともクラブ」を開催し、様々な体験活動を仕組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①地域子ども応援隊による地域活動：各コミュニティでの行事開催・・・地域子ども応援隊が核となり、地域コーディネーター、小中学校と連携協力して、「親子で防災キャンプ」「座禅体験」「何もしない合宿」を開催。
  - ②学校運営協議会委員と地域子ども応援隊との熟議と協働：学校、地域、公民館の三者で定期的な熟議を行い、地域の課題を共有。また、教育委員、村議会議員、民生委員、保護者、中学生が集う「教育フォーラム」を、年1回開催。
  - ③様々な学校支援：「学校支援ボランティア」・・・子どもたちに地域の自然、文化、歴史等を学ばせるために「学習支援ボランティアリスト」を整備。小学校と公民館との連携による「観光ボランティアガイド」の活動は、今年度で10年目。
  - ④「せきともクラブ」(放課後子ども教室)での多様な学習や体験活動：地域人材活用による様々な学習や活動メニューの提供。
- 【実施に当たっての工夫】
- ①地域学校協働活動推進員を村内9つのコミュニティから選出し、「地域子ども応援隊」と命名。地域での子どもの活動を学校等と連携して実施している。
  - ②小中学校に地域連携担当を位置づけ、地域コーディネーターや地域子ども応援隊と定期的に打合せをしている。
  - ③教育課配置の地域コーディネーターが、村内の多様な人材や活動団体、サークル等を、学校教育諸活動につなげることで、より効果的で充実した学習活動を展開している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①地域住民が学校教育諸活動に関わることで、学校を身近に感じるとともに、子どもたちの元気な笑顔に触れることで、生きがいにもなっている。
- ②学校にとっては、教職員の負担軽減だけでなく、特に校外学習における安全・安心の確保につながっている。
- ③防災キャンプ、座禅体験、何もしない合宿等、各コミュニティにおける子どもたちを対象にした新たな事業を創出するなど、コミュニティの活性化につながっている。
- ④事業を通して、人と人のつながり、学校と地域、関係団体とのつながりを深めている。さらに、一村一小中学校の子どもたちを、地域で育むという気運の醸成につながっている。

## ● その他

- ①NPO法人ここスタと連携して、4歳～10歳の子どもがいる保護者対象にペアレントトレーニングを10回行った。
- ②防災キャンプの際に、パワーポイント、プロジェクターを使って、非常持出袋の講義を行った。



段に防  
ポ、災  
ーブリ  
ルラン  
仕イン  
切りシ  
作ー地  
りを域  
に守住  
民と  
戦た  
。め  
の緒



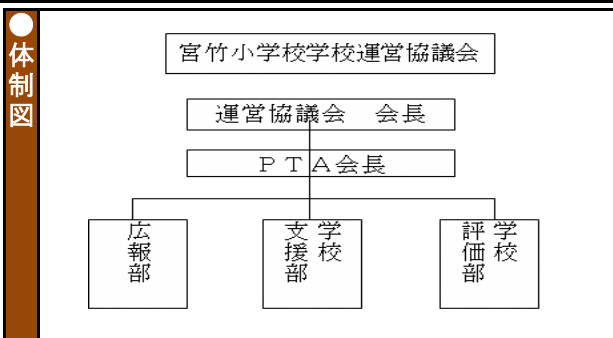
を導事  
担を前  
いでに  
け地  
て域  
の、  
当方  
の、  
活日  
性元  
化から  
に担  
貢ぎ  
に方  
大の  
。蛇指



石川県能美市	●活動名	●関係する学校名
	宮竹小学校学校運営協議会	能美市立宮竹小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	140 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成29年4月1日設置		55人	無			
参考URL	<a href="http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~mivate/NC2/htdocs/">http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~mivate/NC2/htdocs/</a>						

●連絡先	能美市教育委員会 学校教育課	☎ 0761-58-2271
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯

○平成29年から能美市コミュニティ・スクール事業が始まり、市内全小学校8校に学校運営協議会を設置。宮竹小学校は平成27年度から「地域とともにある学校づくり」の仕組みを整えていくために「学校地域元気アップ事業」を開始し、平成28年度からモデル地区の一つとして学校運営協議会を設置。コミュニティ・スクールディレクターを中心に、学校の現状やニーズを把握し、学校と家庭、地域による学校支援活動を実施。

○運営協議会の中に学校評価部、学校支援部、広報部の3つの部会を組織し、協働的に取り組んでいる。

○年度初めに協議しながらアクションプランを立て、「知」「徳」「体」「家庭・地域」の調和のとれた取組を行う。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①安全面に配慮した学習支援や見守り：家庭科（調理実習・ミシン指導等）や図工科（彫刻刀やのこぎりの使い方等）など、多岐にわたり安全面に配慮したきめ細やかな対応ができるよう、多くのボランティアが入っている。鉄棒運動、マラソンの練習や大会における励ましや安全を見守る支援は、児童の苦手意識を克服し、自信につながる支援となっている。
- ②補習的学習支援：地域の方が教員の代わりに、昼休みに行う検定（九九や音読を聞く等）は、児童の自己肯定感を高める時間となっている。週3回地域の方に来てもらい、子どもたちは自分の学びの成果を認めてもらえるので喜んで取り組んでいる。また、地域に住む元教員が自由研究の取組方をアドバイスしており、自由研究の作品内容が充実してきている。
- ③環境整備等による学校支援：学校の環境整備等の困り感を解決すべく、地域の方が学校の要望に応じて、運動会の紅白の団旗を作ったり、たくさん雑巾を縫ってくれたりする等の支援を行っていた。学校の除草作業も地域の協力を得ている。また、授業の準備において拡大機を使った教材作成も地域の方が手伝っていた。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校のニーズを素早く把握し、町内会や老人会など地域の各団体との連絡を密にして、委員が積極的にかかわりながら取組みを推進した。
- 「広報部」「学校支援部」「学校評価部」の3部会が中心となって、アクションプラン（子どもの成長を学校・家庭・地域が共に応援するプラン）の実現を図ることで、委員の意識が高まった。
- 授業などに必要な学習支援のサポーターは学校支援部が中心となって連絡・調整し、学校の教師の負担を軽減した。
- 協議会において、学校教育ビジョンの理解や宮竹小児童の良さや課題についての話し合いを行い、めざす宮っ子の姿を委員全員で共有することで取組への意欲化を図った。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 昼休み検定では、サポーターに丸付けをしてもらい、ほめてもらうことで、喜びや達成感、意欲の向上が見られ、基礎・基本の定着が進んだ。
- アクションプランを各家庭が掲示することで見える化が図られた。年度末のアンケート結果からも親がほめることで、子供の変容が見られたことや親子の対話を多くするよう努めているなど、良い評価が見られた。
- 地域に伝わる民話の学習や地域の自然とふれあう体験等のふるさと学習を充実させることで、地域に対する理解が深まり、地域の行事に親子で参加する姿が多く見られた。
- 学校運営協議会が地域と学校をつなぐことで、地域の協力が得やすくなり、活動に参加するサポーターが増えた。そしてサポーター同士が互いに声かけあって参加する姿も見られ、前よりもつながりが深まってきたように思える。

## ●その他

朝の読み聞かせ、登下校の見守り活動、クラブ活動の指導、理科クラブ支援、理科学習支援、昔遊び、環境整備など学校とともに地域住民が主体となった様々な活動を展開している。



活いイ地域  
～科、モ域  
裁の住  
）裁の住  
培苗民  
に植の  
取え協  
り方力  
組法を  
んを得  
で教え  
いえ、  
るてサ  
（もツ  
）生らマ



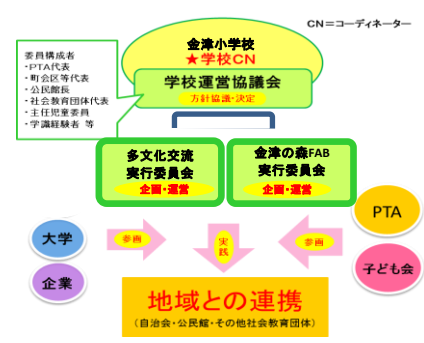
てら屋  
もプリ  
らリみ  
らんに  
ってっ  
い地  
る域  
（のサ  
学丸  
習ポ  
つー  
けタ  
け支  
を援  
）を  
しか

こんな活動です

# 地域の文化の中心としての金津小学校を目指して

石川県かほく市		●活動名 金津小学校学校運営協議会				●関係する学校名 かほく市立金津小学校	
協働活動開始年度	平成23年以前	関係学校数	1校	のべ学級数	8学級	のべ児童・生徒数	74人
活動区分	学校支援活動		—		地域人材育成		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		地域学校協働活動推進員等の数 —		配置人数 1人		
学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日設置	ボランティアの数	70人	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
参考URL	<a href="https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~kanadu/NC2/htdocs/">cms1.ishikawa-c.ed.jp/~kanadu/NC2/htdocs/</a>						
●連絡先	かほく市教育委員会生涯学習課			☎ 076-283-7137			

## 体制図



子どもたちや学校、地域がより明るく、元気になる方策を学校運営協議会で協議、検討し、学校運営や地域行事に反映している。金津小学校には市教育委員会が配置している「学校コーディネーター」が1名おり、学校と地域との連絡・調整を行っている。学校コーディネーターは、地域を把握している協議会委員と相談し、地域人材を巻き込んで、教育活動を充実させている。また、現委員だけでなく元委員や元PTA役員も、地域のパイプ役となり、学校支援ボランティア数増に貢献している。活動にあたっては、地域住民中心の実行委員会が企画・運営を行っているものがある。地域全体が学校の良き応援団となっている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①金津の森プロジェクト  
学校敷地に隣接する「金津の森」を教材に各学年が行う自然体験活動や木材を活用したものづくりの支援を行った。地域住民が中心となって、提案・企画・実施し、教員だけではできない貴重な機会を用意した。
- ②多文化ふれ合い交流(ワールドコミュニケーション)  
外国との交流を深めてほしいという学校の願いのもと、星稜大学の外国人留学生等を招いて自国文化を紹介してもらっている。児童は、留学生にその国の言葉で質問をし、一緒に遊び交流を深めている。地域の方が企画から全てを担い、卒業生である中高生も司会進行などのサポートをしている。
- ③心を育てる学習支援  
1年生は、生活科で老人会との交流を行い、6年生は、小学校の敷地拡張工事中に奉仕活動で作業していた住民2人が土砂崩れで亡くなった事を忍ぶ供養を行っている。コーディネーターが地域に呼びかけ、これらの活動に多くの方々が集まっている。こうした活動を通して児童の豊かな心を育てている。
- ④児童の登下校時「金津小学校学校安全委員会」がパトロールし、児童の安全を見守っている。

### 【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会での提案をもとに実行委員会を作り、協議を重ね、企画・運営を行っている。実行委員会は学校運営協議会の委員と地域住民で構成している。地域の宝である「金津の森」を教材に全学年が学習をしている。その一つとして、昨年度は、金津の森の木材を活用してテーブルを作成し、これにAIスピーカーを設置し、IoT技術子どもたちに体験させる機会を作った。今年度は、環境教育に視点をあて、活動が持続可能なものとなるよう計画を工夫した。この企画・運営は、地域住民が中心となって行った。多文化ふれ合い交流でも、地域住民が中心となり、小学生から中学生・高校生へと輪を広げ、多様な活動となるよう工夫した。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校のさまざまな場面で地域住民が取組の企画・運営を行うことにより、地域住民の地域や学校・子どもに対する思いや願いのこもった活動内容となる。そこで、児童は、その活動を通して、郷土に対する愛着や誇りを感じ、思いを深めることができた。教職員にとっては、負担軽減されるだけでなく、地域住民の関わりの中で、物事を多角的に見る見方を学ぶことができた。金津の森プロジェクトでは、環境教育をテーマとした活動計画を作成できた。多文化ふれ合い交流事業においては、卒業生が企画・運営したことがきっかけとなり、卒業後も地域の活動に積極的に参加する姿勢が見られるようになった。また、星稜大学との連携が今後も確認できており、どちらの活動も、持続可能な取組とすることができた。

## ● その他

クラブ活動に地元企業から社員を派遣してもらいプログラミングの指導を受けている。6年生のキャリア教育では宇ノ気小学校と合同で、さまざまな職種の方の話を聞く機会を設けている。「畑の先生」や「お米の先生」を招待し、野菜パーティーなどで感謝の会等交流を深めている。



「金津の森」の木を組み合わせてテーブルづくり。カー付きのテセーブルづくり。

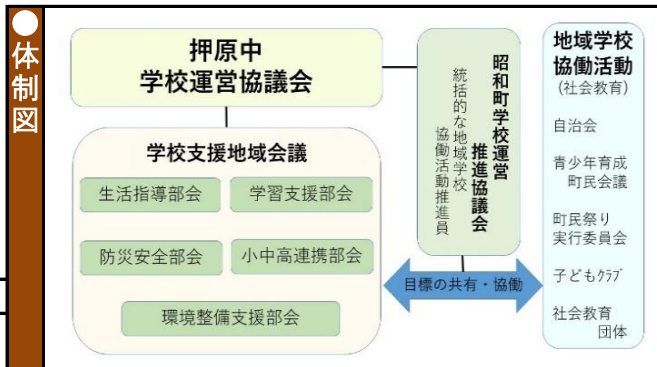


「生留左は学生・外国が福笑いなど「い教上・挑えます」。小学

こんな活動です

# 地区別協働防災訓練 ～生徒たちが学校から出て、地域で活躍する～

山梨県昭和町		●活動名 押原中学校学校運営協議会			●関係する学校名 昭和町立押原中学校		
協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	530 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 15人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成27年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 210人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	<a href="http://www.oshi-ihs.showacho.ed.jp">http://www.oshi-ihs.showacho.ed.jp</a>						
●連絡先	昭和町立押原中学校		☎ 055-275-2040				



●活動の概要・経緯

H27年コミュニティ・スクール指定を契機として、以前より行っていた学校支援や地域との交流活動を押原中学校運営協議会に設けた学校支援地域会議にコーディネート機能を持たせ、学校と地域・関係団体をつないで活動を進めてきた。その成果として、保護者や地域にコミュニティ・スクールとしての活動が周知され、地域住民の協力を更に得る中で、多くの取組が行われている。現在は、積み重ねてきた成果を元に「目標やビジョンを共有した地域とともにある学校」に向け協働活動を進めている。また、H29年度より教育委員会学校教育課にコミュニティ・スクール・ディレクターが配置され、協働活動のコーディネート機能が更に充実してきた。

地域の有価物回収、地域の子どもクラブ(児童・園児対象)の活動支援、町民祭りへの自主企画参加等、様々な協働活動を行っている。中でも、地区別協働防災訓練は、地域と学校が協働しその成果を両者が共有する活動となっている。

## ●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①地区別協働防災訓練：地域の防災や環境の知識や技能、関心を育成し地域の一員としての意識を高める活動。学校支援地域会議防災安全部会を母体として、各地区の防災訓練に参加。
  - ②他校種交流：地域子どもクラブの球技大会(野球部・バレー部)、町内小学校への陸上指導(陸上部)を行い、児童との交流や生徒のキャリア意識の育成。町内在住の高等学校生徒と協働し、町民祭りへの参加。自治会組織、小学校、町青少年育成カウンセラーが関わり活動している。
  - ③学校環境整備：歴代PTA役員会である「さくら会」を母体に、生徒とともに協働し、学校の環境整備を行っている。

## 【実施に当たっての工夫】

押原中学校は、町内にある唯一の中学校であり、住民の多くが卒業生である。地域の学校への関心や支援意識は高く、以前より教育活動への参画は多方面に渡って行われてきた。また、教育委員会にも青少年育成カウンセラーが配置され、地域と学校を結ぶ役割を担ってきた。H29より、CSD(コミュニティ・スクール・ディレクター)を配置することにより、コーディネート機能は更に高まっている。CSDのコーディネート機能を強化することにより、自治会組織やボランティア団体、他校種学校等との連携が広がり、協働活動や学校支援のパートナーが増加した。また、CSDにより「昭和町コミュニティ・スクール地域人材活用リスト(ボランティア団体・個人)」が作成され、連携の幅も大きく広がった。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

これまで積み重ねられてきた、様々な活動を「互いに目標を共有し、地域と一体となって生徒を育む、地域とともに歩む学校」という視点で整理したことにより、効率的に協働活動が行うことができています。

地区別協働防災訓練を地域学校協働活動の中心的な活動ととらえ、活動開始時より改善を重ねてきた。連携のパートナーとなる自治会組織も回を追うごとに、地域の人材育成や地域づくり等の意識が高まり、地区ごとの訓練内容にも深まりがみられるようになった。

CSDや青少年育成カウンセラーのコーディネート活動が増し、学校の負担軽減につながっている。

## ●その他

地域と協働する体制を拓ける機会として、保護者や地域住民の協力を得て、有価物回収に取り組んでいる。地域在住の芸術家や写真家と連携しスクールギャラリーを開催している。スクールギャラリーには多くの住民の参観がみられる。



地区別協働防災訓練の指導により実施



地区別協働防災訓練の救済訓練



長野県飯田市		●活動名 座光寺の子どもを語る会				●関係する学校名 飯田市立座光寺小学校				
協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	11 学級	のべ児童生徒数	241 人	<b>体制図</b> 		
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		—		—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 3人					
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年3月15日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 97人	企業・NPO等との連携		無				
参考URL	—									
●連絡先		座光寺公民館			☎ 0265-22-1401					

●活動の概要・経緯

座光寺の子どもたちの健全な育成をねがい、学校・保護者・地域の三者が集い、子どもの現状についての情報共有を行っている。また、話題になったことから、それぞれの立場でできることを考え、学校支援や協働活動に繋げて取り組んでいる。

小学校が主催して、子どもたちの健康・体格・食事等を話題にした「学校保健委員会」を実施していたが、平成21年に地域の中から『座光寺の子どもを語る会、地域のみんで考えたい』という地域学校協働の機運が高まり、「座光寺の子どもを育てる」という視点で公民館がコーディネーター役となり、「座光寺の子どもを語る会」を開催することとなった。また、併せて連絡会（のちに推進委員会へ変更）を発足させ、小中学校、保育園、保護者や子どもに関わる地域住民が定期的に集い、『座光寺の子どもを語る会』の企画や、学校の話、地域の話等を共有する会とした。『地域と学校との結びつきを深める』機会として大事にし、協働活動に繋げている。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「座光寺の子どもを語る会」：年1回地域の大会として開催する。子どもの現状について情報交換し、それぞれの立場で自分に何ができるかを考え、共有する機会とする。
- ②地域と学校の密な連携と学校運営協議会との連携：「座光寺の子どもを語る会」推進委員会では、各団体の代表者が定期的集い、子どもに関わる話題の情報共有を行う。また、会員より学校運営協議会委員を選出し、連携を図っている。
- ③学校のニーズに沿った支援：先生方にアンケートを取り、家庭科などのきめ細かい技術的指導やクラブ活動などの専門的指導が必要な内容に対して、地域住民よりボランティアを募集し、学校支援する。
- ④放課後子供教室の実施による多様な学習機会の確保：歴史や文化の学習、科学実験など、世代間交流と共に、子どもたちに体験的な学びを通じて郷土愛を育む。

【実施に当たっての工夫】

- 公民館がコーディネーター役を担うが、協働活動を行う際に、以下の点を留意している。
- ①地域で活動する多くの人を繋ぎ、多様な学びの機会が選択できるように心掛けている。
  - ②学校や保護者、地域のそれぞれがどのような思いやねがいをもち、取り組もうとしているかを共有することからはじめ、活動の具体を共に計画する。
  - ③子どもたちに関わる大人が、「自分に何ができるか」を考え行動する自主性と主体性を大切に、活動を通して「誰かの役に立っている」という自己有用感と充実感を持ってもらう。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民にとっては、子どもたちの現状について学校と情報共有することで、ますます「地域の子どもは地域で育む」意識が高まり、子どもたちの健全な育成や学校支援について考え行動する姿が増えてきている。また、その様子を広報誌などで紹介することにより支援の輪が広がっている。

地域学校協働活動を通じて、学校からは「地域が身近に感じられて、とても良い環境で学習ができています」という評価が伝えられ、子どもたちからは「Mさん、親切に教えてくれてありがとう。」という感謝の想いが聞こえてきている。また、学校支援に関わる人は、「子どもたちの笑顔が見られて、こちらが元気をもらっている。」と、やりがいを感じ、うれしさを感じている。地域も学校もお互いに良い影響を受け、子どもたちの成長を支えている。

●その他

「座光寺の子どもを語る会」の話題から、学校支援や協働活動が進み、学校内で多様な地域の大人との交流が図られている。学校、保護者、地域の「ねがいの共有」が活動をスムーズで活発なものにしている。



と学校の顔合わせボランティアと児童



（ミシンを使った巾着づくり）  
（家庭科授業補助）

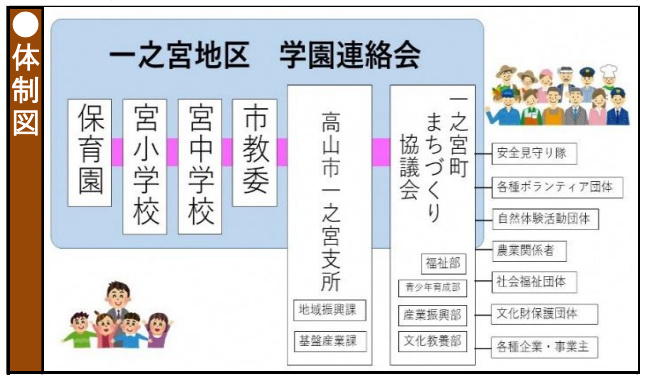


こんな活動です

# 学校と地域が一体となり、豊かな人間性と郷土への愛着を高める絆づくり

岐阜県高山市	●活動名	●関係する学校名
	一之宮地区学園連絡会	高山市立宮小学校 高山市立宮中学校

協働活動開始年度	平成 15 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	195 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	—	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		3人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	令和2年4月1日設置予定		112人				
参考URL	<a href="http://machikyo.hidamiya.com">http://machikyo.hidamiya.com</a>						



●連絡先	一之宮町まちづくり協議会事務局	☎ 0577-53-2424
------	-----------------	----------------

●活動の概要・経緯

- 平成15年度から一之宮町まちづくり協議会の前身である一之宮町社会教育運営委員会が土曜日の体験活動を開始し、地域住民の特技や経験、地元の文化や自然を生かした講座を提供。
- 平成20年度市教育研究所と不登校支援教室を一之宮地区に移転するに伴い「一之宮地区学園構想」のもと、小中学校、地域、市教委が学園連絡会によって連携を図り、一体的な教育活動を推進。
- 地元の自然や文化を生かした体験活動が多様で、児童生徒の関心興味を高めるものになっており、地域ぐるみで子どもを育てる体制が整備されている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ① 保育園、小中学校、まち協、支所、市教委をつなぐ「学園連絡会」を毎月1回開催し、行事の日程調整、協力体制等を図っている。
- ② 「郷土学習」では地元住民が講師として読み聞かせや歴史・文化財学習の授業をサポートし、継続的指導と体制が整っている。
- ③ 課題解決学習 地元の自然を大切に育てる「バイカモを守る」(NPOと連携した川の環境保全)、「臥龍桜のすばらしさを伝える」(文化財愛護)、「宮川源流体験と河口に位置する富山県岩瀬小の交流」(自然を介した体験交流)、地元の「高齢者福祉施設訪問と交流」(福祉体験)、中学生の職場体験(企業と連携したキャリア教育)等、地元関係者や企業等とつながり多様な活動が継続して行われている。
- ④ 地域人材育成 神社祭礼の後継者育成のための文化伝承体験、ツリークライミング・稲作り等自然を生かした体験活動、夏祭りや文化祭、位山トレイル大会の企画運営に中学生も参加し大人と一緒に地域行事を担っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・地域事業や行事を住民主体の協働活動として一体感をもって推進したいという願いを「学園連絡会」で共有。
- ・学校側から、中学生が授業の一環として行事に参加することで地域貢献し、地域の人と交流する機会にしたいとの提案。
- ・まち協で中学生のアイデアを実現する機会や活動できる任務の検討。不登校支援教室に通う生徒の活躍場所も確保。
- ・まち協が保育園、小中学校や支所、青少年育成部、産業振興部、文化教養部をつなぐコーディネーター役を務める。
- ・地域内全戸に広報「一之宮まち協だより」を配布し、情報共有をする。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域住民が講師として「郷土学習」指導を継続して行っており、高い見識や充実した学習活動・資料により、子どもたちは確かな知識を身につけることができている。
- ・子どもたちは地域の多くの大人たちの支援をうけて様々な体験活動をすることで、地域での自己有用感を高め、さらに大人との交流を通じて挨拶や礼儀、コミュニケーション力といった社会性を高めている。実施後の満足度や達成感是非常に高い。
- ・行事に子どもたちが参加することにより、高齢者や保護者世代関係者の参加・参画が増え、住民一体となる機会になっている。
- ・まちづくり協議会がコーディネート機能を発揮し、多様な世代に対応する事業企画・運営力を向上させている。

## ● その他

「バイカモを守る」協力団体名 NPO飛騨一之宮バイカモを守る会、国交省高山国道事務所、高山維持出張所支部安全協議会 中学校の職場体験協力企業 17社



皆物バ  
さん川  
がイカ  
ノモ  
毎清  
年掃  
行流  
つ6  
に年  
育つ  
生と  
ま希  
す少  
地植  
域の



豚の収  
汁新  
作穫  
を鮮  
作祭  
り野  
提菜  
がは  
大  
供提  
つた  
まき  
まぶ  
りな  
した鍋  
。入で  
。っ地  
た元

こんな活動です

# KCDプロジェクト 教科書は「地域の人々」 学びの場は「地域」

岐阜県郡上市		●活動名 郡上北高 地域とともに発展（KCD）プロジェクト				●関係する学校名 岐阜県立郡上北高等学校					
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	12 学級	のべ児童・生徒数	272 人	●体制図			
活動区分	—	地域課題解決学習		地域人材育成		—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		4人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有					
参考URL	平成30年4月1日設置		—	—	—	—					
参考URL	<a href="https://school.gifu-net.ed.jp/guivyokita-hs/">https://school.gifu-net.ed.jp/guivyokita-hs/</a>										—
●連絡先	岐阜県立郡上北高等学校				☎ 0575-82-2073						

●活動の概要・経緯  
郡上北高校は、平成30年度に創立70周年を迎えた。地域からの強い要請を受けて創立された本校にとって、地域社会とのつながりは学校運営上欠くことのできない重要な要素である。平成22年度より、郡上市立白鳥中学校との連携型中高一貫教育を開始し、平成28年度には、県の「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」の指定を受けて、その取組の中核として「KCDプロジェクト」をスタートさせた。プロジェクトに次の4つの柱(※)を据えて、地元公民館・郡上市雇用対策協議会・郡上市市民協働センター等の関係機関の支援を受けながら、活動のさらなる発展を推進している。  
(※)4つの柱①地域行事参画②地域キャリア教育③地域中高連携④広報活動

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域行事参画…◇「奥美濃カレーで町おこし隊」地元の事業者協同組合である奥美濃カレーファミリーと高校生が手を取り合って、近隣各所でのイベントにて奥美濃カレーを販売。◇「公民館応援隊」地元の公民館長の依頼を受けて、園児・小学生を対象としたイベントの企画と運営。◇「あゆパーク商品開発」清流長良川あゆパークと地元食材を使った商品を開発し、イベント等で販売。◇「白鳥町少年文化のつどい」地元の小中高生が集まり、地域に伝わる伝統芸能(太神楽など)や文化活動を発表。高校生は中学生との吹奏楽合同演奏や会の運営・進行役を務める。
- ②地域キャリア教育…◇「郡上未来塾」郡上市雇用対策協議会及びハローワークと連携して、3年生就職希望者に対する地元事業所の紹介及び大同メタルや八幡信用金庫などの地元企業経営者等との座談会開催。◇「Good郡上プロジェクト」市民協働センター主催のプロジェクトに参加。地域の課題に目を向けて、ICTを活用したプレゼンテーションを作成し、解決策を提案。◇「クエストエデュケーション」与えられたミッションの答えを独自の視点で探究しプレゼンする全国大会「クエストカップ」に毎年出場し、入賞経験もあり。地域課題解決に向けた人材育成のため、探究活動を充実。
- ③地域中高連携…◇「中学生授業支援」「中学生夏休み学習会」高校生が連携中学校生の授業や学習を支援。
- ④広報活動…◇「北高NOW」公式HPで教育活動を積極配信。◇「KCD実践発表会」毎年2月に開催。

### 【実施に当たっての工夫】

- 「地域行事参画」「地域中高連携」「広報活動」については、教頭を総括として各教科代表からなる『学校改革プロジェクト委員会』を組織して、他の教員も巻き込みながら活動を推進している。
- 「地域キャリア教育」については、進路指導部を中心に関係機関と連絡を密にとり活動を進めている。
- 中高連携だけでなく、小中高を通して学びの連続性を構築するために、小中高教員参加による授業研究会を開催している。
- 「地域行事参画」については、特別活動部でボランティア募集を一元的に広報し、多くの生徒参加を促している。また、1年次からの活動参加が重要であるという観点から、学年会を中心に1年次生への呼びかけを積極的に行っている。
- 公民館・市民協働センター・奥美濃カレーファミリーに加えて、地元神社からも秋の例祭への参加依頼など、地域からの協働活動への提案も多くある。令和2年度より観光・ビジネスコースの授業科目に地域協働活動を組み入れることを検討している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校評価アンケート(生徒対象)の結果、KCDプロジェクトの内容を理解している生徒は、年々増加している。また、学年が上がるにつれて、活動に積極的に参加する生徒も増加している。
- 連携している中学校、公民館、市民協働センター、雇用対策協議会等の担当者から、本校生徒の取組について高い評価を得ている。さらに活動の範囲を広げていきたいという声も上がっている。
- 1年次から積極的にプロジェクトに参加した生徒が、地域貢献活動型入試制度を利用して大学へ進学した。卒業後は、地元へ戻り地域の発展に貢献したいという希望を持っている。

## ● その他

令和元年度入学生よりコースを再編成し、単位制を導入した。デュアルシステムを利用して、専門学校での技能実習及び地元企業での長期就業体験実習、地元病院での介護職員初任者研修を受講できる学校設定科目を設置し、令和2年度より運用する。



「あゆパーク」で地元食材を使った商品を販売し、イベント等で販売。



「奥美濃カレー」の祭典「郡上」で「奥美濃カレー」を販売。



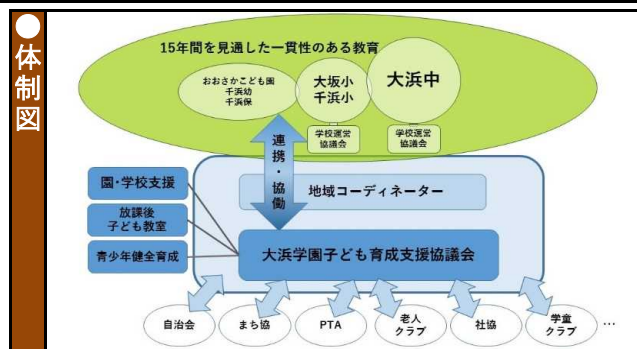
こんな活動です

# 中学校区学園化構想のもと 地域総ぐるみの教育で子育て環境を整備

静岡県掛川市	●活動名	●関係する学校名
	大浜中学校区子ども育成支援協議会	掛川市立大浜中学校 掛川市立大坂小学校 掛川市立千浜小学校 掛川市立千浜幼稚園 私立おおさか認定こども園 私立千浜保育園

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	6 校	のべ学級数	55 学級	のべ児童・生徒数	1195 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—	—	—	—	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人	3人					
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成31年4月1日設置		1802人				
参考URL	<a href="http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/life/kosodate/kyoikuinkai/oohamagakuen.html">www.city.kakegawa.shizuoka.jp/life/kosodate/kyoikuinkai/oohamagakuen.html</a>						

●連絡先	掛川市教育委員会 教育政策課	☎ 0537-21-1155
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯  
平成25年度に、掛川市中学校区学園化構想が始まり、大浜中学校区において「子ども育成支援協議会」を設立。中学校区を一つの学園に見立て、学園内の保幼小中の連携強化と、地域の教育力を園・学校教育に取り込むことを目的としている。大浜中学校区子ども育成支援協議会では、活動方針に「子どもたちの成長を支援」「保護者の子育てを応援」「先生方の負担を軽減」の三つを掲げ、方針に沿った活動を展開。  
協議会会長と地域コーディネーターを中心に、学校支援、放課後子ども教室、青少年健全育成事業等の多彩な事業を実施。また、今年度から学校運営協議会が設置され、これまで以上に学校と地域の連携、協働が深まることが期待される。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校支援…自治会、まちづくり協議会、老人クラブ等、地域の多様な団体による学校支援活動を展開。千浜小学校では、校内花壇の整備を地域と学校が協働して行うことが伝統となっており、例年各種のコンテストで高い評価を受けている。また、学園内の小中学校内を地域のギャラリーとして活用することで、地域住民と児童生徒の交流が生まれている。
- ②放課後子ども教室…小学校施設で定期的実施。夏休みには2小学校合同の「夏休み子ども教室」を約2週間実施。老人クラブ、健康づくり食生活推進協議会、読み聞かせボランティア、中学生等の協力のもと、児童の多様な活動を支援。
- ③学園だよりの発行…活動趣旨、内容の啓発のため、学園だよりを定期的に発行し、地域住民に配布。
- ④夏季集会の開催…青少年健全育成のため、家庭教育や社会教育について学園内の地域の住民が考える集会を開催。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・活動に当たっては、学園内で育てたい子供像を設定し、園・学校と地域が共有。
- ・地域の各種団体や組織が従来持っている「人のつながり」を大切にすることで、協議会メンバーが増えている。活動の担い手を増やし、組織や活動を持続可能にしている。
- ・協働活動に様々な団体・組織が参画することで、人がつながり、連携に深まりが見られる。自治組織が行う子育て事業の合同実施、地域ボランティアの他事業における活動等、人と活動のネットワークが広がっている。
- ・地域ぐるみで子供を育てることの大切さや子供たちの状況を地域住民に理解してもらうため、学園だよりの発行や夏季集会の開催をとおして地域への情報発信、啓発活動に力を注いでいる。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・15年間を見通した教育を実施するための保幼小中の連携が強化された。この強化により、園・小学校・中学校合同防災訓練の実施が可能になった。訓練の定期的な実施により、連携が一層深まっている。また、子供たちが積極的に参加することで、地域の一員としての意識が芽生えた。
- ・自治会単独で実施していた子供向けの事業(芋掘り体験、しめ縄作り体験)が、協議会での情報交換により、小学校区単位、中学校区単位での開催に発展。自治会や学校区の枠組みにとらわれない連携・協働体制が構築され、幅広く地域の活力を取り込めるようになった。

## ● その他

・当地区は海岸線に近いことから、防災についても関心が高く、日頃から地域と小学校・中学校が合同で防災訓練を実施しており、いざという時には、児童生徒が地域の一員として活躍することが期待される。



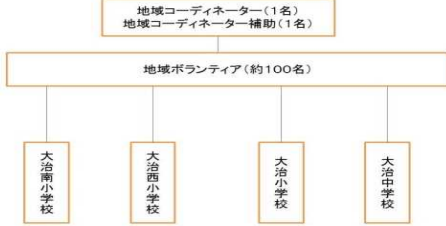
夏季集会の様子  
園・学校の報告や家庭教育に関する講演等を実施



茶会時間の香りでリラックス

こんな活動です

# 「地域の力を子どもたちへ」 ～自らできることを、できる時に、できるところから～

愛知県大治町		●活動名 大治町学校支援地域本部				●関係する学校名 大治町立大治中学校 大治町立大治小学校 大治町立大治南小学校 大治町立大治西小学校				
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	88 学級	のべ児童・生徒数	3079 人	●体制図 		
活動区分	学校支援活動	—		—		—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		135人			
参考URL	<a href="mailto:haru-vol@town.oharu.lg.jp">haru-vol@town.oharu.lg.jp</a>									
●連絡先		大治町教育委員会 社会教育課				☎ 052-443-2671				

●活動の概要・経緯  
それぞれの学校で実施されていた支援活動を組織的なものとし、より効果的な学校支援活動とするため、平成26年4月に学校支援地域本部を設置した。ボランティア募集をしたところ、H17年度より実施しているONBの会による登下校の見守り活動が定着していたこともあり、当初より多くの方に参加していただいた。今では、「家庭・学校・地域が一体となった子育て」を合言葉に様々な支援活動を展開している。コーディネーターが学校と地域をつなぎ、小学校での家庭科や書写などの実習授業補助、中学校での救急救命学習などの講師や授業後の補充学習および地域未来塾として、毎月2回の学習支援など子どもたちの学力向上に向け支援活動を行っている。また、近年増加しつつある外国人の子どもたちの日本語指導補助でもボランティアの存在は大きい。昨年からは、栽培活動支援もJAの協力もあり始まっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①子供個々に寄り添う支援
  - ・小学校での家庭科や書写などの実習授業での子供個々への支援
  - ・校外学習の引率補助など子供個々の安全面に対する支援
  - ・中学校での補充学習(1・2年対象の数学)や月2回の学習会(中学3年対象)による学習支援
  - ・外国の子供たちへの日本語指導支援
- ②学校行事での支援
  - ・運動会・学習発表会の駐輪場整理
  - ・PTA総会や学級懇談会の子供預かり
  - ・中学校の保健指導での救急救命学習での実習指導
  - ・総合学習での茶の湯体験学習での指導

### 【実施に当たっての工夫】

- ①学校ごとでなく、公民館に学校支援地域本部を置くことで、町全体から多種多様な人材が確保でき、多様な支援活動を展開できている。
- ②教育OBをコーディネーター、地域住民をコーディネーター補助にすることで、学校と地域の連携がより緊密となっている。
- ③教育委員会の協力のもと、コーディネーターが活動しやすい環境(電話・メール配信・FAXなどの連絡手段)が整備され、学校の多様な要請に応えることができている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・子供と共に活動することがボランティアの喜びであり、やりがいになっている。
- ・学校での支援活動を通じて、学校への理解が深まり、学校も地域に開かれてきた。
- ・子供は地域の人と活動をする中で、色々な人とコミュニケーションを持つ機会が増え、地域への愛着が育まれつつある。
- ・学校を起点とし、地域の人たちの繋がりができ、地域の子供たちのために学校支援地域本部以外の団体や企業とも協力して何ができるか考える機運が芽生えつつある。

## ●その他

- ・地域ボランティアによる授業補助や地域団体による講習の実施。



方い地、域ボランティニアを指導してらら使の仕



習の中学校の協力を活用して、救急救命講習を実施している。

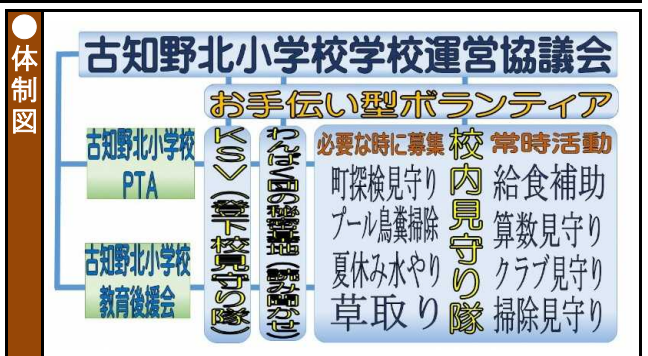
こんな活動です

# お手伝い型ボランティア ～空いた時間に・無理なく・楽しく・参加しやすい～

愛知県江南市	●活動名 古北小コミュニティ・スクール	●関係する学校名 江南市立古知野北小学校
--------	------------------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	17 学級	のべ児童・生徒数	475 人
活動区分	学校支援活動					地域人材育成	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数				配置人数	11人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			無
参考URL	http://www.city-konan.ed.jp/kochinokita-e						

●連絡先	江南市立古知野北小学校	☎ 0587-56-2274
------	-------------	----------------



●活動の概要・経緯

学校がより元気になって、地域がさらに元気になるよう、保護者だけでなく、地域住民の教育活動への参画と連携の強化を目指す。平成28年度から、学校運営協議会推進委員会を設置し、2年間の準備期間を設け、平成30年度より学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールの指定を受けた。お手伝い型ボランティア(空いた時間に・無理なく・楽しく・参加しやすい)をコミュニティ・スクールだより「かがやけ!こきた」で、古北小ヘルプとして児童と地域に配付し、募集している。また、ホームページやメール等も活用し、啓発・広報活動を行っている。

将来的には、地域の方には、生涯学習の活動の場や学びの機会として、子どもたちと一緒に取り組む学習や活動を行っていきたいと考えている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①お手伝い型ボランティアによる、学校の支援活動を行っている。
- ②今までにあったボランティアを学校運営協議会がつかないで活動の活性化を図っている。
- ③学校運営協議会による、コミュニティスクールだよりの発行や、コミュニティ・スクールPR動画の作成を行っている。
- ④ボランティアを招いて、給食試食会や感謝の会を開催したり、各種学校行事に案内状を送付して学校との繋がりを深めている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①コーディネート機能:学校のニーズを先生方からアンケートによってヒアリングしている。また、校区の区長に協力していただき、コミュニティ・スクールだよりを、必要に応じて全戸配布または全戸回覧によりボランティアへの参加を呼びかけている。実施プログラムを、PCDAサイクルによって、より実効性のあるものになっている。
- ②多様な活動:教育活動に対する家庭や地域のニーズが多様化しており、それに対応することは学校だけでは難しい現状がある。例えば、牛乳がアレルギーの重度の食物アレルギーのある児童への対応は、担任が給食の時間に該当児童への対応で手いっぱいの状態となる。そこで、給食の時間ボランティアに入ってもらうことで、安心安全でスムーズな給食活動となっている。
- ③継続的な活動:KSVやわんぱく団の秘密基地など、古くからボランティアで活動している方に、校内見守り隊のメール登録を促し、メールで各種ボランティアの募集をすることで、多くのボランティアの参加が得られている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の方が、学校に気軽に来ていただける環境が整いつつあると感じている。毎日何かの活動に参加していただいている方や、週に一度参加していただいている方など、ボランティアの皆さんが、自分のライフスタイルに合わせた参加の仕方のできるのが参加者の増加に繋がっている。学校に来ていただく回数が増えるほど学校教育の諸活動にたいする関心が高まり、多くの支援に関わっていただいている。子ども達と一緒にいることで、子ども達からエネルギーをもらっていると言う声もいただいている。児童からは、算数の授業支援ボランティアのおかげで、初めて授業中に全部の問題を解くことができ嬉しいう声もあった。複数のボランティアに継続的に参加していただく事で、児童や教職員との信頼関係が深まっている。

## ● その他

最近の登下校中に起こる事件や事故の報道により、保護者の登下校に対する関心は高い。しかし、KSV(登下校の見守り隊)の方の高齢化が進む一方で、新たな加入者が不足している現状がある。活動の様子を発信するなどしてPRしていきたい。



し隊を  
てを授  
業足  
のさ  
支せ  
援、  
を算  
して、  
いる  
と3  
と見  
守り  
。と



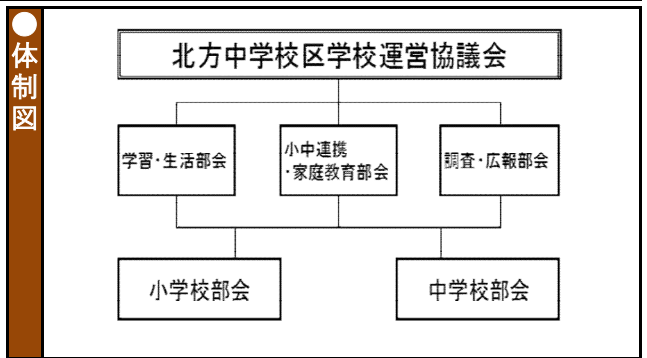
登トK  
下校S  
にラV  
にン  
付テ  
きイ  
添北  
っア  
はス  
、ク  
いー  
ル  
、サ  
。支  
童ポ  
のー

# 地域とともに生き、活躍する子の育成

—自分を愛する子・人を愛する子・地域を愛する子—

愛知県一宮市	●活動名	●関係する学校名
	北方中学校区学校運営協議会	一宮市立北方中学校 一宮市立北方小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	24 学級	のべ児童・生徒数	751 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		25人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成21年3月14日設置		50人	無			
参考URL	<a href="http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/kitaga-j">http://www.school.city.ichinomiya.aichi.jp/kitaga-j</a>						



●連絡先	一宮市立北方中学校	☎0586-28-8758
------	-----------	---------------

●活動の概要・経緯

平成18年一宮市立小中学校における学校運営協議会の設置等に関する規則により、北方小学校で平成20年北方中学校で平成21年より運営協議会を設置した。その後、北方中学校区学校運営協議会として活動する運びとなった。地域の住民及び保護者が学校運営へ参画することにより、学校と地域の住民及び保護者との相互の信頼関係を深め、子供たちの健全な育ちをめざすことを目的としている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①年5回の運営協議会開催。
- ②学校運営協議会だより「未来通信」を年3回発行。
- ③「おやじの会」「パパママボランティア」による環境整備、行事の準備等の学校支援活動。
- ④学校評価アンケートによる年間の活動の振り返り。
- ⑤運営協議会のメンバーに加え、地域の方による登下校時の見守り。
- ⑥地域行事へ生徒をボランティアとして参加させることによる、地域ぐるみでの人材育成。

### 【実施に当たっての工夫】

年5回の運営委員会は①全体会②専門部会（「学習生活部会」「小中連携・家庭教育部会」「調査・広報部会」）③「小学校部会」「中学校部会」と3過程に分け、開催している。一小一中の利点を活用し、地域の中の学校としてそれぞれの立場で意見交換することができている。協議会での検討事項、学校の様子、学校評価アンケートの結果などを年3回の運営協議会だよりとして発行し、町内全家庭に配布している。運営協議会のメンバーは地域の公職者であり、協議会委員を中心として、地域が一体となっている。登下校指導の見守りでは、協議会委員に加え、地域のいたるところでの見守りが行われている。また「おやじの会」「パパママボランティア」による環境整備や行事の準備等にも協議会委員は参加し、地域ぐるみでの活動となっている。地域行事には生徒がボランティアとして参加をし、地域の方々によって成長を見守られている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の公職者を中心とし、「北方の子は北方で育てる」という考え方が、地域全体に浸透している。地域の方も学校の実情を知ってくださり、登下校時に子供たちへの声かけをしてくださったり、学校への助言もしてくださっている。子供たち、その親世代、そのまた親世代と何代にもわたる関係が繋がっており、地域コミュニティーの強さがある。おかげで、子供たちは安心して生活でき、落ち着いた学校生活、家庭生活を過ごしている。

## ● その他

学校運営協議会のメンバーによる授業参観等も行い、学校生活の様子を生で知ってもらおうようにしている。



登下校時  
地域住民  
による  
見守り



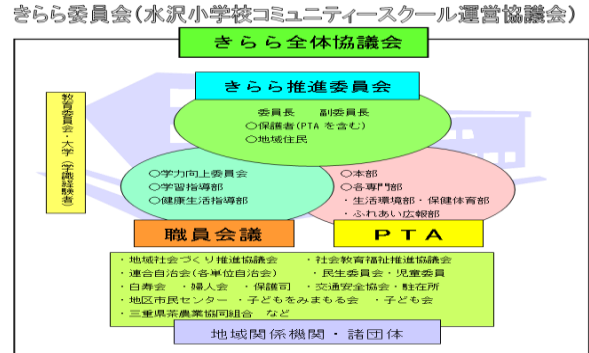
学校運営協議会  
全体会

こんな活動です

# 水沢と共に育つ子どもの育成 ～「水沢を学ぶ」「水沢に学ぶ」「水沢と学ぶ」～

三重県四日市市		●活動名 四日市市立水沢小学校コミュニティスクール運営協議会（きらら委員会）			●関係する学校名 四日市市立水沢小学校		
協働活動開始年度	平成 22 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	7 学級	のべ児童・生徒数	167 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	8人		—		37人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	令和3年4月設置予定		—	42人	—	—	
参考URL	<a href="http://www.yokkaichi.ed.jp/~suizawa/cms2/htdocs/">http://www.yokkaichi.ed.jp/~suizawa/cms2/htdocs/</a>						
●連絡先	四日市市立水沢小学校			☎ 059-329-8000			

## 体制図



●活動の概要・経緯	○組織・運営	運営協議会 年間5回開催
	○活動概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地場産業「お茶」を中心とした、お茶摘み体験・製茶体験・お茶の入れ方体験・お茶カフェの取組。</li> <li>・運動会練習時の児童の熱中症対策と、郷土の銘品である水沢茶のアピールを兼ねたお茶出しサービス。</li> <li>・きらら委員会と学校、地域の団体等との連携による防災訓練の取組。</li> <li>・水沢地区文化祭等、地域の特性や文化、人材を活かした活動の取組。</li> </ul>

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○「水沢を学ぶ」「水沢に学ぶ」「水沢と学ぶ」をキーワードに、水沢地域の自然、文化、歴史、産業等の学習の充実を図っている。

- ・3, 4, 6年生児童のお茶摘み体験や、学校茶園で収穫したお茶で6年生が「お茶カフェ」を開いている。6年生は、日本茶インストラクターからお茶の入れ方などを伝授してもらい、体験活動で学んだことを活かす取組となっている。また、運動会の熱中症対策として、地元茶農協に提供いただいた水出し茶のサービスを「きららボランティア」が実施。
- ・地区連合防災会、きらら委員会を中心に、体育館に設置した障害物を越えながら、けが人を救助する体験的な防災訓練を実施。
- ・きらら委員会がコーディネートしたゲストティーチャーを学校へ招き、地域の特産(お茶)や文化、人材を生かした学習活動等を実施。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・お茶づくりが盛んな水沢地区の地場産業の振興は、地域の人々の大きな願いであるため、児童が興味を持ちやすいよう、体験活動を中心におき、学びを深めるようにしている。
- ・災害時に、地域ぐるみで防災活動や救助活動を行えるよう、きらら委員会・地区連合防災会・学校との合同訓練としている。
- ・水沢地区社協との共同開催で、水沢地区文化祭を本校で開催することにより、地域と学校教育との融合を図り、地域の様々な人材をゲストティーチャーとしてお招きし、地域の特性と人材を生かした活動を学年ごとに行っている。(あられ作り・花いっぱい活動のプランター製作・わらを使った飾り物製作・お茶カフェ)
- ・地域の人材支援によって、5, 6年生が、地域の伝統文化であるお諏訪踊り(笛・謡い・太鼓踊り)の発表を行ったり、スポーツ推進委員による3, 4年生のポッチャ体験を行ったりすることで、地区内の幅広い世代の親交を促進することにつなげている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・きらら委員会では、8名の委員を中心として、学校運営に積極的に参加をし、多くの行事を実施することができた。特に、自然が豊富な水沢地区で作られたお茶等を活用した体験活動を行うことで、児童が「郷土・水沢」に親しみや誇りを持ち、「水沢の人・文化・産業・自然」を大切にできるようになった。
- ・地域ぐるみで食育推進や生活リズム向上をめざし、全員協議会の場で給食試食会を開催した。また、「みえの学力向上県民運動」の一環として、本校独自の生活実態調査を年3回実施し、保護者・地域ぐるみで子どもの生活習慣の向上を図ることができた。
- ・学校も元気、地域も元気となるような「WIN・WIN」の関係を構築している。

## ● その他

地元茶農業協同組合と連携し、学校茶園で茶摘み体験を行っている。また、そのお茶を、6年生が地区文化祭で地域の人々にふるまうため、ゲストティーチャーによるお茶の入れ方の学習や、パソコン室でお茶やお茶の入れ方についての調べ学習等を行っている。



地場産業である茶摘み体験



地区連合防災会の御指導による体験的な防災訓練

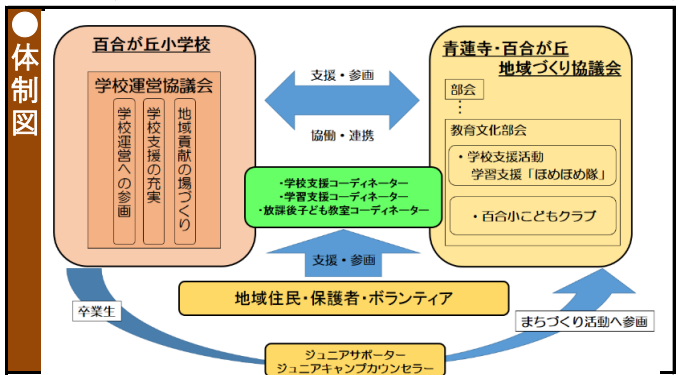


# 地域学校協働活動の継続が、地域を支える若者を生む

三重県名張市	●活動名	●関係する学校名
	青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会教育・文化部会	名張市立百合が丘小学校

協働活動開始年度	平成 22 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	19 学級	のべ児童・生徒数	433 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		4人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成30年4月1日設置		150人				
参考URL	<a href="http://www.emachi-nabari.jp/svourenji-yurigaoka/">http://www.emachi-nabari.jp/svourenji-yurigaoka/</a>						

●連絡先	名張市教育委員会 文化生涯学習室	☎ 0595-63-7892
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯  
 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会の教育文化部会に平成20年度から百合小こどもクラブ(放課後子ども教室)を、平成22年度からは百合が丘小学校学習支援「ほめほめ隊」を位置付けて、多くの地域ボランティアによる子どもの居場所づくりや、学校支援活動に地域ぐるみで取り組んでいる。学校支援活動においては、三位一体会議(学校・保護者・地域)を定期的開催し、課題の共有や解決に向けそれぞれの立場から取り組んできた。このような活動を発展させ、平成30年度からは学校運営協議会を立ち上げ、名張版コミュニティ・スクールの3本柱である「学校運営への参画」・「学校支援の充実」・「地域貢献の場づくり」に取り組み、充実した地域学校協働活動を行っている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学校支援活動:学習支援「ほめほめ隊」をはじめとするボランティアが、教科学習・水泳授業・体験学習・クラブ活動など学校のニーズに沿った支援活動に取り組んでいる。
- ②放課後子ども教室「百合小こどもクラブ」:子どもたちへ体験活動を通した学びを提供し、また、市民センターが子どもたちの居場所となるように取り組んでいる。活動プログラムには、百合が丘地域を探索する「オリエンタリング」をはじめ、市民センターでのキャンプや小学校の長い廊下を利用した「長い巻きずし作り」など様々なテーマが考えられており、地域と学校が協働して子どもたちを育てるという意識を持って取り組んでいる。

### 【実施に当たっての工夫】

- 実施にあたっては、地域づくり組織内の部会活動に学校支援活動や放課後子ども教室を位置付けて取り組んできたため、窓口が一本化され、多様な活動が円滑に行われている。
- 学校支援活動では、地域コーディネーターを位置付け、学校からの要請を受け、登録されたボランティアへ照会、取りまとめを行っており、円滑に支援活動が行われる組織が構築されている。
- 放課後子ども教室は、市民センターを拠点として地域コーディネーターや地域ボランティアの参画のもと実施している。子どもの参加については、登録制をとることによって、年間を通して多くの子どもたちが参加するよう工夫がなされている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

小学生の頃、放課後子ども教室に参加したり、学習支援や地域住民による見守りを受けて育った子どもたちが、中学・高校へ進学後に、「ジュニアサポーター」として放課後子ども教室の運営をサポートしている。このジュニアサポーターは、放課後子ども教室以外にも地域活動や地域イベントの企画・運営に携わるなどまちづくり活動にも参加し地域貢献を行っている。サポーターの中で、希望者に対して体験型の研修を実施し、野外活動や地域活動に関する知識をさらに深め、「ジュニアキャンプカウンセラー」として、より一層地域貢献ができる体制づくりを推進している。こうした取り組みの成果として、まちづくり活動に参加し関わりを持つ若い世代が増えており、将来の地域づくり活動者として期待されている。

## ● その他

2017年の千葉県での事件をきっかけに、8時、3時の児童の登下校時の見守りを地域住民すべてが意識し行動しようと、「8・3運動」に地域全体で取り組んでいる。住民への啓発と推進のノボリを校区内に立て、地域イベントや集会、地域広報紙でも継続的に説明し地道な定着活動を実施中。



とき百  
と地合  
ず小  
サ小  
ポこ  
ーども  
タークラブ  
「参  
加  
長  
い  
巻  
き  
ず  
し  
作  
り」



宿百  
する合  
一ジ小  
ンキヤ  
ニンこ  
アプども  
キフク  
ャイラ  
ンブ夏  
プア休  
カをみ  
ウ指  
ン導

こんな活動です

# ふるさとの命とふれあう「葉山川学習」 -人與人、人と自然とのつながりを学ぶ-

滋賀県草津市	●活動名	●関係する学校名
	笠縫東学区地域協働合校推進協議会	草津市立笠縫東小学校

協働活動開始年度	平成10年度	関係学校数	1校	のべ学級数	23学級	のべ児童・生徒数	578人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	-				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	-			1人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成29年4月1日設置		432人				
参考URL	<a href="http://www.kasanuihigashi-p.skc.ed.jp/">http://www.kasanuihigashi-p.skc.ed.jp/</a>						

●連絡先 草津市教育委員会事務局 生涯学習課 ☎077-561-2427



●活動の概要・経緯

平成17年度より、地域の自然とふれあう体験を重視した「環境学習」を、1年生から6年生までの全学年で行ってきた。学校の横を流れる「葉山川」を基点としての学習であることから「葉山川学習」と名付け児童や保護者に定着している。開始当初より地域の市民団体「草津塾」のメンバーと連携することにより体験活動の充実を図ってきたが、近年では、「川原まちづくりの会」からの協力も得て、ますます充実・発展しているところである。

また、各学年・学級の「葉山川学習」の成果は、学区の「地域ふれあい東まつり」における「ふるさと葉山川博物館」という学習発表の場で地域住民や保護者にむけて発信し、ともに地域の環境問題などについて考える場になっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「葉山川学習」：地域の自然や事象を学習の題材とし、地域の人材の協力とサポートにより、学習がさらに充実・発展している。
- ②「地域ふれあい東まつり」：「ふるさと葉山川博物館」の開設で「葉山川学習」の成果について地域住民と子どもたちが交流。
- ③「東っ子旬会」：学級代表の俳句の全学年分を展示し、全校児童・全職員・保護者・地域住民などが投票して優秀句を決める。
- ④「下校パトロール」：PTAやまちづくりの各種団体による子どもたちの下校見守りパトロール。
- ⑤「米作り体験」：地域の人々とともに田植えから、稲刈り、収穫感謝集会までを行う。

### 【実施に当たっての工夫】

「葉山川学習」の充実とスムーズな推進を図るために、「地域協働合校推進協議会」会長と地域の学習ボランティア（「草津塾」「川原まちづくりの会」）や保護者代表、市の環境課担当、地域コーディネーター、学校の管理職をはじめとする関係職員が、年に2回程度の会議をもち意見を交わし合っている。それぞれの学年の学習を行う前には、それに関わる地域の学習ボランティアと学校側とで打合せを行っている。地域担当教員や地域コーディネーターは、各活動の準備をしたり活動に同行したりしながら、学習ボランティアと学校とのスムーズな連携に努めている。

また、「ふるさと葉山川博物館」での学習発表の感想を地域の人たちに書いてもらい、誉めてもらうことで子どもたちの自尊感情向上につながっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の葉山川を基点とした地域の自然や生きものを学習素材としているので、子どもたちが地域の自然に愛着を感じ、「ふるさと」を大切に思う気持ちが育つ。また、活動の中で学習ボランティア（「草津塾」「川原まちづくりの会」など）とふれあい、地域の人たちのすこさや優しさを感じ、大人への憧れをもつ。地域の学習ボランティアからは、子どもたちの学びを支えるために、下調べをしたり学んだりすることで生き甲斐ができたという話を聞く。さらに、葉山川学習を通して顔見知りになり、地域で出会ったときも声を掛け合う関係になった子どもがおり、元気をもらうとのこと。子どもの通学路や地域での安心・安全にもつながる効果である。

## ●その他

○米作り体験・・・地域の方に、もみを発芽させて苗を育てる工程から体験活動が始まる。時間や手間はかかるが環境を考えた米作りへのこだわりを知ることで、苦労や工夫を理解し、環境問題への関心を高める活動となっている。



「まちづくり朝のあいさつ運動」による「朝のあいさつ運動」の各種団体



「葉山川学習」により、安心・安全な生活を支えるための調査

京都府舞鶴市		●活動名 青葉中学校地域支援協議会				●関係する学校名 舞鶴市立青葉中学校	
協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	19 学級	のべ児童・生徒数	530 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			●体制図 
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		6人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成30年7月1日設置						
参考URL	<a href="http://aoba.maizuru.ed.jp">http://aoba.maizuru.ed.jp</a>						
●連絡先		舞鶴市教育委員会 学校教育課		☎ 0773-66-1031			

●活動の概要・経緯

平成24年に青葉中学校地域支援協議会として発足し、地域の自治会各組織、団体と連携しながら学校と地域の行事を協働して進めている。毎年、民生児童委員連絡協議会を中心に地域の方々にも呼びかけて会員を募集し、年2回の総会を開催して活動内容の確認や総括を踏まえた次年度の計画づくりを行い、日常的・継続的な活動を展開している。

地域による様々な学校支援活動が行われるだけでなく、生徒も、部活動や委員会活動の一環として、あるいはボランティアとして地域の諸活動に参加するなど、郷土愛をはぐくむとともに、将来地域に根差していく人材として地域の活性化にも貢献しており、地域と学校が双方向の関係構築して地域に根差す子どもを育てる取組となっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

青葉中学校地域支援協議会を中心に、地域の諸団体や民生児童委員連絡協議会などと連携し、子どもと地域のつながりを深め、ふるさとを愛する心をはぐくむことを目的に、「できるときにできることを」を合言葉に、次のような取組を展開している。

- ①年間を通して週2回実施する挨拶運動、学校行事への参加、園芸活動、教育環境整備活動、食育や平和学習の講話等の学習支援など、様々な教育活動支援。
- ②「つつじ祭り」への清掃ボランティアやイメージパネル製作と展示、与保呂川クリーン活動、東舞鶴公園桜再生事業、ふれあいサンデー、敬老会行事での合唱披露、高齢者へ届けるクリスマスカードづくり等。
- ③地域団体組織の旗の制作依頼を受け、美術部の生徒が原画作り。（令和元年度）
- ④学校内に「地域支援ルーム」を開設し、昼間は地域に開放。地域の絆づくりの場として地域の会議等に活用する他、「認知症講座」「PC講座」に集われた高齢者の方と生徒が交流する機会を設定。

### 【実施に当たっての工夫】

学校にも地域にとってもウィンウィンの関係になることを念頭に、お互いが無理のないように計画することを心がけている。その調整役になるのが地域支援協議会の総括的な推進役である会長となっており、学校と綿密な連携を行っている。

地域支援協議会のメンバーは地域の各団体組織の中でも活動しているため、協議会の総会などで発信した情報を各団体組織でも共有でき、学校の状況や生徒の実態を十分把握したうえで連携し、学校にとっても無理のない活動になっている。

生徒会本部を中心に地域支援協議会や各地域の団体の代表の方々との懇談会を設定し、地域の方の中学生に対する思いやふるさとへの思いを聞くことで、生徒が活動の意義や目的を自分ごととして捉え、提案や取組が出来るようにしている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の方々が学校教育を支援したり、地域の行事や活動に生徒が参加したりすることで、地域の方々が生徒の頑張る姿を間近で見ることができるようになり、学校と地域の距離感が近くなってきた。これにより、地域の方々の学校への関心も高まり、見守りや励ましの声を届けることにつながっている。また、生徒においては、地域の活動に参加することが恒例になり、地域との関わりを意識したり体験したりすることで、ふるさとへの愛着心や将来地域に根ざした活動を大切にしようとする心が芽生えている。

常に見守られ、支援してもらっていると実感することで生徒の自己肯定感がはぐくまれ、学校全体の安定にもつながっている。この意識の高まりが「もっと地域に貢献したい。」という意欲となり、例えば近隣の幼稚園児との合同避難訓練の実施などへと発展している。

## ●その他

年間を通して週2回実施している地域支援協議会の挨拶運動に加え、平成30年度から舞鶴警察署等とも連携した「青葉隊」が組織され、校区の4小学校と合同で学期1回の「一斉挨拶運動」を展開している。



春に美しい秋にすく、るり地会組むの「学清与校掃保が活呂一動川緒



けセ通勤「挨拶運動」の地域の方々へ呼びかけ

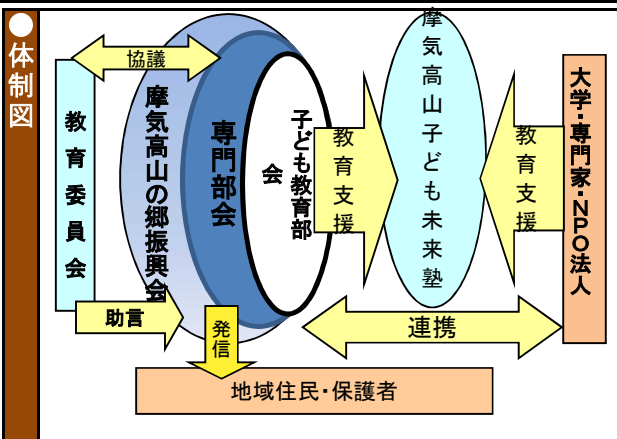


こんな活動です

# 摩気高山子ども未来塾 ～ほんものにふれる楽しい学び～

京都府南丹市	●活動名 摩気高山子ども未来塾	●関係する学校名 南丹市立園部小学校 南丹市立園部第二小学校
--------	--------------------	-----------------------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	35 学級	のべ児童・生徒数	815 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		—	
	—	—		1人		—	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	—	
	平成29年4月1日設置	—	—	—	—	—	
参考URL	<a href="http://make-takayama.com/">http://make-takayama.com/</a>						



●連絡先	特定非営利活動法人 摩気高山の郷振興会 京都府南丹市園部町穴人市場111	☎ 0771-62-2275
------	---	----------------

●活動の概要・経緯

- ・南丹市立小学校再編整備計画に基づき、再編統合され閉校することになった南丹市立旧摩気小学校の利活用を通じた地域振興を図るために、平成27年度にNPO法人「摩気高山の郷振興会」が設立される。
- ・旧摩気小学校を地域全体の学びの場にしたいとの思いから、園部地域の小学校の児童を対象に、平成27年度から南丹市教育委員会と連携しながら「摩気高山子ども未来塾」を実施
- ・5年目となる今年度は、国語・算数・理科・英語・音楽の学習や体験活動などを中心に、年44回のプログラムが組まれている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 「漢字学習」…希望者には漢字検定試験に向けた学習プログラムを実施
- 「ゲストティーチャーの指導による理科学習」…大学やNPO法人と連携し、実験などを実施
- 「ゲストティーチャーによる体験学習」…料理の先生を招いた「古代マコモ料理実習」や「和食お作法体験」を実施
- 「校外学習」…京都市青少年科学センターや京都鉄道博物館の見学や製菓工場での菓子実習を実施
- 「外国人留学生との交流」…外国人留学生を招き、児童が太鼓のたたき方を教えたり、こんぺいとうづくり体験を一緒にしたりした。

### 【実施に当たっての工夫】

- 毎年1回目に「開塾式」を実施し、参加児童にきまりや年間計画について説明するとともに、保護者説明会を実施し、スムーズな運営ができるようにしている。
- 大学や調理師学校、NPO法人等からゲストティーチャーを招き、専門的な立場からの指導による体験学習を実施している。
- 元教員が教育活動サポーターとなっており、教員の体験を活かして京都市内で校外学習を実施するなどしている。
- 取組の様子を地元のケーブルテレビを通じて知らせたり、フェイスブックなどを通じて積極的に発信をしている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 子どもの居場所づくりとなるだけでなく、ゲストティーチャー等による専門的な指導による体験学習などを通じて、子どもの学習意欲が高まっている。
- 地域住民の協力を得ながら、閉校となった学校を利活用することにより、地域の活性化につながっている。

## ●その他

子ども未来塾の課外授業として、英語に慣れることを目的としたKid's Englishを 毎週金曜日で年間33回を開催している。



和菓子づくり実習  
「校外学習」



「和食お作法体験」

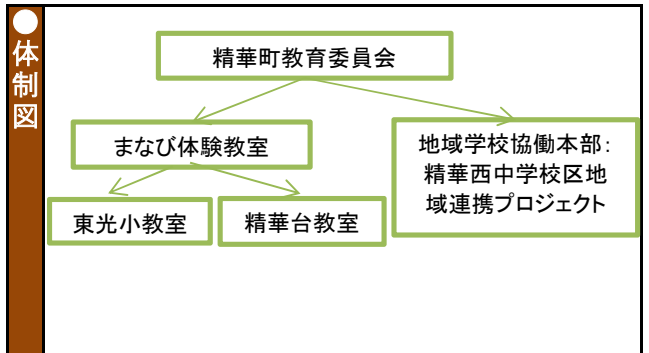
こんな活動です

# 地域と学校が協働して創る、子どもたちを心豊かで健やかに育てる環境づくり

京都府精華町	●活動名	●関係する学校名
	精華西中学校区地域連携プロジェクト	精華町立精華西中学校 精華町立東光小学校 精華町立精華台小学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	53 学級	のべ児童・生徒数	1689 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—	—		3人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	令和3年3月設置予定	—	334人	—	—		
参考URL	<a href="http://www.kyoto-be.ne.jp/seikanisi-ihs/cms/?page_id=13">http://www.kyoto-be.ne.jp/seikanisi-ihs/cms/?page_id=13</a>						

●連絡先	精華町教育委員会教育部生涯学習課	☎ 0774-95-1907
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成25年度に学校支援地域本部(現・地域学校協働本部)を立ち上げ、地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を行っている。精華まなび体験教室については、平成20年度に精華台教室、平成23年度に東光小教室を立ち上げ、子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、文化活動やスポーツ活動などを地域の方々の協力を得て実施することにより、地域社会の中で、子どもたちを心豊かで健やかに育てる環境づくりを推進している。

- ・地域学校協働本部事業一部活動支援、花壇整備、除草活動、校内清掃、図書室整備、登下校見守り活動、漢検・数検指導
- ・精華まなび体験教室—文化活動、スポーツ活動、体験活動、世代間交流

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・部活動支援・学校環境整備・図書環境整備・読み聞かせ(小・中学校)等様々な活動
- ・登下校の見守り活動等による児童生徒の安全確保
- ・漢字検定・算数検定受験に向けた学習会を実施し、放課後の家庭学習習慣の定着や学ぶことに興味や関心を持たせ、学習の見通しを持ち、粘り強く取り組む意欲や子ども同士で協働し学習する態度の育成
- ・自然観察や多文化交流、音楽体験などの精華まなび体験教室の実施
- ・精華中学校コミュニティスクールのシニアスクール活動場所として、精華西中学校を活用した事業実施

### 【実施に当たっての工夫】

- ・コーディネーターが学校の意向をくみ取り、教職員の負担軽減となるよう考えている。
- ・地域の方の居場所にもなるように、また気軽に参加いただけるように、声掛けや意見を聞き取る工夫をしている。
- ・ボランティアが固定し新たな登録者が確保できず苦慮していた。ホームページへの掲載や毎年3月に実施しているボランティア会議の中で呼びかけたところ今年度新たな登録者が増えたことはその後の活動にも役立った。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域の方が、自分たちの学校だという意識を持ち、子どもたちとの交流が生まれている。
- ・ボランティアと児童・生徒が顔が見える関係を築くことで、安心・安全の確保につながっている。
- ・まなびボランティアからは子どもの想像力に驚かされ、一緒にふれ合い活動することを通して「子どもから元気もらっている」との喜びの声が多く聞かれる。

## ● その他

地域住民等の連携・協働により、学校の環境整備や見守り活動を通した安心・安全の確保、子どもたちのための体験活動機会の充実など、具体的な活動が進んできている。



花壇の植え替え(環境整備)



精華まなび体験教室(自然体)

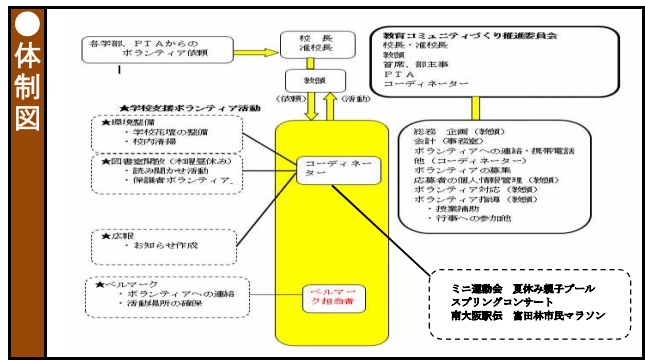


# 子どもたちもボランティアもみんなが笑顔になる活動！

大阪府富田林市	●活動名 甘南備広場	●関係する学校名 大阪府立富田林支援学校
---------	---------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	52 学級	のべ児童・生徒数	336 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		2人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成30年4月1日設置		—	60人	—	—	
参考URL	<a href="https://www2.osaka-c.ed.jp/tondabayashi-v/">https://www2.osaka-c.ed.jp/tondabayashi-v/</a>						

●連絡先	大阪府立富田林支援学校	☎ 0721-34-1675
------	-------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成20年度より、大阪府の学校支援地域本部事業としてスタート。学校支援コーディネーター等が中心となる教育コミュニティづくり推進委員会が推進組織となり、「できる人が できることを できる時に！」をモットーに、学校と地域、関係機関等をつないで、学校支援活動や放課後子ども教室、地域防災活動等を展開している。知的障がいのある児童生徒の学校教育活動への支援や安全で安心な放課後・休日活動の充実、交流機会の充実等の観点から、学校教職員や障がいのある子どもを持つ保護者、地域人材、関係機関等が一体となった活動を継続している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校支援活動…毎週木曜日昼休みに行う図書室開放では、読書ボランティア等による大型絵本の読み聞かせやペープサート、ヘルマンハープ演奏会等を実施し、毎回10～15人の児童生徒が来室している。
- 放課後等の居場所づくり…安全で安心な休日活動として10月末土曜日の「ミニ運動会」(約250名が参加)、1月末土曜日の「スプリングコンサート」(約100名が参加)等を実施しており、地域の方、保護者や卒業生も多数参加している。
- 防犯防災活動…体育館が富田林市の指定避難所であることがきっかけとなり、校区内の市町村と連携し、地域の方も関わる防犯防災活動へと拡充させている。

### 【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会では、コーディネーターが中心となり、活動の目的を地域・家庭・学校が共有し、計画、実行、報告までを組織的にを行っている。コーディネーターの活動拠点として図書室を位置づけ、パソコンと椅子、机を整備し、ボランティアと教職員が集まって打合せや作業ができるようにすることで、コーディネーター機能を高く発揮している。また、拠点となる図書室には、地域の方、保護者、コーディネーターが集い、多様な活動を生み出している。防犯防災体制づくりでは、学校、市町村(教育委員会、危機管理部局等)と連携・協働し、地域の子どもの見守り活動や青パト活動と連携し、子どもの安全と保護者の安心を生み出している。活動の継続にはコーディネーター育成が必要であることを関係者全員が認識し、後継者育成のためコーディネーターを複数配置している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

一般的に支援学校は通学区域が広く、地域との連携・協働は難しい面がある。しかし、富田林支援学校では、推進委員会が中心となり、平成 20 年よりはじまった図書室開放、昨年25回目を迎えたミニ運動会をはじめ多くの活動を継続させ、障がいのある子どもたちや、その保護者の方々のつながりづくり、学校と地域とのつながりづくりに貢献している。地域の方々が学校に関わることで、児童・生徒の障がい理解、子ども理解につながり、さらに、学校理解につながり、学校の応援団となっている。これらの取組みから生まれた人とのつながりが、障がいのある子どもを持つ保護者相互の子育て相談や支援、地域の方々の生きがいづくりに発展している。児童・生徒にとっては、多様な活動を通して、様々な大人と関わることで社会性が育まれ、よりよい成長につながっている。

## ● その他

学校を核にして、児童・生徒、卒業生、保護者、地域の方々の居場所づくりとなる活動を実施している。教職員が「地域と協働する」意識を持ち、児童・生徒のため、地域のために、主体的に行事等に参加している。



ミニ運動会「変身リレー」

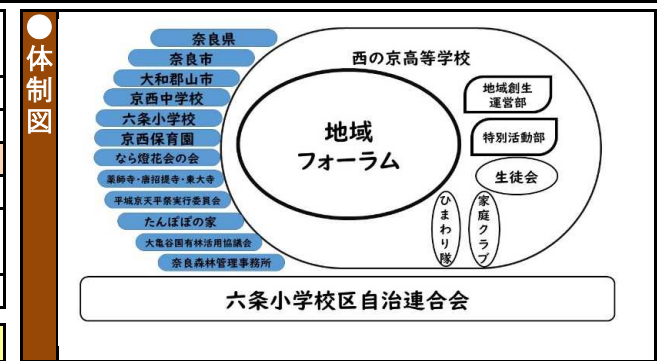


ヘルマンハープ演奏会

奈良県奈良市	●活動名	●関係する学校名
	地域フォーラム ～高校生からの提言～	奈良県立西の京高等学校

協働活動開始年度	平成 16 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	24 学級	のべ児童・生徒数	950 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		—				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	令和4年4月1日 設置予定		0人				
参考URL	<a href="http://www.e-net.nara.jp/hs/nishinokyo/">http://www.e-net.nara.jp/hs/nishinokyo/</a>						

●連絡先	奈良県立西の京高等学校	☎ 0742-46-7501
------	-------------	----------------



●活動の概要・経緯

地元六条小学校区自治連合会や六条小学校、京西中学校、障害者福祉施設「たんぼぼの家」、奈良森林管理事務所、NPO法人なら燈花会の会、奈良市、奈良県などと連携しながら、地域や諸行事の課題を発見し、その課題を様々な角度から検証して解決策を模索する活動を「課題研究」として教育課程の中で取り組んでいる。その集大成として、「地域フォーラム」の場で「高校生からの提言」として研究成果の発表を行っている。フォーラムでは参加者を交えた質疑応答も活発に行われ、フォーラムをきっかけに自治会で始まった行事に生徒がボランティアで参加するなど、地域に根ざした学びあいのサイクルが機能している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

六条小学校区自治連合会を中心とする関係諸機関、奈良市、奈良県などと連携し、地域の課題発見と検証、解決策の模索などを課題研究として取り組み、地域フォーラムで研究成果の発表を行っている。

- ＜主な活動＞
- ①大亀谷国有林の活用と整備：奈良森林管理事務所、赤膚町自治会などとの協働。
  - ②「ひまわり隊（高齢者宅訪問・交流）」の活動：六条小学校区自治連合会の連携。
  - ③障害者との共生：「たんぼぼの家」や六条小学校区自治連合会との連携。
  - ④観光イベントの活性化：NPO法人なら燈花会の会との連携・協働。
  - ⑤地域フォーラムの開催：「課題研究」の成果発表を地域の方々の参加のもとに開催。

### 【実施に当たっての工夫】

本校の地域創生コースは、奈良の歴史・文化に学び、様々な活動や体験を通して、地域の発展に貢献し地域のよさを発信できる人材の育成を目指している。特色ある教育活動を展開しており、1年次で「奈良県の産業の現状や課題」「観光学の基礎的事項」「地域社会やコミュニティのあり方」に関する学校設定科目を履修する。この学びをベースに、2年次に課題研究として学校周辺地域を対象として、地域社会が抱えている様々な課題とその解決策をテーマに設定し、研究に取り組んでいる。この課題研究では、数年前から「活動の継続性」を重視し、地域との連携の強化を図ってきた。上記の活動は、継続的な活動により地域の理解や協力が深化している取組である。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 地元自治会やNPO法人との協働による取組を通じて、生徒が地域の活動に強い興味や関心をもつようになった。
- 継続して取り組んでいる活動も多く、自治会や関係諸機関との連携がより強固なものとなってきている。
- 研究発表の場である「地域フォーラム」には100名近くの参加者がある。その質疑応答では、地域活動に対するお礼の言葉や今後の発展的な活動へのアドバイスなどをいただき、地域の方々の本校に対する期待の大きさが実感できる。
- 地域創生コースの取組は、コース以外の生徒の意識も変えつつあり、ボランティア活動等に参加する有志生徒が増加している。こうした地域と学校との連携・協働の体制を維持し、生徒たちが地域の課題に積極的に取り組もうとする意識をさらに向上させ、引き続き地域社会の期待に応えていきたい。

## ● その他

近隣小学校との協働による朝のあいさつ運動、地域清掃活動、平城京天平祭への参画、金魚すくい選手権への参画、近隣幼稚園・保育園での絵本読み語り活動など、様々な地域との協働活動に取り組んでいる。



地域フォーラム



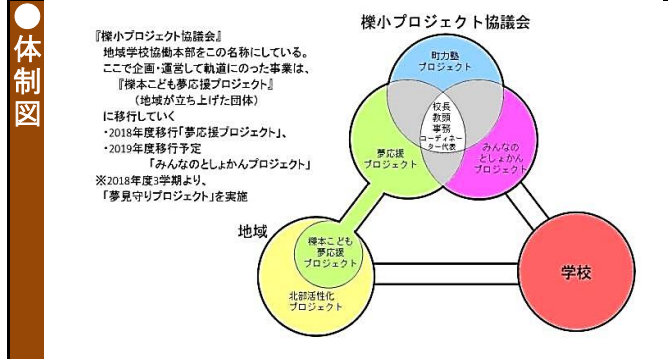
たんぼぼの家の連携した会  
校庭での出張燈花会

こんな活動です

# 4つのプロジェクト進行中！

～地域とともに、時代のニーズにこたえる学校づくりを目指します～

奈良県天理市		●活動名 櫛小プロジェクト協議会			●関係する学校名 天理市立櫛本小学校		
協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	20 学級	のべ児童・生徒数	341 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		—			
	—	放課後子供教室		—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		9人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	令和2年4月1日設置予定		—	34人	—	—	
参考URL	<a href="http://www.city.tenri.nara.jp/kakuka/kyoukuiinkai/index.html">http://www.city.tenri.nara.jp/kakuka/kyoukuiinkai/index.html</a>						
●連絡先	天理市教育委員会事務局 まなび推進課			☎0743-63-1001			



●活動の概要・経緯

本校は天理市の北部に位置し、古代豪族和爾氏のふるさととして、また、柿本人麻呂や在原業平にまつわる史跡もあり、交通の要衝地として発展した歴史ある地域である。

この地域の方々とともに組織していた地域学校協働本部だが、コミュニティ・スクールの導入を見越して、『櫛小プロジェクト協議会』と名称を変更し、地域の社会力を高めていく組織として取り組んでいる。そして、新たに校務分掌に位置づけた『学校運営協議会』にも、『櫛小プロジェクト協議会』の代表が構成員の一部として参加する。

以下は、昨年度の4つの活動である。この4つをプロジェクトチームとして組織し、地域の人たちのつながりを広げながら、さらに深化発展させていく。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①『みんなのとしょかん』(図書館開放)  
長寿会による図書室の見守り活動。地域ぐるみで子育てしていくための第一歩として、図書館(図書室)を市民に開放。
- ②『町力塾(マチカ塾)』(放課後学習塾)  
地域の次世代の担い手である全ての子どもたちに、「平等に通える塾(場所)をつくりたい。自ら進んで学ぶ姿勢を地域で育てていきたい。」という思いで始まった取組。運営は地域コーディネーターが中心となり、教材プリントは学校が用意する。
- ③『夢応援プロジェクト』  
新しい世界へとび立とうとしている子どもたちに、大きな夢を持ってもらい、その夢を叶える応援をするイベント。
- ④『夢まもりプロジェクト』  
子どもたちと一緒に登校してふれあいを深めていただけたら！毎朝学校まで歩いて元気を持続していただけたら！高齢者に思いを向ける子どもを育てていただけたら！という思いで、昨年2月から始まった新しいプロジェクト。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①『みんなのとしょかん』週2回の図書ボランティアさんの見守り以外に、月1回、櫛本幼稚園の園児と保護者を招待し、地域コーディネーターや高学年の図書委員の読み聞かせも行っている。
- ②『町力塾(マチカ塾)』櫛本公民館の自習室を利用し、放課後に開催。手づくりプリントを子どもたちが自分で選び、復習中心の学習。参加した子どもにはカードを発行し、個人ポイントを加算する。その他、地域行事への参加などでもポイントがたまる。一定のポイントをためた児童に対して夢の実現に協力する。
- ③『夢応援プロジェクト』校区区長会にもご協力いただき、昨年度は「パティシエール」「プログラマー」「自動車整備士」「カメラマン」「イラストレーター」「医療従事者・栄養士」という6つのイベントを実施。それぞれプロフェッショナルの方にご指導いただき、どのイベントも大成功であった。
- ④『夢まもりプロジェクト』登校時、高齢の方を中心に子どもたちと一緒に学校まで歩いていただき、到着後は、メンバー専用の「櫛本夢ふれあい茶屋」で歓談していただく。お茶をお出しするのは高学年のボランティアさん。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民、長寿会や区長会など地域団体、連携企業等、多くの人々がコーディネーターを中心につなぎ、様々な取組を通して子どもたちとふれあう機会が多くなった。その結果として、自然にあいさつをする児童が増え、子どもたちの成長が地域の方々の喜びや生きがいもなった。さらに、地域で子どもを見守り育てるという意識が高まり、子どもたちの成長を応援することに対して主体的に関わる人が多くなった。

また、幼稚園児が『みんなのとしょかん』に参加することで、小1プロブレムの解消にも役立った。『町力塾』では、自ら学ぶ姿勢を身につけた児童が増え、学力向上につながった。

さらに、学校を中心として地域の方々が集い、子どもの成長という共通の話題を持つことで、地域住民どうしのつながりも広がり、子どもたちに関する様々な情報が学校に届きやすくなった。

## ●その他

連携企業等：奈良県遊技業協同組合、高井病院、graf(デザイン会社)



①『みんなのとしょかん』 ②『町力塾(マチカ塾)』 ③『夢まもりプロジェクト』 ④『夢応援プロジェクト』

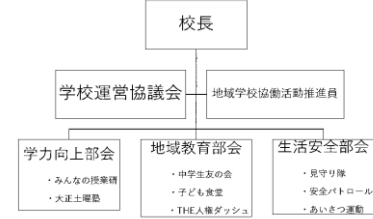
こんな活動です

# 学校・家庭・地域の3本の竹の連携、協働で子どもの学ぶ力を支え育てよう！！

奈良県御所市		●活動名 大正「学び力」育成委員会				●関係する学校名 御所市立大正中学校			
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	7 学級	のべ児童・生徒数	120 人		
活動区分	学校支援活動	—			—				
	地域未来塾	放課後子供教室							
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	1人				4人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		無		
	平成31年4月1日設置			52人					
参考URL	<a href="http://www5.kcn.ne.jp/~taisho-chu/">http://www5.kcn.ne.jp/~taisho-chu/</a>								
●連絡先	奈良県御所市大字三室206-1			☎ 0745-62-2508					

●体制図

学校運営組織（「学び力」育成委員会）



●活動の概要・経緯

本校は、「地域学校協働活動」事業に取り組む以前より、地域の方々の協力により人権教育に関わる様々な諸活動が行われてきた。本校区においても「格差社会」の厳しい現実を決して例外ではなく、要・準要保護家庭や母子父子家庭など生活困難の中に生きる生徒の数は年々増加傾向にある。生活面での困難さは、学校生活における様々な困難に直結し、特に「底辺」層における学力に関わる諸課題、自尊心や自己肯定感に関わる諸課題が本校教育の根底に大きく横たわっている。そこで、学校と家庭・地域が熟議を重ねながら、課題を共有するなかで、「学び力」の育成に焦点を当てた活動を提起し合った。まさに、学校と家庭・地域が当事者意識を持ち、連携・協働を進め、「地域学校協働活動」の充実深化を図ることで、諸課題解決に向けた歩みを進めてきたといえる。さらに、今年度よりコミュニティ・スクールとしての新たな一歩を踏み出すことになった。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①みんなの授業研・・・校内授業づくり委員会と連携しながら、若手教員の授業づくりを励まし、鍛える。保護者や地域の方を交え、「子ども」目線・「素人」目線を大切にしながら、特に「しんどい子」がわかる授業を目指す取組。
- ②中学生友の会（中友）・・・生徒の学習習慣の確立と学力補充を目的に、地域の施設（中央公民館等）を活用し、コーディネーターが中心となって、地域の人たちが組織し運営している活動。
- ③大正土曜塾・・・中学生友の会が夜間の開催であるため、参加できない生徒もいる。そこで、毎週土曜日に学校図書館を利用し、地域ボランティアの方にも支援いただきながら、進めている学習機会の取組。
- ④THE人権ダッシュ・・・月曜日の放課後の活動として、部落差別に関わる学習を実施。本校OB・OGや地域の方を講師として招き、体験談等を聞きながら、生徒自身の人権意識を深める活動。

【実施に当たっての工夫】

子どもたちの「学びの樹」の成長を支える「3本の竹（「学校」「家庭」「地域」）の働きを、より豊かで確かなものにしていく取組として始めた。それぞれの活動には、地域の様々な方々や諸団体に参加してもらい進めてきた経緯がある。地域の方と子どもたちが顔見知りとなり、地域に密着した取組となっている。活動に関わる方々が増加する中、「地域学校協働活動推進員」を中心に、コミュニティ・スクールとして生徒達の課題に対する積極的な連携・協働ができるよう取り組んでいる。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

中友や大正土曜塾に参加する生徒の割合が年々増加し、さらに学力向上がみられる生徒も多い。通塾率が5割に満たない本校において、様々な学習機会の創出は、生徒の学習サイクル確立に大きく影響している。また、地域の方や本校出身の先輩との関わりの中で、人権意識をより深めることができている。具体的には、差別を見抜くための「学力」、差別を乗り越えるための「仲間」、差別と闘うために必要な「自覚」の大切さを学ぶきっかけとなっている。また、地域の方のなかには、自身の余暇に使っていた時間を、この活動に関わる熟議や協働の時間に使うとする方もあらわれ、地域の人々の生きがいづくりにもつながっている。コミュニティ・スクールとして、課題も含めて学校を公開することで、委員一人一人の生徒達に接する機会が増え、当事者意識を持って生徒達の「学び力」の育成について考え、地域に対して取組への理解を広め、活動内容の深化・充実につながっている。さらに、ホームページを毎週更新し、活動の様子や生徒の姿を保護者や地域に向けて発信している。その反響も大きく、協議や熟議の土台ともなっている。

●その他

学校と家庭・地域の連携・協働を効果的に進めるため、年6回の大正「学び力」育成委員会（学校運営協議会）を開催し、関係者によるビジョンや目標の共有を行っている。また、中友スタッフと地域の方を中心としたボランティアスタッフによる月1回の子ども食堂も進めている。食事の後には、地域の方と子どもたちとの交流を設定し、絆を深める場にもなっている。



大正  
会  
子  
大  
正  
で  
の  
学  
話  
び  
力  
し  
合  
い  
の  
育  
成  
委  
員  
会



「子  
ども  
食  
堂」  
で  
の  
交  
流

こんな活動です

# 地域社会とつながったキャリア教育

奈良県天理市		●活動名 地域社会とつながったキャリア教育				●関係する学校名 奈良県立二階堂高等学校						
協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	15 学級	のべ児童・生徒数	600 人	●体制図				
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成									
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数							
	1 人		—		—							
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有						
	令和元年11月1日		0人									
参考URL	<a href="http://www.e-net.nara.jp/hs/nikaido/index.cfm">http://www.e-net.nara.jp/hs/nikaido/index.cfm</a>											
●連絡先	奈良県立二階堂高等学校			☎ 0743-64-2201								

●活動の概要・経緯

平成27年度入学生より、普通科からキャリアデザイン科(総合学科)に改編し、すべての教育活動にキャリア教育の視点をもって取り組んでいる。生徒の学習活動が実社会とつながるよう工夫をしており、知識・技能だけでなく、職場や地域社会で多様な人々とつながり、主体的に生きていくための力の育成を目標としている。

平成28年度より、県内大学教員による指導助言、天理市・天理市教育委員会や地域社会の関係者による協力体制のもと、地域創生を担う人材の育成を目指し、1年生は「産業社会と人間」の時間、2、3年生は「総合的な学習の時間」を中心に、地域課題解決学習をすすめている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

#### ○学校が位置する「天理市」を題材とした地域課題解決学習

1年生は、歴史・文化、自然科学、産業、教育、福祉等をテーマとした調査を、「テーマ設定→分析→中間発表→検証→最終発表」のステップで行う。2年生は、天理市を5つの地域に分け、フィールドワークを含めテーマ設定から最終発表まで1年次と同じステップで実施する。3年生は、地元企業と連携した商品開発、及び販売を目指した活動を行う。なお、中間発表は天理駅前広場で開催する「二階堂フェスタ」において、最終発表は天理市民会館で「キャリアデザイン科発表会」において行う。

#### ○奈良東病院グループとの連携によるインターンシップ

1年生全員が、入学してすぐの6月と8月に、介護・医療現場での就業体験を行い、社会人としての責任感・達成感・成就感の一端を経験する機会としている。

#### ○美容業種職業観育成プログラム

檀原美容専門学校との連携により、美容業種職業観育成プログラムを実施。(地域人材の育成に寄与している。)

### 【実施に当たっての工夫】

○地域課題解決学習では、大学教員から直接指導や問い掛けをいただく、地域への協力依頼はできるだけ生徒が行う、研究成果の発表を一般公開で行うなど、学びと実社会のつながりを生徒が実感できるように工夫した。

○インターンシップの実施にあたっては、協働先の職員と本校教職員で、目的・目標の確認・共有を十分に行っている。生徒への事前指導や事後報告会は、協働先の職員を招いて行い、生徒の職業観育成をより確かなものとしている。

○美容専門学校による出前授業やガイダンスを1年次に行い、希望者には2年次から同校通信制とのダブルスクール制を導入している。(離職率が高い美容業界へのミスマッチを防ぐ効果にも期待している。)

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・1年次から3年間かけて課題解決型学習に取り組むことにより、「地域創生」の視点が育まれている。
- ・「二階堂フェスタ」「キャリアデザイン科発表会」など、発表の機会をもつことにより、調査・分析・考察・伝達などに必要な力の伸長を目指した活動を通して、生徒の「課題発見・解決力」を育むことができた。同時に、地域の方には地元天理の魅力について再発見していただき、このことは生徒には自己有用感の高まりにもつながった。
- ・これらの経験が生徒の社会への理解を深め、意欲をもった進路選択に結びついている。

## ●その他

「奈良掃除に学ぶ会」との連携によるトイレ清掃活動(月1回)、地域の福祉施設・保育園等訪問、地域清掃活動、交通安全啓発活動など、様々な地域との協働活動にも継続的に取り組んでいる。



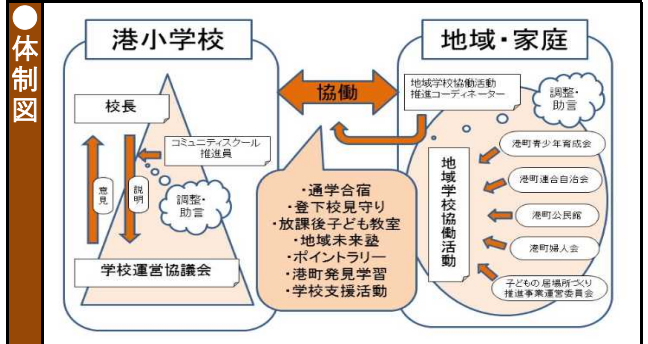
奈良東病院でのインターンシップ



「二階堂フェスタ」(天理駅前広場)

# 地域ぐるみで子どもたちを育む活動

和歌山県有田市		●活動名 港小学校地域学校協働活動			●関係する学校名 有田市立港小学校		
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	81 人
活動区分	学校支援活動		地域課題解決学習		—		
	地域未来塾		放課後子供教室		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	2人		—		—		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成29年4月1日設置		—	262人	—	—	
参考URL	<a href="http://aridasi-kvoi.sakura.ne.jp/minato/">http://aridasi-kvoi.sakura.ne.jp/minato/</a>						
●連絡先	有田市教育委員会 生涯学習課			☎ 0737-83-1111			



●活動の概要・経緯

港小学校において学校運営協議会が設置される以前から、子供の健全育成にかかわる取組として、「港町青少年育成会」が中心となって「通学合宿」を実施したり、港町公民館主事がコーディネーターとなって「地域ふれあいルーム(放課後子ども教室)」を開催し、学校での学習では学べない多様な体験活動に取り組んできた。

平成29年度から学校運営協議会が設置され、自治会や青少年育成会、公民館からも運営協議会委員として学校に関わるようになり、学校との連携がより密接となって、学校の願いと地域の願いを共有し、多様な活動を行っている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

児童の安全な居場所の提供を目的とした「港町ふれあいルーム」を、港町公民館等において年間約30回開設している。卓球やバドミントンなどのスポーツ教室や、茶道教室を実施したり、季節に応じたイベントを開催したりするなど、公民館主事(学校運営協議会委員)がコーディネーターとなって内容を工夫して実施している。また、夏休み期間限定で、小学校中学年児童を対象に「国語っておもしろかったんだ教室」(地域未来塾)を実施しており、教員OBが中心となって授業形式で国語に特化した学習教室を開いている。さらに、夏には港町公民館で2泊3日の通学合宿も実施している。昨年度、学校運営協議会が中心となって、「僕たちの町、私たちの町再発見」というテーマで地域学習を行った。また、老人会等の地域団体と協働し、登下校の見守りや、学校園でのぶどうやさつまいもの栽培や調理なども実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

夏の通学合宿は、和歌山県内で最も歴史があり、今年で16年目を迎えた。通学合宿を体験した児童が成人となり、ボランティアとして通学合宿の運営に携わり、将来を見据えた人材育成の場にもなっている。

また、学校運営協議会が主催した「港町発見発表会」を実施するにあたり、行政・PTA・各種団体に協力いただき、夏休みの自由研究や地域を発見するためのポイントラリーなどを企画した。2月の発表会に向けて総合的な学習の時間に地域の方が入って授業を行った。一緒に地域探検をしたりして、児童の調べ学習の手助けをしてくれた。発表会当日は240名の地域住民が出席して児童の発表を聞き、「港町について一緒に勉強しよう」「港町を愛する子供を育てよう」という思いを共有した。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校運営協議会が設置されたことで、学校から地域への情報発信の機会が増え、地域住民も広く、今まで以上に学校教育諸活動に関心を持つようになった。通学合宿に関しては、長年続けている事業であり、多くの地域住民がボランティアとして関わってくれている。学校と地域団体が協働活動を行う中で、挨拶や声掛けができる関係が構築できており、それが、児童の安全・安心の確保につながっている。

「港ディスカバリーポイントラリー」や「港町発見発表会」では、多くの地域の方が協力した。地域の方が地域の子供たちの育成に関心を持ち、子ども達も地域の方と一緒に活動を楽しみにしており、感謝の心を育むことができています。

## ●その他

ICT機器の活用については、「港町発見発表会」において、調べ学習でまとめたものをパワーポイントで作成した。当日の発表会では、スクリーンに映したものを地域の方に見ていただきながら児童が説明を行った。



夏期限定で、「国語っておもしろかったんだ教室」を実施している。対象は小学校中学年児童。



港町発見発表会では、児童が調べた地域の方への発表の様子。





和歌山県田辺市		●活動名 大塔地域学社融合推進協議会				●関係する学校名 田辺市立鮎川小学校 田辺市立大塔中学校					
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	194 人	<b>●体制図</b> 			
活動区分	学校支援活動	—		—		—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		—				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数		延べ登録人数		企業・NPO等との連携				
参考URL	平成30年4月1日設置		121人		無		—				
●連絡先		田辺市教育委員会 生涯学習課			☎ 0739-26-4925			—			

●活動の概要・経緯

大塔地域の小・中学校と大塔公民館では、平成26年度から「学校支援地域本部事業(大塔地域共有コミュニティ)」を立ち上げ、地域・学校・家庭が連携・協力して子供を育てることを主目的として取り組んだ。学校を支援する地域人材を掌握し、関係団体や機関と学校とのつながりを整理し、連携・融合が円滑に進む組織づくりを行った。

平成30年度から「大塔地域学社融合推進協議会」として、これまでの組織の再編成を図り、実践も継承しつつ新たな展開を構築しながら取組を推進している。特徴的な取組として、組織の中に3部会を設け、それぞれの部が主体的に事業の企画・立案・運営・評価を行っていることである。事業の運営に関しては、公民館主事が地域と学校を繋ぐコーディネーターとなり、地域住民や支援団体との調整役に努めている。また、学校を核とした地域づくり等にも取り組んでいる。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

行事支援部が企画する活動として、「選択交流学习」がある。小学5年生から中学1年生の児童・生徒が、地域住民が指導する8つの講座のいずれかに参加し、特色ある学習の機会を得ている。また、「大塔リフレッシュ大作戦」では、全小・中学生と多くの地域住民とで清掃活動を行っている。

学習支援部では、専門的な知識や技能を有する地域人材を集約し、学習支援への連絡調整を行っている。また、ICT機器を活用しながら地域の歴史や文化の伝承を行うとともに、習字・ミシン・調理の指導等、様々な場面で支援を行っている。生活支援部では、防災学習や避難訓練等の企画をしている。児童・生徒の登校時の見守り活動も行っている。放課後の児童の居場所である「鮎川ふれあいスクール」の内容充実を図るとともに、指導者である地域の協力者を増やすことに努めている。

### 【実施に当たっての工夫】

大塔地域学社融合推進協議会は、様々な学校支援や地域活動の充実を図るため、組織編制の工夫を行っている。大塔地域共有コミュニティ組織を基盤とし、地域と学校をつないで活発な活動を推進するために、行事支援部、学習支援部、生活支援部の3部会を設け、それぞれの部会が主体となって事業を企画・立案・運営し、活動内容の充実を図っている。また、それぞれの活動を実施する際、公民館主事を中心とした複数のコーディネーターの存在が大きく、活動目的に合致した地域人材の選定や調整を行ったり関係団体や機関と学校をつないだり、効果的な学習活動へと発展させる役割を担っている。同時に、地域住民がそれぞれの分野で活躍する機会を設けたり、地域の文化や伝統の継承者の育成を図ったり、様々な学校支援活動を通して地域の活性化に努めている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供たちは、ゲストティーチャーによる授業で専門的な知識や技能に触れ、学習意欲の向上につながった。また、地域の良さを発見し、地域の担い手としての自覚が芽生えた。学校は、地域住民の授業支援によって、専門的な知識や技能を児童に習得させることができ、学習効果を高めることができた。また、活動範囲を広げたり指導内容を深化させたりすることも可能となった。地域住民や団体は、学校と関わる機会が増えることで児童・生徒との距離が近くなり、また、専門的な知識等を発揮する場を得る事もでき、生きがいにもつながった。地域コーディネーターの配置により、地域の教育資源の発掘や人材の把握、関係団体や機関との連携が円滑に進むようになった。大塔地域共有コミュニティ組織が確立しているため、多角的に学校支援を行うことができた。

## ●その他

地域の指導者が中心となって、選択交流学习を実施している。生け花、おもしろ科学、大塔探訪等、8つの講座がある。「鮎川ふれあいスクール」は、放課後の居場所づくりとして年間25回の講座を開設している。中学生がボランティアとして協力している。



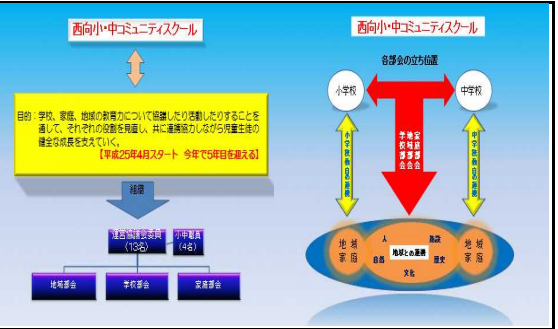
指「選択交流学习」で、地域の指導者から生け花を教わる。



「鮎川ふれあいスクール」による出前講座。

和歌山県串本町		●活動名 西向小・中コミュニティスクール			●関係する学校名 串本町立西向小学校 串本町立西向中学校		
協働活動開始年度	平成25年度	関係学校数	2校	のべ学級数	10学級	のべ児童・生徒数	79人
活動区分	地域課題解決学習		地域人材育成				
	地域未来塾		—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人		—		—		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成29年5月1日設置		—	10人	—	—	
参考URL	—						
●連絡先	串本町立西向小学校			☎ 0735-72-0137			

●体制図



●活動の概要・経緯

平成25年度に「西向小・中共育コミュニティ」として運営委員(代表区長、公民館支館長、老人会、青年会代表、教育委員、地域有識者、各育友会長等)15名で組織を立ち上げ、活動を開始する。15名の運営委員を3部会(家庭共育・地域共育・学校共育)に分ける。活動内容は年によって変わるが、概ね以下に示す通りである。

「家庭共育部会」…お弁当作り教室 「地域共育部会」…クリーン作戦 「学校共育部会」…避難所巡り・ベンチ作り

平成29年度からは「西向小・中コミュニティスクール」と改称したが、「学校、家庭、地域の教育力について協議したり活動したりすることを通して、それぞれの役割を見直し、共に連携協力しながら児童生徒の健全な成長を支えていく。」という目的のために活動を継続する。改称に伴い運営委員を学校運営協議会委員とし平成30年度は13名で組織する。活動内容については、基本的には今までの活動を継承し、地域に根ざした活動を目指している。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成30年度の活動として、学校運営協議会2回と各部会に分かれての活動を行う。

学校運営協議会…5月・3月

「家庭共育部会」…お弁当作り教室(34名参加)

「地域共育部会」…クリーン作戦(地域住民81名参加)

「学校共育部会」…ベンチ作り教室(35名参加) 避難所巡り(地域住民67名参加)

※クリーン作戦と避難所巡りについては、授業の一環として課業日に実施している。

【実施に当たっての工夫】

取組を進める上で気を付けたいこととして、以下の7点を合言葉として活動を続けている。

- ①欲張らない
- ②長く続ける
- ③少しずつ右肩上がり
- ④負担にならない
- ⑤楽しくできる
- ⑥知り合いを増やす、友達(?)の輪を増やす
- ⑦評価ができるように(次につなげ発展させていくために)

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

共育コミュニティとして活動を始めてから6年目を迎え、取組への参加者が固定化されてきている傾向があり、参加者拡大に向けて広報等の方策を考えなければならないという課題はあるものの、継続した取組を行うことで地域の行事として定着してきているという大きな成果も見られる。

その成果の表れとして、

- ①クリーン作戦に対して…悪天候のため中止にした年があったが、地域住民より「学校も行事等で忙しいと思うけれど、何とか実施できる日程を考えてもらえないだろうか。」という声が寄せられた。
- ②避難所巡りを通して…意識の向上や各地区の自主防災組織の活性化の一助となっている。
- ③平成28年度より各地区から活動に対する協賛金を頂けるようになった。等が挙げられる。

●その他

地域の方々の指導のもと、ポンカン学習やひじき学習、料理教室等を実施。ひじき学習のひじきは、子供たちの手で“刈る”→“干す”→“ゆでる”→“干す”→“商品化する”の作業工程を経たもので、ハンバーグやサラダなどの料理を作るまでに様々なことを学んだ。



取地  
り域  
組の方  
々々と  
共に清  
掃活動  
に



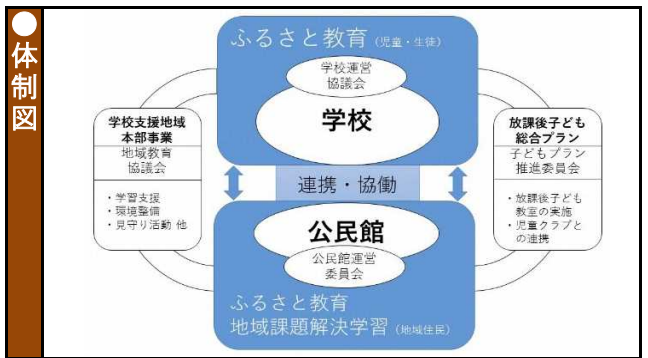
マ  
イ  
弁  
当  
作  
り  
に  
教  
え  
て  
ら  
ら  
つ  
て

こんな活動です

# ふるさと教育を通じて新たな地域づくりを目指す 地域学校協働活動

島根県大田市	●活動名	●関係する学校名
	大田西中学校区地域学校協働活動	大田市立仁摩小学校 大田市立温泉津小学校 大田市立大田西中学校

協働活動開始年度	平成24年度	関係学校数	3校	のべ学級数	25学級	のべ児童・生徒数	388人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	4人		22人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成30年5月1日設置		214人				
参考URL	<a href="https://www.city.ohda.lg.jp">https://www.city.ohda.lg.jp</a>						



●連絡先	大田市教育委員会 社会教育課	☎(0854)83-8125
------	----------------	----------------

●活動の概要・経緯  
大田市では『地域の教育力の向上』を目的に、平成20年度に「仁摩」学校支援地域本部事業、平成22年度に「温泉津」学校支援地域本部事業を導入し、地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整えてきた。その後、児童・生徒数の減少により、平成23年度に温泉津地域の4つの小学校が統合し温泉津小学校に、また平成26年度に温泉津中学校と仁摩中学校が統合して大田西中学校となり、学校区が大きく変化中、現在は大田西中学校区地域学校協働活動として実施し、新しい学校と地域との連携・協働を図っている。また、旧小学校区の地域住民の「学校がなくなっても、地域の子どもは地域で育てる」という思いから、社会教育を基盤とした子どもの体験活動や地域貢献活動を実施することで地域に愛着と誇りを持った子どもの育成を図り、将来の地域を担う人材の育成につなげる活動を展開している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①ふるさと教育に関わる学校支援事業…学校のふるさと教育において各地域のコーディネーターが学校と地域との連携を担う。
- ②公民館ふるさと教育の実施…校区内にある2公民館が、地域への愛着を育むことを目的としたふるさと教育を実施し、延べ約1,000名が参加。
- ③放課後子ども教室の実施…学校の振替休業日を活用して、子どもたちが体験を通して学び合う活動を実施。
- ④土曜日の子どもの居場所づくり…毎月第3土曜日に、リーダー育成を目的に子どもたちや保護者が地域のひと・もの・ことに触れる「どきどきようび」の事業を公民館が実施。
- ⑤「子ども見守り隊」の活動…「青バト隊」「個ボラ隊」といった様々な団体や見守りスタイルによる活動の実施。

### 【実施に当たっての工夫】

中学校が統合したため、校区内の2つの公民館が連携して統括的なコーディネーター役を担っている。各校の学校運営協議会では、地域の様々な立場の方が委員となり、「ふるさとに愛着と誇りを持つ子どもを育成する」という思いの共有化を図っている。また、学校と公民館、コーディネーターが学校と地域とが連携したふるさと教育の実施について話し合う場が各校に設けられており、地域によって教育活動に偏りがでないように調整することができている。また、公民館が学校支援や放課後子ども教室のコーディネートを行うことで、様々な立場の方が異なる事業に関わったり、ボランティアとして参加したりすることにつながっている。このような2つの公民館の連携と統括コーディネーター的な役割が地域の人材を育み、継続的に活動ができる基盤となっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

温泉津小学校では、学校の全教職員・コーディネーター・公民館職員が一緒になって1年間のふるさと教育の取組について話し合う場が設けられており、学習の内容が体系的、系統的に整理され、6年間の見通しを持って地域のボランティアの方も関わることができている。また、旧温泉津中学校で実施していた櫛島の清掃活動を公民館が引き継ぎ、中学生を対象にした学びの場として取り組んでいる。校外に児童・生徒が出かけて地域の人と学習することで、地域の人からは「子どもたちに元気をもらおう。」「自分たちの活動を続けていこうというやる気につながる。」という声がかかる。このような地域住民の意識の醸成が地域活動の継続と活性化にもつながっている。

## ●その他

学校だけでなく、公民館でもふるさと教育を実施している。地域のひと・もの・ことを活用した教育活動を通して、子どもや地域の大人がふるさとに愛着や地域貢献の意識を高める取組を行っている。



子どもたちが行い、畜産で進んだ賞状が渡される（生活科）



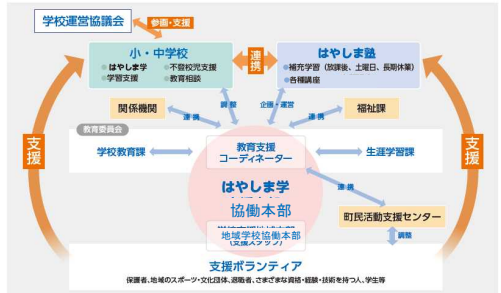
歴史講座で学んだ公民館人たちが、親と子どもと一緒に再訪した！

こんな活動です

# SDGsを踏まえた協働・協学・協育のまちづくり ～早島・夢の宝島プロジェクト～

岡山県早島町	●活動名		●関係する学校名				
	早島町地域学校協働本部		早島小学校 早島中学校				
協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	46 学級	のべ児童・生徒数	1164 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.town.havashima.lg.jp/kosodatekyoiku/havashima_kyoiku/index.html">www.town.havashima.lg.jp/kosodatekyoiku/havashima_kyoiku/index.html</a>						
●連絡先	早島町教育委員会生涯学習課		☎ 086-482-1511				

●体制図



15歳の春を見据えた持続可能な教育の実現に向けて、学校園(保幼小中)・地域・行政が、目指す子ども像「地域とつながり未来を拓く早島っ子の育成」を共有し、一体となった取組を進めている。全ての町民が学び合い、育ち合う環境をつくることで、子どもたちは早島で学ぶことを誇りに思い、町民も共に学び共に育つ地域を誇りに思う、こうした「協働・協学・協育」の町づくりを目指し、一貫教育の推進、地域を考える「はやし学」の創設、学習サポートボランティアの拡充に取り組んでいる。また、幼小中での一体的に実施する「はやし学園運営協議会」では、学校園の運営や教育活動の計画・実施・評価を行うとともに、協議会の中に3部会(学校支援部会・地域支援部会・家庭支援部会)を設け、各部会での取組をはやし学協働本部の活動に反映している。

平成20年4月に早島小学校・早島中学校にコミュニティ・スクールを導入し、学校運営協議会を立ち上げる。平成25年10月に「早島町学校教育ビジョン」を策定し、「はやし学協働本部」を立ち上げる。平成27・28年度にコミュニティ・スクールの国の研究指定を受け、学校運営協議会等の更なる充実を図る。町全体で目指す子ども像を共有し、その具現化に努め、平成27年6月に「教育のまち・早島」を宣言。現在、「教育のまち、生涯学習のまち」として、地域に根付いた様々な取組を展開している。平成29～32年度にESDの国の研究指定を受け、中学校区でSDGsとESDの視点を踏まえたカリキュラムの構築を図っている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 多様な学習機会の拡充…放課後や休日等の子どもの学び場として、地域ボランティアや大学生が学習支援を行う「はやし塾」や「わくわく算数教室」、地域住民や留学生と地域をめぐり、地域を知る「ロケイニング」、国際人としての基礎を培い、留学生等と生きた英語に触れる「Enjoy English Juku」「English Bus」「英語暗唱大会」、夏休みの学習・体験の場づくり「わくわくサマーホリデー25日間」等を開催し、多くの地域人材を活用して多様な学習機会を子どもたちに設けている。その際、ICTのカルテックも活用している。
- 一貫教育の推進…学校の教育課程に「はやし学」を位置づけ、総合的な学習の時間等でESDの視点を踏まえたカリキュラムの構築を行うとともに、保幼小中の校種・学年を越えた単元学習プログラムをいくつか作成し、交流授業の実施を図っている。
- 子どもの活躍の場づくり…地域課題について子どもと大人が意見交流をする「熟議」、幼小中の子どもの持続可能な町づくりに向け自らの考えを提案する「子ども議会」、学校園でESDの視点で探究してきたことを町民に発信する「子どもフォーラム」、中高生が企画・運営する「花ごびンポン世界大会」等、子どもたちが地域について考え、社会の一員として提案・発信する場を設けている。

### 【実施に当たった工夫】

- 「早島っ子サポートボランティア制度」を創設し、地域住民や学生を中心にボランティア登録を呼びかけている。学生の募集に関しては、コーディネーターが近隣の大学に直接出向き、内容説明をしたうえで、「学生ボランティアガイド」を配付し参加を募集している。また、各学校園で必要な学習支援ボランティアを随時コーディネートして、学校園の豊かな教育活動をサポートしている。
- 成人対象の「まなびの舎講座」を一定以上受講した住民を「はやし学応援サポーター」として認定し、はやし学の各事業に携わる仕組みを確立している。
- 近隣大学と連携し、留学生が講師やスタッフとして事業に参加しているほか、子どもたちが大学を訪問し、留学生や大学講師との交流を図っている。また、「わくわくサマーホリデー」等では、アスエコ等のNPOの方に講師として参加してもらっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 地域をフィールドに様々な体験学習に取り組むことで、郷土理解を深め、郷土愛を育むことができた。
- 地域の方が学校園の授業に入ったり、子どもたちが地域活動に参加したり、子どもと大人が共によりよい町づくりに向けて意見交換する場があることで、学校応援団が増えるとともに、地域ぐるみで子どもを育てる環境の整備が進んだ。
- 留学生との交流を通し、世界を視野に入れた将来の夢や希望・志を抱ききつかけとなった。また、国際理解や英語でのコミュニケーションに関心をもち、間違いを恐れず積極的に英語を話そうとしたり、互いを尊重する姿勢が見られた。
- 子ども議会での提案が実現するなど、子ども自らが地域の新たな魅力を創造することで、地域への関心が高まり、社会貢献意識が高揚した。

## ●その他

- 年2回実施の「はやし学意見交流会(熟議)」では、「地域の防災力向上のために」、「SDGsの町づくり～誇りをもち住み続けたい町プロジェクト～」等、様々な地域課題を共有し、意見交換することで、地域の方との絆を深めるとともに、学校応援団を増やしている。
- 夏休みの「わくわくサマーホリデー」では、夏休みの25日間(学習タイム15日、体験タイム10日)、小4～小6の児童が9時から12時まで、規則正しい生活リズムを身に付け、普段できないような体験を楽しんでいる。



（地域課題の大人と子どもが様々な意見交流）



地域わくわくサマーホリデーの生物調査

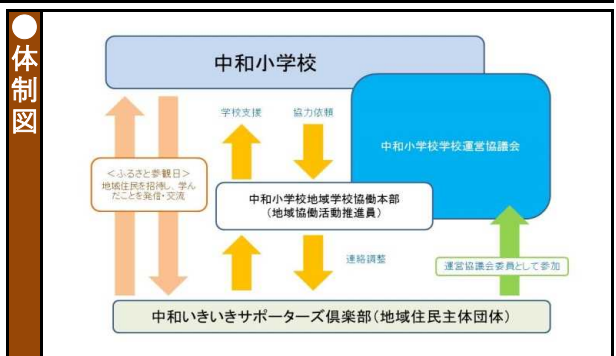
こんな活動です

# みんないきいき中和っ子 ～中和いきいきサポーターズ倶楽部他との協働～

岡山県真庭市	●活動名 中和小学校地域学校協働本部	●関係する学校名 真庭市立中和小学校
--------	-----------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成30年度	関係学校数	1校	のべ学級数	3学級	のべ児童生徒数	24人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
	地域未来塾	放課後子供教室	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	1人				
	—	—	—				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成31年4月1日設置	—	60人	—	—		
参考URL	<a href="https://kodomo.city.maniwa.okayama.jp/kids/www/section/detail.jsp?id=134">https://kodomo.city.maniwa.okayama.jp/kids/www/section/detail.jsp?id=134</a>						

●連絡先 真庭市教育委員会生涯学習課 ☎ 0867-42-1094



●活動の概要・経緯  
児童数の減少に伴い中和小が完全複式学級化となることから、学校教育力の低下や地域の衰退が地域住民の不安材料となっていた平成28年、「中和の子どもを元気に」「中和地域を元気に」を合言葉に、地域学校協働推進員の調整のもと、地域住民が主体となり「中和いきいきサポーターズ倶楽部」を立ち上げた。以後「学校が必要な時に必要なことを」をモットーに、幅広い年齢層の地域住民が本校の教育活動をサポートしている。以上の実態もあることから、児童数減などを地域課題と捉え、学校を核とした地域づくりも念頭に本年度から「コミュニティ・スクール」を導入することとなった。導入後は多くの地域人材が講師になり、「親子木工体験教室」や「こどもなりわい塾」などを実施し、地域の特色を生かした創意工夫のある多様な活動を行っている。地域と学校が目標を共有するための協議では、地域資源を生かして地域を学ぶ「中和いきいき学習」を教育課程に位置づけ、未来をたくましく生きぬく子どもの育成を図ることを共通理解し、各活動を実践している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学習支援活動では、ミシンや書き初め学習、中和いきいき学習、さつまいも栽培、七夕会、しめ縄飾り作りなどにボランティアが入っている。また、合唱指導及び伴奏も行っている。毎冬、スキー教室やスキー大会にも専門的な技術や知識を持つボランティアがGT(ゲストティーチャー)として参加し指導を行っている。
- 「中和いきいきサポーターズ倶楽部」が「親子木工体験教室」を主催し、親子で『SDGs』について学び、造形活動を行った。また、夏には「親子川遊び体験教室」も主催し、親子で自然観察や川遊びを体験する活動を行った。夏季・冬季休業中には、地元の自然や歴史、産業等について学ぶ「こどもなりわい塾」を開き、多くの児童が参加し、地域住民とも交流した。
- 運動会には、児童の負担軽減のためボランティアで準備や演技の支援を行っている。
- 定期的に福渡小学校とスカイプを使用した遠隔授業やインターネットを利用した問題解決学習を実施している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 職員会議やボランティアとの打合せで教職員と地域住民が協働活動の目的、意図を共通理解している。
- 「中和いきいき学習」に、専門的な知識を持ったボランティアをGT(ゲストティーチャー)として活用する。また、「ふるさと参観日」に地域住民を招待し、学んだことを発信・交流することで、地域の良さを認識する機会を設ける。
- 中和いきいきサポーターズ倶楽部の代表者と情報交換を行うことで、本校の実態やニーズに応じてボランティアの派遣が可能になっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学習支援のおかげで教職員だけでは十分できない個別の対応ができています。(ミシン・書道)
- 「中和いきいきサポーターズ倶楽部」に幅広い年齢層の地域住民がボランティア登録を行い、学校教育諸活動に興味を持ち、進んで学校支援に参加している。活動後は「子ども達から元気をもらった」と感謝され、やりがいにつながっている。
- 中和いきいき学習でも学んだ自然の中の「ありがとうのつながり」が学校・地域に広がり、地域全体が元気になりつつある。
- 「ふるさと参観日」には大勢の地域住民が来校し、児童の発表から「中和の良さ」に改めて気づき、ふるさとへの愛着が高まっている。

## ●その他

- 毎週火曜日には、「放課後子どもクラブ」を開き、ボランティアが児童の体力向上の支援を行っている。
- 中和いきいきサポーターズ倶楽部の活動拠点として「えがお商店」を改築、子ども達の放課後の居場所づくりに役立ててほしいと場所の提供も行っている。



が親子木工体験教室（全校児童）

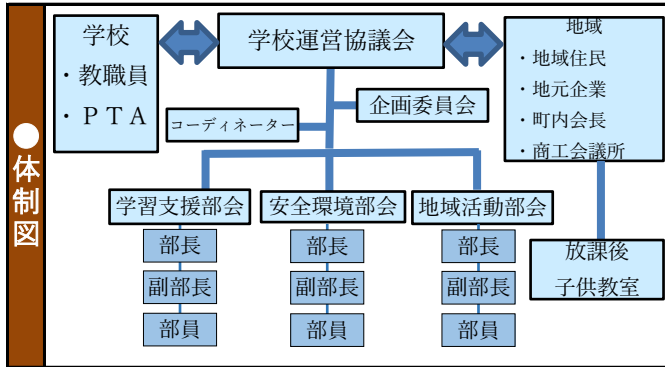


のスキー教室（全校児童がGT指導により上達！）

こんな活動です

# 地域の中に学校を、学校の中に地域を ～児童生徒の「起業家精神」の育成と地域の活性化を目指した教育活動の推進～

●活動名		●関係する学校名	
府中明郷学園学校運営協議会		府中市立府中明郷学園	
協働活動開始年度	平成26年度	関係学校数	1校
		のべ学級数	14学級
		のべ児童・生徒数	304人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成
		放課後子供教室	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数
	1人		4人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数
	平成26年4月1日設置		89人
		企業・NPO等との連携	有
参考URL	<a href="https://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/fcmeikyou-shou/index.html">https://www.edu.city.fuchu.hiroshima.jp/fcmeikyou-shou/index.html</a>		
●連絡先	府中市教育委員会	☎	0847-43-7178



●活動の概要・経緯

府中明郷学園は、平成26年4月、府中市で初めて学校運営協議会が設置され、「地域の中に学校を、学校の中に地域を」をコンセプトに学校、家庭、地域が「めざす子ども像」（「恕の心を持ち、夢と志を抱き、自らを鍛え、互いを鍛える児童生徒」）を共有し、「地域とともにある学校づくり」及び「学校を核とした地域づくり」を両輪として活動を実践してきた。めざす子ども像や課題が学校運営協議会の場で共有され、地域住民や地元企業等幅広い連携体制が整えられることで、地元の技術や材料を活用した独自商品の開発、「本読み堂」による読書活動や「昔話部」による季節や地域の伝統にかかる学習支援活動、総合的な学習の時間のゲストティーチャー、見守り活動、放課後子供教室の実施等学校と地域が一体となった活動が実施出来ている。

また、社会に開かれた教育課程の実現のため、平成30年度より「生活科」及び「総合的な学習の時間」等の教育課程を独自に改編し、1年生から9年生まで連続した学びとなるカリキュラム開発への取組や、今後の学校運営協議会の在り方について調査研究を実施している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 「起業家精神」の育成と地域の活性化を目指した教育活動の推進：子供たちが地域の企業がもつ技術力等について学び、そうした技術や材料を生かした商品開発を行い、模擬会社をとおして企業等に提案することで、子供たちの創造力の育成並びに地域を支える人材を育成することができ、地域活性化につながる教育活動を実践している。
- 地域行事への参画：子供たちの代表が各町内会長と夏祭り等の地域行事について企画段階から話し合い、ブースを設ける等地域行事へ参画する体制を整えた。
- 学習支援の充実：本の読み聞かせ、ブックトーク、季節・文化を伝える昔話、地域の伝統である「和紙づくり」等の学習支援活動を実施している。
- 放課後子供教室では、放課後児童クラブと連携しながら防犯教室や避難訓練等の活動も計画的に実施している。
- その他、見守り活動や環境整備作業、図書室整備、部活動支援等で地域と連携している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会が中心になり、学校・地域がどのような役割を担うことができるか協議を重ねた。その結果、学校だけでは気付くことができない意見等を活動に反映させている。
- めざす子ども像や課題を共有することで、地域住民や地元企業等の積極的な支援を得ることが出来、活動が安定的・継続的なものになっている。
- 社会に開かれた教育課程の実現のため、1年生から9年生まで連続した学びとなるカリキュラム開発や、学校運営協議会が、社会とのつながりを重視する観点から地域住民、地元企業との橋渡し役を担う必要があると考え、学校運営協議会の在り方の検討等を行っている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子供達が地域の企業と連携し商品の開発を行う、地域行事へ企画段階から参画し自分たちの力で行事を盛り上げる取組を行う事等により、子供達が地域の課題に向き合い、解決するための方法を自身の視点で考え、提案することで、地域の一員としての自覚が養われ、これからの地域の在り方や課題を当事者意識をもって考えることが出来るようになった。

学校と地域が一体化し総がかりで子供たちの成長に携わる基盤が構築されることで、多数の保護者や地域住民の方々がボランティアとして参加し、教職員の負担軽減につながっている。また、昨年度の豪雨災害の際にも、復旧活動に多数のボランティアの参加を得ることが出来、迅速な復旧に繋がった。

## ●その他

夏季休業中や冬季休業中に、地域の協力を得て「寺子屋」を開設し、子供たちの学習支援を行っている。



（地元企業社を設立し、開発した商品）  
 模倣会社を設立し、開発した商品（第7学年経営者総合的な学習の時間）



昔話部のメンバーと地域の伝統文化について学ぶ（学習支援）

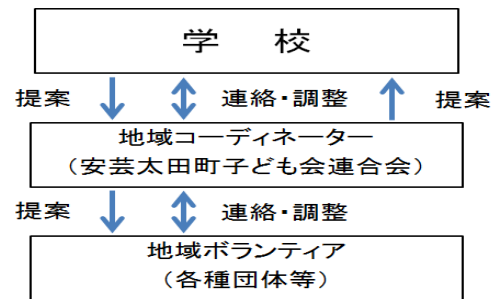
こんな活動です

# 地域と学校による子ども達への蓄積と伝承！ ～次世代を担うリーダーの育成～

●活動名	●関係する学校名
広島県山県郡安芸太田町 安芸太田町子ども会連合会	広島県立加計高等学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	3 学級	のべ児童・生徒数	99 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		3人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	令和1年6月1日設置	402人		有			
参考URL	<a href="http://www.kake-h.hiroshima-c.ed.jp/index.html">http://www.kake-h.hiroshima-c.ed.jp/index.html</a>						

●体制図



●連絡先	広島県立加計高等学校	☎ 0826-22-0488
------	------------	----------------

●活動の概要・経緯  
現在、安芸太田町は、伝統文化の蓄積・継承や地域の未来を担う児童・生徒の健全育成が地域課題となっている。そこで、子どもたちへの地域の伝統や文化の継承と、地域を活性化させ地域に貢献できる人材の育成をテーマに、「安芸太田町子ども会連合会」をコーディネーターとして、町唯一の高校である加計高校と地域とが連携・協働し、地元のお祭りでの伝統芸能の披露や、地元小学生対象の読み聞かせなど多種多様な活動を行い、地域課題の解決、人材育成に取り組んでいる。また、昨年度より新たに、安芸太田町子ども会連合会の主催により「リーダー精神育成研修」も実施されている。この研修は、町外の子ども会との連携や、町内小中学生との交流会の企画等により、次世代リーダーの育成や、自己有用感、将来の自立、さらなる学校と地域の連携等による地域人材育成や地域課題解決学習の実施を目的としている。  
今年度より、「学校運営協議会」が設置され、地元中学校、町の商工会・教育委員会関係者等や当該学校教員からなる委員により、課題解決への取組や人材育成方針等のビジョンの共有が図られている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「地域ボランティア活動の促進」：学校と地域の連携による地域ボランティア活動への高校生の参加促進。
- ②「リーダー精神育成研修」：高校生が主体となり、町外の子ども会との会議参加や、町内小中学生との交流会の企画などを実施。
- ③「山口・上関町交流事業」：生徒の体験活動の充実のため、中山間地域に位置する学校と山村交流会等を実施。
- ④「クリーンハイキング」：地域課題共有の場として、地元の親子・小中学校と連携し町内清掃活動を企画実施。
- ⑤「地域のお祭りでの部活動の発表」：軽音楽部によるステージ発表等、学校と地域がコラボし、コンサートの開催、茶華道部の屋台出店等活動成果の発表の場も提供。

### 【実施に当たっての工夫】

「安芸太田町子ども会連合会」を、学校と地域をつなげるコーディネーター役を担い、次のような取組を行う事で、より効果的な体験活動や学習活動が実施している。  
○地域ボランティア活動では、一人でも多くの生徒が活動に参加できるように、地域のスポーツ競技会の支援や読み聞かせ、サマーキャンプ支援等多様なボランティア活動を一元的に集約し、日程の調整等を行っている。  
○地元の伝統芸能や、伝統文化に触れる機会を生徒に提供することで、生徒自身が、伝統芸能の後継者不足等地域課題を発見し、その対策を、検討する等、課題解決や地域人材の育成につなげている。  
○関係機関との連携や連絡を担うことで教職員の負担軽減に繋がっている。また、新聞やTVなど報道機関との連携も行い、活動の様子を多方面に発信し、情報の発信に努めている。  
○生徒自身がボランティア活動を企画・運営することが出来るよう支援することで、生徒の活動範囲の拡大や参加意欲が高まるようにしている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校と地域がともに共通の意識や目的をもって交流をする機会が増えたため、地域の方々の学校教育参入に抵抗感が減り、講師として授業に携わる地域の方が増えた。また、ボランティア活動に参加した地元住民から「高校生の笑顔には元気があって私たちも元気が出る。」や町外の参加者から「学校と地域の連携がとれて、町に活気があって素晴らしい。」など感想を頂けた。  
生徒からは、「もっと広報活動をして安芸太田町をPRしたい」と声が上がリ、実際に地域住民と連携し、地域の歴史を紹介するツアープランを作成する等主体的に活動しており、活動が地域人材の育成や生徒の地域課題解決学習に繋がっている。

## ●その他

社会福祉協議会と連携し、赤い羽根共同募金を行った。また、地域のショッピングモール(サンシャイン加計店)や町役場と連携して、災害被災者支援募金や赤い羽根募金、リサイクル活動、ボランティア活動を実施している。



（リーダー子どもたちとの交流会）



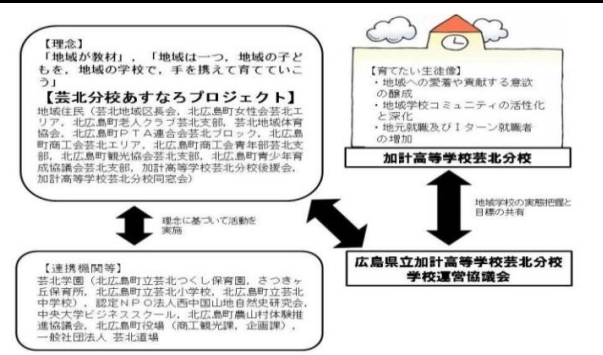
（地域の祭りでの部活動の発表（コンサート））



# 「芸北の子は 芸北で育てる」 芸北分校あすなろプロジェクト

●活動名		●関係する学校名	
広島県北広島町		芸北分校あすなろプロジェクト	
関係学校数		1校	
のべ学級数		3学級	
のべ児童・生徒数		98人	
協働活動開始年度		平成26年度	
活動区分		学校支援活動	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 1人	
学校運営協議会		指定・設置日 令和元年7月1日設置	
参考URL		<a href="https://twitter.com/kakegeihoku?lang=ja">https://twitter.com/kakegeihoku?lang=ja</a>	
●連絡先		広島県立加計高等学校芸北分校	
		☎ 0826-35-0726	

●体制図



広島県北広島町芸北地区は、人口減少に伴う様々な課題を抱え、各地域がその再生に取り組んでいる。教育の再生を図る観点から、平成6年「芸北教育開発プロジェクト」を発足し、芸北地域内の地域住民と保幼小中高が互いに連携し、「地域は一つ」、「地域の子どもを、地域の学校で、手を携えて育てていこう」という願いのもと、芸北教育の一層の充実を図ってきた。平成26年からは芸北地域地区長会、北広島町女性会芸北エリア、芸北地域体育協会、北広島町PTA連合会芸北ブロック及び北広島町商工会芸北エリア等、地域住民が主体となって組織・運営する「芸北分校あすなろプロジェクト」が整備された。この芸北分校あすなろプロジェクトが、地域と学校をつなぐコーディネーター役となり、様々な団体の活動を組織的・系統的に整備することで、地域課題解決学習や人材育成学習及び学校支援活動が効果的に実施出来ている。また、これらの活動を一過性の行事として終わらせるのではなく、学校経営計画や教育課程にも取入れることで、計画的・安定的な取組とすることが出来ている。

令和元年7月には学校運営協議会が設置され、課題となっていた地域と学校の実態把握や人材育成目標等の情報共有の場が設けられた。学校運営協議会で共有された情報を踏まえながら「芸北分校あすなろプロジェクト」がコーディネーターの役割を果たし、次の時代(地域)を担う人材育成・地域課題解決学習等を行っている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1 学校支援活動
  - (1)授業補助 総合的な学習の時間において、1年次では「地域を知る」、2・3年次では、「地域を活かす」をテーマに授業を展開し、地域と協働して地域資源の紹介や魅力の発見などの教育活動を展開している。
  - (2)部活動指導支援 地域住民がボランティアで競技スキー(アルペン、クロスカンтриー)の指導をするなど、地域の支援を受けながら、部活動強化を図っている。
  - (3)下宿支援 男子・女子寮の運営や生活指導等を地域住民が主体となって行うとともに、地域から農産物の提供を受けるなど、物心両面で地域住民からの支援を受けながら生徒の豊かな人間性を育てている。
- 2 地域課題解決学習 地域住民を招聘して、地域での生き方・あり方について考える「キャリア朝礼」や、地域資源を活用した地域経済の活性化について学習活動を行っている。活動では、実際に生徒が地域に出てフィールドリサーチをしたり、地域住民にヒアリング調査したりするなど、地域に「あるもの」の有効活用方を検討している。
- 3 地域人材育成 生徒が実際に地域活動(神楽公演、子ども会、地域交流会等)に参加して、地域を担う者としての資質・能力の育成を図っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 「地域が教材」の考えを基に学校運営協議会で目標を共有し、様々な団体等が所属する「芸北分校あすなろプロジェクト」がコーディネーター役を担うことで、多様な人材や団体を学校教育諸活動につなげること。
- 各学期に1回程度、学校運営協議会の役員会を開き、地域学校の実態把握、今後の目標と実際の運用等をPDCAサイクルで行い、活動の充実を図っている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校運営協議会や実際の活動を通して、地域と学校が「育てたい生徒像」を共有することにより、人材育成の場が学校だけではなく地域へも広がった。
- 実際に生徒が学校の外に出て、地域行事への参加や地域課題解決に向けたフィールドリサーチ等を行う姿が地域住民にとっても励みや誇りとなり、「生徒のために何かできないか」と住民ベースで考え行動するようになり、学校教育への積極的な参加や生徒の活動の場を提供するなど、学校だけではなく地域も活性化し地域と協働・共栄の姿が出来ている。
- 生徒自身も地域住民や地域社会に触れ合うことにより「将来、地域に帰って恩返ししたい」など地域への愛着や貢献意欲が高まり、地域計画や教員養成等の大学進学及び地元就職を考えている生徒数が増加している。

## ● その他

連携先:北広島町立芸北つくし保育園、さつきヶ丘保育所、北広島町立芸北小学校、北広島町立芸北中学校、中央大学ビジネススクール、北広島町農山村体験推進協議会、北広島町役場、一般社団法人 芸北道場、認定NPO法人西中国山地自然史研究会



「地域の方から伝統芸能を学んでいる様子」



部活動支援「競技スキー」の様子

こんな活動です

# 学校は子どもと住民の学びの共同体 —「地域交流室」を中心に学校をデザインする—

山口県長門市		●活動名 学校と地域をつなぐ協議会				●関係する学校名 長門市立油谷小学校	
協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	123 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	—			1人			
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成20年4月1日設置			260人			
参考URL	—						
●連絡先	長門市教育委員会生涯学習スポーツ振興課			☎	0837-23-1259		

## 体制図



●活動の概要・経緯  
平成20年から学校運営協議会を設置して10年を経過。また平成24年から公民館を軸に、子どもの育成に係る団体や個人が柔らかなネットワークを組んで、地域総がかりで子どもをはぐみ育てる「地域協育ネット」に取り組んできた。その結果として学校運営協議会(学校)と油谷地域協育ネット(公民館)とは車の両輪として、学校支援・学校運営に関わって成果を上げてきた。そうした中で平成27年9月に学校を改築した際、「地域交流室」を設置し、ここを拠点に「単なる学校支援を超え、学校と地域との連携・協働—学校を核とした地域づくり(スクール・コミュニティ)—」へとバージョンアップしていくこととなった。これまでのキャッチフレーズ「学校・教師100%+地域の力20%=120%で子どもを育てる」に加えて「学校を子どもと住民の学びの共同体にする」取組を展開。特に学校を舞台にして「地域と願いを共有し、共に響き合うトライアングル型まちづくり事業」を展開してきている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①多様で多くの応援団員による多彩な学校・教師・子ども支援:地域住民(107人)、おやじの会(13人)、スマイル母の会(16人)合計136人による補充学習、授業補助、個に応じた個別学習、校外学習、学校行事、環境整備、さわやかあいさつ運動、登下校安全、サマースクール等での支援②おしかけふれあい塾:公民館サークルが学習の成果をもって学校へ。給食を共にして昼休みや授業を通して子どもたちとふれあう学校支援③「地域交流室」を中心に、単なる学校支援を超えて、学校を舞台に住民の学びの場にもした、地域活性化への取組(少子・過疎・高齢化の波の中で、学校・地区社協・公民館が中核となって「地域と願いを共有し、共に響き合うトライアングル型まちづくり事業」を展開。その中心事業が「子どもと学ぼう&カレーライスとサロンの日」である。)

### 【実施に当たっての工夫】

一番の願いは、多くの住民が気兼ねなく楽しく、どんどん学校を訪れられるようにすることである。10年間の歩みの中でそのための手立てが幾つか見つかっている。①地域を知っている公民館がコーディネーター役となり、学校への「出番」と「役割」を準備し、楽しさや有用感に訴え学校へと誘う(まずは地域で得意技を持つ方々が有効)②物事が習慣化する3要因「感情」「行動」「認知」の内、一番大切なことの感情:「楽しいだろうな」と思ってもらえるように仕組む③そして学校教職員は支持的風土をもって住民が行動:「楽しかった。また行ってみたい」と思ってもらえるように仕組む④さらに地域に役立っている自分が意識化できるように実践を「見える化」し認知:「価値あることなんだ」へと誘う⑤きめ細かく顔の見える案内・対応⑥住民の意識に合わせてバージョンアップした事業の展開⑦月1回のコーディネーター会議の開催(P-D-C-Aサイクルの重要性)等々。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

①公民館が中心となり一ータルコーディネートすることで、多くの住民が学校に集うようになってきた。②住民は「学校は地域の中にあり、学校の課題は地域の課題でもある」という意識に、反対に教師には「学校は地域の中にあり、地域の課題は学校の課題でもある」という意識が芽生えてきた。③学校へ行くのは「ねばならないから」「必要だから」ではなく、「楽しいから」へと変化してきている。④学校を核(舞台)にした地域づくりの取組は住民サイドが連携・協働して企画・運営しており、自立した地域社会の基盤の構築や活性化に寄与している。⑤教師は100%で子どもの教育に専念できる体制ができ、教師の働き方改革に寄与している。⑥子どもたちの現在のみならず、将来大人になったとき「どんな力を備えていて欲しいのか」を見据えた、支援や地域づくりの取組になってきている。

## ●その他

この「学校を子どもと住民の学びの共同体に」の取組は、山口県が推進する「やまぐち型地域連携教育」の具現化の一事例として位置づけている。今後は、これを発展させて「小中一貫の取組」へとバージョンアップさせていくことの重要性を認識し、取組を始めている。



子どもも大人も一緒に読めるような外国語活



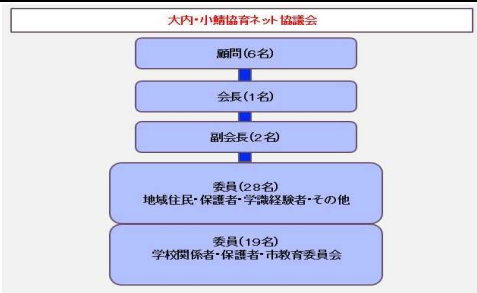
油谷小レストラン(地域交流室)のカレー

こんな活動です

# 「あたりまえ10箇条」を基に、「ふるさとを愛し、あたりまえのことがあたりまえにできる子どもたちを、地域ぐるみで育てよう」

山口県山口市		●活動名 大内・小鯖協育ネット			●関係する学校名 山口市立大内中学校 山口市立大内中学校氷上分校 山口市立大内小学校 山口市立大内南小学校 山口市立小鯖小学校		
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	84 学級	のべ児童・生徒数	2177 人
活動区分	学校支援活動 地域未来塾	地域課題解決学習	放課後子供教室	地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 —	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成24年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 344人	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="https://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ouchi-i/">https://www.yamaguchi-ygc.ed.jp/ouchi-i/</a>						
●連絡先	山口市立大内中学校		☎ 083-927-0024				

## ●体制図



大内中学校校区は、周囲を山に囲まれ、大内、小鯖および仁保の一部からなり、防府市に隣接している。校区の広さは、東西約10kmで、ほぼ中央の丘陵に中学校がある。以前は校外の閑静な田園地帯であったが、昭和50年代にベッドタウンとして急速に発展し、現在では約25,000人の人口を抱える地区である。本校区はこれまでも、地域が一体となった「まちづくり」を推進してきており、そのネットワークを基盤とし、これまでの活動をさらに深化・発展させていくため、平成26年度「大内・小鯖協育ネット」として小中連携を核とし、各地域交流センターやまちづくり協議会などの支援団体と協力しながら発足した。その後、公立・私立の幼稚園・保育園を加え、子どもたちが考えた「あたりまえ10箇条」を基に、「ふるさとを愛し、あたりまえのことがあたりまえにできる子どもたちを、地域ぐるみで育てよう」のスローガンを掲げ、15年間の子どもたちの学びや育ちを地域総がかりで支援しながら地域と学校・保護者が連携・協働している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

#### 【特徴的な活動内容】

- 学校の教育活動を様々な面から支援しているが、その主な活動内容は次のとおりである。
- 学習支援：地域の史跡・歴史学習、保育体験学習、定期試験前、長期休業中の学力向上教室（地域未来塾）、道徳・キャリア教育授業、本の読み聞かせ、立志式への協力など。
- 安全支援：登下校時の見守り、地域学習時の見守り、朝のあいさつ運動、学校内外の見守りなど。
- 環境支援：通学路の清掃、学校内の環境整備活動、学校内の環境美化活動（トイレや流し台へ生け花を置く活動）、図書室の本の整理など。
- 地域防災：地域住民と行政との連携による大規模災害に備えた「地域防災キャンプ」の実施にむけた準備。（令和元年度実施予定）
- 地域貢献：地域ボランティア活動への中学生の参加（地域まつりへの参画、鮎の放流活動、トウモロコシの苗植え、幼稚園児・保育園児のためのひまわりの花による迷路づくり、地域住民とタイアップしての募金活動）

#### 【実施に当たっての工夫】

学校が抱える課題や要望は、大内・小鯖協育ネットの会長を通じて、協育ネット協議会委員やコーディネーター（地域学校協働活動推進員）に伝えられ、共有した上で、改善策や支援活動が検討される。そして、迅速に対応する体制が整えられている。また、年3回開催される協育ネット協議会では事前会議を設け、会長同席の下、より綿密な議論が行われるようにしつかりと準備が行われる。毎回の協育ネット協議会には、教育委員会から指導主事、社会教育主事、地域連携教育エリアアドバイザーの出席の下、的確な助言をいただいている。また、3回目の協育ネット協議会では、中学校の生徒会役員、生徒会担当教諭、地域連携担当教諭も交えて、「あたりまえ10箇条」や「あいさつ運動」について、1年間を振り返る意味をもつ熟議も継続して行っている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

大内・小鯖協育ネットでは、本年度マスコットキャラクター「ひかりひめ」の名称決定、クリアファイル配布に加え、「あたりまえ10箇条」を基にした大内・小鯖地区における幼保小中連携カリキュラム（育ち・学びにおける共通実践目標）を作成し地区内に全戸配布した。

本中学校区は前述のとおり地域全体で子どもたちの15年間の学びや育ちを支援するという意識が強く、小中学校、幼稚園・保育園、各地域交流センター、各支援団体による連携・協働だけでなく、高等学校や事業所の支援も得られるようになってきている。そのことによって、子どもたちには、地域に育てられているという実感が芽生え、地域住民からも、この子どもたちが将来はこの地域を背負っていくのではないかと期待されている。また、地域による学校支援活動の充実が、学校による地域貢献へと結びつき、地域と学校の信頼関係がより一層深まっている。この共通実践目標達成のための取組を具現化し、さらに本活動の深化・発展を図っていきたい。

## ● その他

活動主体が、大内・小鯖協育ネット協議会委員が中心で、組織を中心とした地域の当事者意識の醸成の拡大が急務である。また、萩山口信用金庫と作成した幼保小中連携プログラム（育ち・学びにおける共通実践目標）の周知をし、地域全体でどのように具体的な取組として進めていくかが課題である。



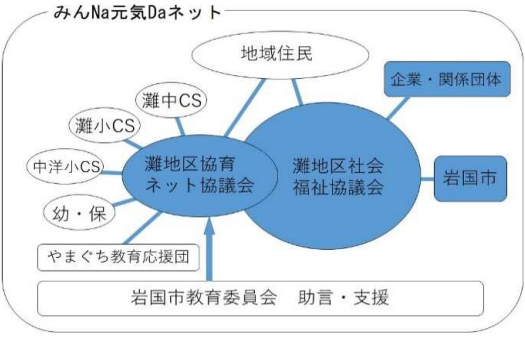
あいさつ運動強調週間



学力向上教室（地域未来塾）  
高校生の参加もスタート

こんな活動です

# 地域と学校の連携・協働で、みんなが元気に！

山口県岩国市		●活動名 みんな元気Daネット				●関係する学校名 岩国市立灘中学校 岩国市立灘小学校 岩国市立中洋小学校				
協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	38 学級	のべ児童・生徒数	790 人	●体制図 みんな元気Daネット 		
活動区分	学校支援活動	—			地域人材育成					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数					
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有			
参考URL	<a href="https://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/nada-i/">https://www.edu.city.iwakuni.yamaguchi.jp/site/nada-i/</a>									
●連絡先		岩国市教育委員会生涯学習課			☎ 0827-29-5210					

●活動の概要・経緯  
灘中学校区の地域協育ネット協議会(みんな元気Daネット)は平成25年8月に設立し、中学校の学校運営協議会を核として小学校、社会福祉協議会、地域出張所、小中の保護者代表、地域の学識経験者等で組織し、地域全体で子どもたちの成長を支援している。「学びの部会」、「こころとからだの部会」、「つながりの部会」の3つの部会があり、育てたい児童・生徒像である「灘の地域を愛し、地域からも愛される灘の子どもたち」の育成に向けた活動を行っている。具体的には「学びの部会」では、学習支援や読書活動の推進、「こころとからだの部会」では、あいさつ運動や登下校の見守り、「つながりの部会」では、小中学生と地域住民がともに行う地域の海岸清掃などに取り組んでいる。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 地域一斉のあいさつ運動(月に一度、協議会に所属している団体が一斉にあいさつ運動を行う)
- 青木海岸一斉清掃(毎年「海の日」に合わせて、小中学生と地域住民と一緒に海岸清掃を行う)
- 灘地区公民館祭りへのボランティア参加(中学生による運営の手伝い、琴の演奏、地域住民の作品展示の手伝いなど)
- 放課後宿題サポート(学力向上と登校しぶりの解消に向け、小学生を対象に学校支援ボランティアが宿題の手伝いを行う)
- 地域住民による道徳の授業への参加(小学校)

### 【実施に当たっての工夫】

中学校の学校運営協議会委員が、地域と学校のコーディネーターとして、子どもや地域の実態に応じた活動を計画しており、様々な交流が無理なく行われている。地域協育ネットへの参加団体は学校を含めて36団体あり、学校課題の解決が地域住民のネットワークを活用することで可能になることも多い。地域住民が率先して樹木の剪定や草刈りを申し出る「灘中学校をきれいにする会」の活動を子どもたちが知ることは、生徒会を中心とした学校周辺のごみ拾いなどのボランティア活動の活性化にもつながっている。また、学習ボランティアへの支援要請や礼状の発送等を公民館等を通してコーディネーターが行っているため、学校・教職員への負担も少ない。そして、これらの活動を公民館だより等に掲載することによって「地域ぐるみで子どもを育てる」という地域住民の意識も高まっている。

### ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

児童・生徒は、ほぼ毎日の登下校を地域の方に見守ってもらっており、感謝の気持ちをもっている。また、中学生が公民館祭りの運営に携わることで、文化活動に取り組んでいる大人の存在に気づくとともに、地域の伝統や文化を守ることの大切さにも目を向けることができるようになった。このような地域住民との関わりを通して、「地域のために自分たちにもできることはないか」と考える生徒が増えた結果、「青木海岸一斉清掃」への中学生の参加は全校生徒の7割(約200名)を超えるまでとなった。

このように、地域と学校が連携して行う様々な活動から児童・生徒と地域住民を結ぶ絆が生まれ、地域の宝としての学校づくりに大きく貢献している。

### ●その他

本ネットの大きなねらいは「あらゆる面から地区の学校づくりを応援すること」と「ネットでの活動を通して地域づくりを推進すること」の2つである。「学習支援」などの学校支援活動と地域の海岸清掃などの地域貢献活動を企業・団体とも連携・協働しながら、一体となって推進することで、「学校づくり」、「地域づくり」をさらに進めていく。



地域住民の休業中のボランティアによる学習支援



超地域の海岸清掃に200名を参加

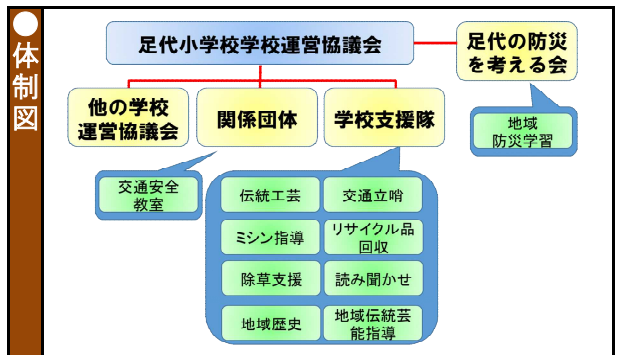
こんな活動です

# 地域がつながるCS活動

徳島県東みよし町	●活動名 足代小学校運営協議会	●関係する学校名 東みよし町立足代小学校
----------	--------------------	-------------------------

協働活動開始年	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	106 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	—	地域学校協働活動推進員等の数	2人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	—	延べ登録人数	151人	企業・NPO等との連携	無
参考URL	<a href="http://h-miyoshi.ed.jp/ashiro">http://h-miyoshi.ed.jp/ashiro</a>						

●連絡先	東みよし町教育委員会 学校教育課	☎ 0883-79-3630
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

東みよし町のコミュニティ・スクール(CS)の原点は「地域の子供は地域で育てる」であり、「この町が好き」と言える子供の育成をめざしている。足代小学校のCSが始まって6年がたつ。開始にあたっては、それまで行っていた学校独自の活動を整理するとともに、CSが始まる前から伝統的に行ってきた諸活動をCSとしての計画的な活動へと移行し、学校支援隊による活動へと発展させている。特に、交通立哨においては、安全見守り隊特別班を結成し、登校時の道路横断などの安全監視を毎朝欠かさず行ってくれている。また、地域と連携した防災学習を行うなど、CSの活動を通して、地域と学校、子供たちのつながりがさらに強まり、そのつながりが恒常的なものとなり、地域と学校が一体となって子供たちを育てようとする気運が醸成されている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「地域の子供は地域で育てる」の共通認識により結成した安全見守り隊特別班による子供の見守り活動
- ②地域の伝統芸能である「獅子舞」の地域保存会の協力による継承活動、及び各種行事やイベントでの発表を通じた地域の活性化に向けた活動
- ③家庭科でのミシン指導や音楽科での和楽器指導など、地域の教育力を活用した教育支援活動
- ④地域の主産業であった蚕の飼育を体験、繭を使った工芸作品づくりを通じた地域学習
- ⑤「足代地域防災を考える会」とコラボし、地域住民と一体となった防災訓練及び防災学習の実施

### 【実施に当たっての工夫】

- これまで地域と学校との伝統的な関わりの中で行われてきた活動をCS活動へと移行させることにより、組織的かつ計画的な活動となり、「新たに何かをはじめる」という教職員の心理的負担がないようにしている。特に、毎朝の登校時の見守り活動を安全見守り隊が受け持つことで、教員は余裕をもって、校内で子供たちを迎えることができるようになった。
- 地域の防災組織と協働で地域防災学習を行うことにより、子供たちが果たさなければならない役割を自ら考え、積極的に関わることのできる活動となっている。学校と家庭や地域との防災に対する意識の差が解消され、地域ぐるみで防災活動に取り組む意識が高まっている。
- 学校支援隊の方を紹介する掲示物を設置することにより、子供たちはもちろん、来校者に対してもCS活動の良さを伝えるようにしている。
- 事務職員及び配置された事務補助員がCS活動の外部との連絡調整の窓口の中心となり、教員の負担軽減を図っている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 地域の人にあいさつをする習慣が確立し、地域の方に元気を届けている。
- 学校だけでなく地域を巻き込んだ防災学習は、地域の人にとって、地域にどんな子供たちがどのくらいいるのかを、実感する貴重な機会となっている。
- 同じ人が、交通立哨、読み聞かせ、書写指導、ミシン指導等、複数の活動に参加しているため、日々の子供たちの成長を直接に伝えてくれることが、子供たちのよりよい成長につながっている。
- 教職員ではカバーしきれない内容を指導してくれるため、時間の効率化も図れ、教職員の働き方改革にもつながっている。

## ● その他

足代地域では住民の学校教育に対する期待も大きく、学校の活動に大変協力的であり、以前から学校を応援してくれている人材をコミュニティ・スクール・学校支援隊へと発展させたため、継続的な活動が無理なく行われている。



ミシン指導（左右）と書写指導



一（防災学習での避難所開設訓練）緒に運動）子供たちが考案し、

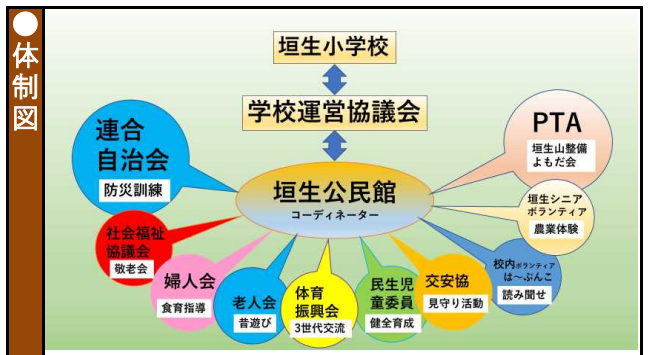
こんな活動です

# 地域と学校が連携「たくましい垣生っ子を！」 ～多くの地域ボランティアの力を集めて～

愛媛県新居浜市	●活動名 垣生校区学校支援地域本部	●関係する学校名 新居浜市立垣生小学校
---------	----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	11 学級	のべ児童・生徒数	241 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年3月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 140人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	<a href="http://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/habukou/">http://www.city.niihama.lg.jp/soshiki/habukou/</a>						

●連絡先	新居浜市立垣生公民館	☎ 0897-45-0186
------	------------	----------------



●活動の概要・経緯  
子どもの健全育成に関わる既存の組織や学校教育活動を支援している団体や個人の上に地域総がかりで子どもを育てるという「学校支援地域本部事業」を母体に、公民館がコーディネーター役をし、学校と地域・関係団体をつないで活動している。公民館は、地域の多くの人たちが「集い」「学び」「むすぶ」役を担っている。そこで、公民館が中心となり既存の公民館運営審議会を活用し、「地域協力会議」を設置した。垣生小学校と地域や関係団体とのつながりは「学校運営協議会」事務局及び担当教員と公民館とで緊密に連携会議を開催し、少しでも実働的な活動になるように取り組んでいる。放課後子ども教室では、児童からのアンケートから出来るだけ希望に沿った活動を実施している。また、夏休みには素麺流しを教員も含め開催したり、3学期には卒業記念行事として保護者・教員・地域のボランティアにより餅つき会を開催したりと、学校内での学習では学びにくい多様な体験活動を積極的に計画している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ① 「垣生シニアボランティアチーム」や婦人会、様々なボランティアからなる読み聞かせ活動等、幅広い人材により活動を展開している。
  - ② 5・6年生児童には、大人社会へ踏み出すための講話集団「陸伍団」を結成し、幅広い体験談（海外青年協力隊や警察OBによる講和、歴史文化等）聞き取り活動を実施している。
  - ③ 放課後子ども教室では、多様な学習機会の確保するため、地域と触れ合う機会を作るなど特徴ある活動を展開しており、公民館利用サークルとの交流、地域の指導者による講習会などを積極的に実施している。
  - ④ 男性料理教室では、教員を招待し、日頃から地域と教職員との触れ合いの場を作り、円滑な活動となるような工夫をしている。
- 【実施に当たっての工夫】

公民館が中心になり、コーディネーター役を担うことで、多様な人材や活動団体を学校教育諸活動につなげることができ、より効果的な学習活動を計画することができる。既存の学校支援ボランティアだけではなく、公民館で活動している社会教育関係団体や生涯学習グループ、地域のボランティアチームをつなぐことで、多様な学習支援ボランティアの選択が可能となっている。支援要請文書や礼状などは、公民館が事務局の役割を果たすことで教職員の負担軽減にもなっている。公民館がコーディネーター役を担うことで「地域総がかりで子どもを育てる」という活動をより効果的に実施できている。また、活動内容等を公民館報「垣生だより」で毎月取り上げ、地域住民への啓発に努めている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民や生涯学習グループ、教育関係団体の方々ボランティアに登録し、今まで以上に学校教育諸活動に関心を持ち、学校支援に関わっている。また、子どもたちと活動することで、「子どもたちから逆に元気もらっている」とやりがいを感じている。学校支援に関わる地域の方が、学校外（街など）で子どもたちに声を掛けられ、喜んでという声を多く聞く。また、顔が見える関係を築くことで、子どもと地域住民相互の安心・安全の確保につながっている。

## ●その他

放課後の子どもの居場所づくりとして、教員OBや生涯学習グループ、各種団体が一緒になって「垣生放課後まなび塾」、「垣生校区放課後子ども教室」を開催している。月・水・金曜日は学習支援、隔週水曜日に、卓球・軽スポーツ・調理など多様な体験活動を計画している。



の種  
農  
業  
の  
植  
え  
つ  
け  
か  
ら  
収  
穫  
ま  
で



作地  
域  
住  
民  
と  
一  
緒  
に  
放  
課  
後  
子  
ど  
も  
教  
室  
）  
キ

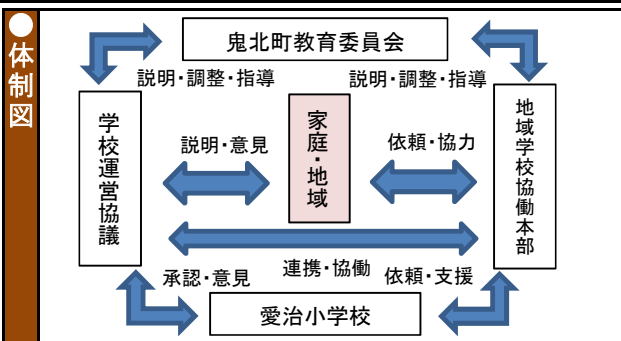
こんな活動です

# 地域とともにある学校づくりを目指して

愛媛県鬼北町	●活動名 愛治小学校区地域学校協働本部	●関係する学校名 鬼北町立愛治小学校
--------	------------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成28年度	関係学校数	1校	のべ学級数	4	のべ児童・生徒数	26人
活動区分	学校支援活動		—		—	地域人材育成	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	—	1人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	—	延べ登録人数	61人	企業・NPO等との連携	無
参考URL	<a href="https://aiji-e.esnet.ed.jp">https://aiji-e.esnet.ed.jp</a>						

●連絡先 鬼北町教育委員会 教育課 文化スポーツ係 ☎ 0895-45-1111



●活動の概要・経緯  
愛治小学校は、平成28年度にコミュニティ・スクールに指定され、同時に地域学校協働本部を導入した。以来、この2つの仕組みを学校経営の柱として「地域とともにある学校づくり」を進めている。

○学校支援活動

稲作・サツマイモ・野菜・花の栽培活動の支援、こんにやく栽培・こんにやく料理の支援、森林教室・水質調査・茶道教室の支援、しめ縄作り体験活動の支援、生活科・社会科見学・福祉活動の支援、環境整備活動、児童の登下校の見守り活動

○地域人材を活用した教育支援活動

愛治地区PTA研究集会(学校・地域が連携して授業参観・講演会を実施)の支援、愛治地区に保存継承されている五ツ鹿踊り・愛治ちんどんの体験学習支援、愛治地区で活躍されている方々の生き方学習(キャリア教育)の支援

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

① 緑の少年団活動の一環として稲作(餅米)体験(3年生以上)、サツマイモ作り(1~4年生)、こんにやくいも作り(5・6年生)、森林教室(5・6年生)、北宇和高等学校連携学習(野菜・花:1~4年生)を総合的な学習の時間等に行っている。稲作体験では、田植え・稲刈りを地域の方の協力により実施し、収穫した餅米で餅つきを行い地域のお世話になった方々に配っている。こんにやくいも栽培では、種芋の植え付け・収穫・料理を地方局産業振興課・町農林課・地元の食育団体等の協力を得て実施している。

② 平成30年度で36回を数える愛治地区PTA研究集会では、参観授業後学校と地域が連携して講演会等を実施している。昨年度は愛媛大学名誉教授をお呼びし「南海トラフ巨大地震に備えて」の講演会を実施した。また、愛治地区の伝統文化の体験活動、愛治地区で活躍されている方々の生き方学習(キャリア教育)を行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

鬼北町教育委員会では、地域コーディネーターを雇用して愛治小学校に配置している。地域コーディネーターは、学校から見学や体験活動、講師を招く活動依頼等を受け、担当者と打合せ・交渉・調整・交渉・調整・当日及び事後の対応を行っている。学校教職員は、より一層教育活動に専念でき、児童と向き合う時間も多くなった。また、年5回の学校運営協議会にも出席し、学校運営協議会と地域学校協働本部の連携・協働の機能の向上に努めている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

事業の導入により、授業等でのゲストティーチャーの活用や地域との連携・協働がスムーズに行えるようになった。また、学校と地域のつながりが一層深まるとともに、栽培活動、地域の伝統文化、地域で活躍している方々の生き方学習等様々な地域の人たちとの交流活動を通して、児童が地域のよさを実感できてきていると感じる。

地域と学校がより近い存在になり、地域の方々が主体的・自主的に学校に協力し、児童との交流を楽しみにしている人たちが増えてきた。地域コーディネーターの配置により教職員の多忙感が減り、子どもと向き合う時間が増えてきている。

## ●その他

平成30年度は、地域から「手作り環境保全看板作り」の要請があり、全校児童で取り組み愛治地区の6か所に地域の方と児童で看板を設置した。学校からの協力要請だけでなく、学校も地域に協力していく双方向的な活動も学校運営協議会等で意見を聞きながら今後も進めていきたい。



地域の方と「こんにやく料理を  
使った味わい室ました。料理を  
みんなで作りました。



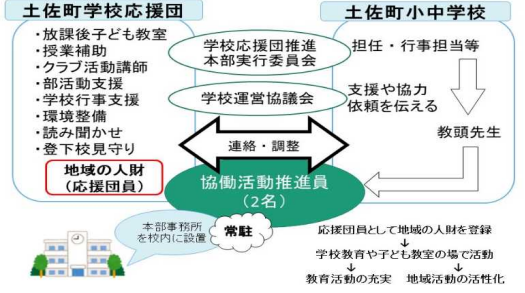
愛治地区の伝統芸能「五ツ鹿踊り」を保存会の方から伝

こんな活動です

# みんなで育てる町の宝 —できる時に、できる人が、できる事を—

高知県土佐町		●活動名 土佐町学校応援団推進本部			●関係する学校名 土佐町立土佐町小学校 土佐町立土佐町中学校		
協働活動開始年度	平成 21 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	231 人
活動区分	学校支援活動		—		—		
	—		放課後子供教室		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		2人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成25年4月1日設置	—	183人	—	—		
参考URL	<a href="http://www.town.tosa.kochi.jp/publics/index/106/">http://www.town.tosa.kochi.jp/publics/index/106/</a>						
●連絡先	土佐町教育委員会事務局			☎ 0887-82-0483			

●体制図



●活動の概要・経緯

土佐町学校応援団推進本部は、地域の学校、地域の子供を大切にしたいという想いから発足し、“できる時に、できる人が、できる事を”をモットーに、学校内に専用事務所を設置し、地域人財を応援団員として登録、協力を得て、学校だけでなく地域ぐるみで子供を育て見守る活動を行っている。土佐町学校応援団推進本部実行委員会を設置し、学校教育への支援及び放課後子供教室の実施について定期的に協議を行い、地域学校協働活動推進員を配置する事で多くの地域住民が参画できる体制づくりに取り組んでいる。

また、地域住民が子供たちと一緒に通常授業を受けることができる生涯学習学校を開校し、子供たちへの多様な学びと体験の提供のみでなく、地域住民への生涯学習の場としての役割も担っている。

●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①放課後及び学校休業日での放課後子供教室において、多様な体験型学習活動を企画することで充実した放課後活動を展開する。
  - ②郷土愛を育むことを目的に、地域の特産食材を活用した料理教室を行う食育活動の取り組み。
  - ③廃校を活用し、地域の高齢者と物作り等を通じた交流や川遊び、アメゴのつかみ取りなど非日常的な体験活動ができるサマースクールの実施。
  - ④地域の高校生の参画による学習支援の実施。
  - ⑤民生児童委員との定期的な情報交換と連携による見守り体制づくり。
  - ⑥地域学校協働活動推進員が学校運営協議会委員を兼務することで、情報共有と連携を図る。

【実施に当たっての工夫】

協働活動推進員がキーパーソンとなり、校内に設置した専用事務所で活動することで、効率的に地域と学校が連携、協働することができ、多様な学校教育活動への支援や提案を行える。

学校支援については、学校と協働活動推進員、支援を行う応援団員が支援体制や方法等十分に協議し、質の高い学校教育活動へと繋げる。

町の広報紙への掲載や毎月の「学校応援団だより」を発行することで、応援団員や保護者に対して協力依頼や報告など広報活動を積極的に実施している。

町内の他組織へ呼びかけ協力依頼を行うことで、幅広い住民に活動を知ってもらい、地域人財の確保に繋げている。

民生児童委員と連携することで、登下校等の見守り活動の強化を図っている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校内に専用事務所があることで地域学校協働活動推進員は学校のニーズの把握や教職員との連携をスムーズに行えることにより、地域教育等の授業を行う際は希望にかなった地域人財を紹介してもらい授業内容の充実が図れた。常に大勢の地域住民との関わりを通じて、コミュニケーション能力の向上に繋がるとともに社会性を学ぶ機会となっている。保護者から日頃家庭ではできない体験が放課後子供教室で受けることができ、学校外でも充実した教育活動の機会が有難いという声があった。また、学校応援団員として、自らの経験や特技を子供たちに教えることで、自己存在感が高まり、生きがいを追求する地域の方も増え、町全体の雰囲気明るくなるとともに継続的な事業の実施に繋がっている。また、子供たちの学習指導にあたることで、地域住民にとっても学び直しの機会となった。

●その他

放課後子供教室(夏休み期間中)では、廃校を活用し、地域高齢者と交流やアウトドアアクティビティに取り組んでいます。応援団として食生活改善推進協議会のメンバーの協力を得て、食育学習と郷土愛を育む取り組みに取り組んでいます。



地域の特産“れいぼく八菜”を使ったピザ作り



サマースクールでのアメゴつかみ取り



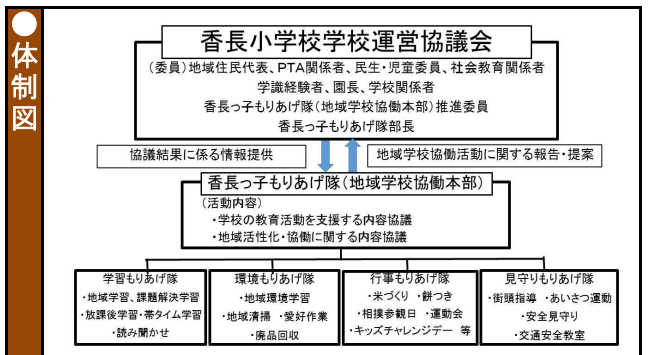
こんな活動です

# 子どもが輝く学校づくり！ 笑顔と活気があふれる地域づくり！

高知県香美市	●活動名 香長っ子もりあげ隊	●関係する学校名 香美市立香長小学校
--------	-------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	76 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	<a href="http://www.fureai-cloud.jp/kacho-e/">http://www.fureai-cloud.jp/kacho-e/</a>						

●連絡先 香美市教育委員会 教育振興課 ☎ 0887-53-1081



●活動の概要・経緯

地域の方々の長年にわたる、学校を守り地域の子どもたちはみんな育てようとの思いに支えられ、保護者・地域・諸関係団体の支援をいただきながら学校教育活動を推進してきた。平成25年、「より広く学校を支援する」ことを活動の中心に「香長小学校支援地域本部」をスタート。平成29年、香長の目指す「香長っ子の姿」について熟議を重ね4つの視点から決定。より香長として特色ある取組の実現に向けた話し合いを進める中で、地域学校協働本部のネーミングを「香長っ子もりあげ隊」と決め、4つの部会(学習もりあげ隊、環境もりあげ隊、行事もりあげ隊、見守りもりあげ隊)を設置した。平成30年、「子どもが輝く学校づくり！笑顔と活気があふれる地域づくり！」を目指して「香長コミュニティ・スクール」をスタートし、笑顔あふれる多様で継続的な活動の実施に取り組んでいる。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①多彩な学習支援: 地域学習, 地域課題解決学習等に, コーディネーターが多様な人材を学校教育活動につなげ子どもたちの豊かな学習を支えてくれると共に教職員の負担軽減にもなっている。
- ②確かな学力支援: 放課後学習, 帯タイム学習に常時学習ボランティアの支援があり, 子どもたちの学力定着の場を設けることができる。
- ③みんなで行事支援: 保護者だけでなく, 老人クラブ, 公民館活動員, 防災関係者等地域みんなで学校行事を支援, 子ども・教職員も地域の行事に参加し, 共に地域・学校の活性化を目指している。
- ④笑顔いっぱい支援: 子ども笑顔輝くところに活気あふれる地域があるとの思いで取組を継続・改善・創出。〈街頭指導30年, 読み聞かせ15年, 朝食づくり教室, 相撲参観日, 桜の木卒業記念植樹, 香長っ子見守りステッカー車に貼付等〉

### 【実施に当たっての工夫】

- PTAのOBがコーディネーター役を担うことで, 歴代のPTA会長を中心とした支援ボランティアグループに学校教育活動に参画してもらうことができ, より効果的な学習活動の実施と共に, 香長っ子は地域で見守り育てようとの思いを広げることにつながっている。
- 香長の目指す子ども像について地域・保護者に広くアンケートをお願いし, CS設置委員会で熟議を重ねることで育てたい子ども像が明確になり, より子どもたちの実態に合った多様な活動を計画・実施することができている。
- これまでの長年にわたる地域の温かい支援活動を継続しながら, 「地域との協働」「熟議」を活動の中心に据えて取組を拡充することで, 無理なく楽しみながら活動の輪を広げることができている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 学校教育活動に多くの地域の方々に関わっていただくことで, 子どもたちは, 地域の方々の地域に対する深い思いや取組・願いを知り, 自分たちの地域に誇りを感じると共に自分たちも地域のためにできることをしたいとの思いを膨らませ, 自信を持って活動する姿が見られるようになってきた。
- 学校とは縁遠くなっていた方々も学校教育活動に関心を持って支援に関わってくれるようになり, 子どもたちと一緒に活動することで「明るい気持ちになってもっと協力したくなる。」「子どもたちの成長が楽しみ!」と, 地域の子どもをみんなで見守ろうとの輪が広がっている。
- 子どもたちの地域活性化に向けた取組に触発され, 地域の活動団体が新たな取組を開始! 子どもたちと共に進めている。

## ●その他

- 毎年子どもたちは「香長のすてき!」を伝える発表会を実施! 参観者が保護者だけでなく地域に広がり増加してきている。
- 本校が避難所になることを通して自主防災組織とも連携が進み, 地域と共に避難訓練実施につながっている。



と域相一  
力の撲相  
が皆場撲  
入りさん参  
ります観  
ますもっ日  
す、てー  
。応くだ  
援ださっ  
に審た  
判地

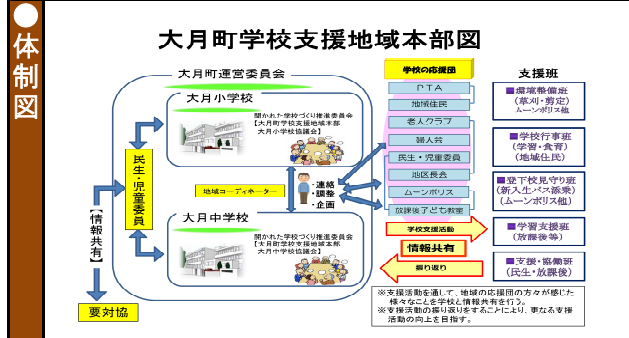


り地朝  
み域食  
んな方  
なづく  
なづく  
でり  
いた一  
だ緒  
だ教  
だ室  
き朝  
ます食  
。す  
つく

こんな活動です

# みんなで育てる大月の子ども —生きる力を持った大月っ子の育成—

高知県大月町		●活動名	大月町地域学校協働本部		●関係する学校名	大月町立大月小学校 大月町立大月中学校	
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	261 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			
	—			2人			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	令和2年4月1日設置予定	201人					
●連絡先	大月町教育委員会		☎ 0880-73-1118				



大月町では、平成21年度に町内9校を1校に統合し大月小学校が開校した。子どもたちの多くは約20分かけてのスクールバスでの登下校となり、帰りのバスの時間まで学校で過ごす放課後の時間帯の子どもたちの安全、安心な居場所づくりが重要な課題であったため、開校と同時に放課後子ども教室を開設した。以前から、総合学習のイベントや、環境整備、読み聞かせ等で、地域の方の支援をいただいていた。これらの活動の発展を考え、平成28年度に学校支援地域本部を設置し、更なる地域連携を目指した体制をスタートさせた。

平成29年度に、高知県版地域学校協働本部のモデル校となり、これまでのさまざまな活動を5班の支援班に組織して、活動の充実を図るとともに、地域による子どもたちの見守り体制を強化した取り組みを行っている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学習支援(1年加力学習):週2日(1日あたり1時間)×80回
- 地域未来塾(放課後加力):中学校対象 夏休み等 10日【1日2～4時間】
- 家庭科実習支援:裁縫学習 10日
- 環境整備:7月に斜面の草刈り 剪定 年2～3回
- 登校の見守り:月～金 年200回
- 読み聞かせ:全学年対象に月曜日 朝の時間帯に実施 年17回
- 地域活動:地域との合同防災訓練, 地域の文化・自然学習 年20回
- 行事支援:大月小フェス, 体育祭等 年20回

### 【実施に当たっての工夫】

- 平成29年度より新しい取組として、支援班を5班にわけ支援活動を行っている。
- 環境整備班(草刈り・剪定): PTA, ムーンポリス, 地域住民
  - 学校行事班(学習・食育): 民生・児童委員, 老人クラブ, 婦人会, 地域住民
  - 登下校見守り班(新生入生バス添乗など): ムーンポリス, 放課後子ども教室実行委員会
  - 学習支援班:放課後子ども教室実行委員会, 地域住民
  - 支援・協働班:民生・児童委員, 放課後子ども教室実行委員会, 地域住民

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ふるさと学習や体験活動等を通じて、大月の素晴らしい自然や歴史、食を含む伝統文化等、地域の方々の熱い思いと共に学びを広げるにより、子どもたちの自尊感情の高揚、郷土に対する愛着と誇りが高まっている。
- 環境整備、登下校の安全指導や地域コーディネーターとの連携等により、教師の負担軽減になっている。
- 様々な活動を地域の方と継続的・系統的に取り組むことができているため、子どもたちと地域の方との豊かなつながりが生まれ、周りから支えられているという安心感にもなっている。
- 民生・児童委員や地域の方々と学校の実情や子どもたちの状況等を共有していく中で、休日や地域の中での新たな情報も得る事ができるようになり、見守り体制が強化されている。
- 学校が地域により開かれた存在となり、協力者のやりがいや生きがいと共に、学校と地域が一体となって大月っ子をはぐむという気運の高まりが見られる。

## ● その他

長期休暇中(夏休み・冬休み)に民ちゃん食堂(子ども食堂)を実施。大盛況で予定人数よりたくさんの子どもたちが参加した。



郷土料理づくり



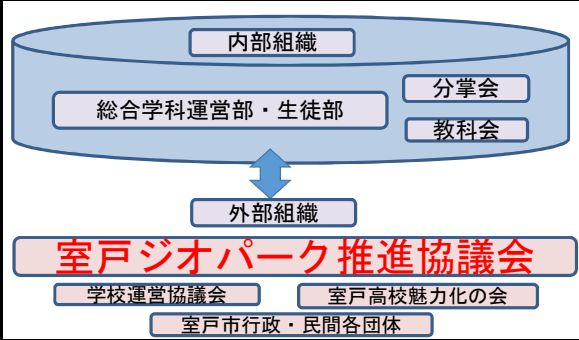
伝統を受け継ぐ太刀踊り

こんな活動です

# 持続可能な社会の担い手を育む教育の実践 — 室戸世界ジオパークとともに —

高知県室戸市		●活動名 室戸高校地域協働学習				●関係する学校名 高知県立室戸高等学校	
協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	93 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.kochinet.ed.jp/muroto-h/">http://www.kochinet.ed.jp/muroto-h/</a>						
●連絡先	高知県立室戸高等学校		☎ 0887-22-1155				

●体制図



●活動の概要・経緯

本校では、地域に信頼される学校づくりをめざし、ユネスコ世界ジオパーク認定地である室戸市と協働し、生徒会、ボランティア活動や地域活性化など学校をあげ地域貢献活動に取り組んできた。これらの活動をさらに充実・発展させるため、令和元年度から、文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の指定を受け取り組んでいる。特に、室戸ユネスコ世界ジオパークの持続可能な資源を活用し、ESDの視点で地域貢献につながる取り組みを実践している。生徒と地域が元気になり、世界ジオパークを通して日本国内だけでなく、他国と交流し、室戸のすばらしさを伝え、広める活動を通して、世界で活躍できる人材の育成を目指している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1 特色ある科目の設置 地域課題解決に取り組むことができる特色ある科目を設置して地域学習の機会を確保
  - (1) 産業社会と人間(1年次に室戸の魅力を理解することを目標に外部講師を活用した授業を展開)
  - (2) 統・産業社会と人間(2年次に地元企業で全員が職場体験を行い、地元の人との交流を深化)
  - (3) 課題研究(3年次に自分が興味関心がある分野の課題を見つけ、課題解決する)
  - (4) ジオパーク学(2年次に室戸ユネスコジオパークに関する課題を見つけ、課題解決する)
- 2 地域との連携 室戸ジオパーク推進協議会、学校運営協議会、地元企業、団体と協働し、教育を推進

### 【実施に当たっての工夫】

- 1 ジオパーク推進協議会、地元企業と連携し、授業に外部講師を招へい
- 2 知る・気づく・探究する・表現するという学習プロセスを徹底
- 3 企画したもの、考えたことは発表会を開催し、地域に広めて企画を実現につなげる
- 4 すべての教育活動を地域貢献につなげるという学校全体のスローガンの掲示
- 5 学校運営協議会、室戸高校魅力化の会等外部の応援団からの適切なアドバイスもらう
- 6 地域の大会場で総合学科発表会を実施し、各教科の代表が中学生や大人に室戸高校の取組を発表する機会も設定

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

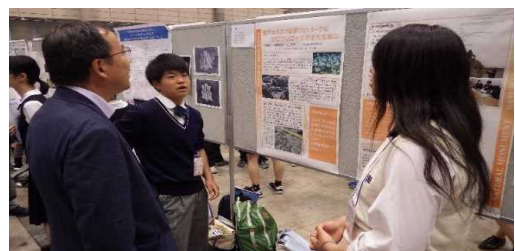
1年次から地域の魅力を知り課題を解決する学習活動を地元の方々の協力を得て行うことができた。2年次の「統・産業社会と人間」の授業に円滑に連結させるとともに、学校設定科目として開設している「ジオパーク学」の授業では、ジオパークを活用した課題解決学習をより発展させた。さらに3年次の「課題研究」では、生徒が自分で決めたテーマについて調査・研究し、様々な課題の解決に取り組み、その成果を発信することで、多様な他者との関わりの中で自己の将来の生き方や進路について深く考えることができています。生徒会活動や家庭クラブなどの特別活動、学校行事、地域行事への参加、部活動、教科など、すべての教育活動が地域の活性化に運動し、地域を元気にする源となった。

## ● その他

本年度は、室戸ユネスコ世界ジオパーク認定のために高校生の地域貢献活動を英語で発表した。また、地域の国際交流活動推進のために、マレーシアの高校生とジオパークの発展について協議するなど、海外交流を開始した。



の室戸ユネスコ世界ジオパーク  
現地調査



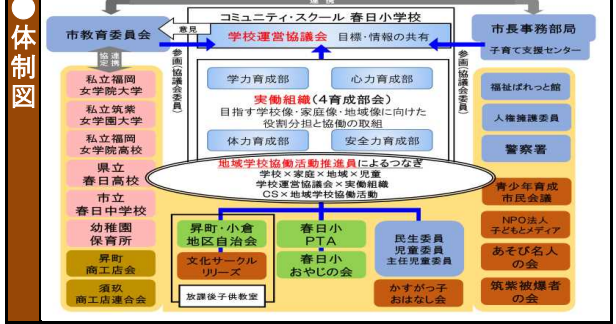
財全「に活ジ」に動オ「ーパ」につ「シ」い「ロク」て「ウ」学「リ」に「研」究「ガ」い「お」を「け」る「文」化「保」

こんな活動です

# 地域を愛し、たくましく生き抜く子どもの育成

～地域学校協働活動推進員がつなぐ、コミュニティ・スクールと協働活動の一体化

福岡県春日市		●活動名 春日小学校 地域学校協働本部		●関係する学校名 春日市立春日小学校	
協働活動開始年度	平成10年度	関係学校数	1校	のべ学級数	26学級
				のべ児童・生徒数	644人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成	
	—	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	
	—			6人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有
	平成20年4月1日設置		568人		
参考URL	<a href="http://www.kasuga-school.com/">http://www.kasuga-school.com/</a>				
●連絡先	春日市教育委員会 教育部地域教育課こども共育担当		☎ 092-584-1111		



●活動の概要・経緯  
平成10年度、「地域に開かれた学校」を目指す学校経営方針に賛同した保護者有志が、文化サークル・リーズを結成し、学校施設開放事業を活用した活動を開始。参加者を地域へ拡大し、現在は放課後子供教室として活動を継続。20年度、コミュニティ・スクール(CS)を導入し、実働組織を設置。29年度、地域学校協働活動推進員(推進員)を設置。  
CSを基盤として教育目標及び情報を共有し、その他協働活動と方向性を合わせながら、役割分担・協働して一体的な取組を展開している。推進員は、関係者や活動の間をつなぐ機能(①学校・家庭・地域・児童の四者、②学校運営協議会(運協)と実働組織、③CSとその他協働活動)を担っている。推進員を軸として、多様な担い手による幅広い活動が総合化・ネットワーク化し、「地域とともにある学校」が実現するとともに、市が標榜する「協働のまちづくり」にもつながっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 社会的包摂の視点…  
  - ＜様々な困難さの想定＞①学習支援(中～大学生及び地域も参画)、②福祉との連携(市子育て支援センター・主任児童委員)、③夏休み料理教室、④おやじの会による自転車教室やキャリア教育等、⑤商店会・中学生・地域・PTA連携の挨拶運動、⑥居場所づくりと世代間交流(放課後子供教室・公民館コミュニティ食堂)
  - ＜多様性の尊重＞⑦シニアクラブや隣接する障がい者施設と児童の継続的交流、⑧大学生による特別支援教育の補助
- 地域人材育成…6年間を通じた地域連携カリキュラムと児童の地域貢献(幅広い地域行事への参画・ボランティア)
- 総合化・ネットワーク化…①目指す地域像・家庭像と取組を位置付けた学校経営構想、②事業の有機的連携(自治会行事の2地区合同化、コミュニティ食堂と体験活動の同時開催等)、③関係者をつなぐ、推進員による手厚い情報発信(学校ホームページ更新、コミュニティ・カレンダー、校内掲示物、放課後子供教室PR動画等)

### 【実施に当たっての工夫】

- 協働活動全体の方向性の共有(自治会、PTA、おやじの会、リーズ等複数の活動に関わるキーパーソンを運協委員に任命)
- 活動、体制等の洗練(①推進員の校務分掌への位置付け、②活動の教育課程内への位置付け、③CS実働組織と校務分掌の一体化、④事業の合同・同時開催(再掲))
- PTA本部役員、自治会役員、CS実働組織等の豊富な経験を持つ人材の発掘及び推進員の委嘱
- 推進員の浸透と役割理解(推進員をテーマとした①運協での熟議、②教職員・市職員合同の班別討議)

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 推進員等のキーパーソンや数多くの担い手が連携・協働して、地域ぐるみで子どもたちを手厚く見守り、「生きる力」を育てている。
- 協働活動が異業種交流、生涯学習の場としても機能し、関係する大人に笑顔、喜び、感動をもたらすとともに、当事者意識、市民性等の向上が図られている。また、地域活性化の基盤となるキーパーソンの育ちにもつながっている。
- 協働活動によって、地域行事が活性化する等、学校と家庭・地域の双方がWIN-WINの関係となっている。
- 推進員のコーディネートにより、①学校と家庭・地域の連絡調整に係る負担軽減、②双方の関係の円滑化、③過去の活動の引継ぎがなされている。
- 協働活動の洗練によって、学校・家庭・地域それぞれの「教育力向上」と「負担軽減」が両立されており、活動の持続可能性が高まっている。

## ●その他

放課後子供教室PR動画を、推進員と市教委が共同作成し、校内放送。児童だけでなく教員へも理解が浸透し、「学社融合」の観点から有効であった。また、令和元年度は、通学合宿や自治会とおやじの会の連携イベント等、協働活動の更なる充実が見られる。



実施  
おやじの会が平成18年度から継続して自転車教室(放課後子供教室)を開催している。



市教委が放課後子供教室PR動画を共同作成した。

福岡県太宰府市	●活動名 水城小学校地域学校協働本部	●関係する学校名 太宰府市立水城小学校
---------	-----------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 27 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	29 学級	のべ児童・生徒数	772 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 16人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成25年4月1日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 735人	企業・NPO等との連携	無	
参考URL							

●連絡先 太宰府市教育委員会学校教育課【指導係】 ☎ 092-921-2121



●活動の概要・経緯  
水城小学校は、平成25年に、「地域を愛し、地域に愛され、地域に働きかける子どもの育成」を目標にして、コミュニティ・スクール制度を導入している。そして、学校運営協議会の下、C・S事務局を置き、ここを中核にして、様々な活動を自主的に推進している。C・S事務局は、校内に設置している「さくらルーム」を拠点にして、地域コーディネーター（以下、「地域Co」と表記）が、C・S日より「さくら前線」を定期的に発行し、家庭や地域に配付し、学校・家庭・地域をつなぐ役割を果たしている。また、地域Coが、全校朝会で、プレゼン等を使い地域行事への参加を児童にも呼びかけている。さらに、学校が行っている学習活動に授業ボランティアが必要な場合は、「人材リスト」を使って条件に合った地域人材を探して、学習支援も行っている。同時に、地域人材の発掘にも精力的に努めている。こうした活動をとおしながら、「地域を愛し、地域に愛され、地域に働きかける子どもの育成」に取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域CoがC・S日より「さくら前線」を定期的に発行し、家庭や地域に配付している。この通信には、地域行事の予定や参加した感想、授業ボランティアの募集等が掲載され、学校・家庭・地域をつなぐ役割を果たしている。
- ②地域Coが全校朝会でプレゼン等を使い地域行事への参加を児童に呼びかけている。さらに、地域Coが指導している「ふるさと委員会」（児童会活動）からも校内テレビ放送等で全児童に呼びかけている。
- ③「地区懇談会」では、自治会ごとに、保護者が自治会長や子ども育成会会長、民生員を囲んで子どもたちの安全等について情報交換をしている。
- ④学校が行っている学習活動に授業ボランティアが必要な場合、人材リストを使って条件に合った人材を提供している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①開かれた活動拠点の設置-C・S事務局を校内の空き教室（「さくらルーム」と命名）を設置し、活動の拠点をつくっている。「さくらルーム」には、「さくらさん」というキャラクターがメッセージを発信する形をとっており、C・S事務局が子どもたちや保護者、地域住民にとって親しみやすいものになっている。また、「さくらルーム」を広く開かれたものにしたという考えから、PTAや地域の人たちが自由に利用できるようになっている。
- ②小中連携-国分小学校、学業院中学校を加えた同一中学校区の3校で、小中連携を活かしたC・Sの推進に取り組んでいる。特に、連携・協働体制を構築するため、3校のC・S担当教員と地域Coで「中学校ブロック協働本部」を設置し、より効率的、効果的な推進ができるようにしている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○地域学校協働本部（C・S事務局）の働きにより、多くの児童、保護者が地域とかかわりを持つようになった。例えば、地域に「時の記念日」という行事がある。これは、太宰府市の市民遺産となっている行事だが、例年、数名の児童しか参加していなかった。しかし、昨年度は、地域Coのアドバイスを受け、「ふるさと委員会」が校内テレビ放送で参加を呼びかけたところ、約90名もの児童や保護者が参加した。地域の「時の記念日」保存会からは、「地域の歴史や文化の継承につながる」と大変喜ばれた。また、夏休みのラジオ体操については、学校と家庭、地域がつながったことにより、小学生だけでなく、中学生や地域の高齢者も参加する「地域ぐるみの行事」となっている。このように、C・S事務局が地域・保護者と学校をつなぐ大きな働きをし、そのことが地域づくりにもつながってきている。

## ● その他

○授業ボランティアなどは、地域Coが学校（担任）の要望（支援者の人数等）を受け、その活動に適した人材を選び、日程調整等をして、学校の希望日に派遣をしている。



様・二  
子・年  
二 生  
人 生  
の 活  
学 習  
科 学  
習 へ  
の 支  
援 一  
ま ち  
の



べ・三  
の 年  
学 生  
社 会  
科 へ  
の 支  
援 の  
様 子  
調

こんな活動です

# 地域と家庭と学校でたくましい子供の育成を！ ～地域推進委員、地域・学生ボランティアとの協働で～

福岡県広川町	●活動名 広川町教育力向上本部	●関係する学校名 広川町立広川中学校 広川町立上広川小学校 広川町立中広川小学校 広川町立下広川小学校
--------	--------------------	---

協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	63 学級	のべ児童・生徒数	1673 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		5人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無	
	平成29年4月1日設置		—	325人	—	—	
参考URL	<a href="http://www.town.hirokawa.fukuoka.jp/">http://www.town.hirokawa.fukuoka.jp/</a>						

●連絡先 広川町教育委員会 生涯学習係 ☎ 0943-32-0093



●活動の概要・経緯

広川町では、平成29年度より1中3小学校合同でのコミュニティ・スクールを設置している。この組織を支える地域と学校の連携活動として、「広川町学校運営協議会」「広川町教育力向上本部（地域学校協働本部）」を設置した。特に、地域学校協働活動の中心となる教育力向上本部では、「家庭における基本的な生活習慣づくり」「子供たちの安全確保」を課題として、地域学校協働事業に取り組んでいる。特に、平成17年度から始めている3泊4日の通学合宿や、35カ所あるすべての分館で実施する「きらめき学習」は、地域と学校の連携・協働活動として、大きな成果をあげている。これらは、行政区長、分館長が推進員と共にコーディネートする役割を果たしている。その他、「読書リーダー養成講座」「土曜ネット活動」「小中学生意見発表会」「教育講演会」「持とう『私の夢』講演会」「見守り隊」等も実施している。また、学力向上を目的とする「広川中学校放課後寺子屋」は、地域学校協働活動推進員を核に、中学校において週2日、各1時間の活動を実施している。さらに、小中の連携として、夏季休業中においては5日間の「サマースクール（夏休み学力向上強化講座）」と称し、小学校は5・6年生全員が午前中の3時間、中学校は1年生全員が午後2時間、各学校の課題に応じて、少人数の学習を実施している。なお、この「サマースクール」には、地域の住民のみならず、地域の高校生、大学生もボランティアとして指導に関わっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①通学合宿…地域住民の支援で、公民館において実施される3泊4日の体験学習
- ②きらめき学習…全35分館で実施される体験活動（そば打ち体験、竹トンボ・焼き物・絵手紙・銅鏡・葉づくり、文化財探訪 等々）
- ③小中学生読書リーダー養成講座…町立図書館において、小中学生読書リーダーとしての研修を実施
- ④持とう『私の夢』講演会…キャリア教育の一環として小学校、中学校別に実施される講演会
- ⑤土曜ネット活動…第2、第4土曜日の子どもの居場所づくりとして、地域住民が学校において体験活動を中心に実施する活動
- ⑥小中学生意見発表会…小中学生の代表による自分の思いを発表する会
- ⑦放課後寺子屋…中学校全学年を対象に基礎学力の定着、発展学習等の地域住民による支援 其他見守り隊 等々

### 【実施に当たっての工夫】

生涯学習係、学校教育係、中央公民館が協力して実施している。それぞれの活動において、コーディネーターを配し、広川町の各行政区長、公民館分館長の協力を得て、ボランティアを募り活動を推進している。これらの事業をとおして、子ども・町民像を「ふるさと広川に誇りを持ち、変化の激しい社会を生き抜く力を身につけ、世代を超えてつながり、力を合わせ、未来を切り拓いていこうとする子どもや町民」として、その育成をめざすして取り組んでいる。そのために必要な力を、「たくましく生き抜く力」「人を思いやる力」「人と人をつなぎ、支え合う力」「広川町を愛し、世界に羽ばたく力」と考えている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域学校協働活動をとおして、地域、保護者と学校との距離が縮まり、連携・協働の意識を高めることができています。そのため、地域での子どもへの声掛けやあいさつ等が盛んになり、毎年、ボランティアに参加する地域住民の数が増えている。学力向上のために実施している「広川中学校放課後寺子屋」「サマースクール」では、学力の実態に応じたコースを設定し、地域住民だけでなく、高校生、大学生の学生ボランティアを活用した個別指導を行ったことで、学力向上を図ることができています。また、子ども達に年齢の近い高校生や大学生からのアドバイスは、子ども達の学習意欲を喚起する上で効果的だった。

## ●その他

広川中学校において週2日、各1時間の「放課後『学び道場』」を実施している。また、夏季休業中においては5日間の習熟度に応じた少人数の学習「サマースクール（夏休み学力向上強化講座）」、地域の方を講師とした「きらめき学習」を実施している。



「サマースクール」で、少人数で地域住民から学習支援を受けている様子



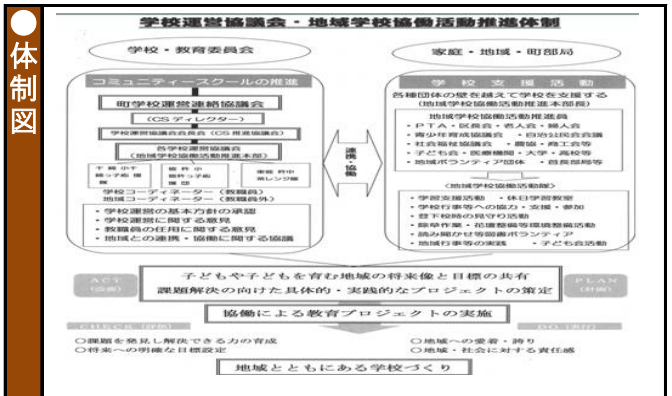
公民館の「きらめき学習」で、各児童の「絵手紙」を作成している様子

こんな活動です

# みんなで育む東彼杵っ子 —ふるさとを元気にする地域学校協働活動の実践—

長崎県東彼杵町	●活動名	●関係する学校名
	コミュニティ・スクール「東彼杵っ子応援隊」	東彼杵町立千綿小学校 東彼杵町立彼杵小学校 東彼杵町立東彼杵中学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	3 校	のべ学級数	29 学級	のべ児童・生徒数	541 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		24人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成28年11月11日設置		144人				
参考URL	<a href="mailto:kyoui-gatukyou@town.higashisonogi.lg.jp">kyoui-gatukyou@town.higashisonogi.lg.jp</a>						



●連絡先	東彼杵町教育委員会 教育長	☎ 0957-46-1353
------	---------------	----------------

●活動の概要・経緯  
平成28年11月11日、東彼杵町の4校に「学校運営協議会」が発足し、コミュニティ・スクール(以下CS)がスタートした。少子高齢化やグローバル社会の進展等に伴い、学校だけで子供を教育する時代は終わった。子供は、学校で学び、地域で磨かれ、家庭で育つのである。本町は、人口8,000人余と小さな町ながらも「助け合い、励まし合い、支え合うことのできる『一流の田舎』」をめざし、継続的に安定的に地域社会総がかりで子供を育成する体制を構築することとした。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①登下校及び校外活動時の見守り活動 ②書写・料理・野菜栽培等授業サポート活動 ③入学式、卒業式、運動会、学習発表会、茶摘み等学校行事の支援 ④校内除草作業、遊具等の修理等環境整備・営繕活動 ⑤人形浄瑠璃や、坂本浮立等伝統芸能の継承・啓発等ふるさと活性化活動 ⑥毎月第3日曜日の「ノ一部活デー」を利用した「ようこそ先輩学習教室」や「理科おもしろ実験教室」「インターナショナルデー」「カヌー体験教室」「映画鑑賞会」等の町学習教室「未来塾」活動 ⑦「昔の遊び体験」等祖父母の会との交流活動 ⑧部活動支援活動

### 【実施に当たっての工夫】

①CSディレクターは地域代表、CS担当事務局長は学校事務職員が担当し、全町的な観点から各学校・地域コーディネーターの相談役として活動の補助・助言を行っている。②各学校の学校運営協議会会長とCSディレクターやCS担当事務局長及び事務局職員で毎月1回定期的に研修会、情報交換会を開催し、町全体として情報の共有化や共同歩調を図るよう努めている。③学校運営協議会委員と地域学校協働推進委員が、4月と2月に一堂に会し「学校運営連絡協議会」を行い、各学校の年間計画や教育目標等の共有化を図っている。④各学校では、学校運営協議会を年間6回から10回程開催し、定期的に「CSだより」を発行している。⑤「一人一匠マップ」(人材マップ)をつくり、地域人材の共有・活用を図ることで様々な活動を展開できるようにしている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

●毎月1回定期的に「CS推進協議会」を開催しているので、情報等の共有が深まり、事務局のリーダーシップが発揮されている。●匠の技を持っている地域住民との交流や体験学習の増加等により、子供が「夢・憧れ・志」をもつとともに、学力向上にもつながっている。特に、卒業した先輩高校生との交流や伝統芸能体験学習等は、ふるさと教育を推進する上でも意義深い。また、活動している高齢者の方々が「やりがい、生きがい、おりがい」を感じている。●大人同士の交流が広がるとともに、地区が一つにまとまり東彼杵町民が相互に仲良くなっていると感じている人が多い。●我が子が地域で見守られ、安全に登下校できているという安心感が高まった。●学校行事や授業等の支援により教師側の負担がかなり軽減し、地域住民との交流も深まっている。

## ●その他

町学習未来塾において、東彼杵商工会を中心に企業体験活動など様々な活動を行っている。また、ICTを活用し、地域の方との学びの成果を各学校でプレゼン発表している。



摘み活動の様子  
児童・生徒の地域学校協働活動の様子



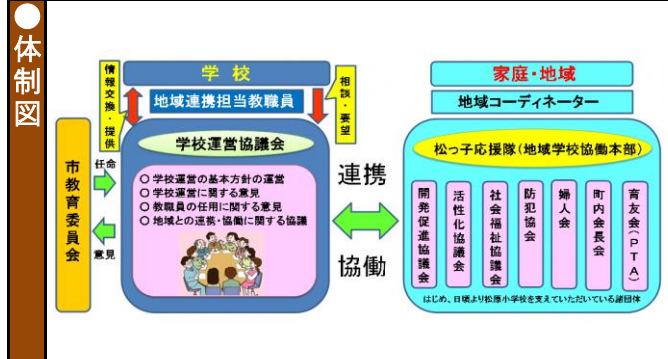
町学習教室「インターナショナル未来塾」の様子



こんな活動です

# ふるさとを愛し、心身ともにたくましい松っ子の育成 — 大人も子どもも、共にまなび、共に成長する地域 —

長崎県大村市		●活動名 松っ子応援隊				●関係する学校名 大村市立松原小学校			
協働活動開始年度	平成30年度	関係学校数	1校	のべ学級数	8学級	のべ児童・生徒数	119人		
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		—					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数				
	1人				13人				
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有			
	平成30年4月1日設置			200人					
参考URL	<a href="https://www.city.omura.nagasaki.jp/kvoiku/kvoiku/shirtsugakko/sho/matsubara/index.html">https://www.city.omura.nagasaki.jp/kvoiku/kvoiku/shirtsugakko/sho/matsubara/index.html</a>								
●連絡先	大村市教育委員会 社会教育課				☎ 0957-54-3161				



●活動の概要・経緯

○本校は、平成30年度より大村市の指定を受けて学校運営協議会を設立し、コミュニティ・スクールとして2年目を迎える。小規模校である本校は、学校行事や地域行事の運営において、学校と地域の双方の協力が必要不可欠であることから、もともと地域との結びつきが強い学校である。学校運営協議会では、学校の課題や保護者からの要望、地域の活性化等について熟議を重ね、松っ子応援隊(地域学校協働本部)と連携を図りながら、「ふるさとを愛し、心身ともにたくましい松っ子の育成」～ 大人も子どもも、共にまなび、共に成長する地域 ～の共有目標の下、よりよい松っ子の育成を目指して取り組んでいる。

## ●活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①「寺子屋塾」…本年度15年目。夏休み期間中の5日間、松原宿活性化協議会が中心となり、松っ子応援隊や市内外の人材を生かした様々なカリキュラムで、多岐にわたった体験活動(郷土料理作り、昔遊び、書道、茶道、手話、防犯マップ作り、松原の未来を考える活動等)を実施。本校児童の約7割が参加している。県内外の大学生(長崎大学、武蔵野美術大学)や市内高校生・中学生のボランティアもあり、様々な年代の方々にふれあいながら、子どもたちの健全育成を目指している。
  - ②「海洋学習」…地元の漁協や水産業者、県内の大学院・高校(長崎大学・長崎工業高校)、NPO法人長崎海洋環境研究会等と連携し、大村湾の海について考える活動を実施。高校ヨット部とのヨット教室(操船術を習い海上訓練)、大学院・NPO法人とのカキ殻水質浄化実験(ICTを活用し、画像の取込・分析・プレゼン発表)、魚調理講習会等、興味深く学習している。
- 【実施に当たっての工夫】
- 学校運営協議会委員が、コーディネーター役を担うことで、学校教育活動に最適な人材や活動団体・グループをコーディネートすることができ、より効果的な学習活動を仕組むことができる。既存の地域の各団体を一つのネットワークで結び、子どもの安全を守る「セーフティネットワーク」を確立したことで、地域全体で子どもたちの安心・安全な登下校を見守る体制ができた。
  - 「地域総がかりで子どもを育てる」という活動内容や意図を学校だより、コミュニティ・スクールだより、育友会広報紙、ホームページでも取り上げ、地域住民への啓発に努めている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 地域住民・保護者の中には、まだまだコミュニティ・スクールについての理解が深まっていないところも見られるが、ことある毎に啓発を続けていくことで、少しずつ松っ子応援隊を認知し始め、ボランティア登録も増えてきている。地域の子どもは地域で育てるという当事者意識が芽生えつつある。
- 継続的な活動を実践することで、子どもと地域の方々が顔見知りとなり、登下校を含め安心・安全な環境づくりに繋がっている。
- 地域の方々とふれあい、地域を知ることで、子どもたちは地域のよさに気付くことができ、ふるさとを愛する心情が育まれている。

## ●その他

松っ子応援隊を中心に、県内外の企業・団体、教育関係機関、NPO法人等と連携・協働し、子どもたちの健やかな成長を目指している。



「寺子屋塾」様々な年代の方々にふれあいがながら松原のよさを発見!



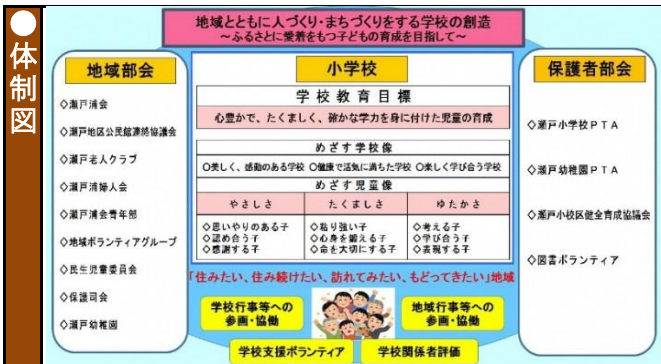
「海洋学習」(ヨット教室)大村湾に考えらるきつかけに。



こんな活動です

# 地域とともに人づくり・まちづくりをする学校の創造 ～ふるさとに愛着をもつ子供の育成を目指して～

長崎県壱岐市		●活動名 瀬戸コミュニティ・スクール			●関係する学校名 壱岐市立瀬戸小学校		
協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	8 学級	のべ児童・生徒数	69 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 14人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月17日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 42人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	<a href="http://www.city-iki.jp/~seto-svo/">http://www.city-iki.jp/~seto-svo/</a>						
●連絡先	壱岐市教育委員会 社会教育課			☎ 0920-45-1113			



●活動の概要・経緯

子供は未来の地域を担う一員である。そこで、学校では子供に自分の地域についてしっかりと学ばせる必要がある。また、地域でも子供をどのように育てるのか、地域の人々がどのように子供と関わっていくことでふるさとに愛着をもった子供を育てることができるのかを考えていくことが重要である。そのため、地域と保護者、学校が目標やビジョンを共有し、一体となって子供を育むことが、持続可能な社会の実現につながると考える。本校は、「地域とともにある学校」の創造を目指し、「学校運営協議会」を設置して地域コーディネーターを中心に学校と地域・関係団体が協働する活動に取り組んでいる。地域の人の得意なことを生かした教育活動支援、学校行事等への地域の人の参画・協働、地域の行事等への子供の参画・協働など、相互に生き生きと活動する取組を工夫することで、子供、保護者、地域住民のそれぞれが「住みたい、住み続けたい、訪れてみたい、もどってきたい」地域とすることを目標として取り組んでいる。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①児童の活動に対する多彩な支援：地域ボランティア団体によるPTA時の子供見守り活動、県民祈りの日に向けた折り鶴作成のための支援と交流会、図書ボランティアによる読み語り、地域の体育指導員によるサッカー教室。
- ②学校行事への参画・協働：稲作体験活動・餅つき大会の指導・支援、夏休み作品展への参画、運動会への参画・協働。
- ③学校の環境づくり支援：校庭の樹木の伐採や剪定、草刈り等の支援、図書ボランティアによる図書室の掲示等の環境づくり支援。
- ④地域行事等への参画・協働：瀬戸浦風揚げ大会への参画、瀬戸祭りへの参画、独居老人宅への昼食弁当配りの協働。
- ⑤地域との熟議、地域貢献：地域の活動団体との定期的な熟議を行い、地域の課題を協議、共有している。子供は、毎週金曜日集団登校時のクリーン活動(通学路のゴミ拾い)の実施により地域貢献をしている。

### 【実施に当たっての工夫】

瀬戸浦会会長が地域コーディネーター役を担い、多様な人材や活動団体を学校教育諸活動につなげている。情報を共有し、人材のネットワークを広げたり、地域の課題への取組を検討したりしながら、相互の活性化を図っている。また、「あいさつができる子供を育てる。」という共有の目標に一丸となって取り組んでいる。それらの成果や課題、学校教育活動について、学校だよりやチラシ等で地域住民に周知・啓発することで、地域総がかりで子供を見守り、指導・支援する体制となっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の人の専門的な指導・支援によって、子供の学習効果が高まっている。また、地域の人との関わりが増えることによって、子供は安心して活動でき、ふるさとへの愛着、誇りを高めている。地域の人々も、子供との協働や交流を喜び、地域の活性化につながっている。三世代の活動も多く、共に子育てについて考えることもできている。これらのことにより住民が地域の在り方を考える意識が高まっている。全世帯及び小・中・高校生に「どんな地域でありたいか」等のアンケートを実施し、その声を活動に反映させていくことで、地域との協働活動が充実してきた。教職員も学ぶことが多く、社会に開かれた教育課程の実現と今後の展望を見出すことができている。

## ●その他

学校運営協議会への呼びかけによって、定期的に地域・PTA・学校職員で校庭の環境整備の活動をしている。また、年間をとおしての地域の方から指導・支援をしていただきながら稲作体験活動・餅つき活動協働の活動を実践している。



く定期校庭的の援の樹木実施の剪定や草刈り環境づく



れつ稲たき作の教大の育会一連の課程実の施農実施(社会に開か餅

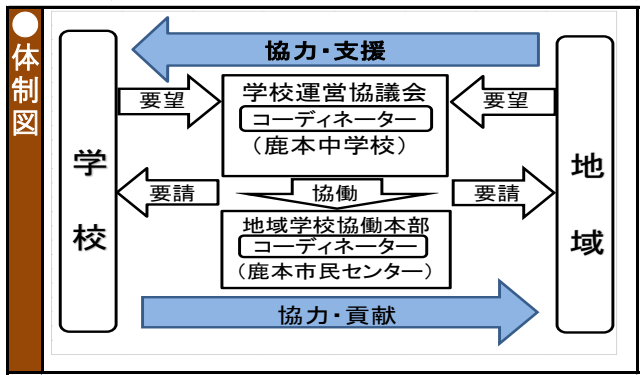
こんな活動です

# ボランティア活動が 地域と学校つなぐ

～ コーディネーターは、地域要望の調整役 ～

熊本市山鹿市	●活動名	●関係する学校名
	地域に貢献し、地域に愛される鹿本中	山鹿市立鹿本中学校

協働活動開始年	平成 29 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	219 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	平成29年10月1日設置		190人				
参考URL	<a href="mailto:y-kamotoih@educet03.plala.or.jp">y-kamotoih@educet03.plala.or.jp</a>						



●連絡先	山鹿市教育委員会 社会教育課	☎ 0968-43-1651
------	----------------	----------------

●活動の概要・経緯

鹿本中学校区は、古くから県北の文教の地として知られ「地域の子どもは地域で育てる」という機運にあふれており、地域・保護者によるあいさつ運動や登下校の防犯パトロールなど以前から行われてきた。平成29年のコミュニティ・スクール導入に当たっては、学校と保護者、地域にアンケートを実施し、その結果を基に4つの「目指す生徒像」を設定し、「地域とともにある学校」の実現に向けて取り組んできた。生徒会活動三本柱の1つとして「ボランティア活動」を掲げ取り組んでいる。これまでも授業の一環として生徒が地域に出向く活動があり、地域からの支援を受けるという色合いが濃かったが、学校と地域がWin-Winの関係となるには、教育活動外でも生徒が地域に出向き、地域に貢献することが重要で、それが「地域とともにある学校」づくりにつながるものと考え、学校応援団等の地域からの支援に加えて、生徒からの地域貢献を目指したボランティア活動は、鹿本中と地域の互いの活性化を目指して取り組む活動となっている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「目指す生徒像」に対して、学校運営協議会、生徒会、校務分掌をリンクさせて取り組んでいった。
- ②中学生の要望を学校運営協議会で取り上げたことで、ボランティア活動の拡大と活性化につながった。
- ③地域の要望をより多く吸い上げるために、ボランティア呼びかけのチラシを地域に配布した。
- ④地域からの要望、生徒のニーズや特技にあわせて、生徒のボランティア人材バンクを作った。
- ⑤学校運営協議会委員に「コーディネーター」になってもらい、地域要望の中から生徒が活動できるものを選定し、ボランティア派遣する仕組みを作った。
- ⑥1日保険に加入することでボランティア活動には生徒だけが出向き、教員は行かないようにした。

地域と学校が互いに連携し、win-winの関係であるために、実際の活動が双方に過度の負担にならないことを考え配慮をした。一過性でなく継続性があることが、学校・地域に根付いた活動となり、双方が持続的に活性化されていくことにつながると考え、学校運営協議会と連携し、地元の協力を得て、中学生ボランティア呼びかけのチラシを地域に配布した。学校と地域を結ぶコーディネーターが地域からの要望を聞き受け、その要望内容を選別し学校と連絡を取り合い、生徒ボランティアの派遣を決定している。学校は生徒募集を行い、ボランティア人材バンクを活用して参加者名簿を作成し、コーディネーターに渡し実践につなげた。活動に必要な費用は、ボランティアを行う地域が負担している。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

ボランティアに参加した生徒は、活動での交流を通して地域の方々とのふれあうことよきボランティア活動に対する達成感を感じることができた。地域の方に声をかけてもらうことで、自己有用感が高まり、自尊感情をより高めることとなった。地域の方からも感謝の手紙が寄せられ、学校の教育活動への理解も高まった。学校という空間から地域社会へと目を向け地域に出向き、自分たちで考え、積極的に地域と関わる中で、自分たちが地域を笑顔にできることを実感している。Win-Winの関係にこだわることで地域と学校をつなげるだけでなく、個人個人がつながるきっかけになっている。

## ●その他

【学校から地域への活動】○地域サロン会活動○地元夏祭お化け屋敷企画運営、金魚すくい等補助、祭翌日の清掃○小学校サマースクール学習支援○地区文化祭片付け○公民館花植え○保育園読み聞かせ等【地域から学校への活動】○短歌・書道指導支援○学校花壇の整備○道徳授業GT○地元図書館読み聞かせ○職業講話講師○あいさつ運動○登下校防犯パトロール等



地元新聞販売店の協力を得て配布したボランティアらし

この地域のボランティア活動の発展に、地元新聞販売店の協力を得て配布したボランティアらし



地区文化祭の後、片付けボラ

こんな活動です

# 学校を核とした地域との参画・協働の取組 ～地域の教育力を生かしたCSの取組

●活動名		●関係する学校名	
熊本県荒尾市		荒尾市立桜山小学校	
さくらやま学校運営協議会			
協働活動開始年度	平成29年度	関係学校数	1校
		のべ学級数	8学級
		のべ児童生徒数	154人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—
	—	放課後子供教室	—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数
	—		2人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数
	平成31年4月1日設置	—	90人
		企業・NPO等との連携	無
参考URL	<a href="http://es.higo.ed.jp/sakurayama/">http://es.higo.ed.jp/sakurayama/</a>		
●連絡先	熊本県荒尾市桜山町3丁目25番1号		☎0968-68-0201



●活動の概要・経緯

桜山小学校は、平成29年度文部科学省から、「コミュニティ・スクール導入等促進事業」の指定を受け、平成31年度からのコミュニティ・スクール発足に向け、準備をしてきた。本校の開校当時は住宅地の整備によりたくさんの住宅が新築され、市営のアパートも多数建設された。児童数も多く、荒尾市では最後にできた新しい小学校であった。しかし、近年、地域の住民の高齢化が進んでいる。また、市営のアパートや住宅には、若い世代が引っ越し、昔からいる住民と新しい住民の二極化が進んでいる。そこで、本取組により住民をつなぎ、地域の子どもを地域の大人が育てることにより、子どもは地域から学び、可愛がられ、大人は子ども達から慕われ、尊敬される関係を築くことができると考えた。さらに、将来その子ども達もまた地域のために貢献してくれるのではないかと考えた。推進委員会では、子どもを交えた熟議を重ね、地域アンケートを実施・分析し、本校のコミュニティ・スクールの構想を作り、「学校支援プロジェクト」「防災プロジェクト」「地域貢献プロジェクト」の3つのプロジェクトを位置づけた。また、学校のカリキュラムとリンクさせた具体的なプランを考え、地域と学校が協働し、目標を共有した活動を展開している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ① 学校支援プロジェクト: 学校教育活動の活性化を図るため、地域(外部)人材を積極的に活用する。クラブ活動への外部人材派遣(生け花・茶道・絵手紙等)、低学年への学習支援ボランティア、図書の貸し出し・読み聞かせ等の読書推進ボランティア、陸上指導・ミシン、糸鋸等の学習支援ボランティア等
- ② 防災プロジェクト: 児童や大人の防災意識・行動力を高めるため、緊急時の災害を想定した取組を企画立案・実行する。生活安全委員会の児童と大人による防災熟議、地域との合同防災熟議及び合同防災実践(避難所経営)
- ③ 地域貢献プロジェクト: 地域の課題をふまえ、桜山校区をさらに住みよい地区にするために、学校(児童)・家庭(保護者)・地域住民の協働活動を企画立案・実行する。花作りコラボ・桜ゆりかご会交流(低学年)、梨園(福祉施設)交流、グリーン作戦コラボ、さくらやまげんき祭り参画等

### 【実施に当たっての工夫】

3つのプロジェクトそれぞれに成長モデルを設定し、目標を持ち、それぞれの活動に取り組んでいる。学校支援プロジェクト部会では、地域学校協働活動推進員と学校チーフが地域・学校のそれぞれの窓口になり、様々な教育活動にボランティアの支援を組み合わせたことによって、円滑に活動できている。防災プロジェクト部会では、推進委員(大人)と高学年による公開熟議の他に推進委員会での大人だけの熟議、さらには、ランチミーティングと称し、給食時に大人と子どもの熟議を実施した。今年度は、「児童による避難所経営」を実施した。大人にはサポートに回ってもらい、地域の方も多数参加し、児童にとって貴重な体験をさせていただいた。地域貢献(GOPH)プロジェクトでは、学校の教育課程である「総合的な学習の時間」に位置づけ、地域の方との交流や地域行事等への参画を学習として取り組んだ。テーマは、花いっぱい学校・地域(Gグリーン)、きれいな街・公園(Cクリーン)、みんなで祭り(Pハッピー)、やさしく交流(Hハート)の4つである。そして、2月最後の土曜授業では、すべての活動に関わってくださったボランティアの方への感謝の催しとして「桜っ子感謝の会」を開催している。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校支援プロジェクトでは、子どもがボランティアの方の専門的な指導に触れ、積極的に関わることで、コミュニケーション能力が身についた。また、推進員による人材発掘により、学習活動が充実した。防災プロジェクトでは、ランチミーティング・熟議・実践により、様々な活動が子どもが、主体的に考えられるようになった。地域貢献プロジェクトでは、大人の予想以上に、自分たちで考え、アイデアを出し、動いていた。自分たちが祭りに参画し、祭りを動かしているという「地域の一員」としての高まりにつながっている。本活動を実行することで、昨年度の学校評価アンケートでは、児童変容の指標としている自己有用感と地域行事への参加状況が高くなった。また、本年度の全学調での児童質問紙でも大きく自尊感情が向上するという成果につながっている。

## ●その他

毎朝1・2校時に低学年の授業支援にあたる学習支援ボランティアがあり、個別の対応を図っている。また、授業では、電子黒板やタブレットで、自分の考えを発表したり、まとめたりして、ICTの活用を図っている。



「避難所経営」の公開熟議の児童・推進委員とのための児童

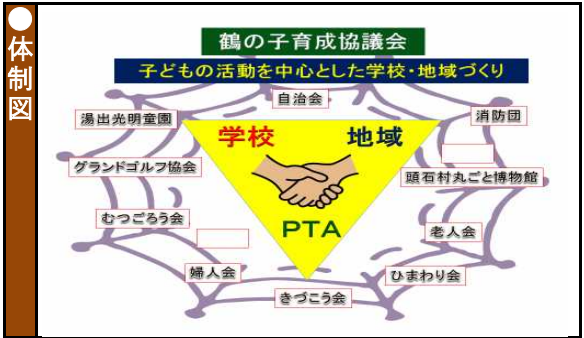


「避難所経営」で児童が地域の方と交流している様子

こんな活動です

# 子どもの活動を中心とした学校・地域づくり ～学校がみんなの居場所～

熊本市水俣市		●活動名 鶴の子育成協議会				●関係する学校名 水俣市立湯出小学校	
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	27 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
参考URL	<a href="http://es.higo.ed.jp/yudees/">http://es.higo.ed.jp/yudees/</a>						
●連絡先	水俣市立湯出小学校			☎ 0966-68-0018			



●活動の概要・経緯  
隣接する湯出中学校が閉校となる以前からも、地区の全世帯がPTAの準会員となり、学校の要請に応じて様々な協力を行っていた。また、小中学校と地区合同の運動会も開催していた。しかし、生徒数の減少により中学校が閉校となると、小学校の児童数も減少し、児童の大半が校区内の児童養護施設から通っている状況である。そのため、様々な成育環境により、本人の意志に関係なく、故郷を離れて住む児童の豊かな心の育成を図る必要がでてきた。高齢化が進む地区の活性化のためにも元々地域にあった様々な組織を結びつけ、学校活動と効果的に関連づけることで、学校と地域の互恵的な関係を築いている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①米作りにおいて、籾の選別、苗作り、田植え、草取り、稲刈り等の児童の活動を支えている。
- ②十数年前から、地域のボランティア団体に太鼓の演奏を児童に指導してもらっている。児童は、その成果として、市主催の音楽会や地域の祭りで太鼓演奏を披露している。
- ③地域住民には学び直し、児童には新たな発見の場となる「鶴の子スクール」を年間10回実施している。昨年度は、パソコン教室や絵手紙教室、スクールミュージアム等を実施し、毎回15名近くの参加があった。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・推進員が学校からの希望を地域に依頼し、地域の希望を吸い上げ、実行に移している。また、必要に応じコーディネーターとの連携を図っている。
- ・「鶴の子スクール」は、学習のねらいからはずれないよう、教育課程に位置付けるとともに多様な活動を計画し、地域住民に学び直しの機会を提供している。
- ・教職員が無理のない範囲で地域行事に関わり、顔の見える関係性を築いている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・地域住民には学び直しの場になるとともに、児童の元気をもらうことで、地域の活性化に繋がっている。
- ・地域住民が繰り返し学校に来て児童と顔を合わせることで、お互いに顔を覚えるようになった。児童にとって、地域住民が教職員や保護者でもない、「ほめてくださる方、話を聞いてくださる方」という存在になっている。鶴の子スクールでは、児童だけでは思いつかないことを地域住民から聞くことで、児童の視野も広がった。
- ・児童養護施設の児童が、卒業後にも、地域住民から声をかけてもらい、本校区を故郷と感ずることができている。
- ・教職員と地域住民との良好な関係を築いている。

## ●その他

校区内の各種団体の長が湯出小学校運営協議会のメンバーになっているので、活動に広がりが出ている。



一鶴の子スクールで地域の方と一緒に絵手紙を作成

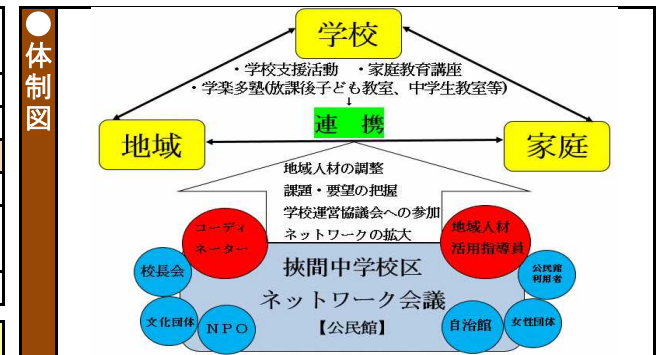


地域の夏祭りに太鼓の演奏

大分県由布市	●活動名	●関係する学校名
	狭間中学校区地域学校協働活動	由布市立狭間小学校 由布市立由布川小学校 由布市立石城小学校 由布市立谷小学校 由布市立狭間中学校

協働活動開始年度	平成 19 年度	関係学校数	5 校	のべ学級数	74 学級	のべ児童・生徒数	1622 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
	地域未来塾	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	1人				2人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成28年4月1日指定			265人			
参考URL	<a href="https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2009479.pdf">https://www.pref.oita.jp/uploaded/attachment/2009479.pdf</a>						

●連絡先	由布市教育委員会 社会教育課	☎ 097-582-1203
------	----------------	----------------



●活動の概要・経緯  
本校区では、平成19年度に学校支援地域本部として校区ネットワーク会議を設置し、地域の様々な関係団体と連携を図りながら学校支援活動や放課後子供教室の企画・運営を行ってきた。本ネットワーク会議では、公民館に配置された地域人材活用指導員と校区コーディネーターを中心として、効果的に地域人材や活動の拡充に取り組んできた。現在は地域学校協働本部として、指導員が学校運営協議会委員としてコミュニティ・スクールの運営に参画するなど、学校教育との連携をさらに進めるとともに、中学生対象の地域未来塾の実施、各学校における郷土学習「由布学」への地域人材派遣など活動の幅を広げている。また、学校教職員との合同研修会を毎年開催し、学校に地域人材や協働活動事例の紹介をすることで、各学校の地域ネットワーク形成をサポートし、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校支援活動「地域との連携による平和学習」…地域住民による戦争体験講話を実施することで、現代の豊かさへのありがたみと戦争の恐ろしさを学ぶ機会とし、語り部が少なくなる中、地域の大切な記憶を次世代に引き継ぐ貴重な体験の機会となっている。
- 郷土学習「由布学」…学校と地域社会がつながっていく中で、課題解決の方法を子ども自らが考え、ふるさとと自分の未来を考える「由布学」に地域住民と連携して取り組んでいる。
- 放課後子供教室「学業多塾」…週1回各小学校において、学習支援や様々な体験活動を実施している。土曜日や夏休みには公民館において茶道・押し花・まんが・クッキング等の教室を開催し、祭りやイベント時に学習成果を披露する場を設定している。
- 地域未来塾「中学生学び応援教室」…週1回の英語教室では、地域在住の現職のALTを講師として、実用性の高い発音・聞き取り学習に取り組んでいる。

### 【実施に当たっての工夫】

ネットワークの中心となる地域人材活用指導員と校区コーディネーターが連携を図りながら、多様な人材の参画を推進する体制を整えている。学校支援活動では、単に前例を踏襲した支援を実施するのではなく、教職員との協議や学校運営協議会で挙げた課題にアプローチするための支援を行なうことに留意している。また、放課後子供教室についても、全ての活動を通して、技術のみを伝えるのではなく、なぜそうする必要があるか子ども自身が考えて行動できるような指導に配慮するとともに、教室毎の重要なポイントを整理し、地域の方の技・人が輝けるよう工夫している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

人口増加・核家族化が進む本校区において、地域住民は家族のような接し方で子どもたちの支援にあたっており、学校での課題を受け、自分に何ができるか工夫を凝らし、支援に向けて周りに声をかけたりと、積極的に関わろうとする人が多くなってきた。また、学校や公民館での子ども達の様子に関心をもち、見守ってくれる人が増えた一方で、大人から褒めてもらうことで一層頑張ることができる子どもも増えてきた。地域の方に子どもから感謝の気持ちを伝えると「嬉しかった。」「また参加したい。」と喜んでおり、交流の深まりを感じることができた。最近では活動開始当初の子ども達が大人になって指導にきてくれることがあり、良い循環が生まれている。

## ● その他

郷土学習などの授業支援には、地元企業の人材を活用するなど企業との連携も図っており、多様な学習展開を行えるような工夫を行っている。また、土曜日の放課後子ども教室では、中学校区における異年齢での活動を実施するなど、学び・体験活動を通して豊かな心を育てている。



太陽の光エネルギーによる環境の学習



学習支援の実験（花色あそび）

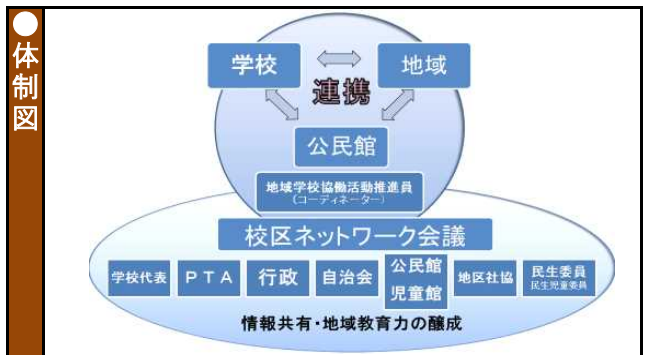
こんな活動です

# 地域の未来は自分たちの手で！ — 学校と地域の連携・協働でたくましく育つ子どもたち —

大分県佐伯市	●活動名	●関係する学校名
	鶴谷中学校区ネットワーク会議	佐伯市立鶴谷中学校 佐伯市立佐伯小学校 佐伯市立佐伯東小学校 佐伯市立渡町台小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	4 校	のべ学級数	62 学級	のべ児童・生徒数	1610 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習					
	—	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			
	平成30年4月1日設置		2364人	無			
参考URL	<a href="http://tyu.oita-ed.jp/saiki/turuva">http://tyu.oita-ed.jp/saiki/turuva</a>						

●連絡先 佐伯市教育委員会社会教育課生涯学習推進係 ☎ 0972-22-4209



●活動の概要・経緯  
本校区では平成20年度から「協育」ネットワーク(学校支援地域本部)による学校支援活動に取り組み、学校の環境整備、子どもたちの学習補助や、地域生活における安全・安心の確保において、ネットワークで結んだ地域人材や住民ボランティアが大きな力を発揮してきた。当初は、地域が学校を支援する一方向の取り組みであったが、次第に地域行事への参加など学校による地域貢献活動も始まり、学校と地域、双方向での支援・協力活動になった。現在は、校区一体型の学校運営協議会が設置され、学校と地域が目標を共有し、目標達成に向け協働する体制が整った。この体制の下、コミュニティ・スクールとなった学校と、地域学校協働本部として活動する「協育」ネットワークが、車の両輪となって地域の子どもたちを育むとともに、地域活性化を図る活動を展開している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ネットワークが結ぶ多様な地域人材による学校支援活動  
校区ネットワークを中心として地域の情報共有を図り学校の支援体制を構築。H30年度は2,000人以上の地域住民が、小学校の読み聞かせや中学校の部活動補助、登下校の見守り活動などに参加。
- 学校・地域・行政による放課後子供教室  
学校運営協議会における子どもたちの学力についての協議をもとに、市教育委員会の支援のもと、補充学習を中心とした小学生対象の放課後子供教室を運営。
- 地域課題解決に向けた「子どもたちによる地域貢献活動」  
総合的な学習の時間において、地域住民の協力により地域課題解決とまちづくりに向けた学習を推進。様々な地域行事に地域学校協働活動推進員のコーディネートによる中学生ボランティア活動を展開している。

### 【実施に当たっての工夫】

- 公民館におけるコーディネーターによるネットワークづくり  
2名のコーディネーターを公民館に配置し、地域ボランティアの募集などネットワークづくりの要としている。
- 校区全体の学校運営協議会の設置と校区ネットワーク会議(地域学校協働本部)の連携・協働  
中学校区で一つの学校運営協議会を設置することで、校区ネットワーク会議との連携が密となり、各校区区での協働した活動につながっている。
- 中学校の空き教室をCSルームとして活用し、学校関係者との連携を強化するとともに、校舎内にCS情報掲示板を設置し地域学校協働活動への生徒や地域住民の参画意識を高める工夫をしている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 校区ネットワークにより学校に地域住民が集うことで、住民同士のつながりが強くなっている。また、学校運営協議会での熟議により、子どもたちの教育やまちづくりについて地域住民の当事者意識も生まれている。
- 地域に中学生の活躍の場があることは、ボランティアとして参加する中学生自身に大きな自信を与えている。責任感に満ちて誠実に活動し、自発的に取り組み、最後の片付けまで頑張る中学生の姿は、主催者や参加者に大きな感動を与えている。
- 校区コーディネーターが学校と地域の橋渡し役を担うことは、地域と学校双方の負担軽減や活動の充実につながっている。

## ● その他

学校を拠点に地域住民同士、また地域の大人と子供がつながり、多くの地域行事が活性化している。



第4回「活躍する中学生1年生あい」



「活躍する中学生1年生あい」

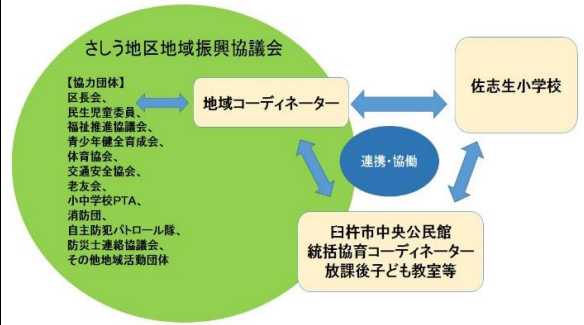
こんな活動です

# 佐志生大好き！佐志生が一番！！

## —ふるさとづくりは子どもたちとともに—

大分県臼杵市		●活動名 さしう地区振興協議会			●関係する学校名 臼杵市立佐志生小学校		
協働活動開始年度	平成27年度	関係学校数	1校	のべ学級数	4学級	のべ児童・生徒数	25人
活動区分	学校支援活動	—			地域人材育成		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人				
学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 22人	企業・NPO等との連携	無		
参考URL	<a href="http://syovu.oita-ed.jp/usuki/sasiu/index.htm">http://syovu.oita-ed.jp/usuki/sasiu/index.htm</a>						
●連絡先	臼杵市教育委員会 社会教育課(臼杵市中央公民館内)			☎ 0972-63-6444			

### 体制図



●活動の概要・経緯

本校区では、以前から青少年健全育成会の活動として、通学路で子どもたちの登下校を見守る生活指導パトロールやあいさつ運動・校庭の除草作業などに取り組むとともに、地域人材を活用した放課後子供教室などの活動を実施してきた。これらの活動を母体として平成27年度に「さしう地区振興協議会」を設立し、統括協育コーディネーターと地域コーディネーターを中心に、地域の歴史や特色を活かした郷土学習や学校支援活動など多様な活動が展開されるようになっていく。また、今まで学校との関係が薄かった団体も、地域コーディネーターのかかわりにより協力関係ができ、学校と顔の見える関係ができた。さらに平成30年度から佐志生小学校に学校運営協議会が設置されたことにより、現在、学校と地域がより連携・協働して、子どもの教育活動や地域催事などに取り組む体制が構築されている。

### ●活動の特徴・工夫

#### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 1 地域資源を活用した郷土学習「三浦按針」を通して学ぶ「さしうの魅力」  
1600年当地に漂着したオランダ帆船リーフデ号の乗組員であった三浦按針について学習するとともに、地域の歴史や文化に関するクイズを作成。また卒業制作として、地域の協力により佐志生の良さを盛り込んだ「さしう大好き物語」のDVD制作に取り組んだ。
- 2 地域資源を生かした教育活動「もみの木山登山道の復活」  
近年は登る人もなく荒れ果てていた登山道を振興協議会の有志が切り開き、昔のように登れるよう整備。平成28年、会員の案内で児童・教職員・保護者42名が50年ぶりにもみの木山登山を達成、以来恒例の学校行事となった。
- 3 伝統行事の継承～藤田獅子祭り出演  
200年以上続く藤田地区の獅子祭りは、篠笛を吹く囃子方をつとめる中学生が減少したため、現在は振興協議会との連携により他地区の小学生も加わり、さしう地区をあげての催事として継承する活動を行っている。
- 4 学校と地域が連携した放課後子供教室  
児童全員を対象に、地域住民による国語と算数の補充学習を行っている。学校運営協議会において子供たちの学力について学校と地域が熟議を深めることで、より充実した学習支援が行われるようになっていく。

#### 【実施に当たっての工夫】

- 地区振興協議会事務局を小学校に隣接した場所に置き、日頃から小学校との連携を大事にしている。
- 地域学校協働活動については、大人も子供も楽しめるよう工夫し、協力団体を通じて住民ふるっての参加を働きかけている。
- 他地区の振興協議会との交流を大事にし活動の充実につなげている。

### ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

過疎化が進む地域に元気を取り戻す活動が実を結びつつある。その推進力となったのは小学校へ通う子どもたちを真ん中に置いて考えたこと。子どもたちを見守り、時には先生となって地域の歴史や文化をいっしょに学ぶ。これらの活動に参加することは、大人たちにとっては往時を懐かしむ楽しみもあり、子どもたちにとっては地域の大人たちと接するなかで家族だけではない人たちに自分が支えられていると気づくことであった。

### ●その他

「さしうイキイキ文化祭」では三浦按針や郷土についての学習の成果を発表するとともに、佐志生の魅力を伝えるDVDを上映した。50年ぶりに登頂した「もみの木山登山」は現在も地域とともに作った恒例の学校行事として継続している。



さしうイキイキ文化祭



一丁燵登頂

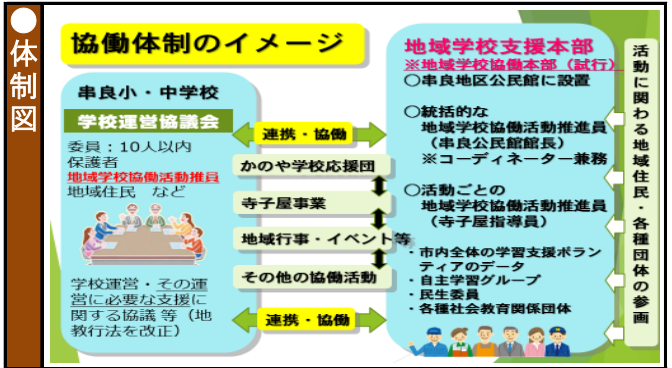




こんな活動です

# 「地域の子どもは地域で育てる」 ～地域の特色やよさを生かした協働活動の工夫～

鹿児島県鹿屋市		●活動名 かのや学校応援団串良地域学校支援活動				●関係する学校名 串良小学校 串良中学校	
協働活動開始年度	平成 29 年度	関係学校数	2 校	のべ学級数	17 学級	のべ児童・生徒数	346 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			—
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人				—
学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	ボランティアの数	延べ登録人数 54人	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="mailto:svougaku@city.kanoya.lg.jp">svougaku@city.kanoya.lg.jp</a>						
●連絡先	鹿屋市教育委員会 生涯学習課			☎ 0994-31-1138			



既存の学校応援団の組織や学校教育活動を支援している団体や個人を、公民館がコーディネートし、学校と地域・関係団体をつないで活動している。公民館は、地域の多くの人たちの「集う」「学ぶ」「結ぶ」役を担っている。そこで、公民館が中心となり、既存の公民館運営協議会を活用し、テーマを決めて協議している。学校と地域・関係団体とのつながりは、1小学校・1中学校の学校運営協議会事務局及び担当教員と公民館のコーディネーターとで協議の場を設け、実働的な活動になるよう取り組んでいる。平日の放課後（週1日）と土曜日の子どもの居場所づくりとして、公民館が中心となり教員や地域の人たちを指導者に、寺子屋を開設し、学校の机上での学習では学べない多様な体験活動にも取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ① 学校支援ボランティアによる学校支援（学習活動支援、環境整備、安全確保、学校行事、読書活動など）
- ② 鹿屋体育大学と連携した学生スポーツボランティアによる体育・保健体育における実技指導（串良小学校・串良中学校）
- ③ 地域の子どもたちを対象とした自学自習の場の確保と体験活動の実施（寺子屋「串良鶴亀塾」）
- ④ 読み聞かせサークル「心のしずく」による朝の時間での読み聞かせ（串良小学校）

### 【実施に当たっての工夫】

公民館が中心となり、コーディネーター役を担うことで、多様な人材や活動団体・グループを学校教育の諸活動につなげることができ、より効果的な学習活動を提供することができる。学校がもっている学校支援ボランティアと公民館で活動している各種自主学習グループなど、地域の人たちをつなぐことで、多様な学習支援ボランティアの選択が可能となっている。学習支援ボランティアへの支援要請文書や礼状などは、公民館のコーディネーターが発送し、教職員の負担軽減にもなっている。公民館がコーディネーター役を担うことで、「地域の子どもは地域で育てる」という活動がより効果的に行える。「地域総がかりで子どもを育てる」という活動内容や意図を公民館だよりも取り上げ、地域住民へ知らせ啓発に努めている。

### ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域住民や公民館の自主活動グループの方々ボランティアに登録し、今まで以上に地域の子どもに関心をもち学校支援にも関わっている。また、子どもたちと活動することとおして、「子どもたちから元気もらった」との感想をもつ人も多い。学校応援団活動を行うことで、校外でも子どもたちに声をかけられ、ボランティアの方々も喜んでという声を聞く。また、顔が見える関係を築くことで、安心・安全の確保につながっている。地域の方が、学校で支援を行うことで、学校をより理解し、学校に協力的な方々が増えてきている。教職員も、学校支援ボランティアの支援により、子どもたちの様子をきめ細かに把握できるようになっている。

## ● その他

串良鶴亀塾（寺子屋）の体験活動（陶芸教室や地域の史跡めぐり等）や地域行事における伝統芸能の指導等において、市民講座の講座生や地域の有志等を積極的に活用している。それらの方たちの活躍の場を意図的に設定することにより、生きがいづくりや人材育成につながっている。



【陶芸体験】市民講座で陶芸を学習していただきました。



【郷土芸能「棒踊り」へ子ども会、町内会、保存会、参加指導していただきました。

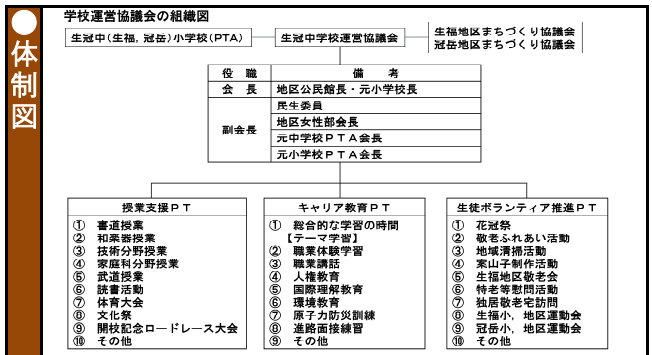
こんな活動です

# 地域学校協働活動で子どもが成長し、そして、保護者・地域住民も成長し、明るく住みよい地域を目指します。

鹿児島県いちき串木野市	●活動名 生冠中学校学校運営協議会	●関係する学校名 いちき串木野市立生冠中学校
-------------	----------------------	---------------------------

協働活動開始年度	平成30年度	関係学校数	1校	のべ学級数	5学級	のべ児童・生徒数	60人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数 5人			
学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	ボランティアの数		延べ登録人数 50人	企業・NPO等との連携		無
参考URL							

●連絡先	いちき串木野市教育委員会 社会教育課	☎	0996-21-5128
------	--------------------	---	--------------



●活動の概要・経緯

平成29年度から学校運営協議会を設置し、平成30年度から本格的に体制づくりから始めたところである。子どもたちの確かな学びと育ちの実現を目指し、学校と保護者や地域との連携をより充実させることを目的としている。具体的には、学校と保護者や地域住民がともに知恵を出し合い、学校運営協議会に意見を反映させることで一体的な地域学校協働活動を推進し、子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進めていく仕組みを作り上げている。

学校運営協議会の委員は、5人の地域住民代表で構成されている。その5人が地域学校協働本部を運営し、学校と保護者や地域住民を結ぶ架け橋の推進員の役割をし、学校からの依頼や保護者・地域の願いを受け、「熟議」と「討議」を重ねながら課題解決を目指し、お互いの立場や果たすべき役割への理解を深め、個人が納得して自分の役割を果たせるようにしている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①3つのプロジェクトチームで具現化：授業支援、キャリア教育、生徒ボランティアに整理・分類し実施している。
- ②多彩な授業支援：家庭科の調理、合唱指導、武道の指導などの授業支援活動を行っている。
- ③地域との連携：中学校校区にある2つのまちづくり協議会と連携して地域の課題や行事に取り組んでいる。
- ④課題の共有：本部の年4回の研修会の内、2回は全教職員も含めた「熟議」を行い、学校と地域の課題を共有している。
- ⑤アンケートでの反映：生徒・教職員・保護者・推進員等のアンケートを基に改善を進めている。

### 【実施に当たっての工夫】

学校長が子どもたちの実態を、学力面、生活習慣、自己肯定感や自己有用感などについてきめ細かに把握し、子どもたちに育成すべき資質や能力を学校教育目標に位置づけ、その具現化に向けて学校運営協議会と地域学校協働活動に反映している。また、学校長が機会あるごとに、地域において地域学校協働活動への広報・周知に努め地域が学校に協力したくなるきっかけ作りにも励んでいる。さらに、地域学校協働活動を充実させるために、学校の管理職ばかりでなく教職員全員も参画させ、課題から活動まで推進員と一体となって取り組んでいる。そのため、推進員が学校だけでは見つけることのできない学習支援のボランティアを教職員のニーズに応じて発掘できている。そして支援員が学校行事で生徒の活動を支援するばかりでなく、熟議を踏まえた上で、行事の目的や今までの経緯、地域住民として果たすべきことなどを話すことで、生徒にとっても行事の意義が高まると同時に、支援員の資質向上につながっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

小規模校であるため、生徒が主体的に様々な活動に参画することが多い状況ではなかった。しかし、様々な取組においてコミュニケーションをとらなければならない機会や主体的に考える機会を意図的に設けることで少しずつであるが、地域の課題等に主体的に取り組む姿が見られるようになった。また、地域住民も講話の機会や多様な支援での関わりにより、生徒との関係性が深まり、学校を応援していく地域の風土の醸成につながっている。さらに地域においても、生徒とあいさつだけでなく、気軽に話ができる関係性になり、安心・安全な地域づくりにもつながっている。

## ●その他

小中連携やボランティア活動の推進を踏まえ、小学校の運動会の役員として中学生が参画している。また、地域の敬老会においては生徒が運営の役割を担い、地域を挙げて高齢者を祝うことへの役割を果たしている。さらに、中学校の体育大会では学校運営協議会の委員も兼ねる地域学校協働活動の推進員が閉会式で体育大会講評を述べ、地域と一体となった体育大会を推進している。



地域学校協働活動推進員と学校教職員との「熟議」の様子



小学校の運動会での協力(ボランティア)による活動の様子

# ～地域とつながり、子どもの夢を育む(わった一学校)～

沖縄県沖縄市		●活動名 安慶田小学校地域学校協働本部				●関係する学校名 沖縄市立安慶田小学校				
協働活動開始年度	平成 26 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	22 学級	のべ児童・生徒数	477 人	●体制図		
活動区分	学校支援活動	—				地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数					
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携					
参考URL	https://www.fureai-cloud.jp/ageda-es/									
連絡先	沖縄市安慶田2-18-1			☎ 098-937-3561						

●活動の概要・経緯  
本校は平成20年度より「学校支援地域本部事業」をスタートし、平成30年度には「地域学校協働活動推進事業」として取り組んでいます。地域、家庭、学校が連携協力し、「地域とともにある学校」として児童の健全育成を図ることを大前提に、下記の3本柱を軸にそれぞれに活動効果が得られることを目指している。  
 (柱1)地域:自治会活動の活性化を図る。  
 (柱2)家庭:PTA活動の活性化を図る。  
 (柱3)学校:児童の体験活動を通して、地域・家庭と連携を深め、教育方針等の共有化と教育実践を図る。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 地域学校協働活動として、自治会や地域ボランティア、PTAと連携し、多様な活動を展開している。
  - ①活動例:「交通安全・あいさつ運動」「丸付け・読み聞かせ」「環境整備」「平和集会講話」「特別支援クラスの野菜収穫体験」等。
  - ②特に「交通安全見守り」活動は、学校周辺の注意ポイントが10箇所以上あるが、多くの地域住民の協力により実施されている。
  - ③各学年毎に「地域と取り組む一活動」を計画・実施しており、小学校の全校生徒が地域の方々との交流を行っている。(昔遊び、冬瓜パイ作り、グラウンドゴルフ、エイサー学習、ダンス交流、等)
- 地域学校協働活動推進員が学校運営協議会のメンバーとし会議に参加し、学校運営に関わっている。
- 地域学校協働活動推進員が、ボランティアの配置調整、定期的な自治会への訪問等、コーディネート活動を幅広く行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 校内事務室に推進員の席を配置。学校の先生方と連絡調整がスムーズに行えるようにしている。
- 各学年毎に「地域と取り組む一活動」では、学校運営協議会で取組内容を協議し、地域の意見を反映させている。
- 保護者、自治会にボランティア募集要項と登録用紙を配布し、多くの協力者が参加できるよう絶えず呼びかけをしている。
- 学校職員や推進員が定期的に自治会を訪問し、情報交換等を行い、緊密な連携を心がけている。
- 校門前に地域連携掲示板を設置し、毎月、ボランティアの募集、メンバー紹介、活動内容の写真等を掲示している。
- ボランティア登録者以外にも、学校メーリングサービス等で絶えず募集を呼びかけている。
- 地域ボランティアの方々を学校行事やPTA行事に招待することで交流を深めている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 活動を通して、地域住民が顔見知りになり、各自治会活動やPTA活動への参加を促す機会となっている。
- 連携を密にした事で、地域の方や保護者の参加が大幅に増え、繋がりが強くなった。
- 交通安全指導、あいさつ運動の継続で児童からのあいさつが増えるとともに、通学路における安全対策の向上につながっている。
- 丸つけボランティアの活用により、先生方の負担を減らすとともに、働き方改革に繋げることができた。

## ●その他

- ・学校運営を含めて、地域の方々とともに連携・協働を深めながら、地域に根ざした学校として、特色ある学校を目指す。
- ・活動タイトルの「わった一学校」とは、沖縄の方言で、「わたしたちの学校」という意味である。



しお老一人手人年だ玉会生の。ののけ方ん々あ玉をそ、招びの学回、習しあや、地をり域楽やの



瓜は五年生の地域の地域とつながる一活動で、冬

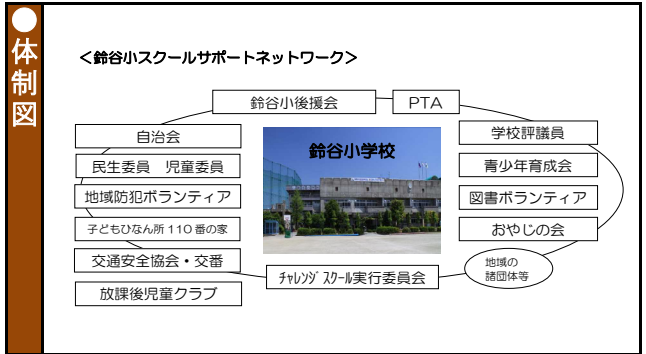
こんな活動です

# 瞳・笑顔・汗・会話 きらきら輝く鈴谷の子どもたちのために!

埼玉県さいたま市	●活動名 鈴谷小スクールサポートネットワーク	●関係する学校名 さいたま市立鈴谷小学校
----------	---------------------------	-------------------------

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童・生徒数	514 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
—	—	—	1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	令和4年4月1日設置予定	—	178人	—	—		
参考URL	<a href="http://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/">http://suzuya-e.saitama-city.ed.jp/</a>						

●連絡先	さいたま市立鈴谷小学校	☎ 048-852-5675
------	-------------	----------------



●活動の概要・経緯

鈴谷小学校創立後まもなく自治会の協力により鈴谷小後援会が組織されるなど、従来から学校への支援・協力が多く地域である。平成24年度から学校を支援する活動を開始し、地域諸団体から学校への支援協力依頼をコーディネートする体制を構築した。地域と学校の協働活動の充実のため、本校後援会と自治会を中心とした「鈴谷小スクールサポートネットワーク協議会」を設立し、学校にかかわる諸団体の活動状況や地域諸行事の情報等を共有化することで、学校を核として健やかな児童の育成と地域づくりを推進している。

また、地域の方々により組織されているチャレンジスクール実行委員会の運営により、放課後、土曜日・夏季休暇中に子どもの居場所づくりとして「鈴谷小チャレンジスクール」を開催し、地域諸団体の協力を得てスポーツや体験活動、昔の遊び等、幅広い充実したプログラムを実施している。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①郷土学習：1年生の生活科の学習において、本校創立時に地域住民により植樹された校庭の木について知る郷土学習を毎年実施。当時を知る自治会の方を講師に、地域で待ち望んだ小学校の校庭に植樹した話を聞いたり、植樹された木のどんぐりを使ったコマづくりを実施。
- ②地域行事参加：自治会の夏祭りへ児童・保護者・教職員参加、公民館祭りでの金管バンド演奏、青少年育成地区会主催お正月のついで実施等。
- ③地域諸団体・PTA・学校協働による学校整備活動：地域諸団体(後援会・自治会・校庭開放委員会)・保護者(PTA・おやじの会)・児童・教職員による校庭・正門前あじさい小径清掃・除草作業、体育館・通路雨どい清掃、プール清掃等を実施。
- ④チャレンジスクールの実施による多様な学習機会の確保：地域の方々、PTA、NPO、地域諸団体、企業の支援による多様な活動の実施。

### 【実施に当たっての工夫】

年度末のスクールサポートネットワーク協議会で、次年度の学校行事と地域の行事の日程を確認し合い、円滑に運営できるように前もって計画、参加のための周知を行っている。平成30年度実施の青少年育成と野南地区会主催お正月のついででは、近隣の小・中学校の児童生徒を含めて560名と多くの人々が参加。

また、学校地域連携コーディネーター(地域学校協働活動推進員等)は、自治会をはじめとする地域の様々な方々や地域諸団体と日ごろからコミュニケーションをとり、地域学校協働活動における活動支援の新たな人材発掘に尽力。また、学校現場のニーズを確認し、地域学校協働活動の実施計画に生かすよう、鈴谷小スクールサポートネットワーク協議会にて必要な情報を提供。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

子どもたちは、様々な活動を通して地域の方と触れ合いながら学校の歴史や地域との深いつながりを学ぶことができ、地域の将来を担う人材として子どもたち自身も地域のために何ができるかを考えるきっかけにもなっている。学校支援ボランティアとしての協力者が増えていく中で、地域住民・団体の方々に対し、感謝のついでやお礼の手紙を渡す等、感謝の意を表す場を設けたり、ボランティアの方々の写真を学校内に掲示したりすることで、学校、児童、地域住民、各地域団体のコミュニケーションをさらに深めることができた。

保護者からも、「親ではさせてあげられない経験をたくさんさせてもらい、感謝しかありません。先生でも保護者でもない、地域の方と子どもが自ら交流をもつ時間が一番ありがたいです。」との意見があった。

## ● その他

鈴谷小チャレンジスクールでは地域の方々、PTA・おやじの会、地域諸団体、ゴルフスクール等の企業、少年団、民生児童委員等、様々な団体が携わっている。



ぐり地域の  
りゴマを  
づく講  
く師に  
り迎  
え  
たど  
ん



鈴谷小  
後援会  
の「あ  
じさい  
小」に  
よって  
整備さ  
れた

こんな活動です

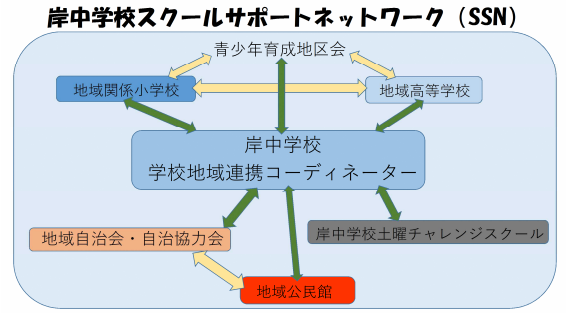
# 学校地域連携コーディネーターを核とした地域の絆づくり活動

埼玉県さいたま市	●活動名 岸中学校スクールサポートネットワーク	●関係する学校名 さいたま市立岸中学校
----------	----------------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成 22 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	18 学級	のべ児童・生徒数	603 人
活動区分	学校支援活動	—		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
参考URL	<a href="http://kishi-i.saitama-city.ed.jp/">http://kishi-i.saitama-city.ed.jp/</a>						

●連絡先	さいたま市立岸中学校	☎ 048-822-4022
------	------------	----------------

## 体制図



●活動の概要・経緯  
学校と地域のかかわりを通して「地域の中の学校・地域の一員としての生徒」の意識を育て、地域の絆づくりの活動を推進している。その核として学校地域連携コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）の役割は大きく、学校の窓口として学校の情報を地域に発信するとともに、地域との交流の機会を学校に集約させた。地域と連携した様々な取組により、学校は「地域の学校」として温かく見守られはぐまれてきた。多くの自治会のボランティアによるあいさつ運動を通して、気持ちよくあいさつをする生徒が育った。生徒の学習活動を支援する土曜チャレンジスクールでは生徒の希望に応え、ボランティア指導員が学びの向上を支援している。その温かさに応えるように、生徒は地域の活動により積極的に参加するようになった。また、地域の多くの小学生が本校や近隣の高等学校に開設された「わくわく夢講座」に参加し、学ぶ意欲を高めている。学校地域連携コーディネーターのつないだ地域の絆により生徒が地域で生き生きと成長し、将来地域を担う人材となるよう支える仕組みが構築された。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「わくわく夢講座」…青少年育成地区会の声かけで、夏休みに地域の小学校5・6年生の希望者を対象にした、「わくわく夢講座」を実施。パソコンを使用する等本校の教員が小学生が興味をもつような内容の授業を企画している。小学校・本校・高等学校が連携し、地域の小学生の健全育成に取り組んでいる。
- ②生徒会・児童会の連携…本校生徒会と近隣の小学校の児童会が定期的な会合を行い、交流活動を行っている。中学生による小学校へのあいさつ運動、地域行事への両校での参加、小学校の行事への運営の参画（運営スタッフやイベント補助）等を行っている。
- ③部活動の積極的な地域貢献…公民館文化祭では、演劇部の上演、美術部の作品展示、吹奏楽部の演奏等。自治会の祭り等も参加している。
- ④赤ちゃん幼児ふれあい体験…学校と地域住民の協働体制により、命の大切さや親への報恩の心を学ぶ「中学生・赤ちゃん・その保護者」による授業を展開し、生命尊重の教育を推進している。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・学校も各地域諸団体もそれぞれ独自に活動を行っているため、連携行事は前年度に協議し、次年度の日程を決定。
- ・実際に企画を形にし実行するのはそれぞれの担当者となるが、互いの担当者を確認し、連携を図ることができるよう調整。
- ・学校地域連携コーディネーターが活動時の事故がないように、事前打ち合わせの際に手順や進め方、安全面等について助言・指導。
- ・生徒が楽しく、また地域の活動が充実するよう、参加人数の確保を考慮し効果的な広報を実施。
- ・地域住民や生徒にとって活動することが負担にならないよう、他の行事や部活動等との日程や回数の調整。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 「わくわく夢講座」に参加した小学生は、本校や高等学校の施設を見学したり、中学校の教員に教わることで、学習意欲と上級学校への興味・関心を高めた。また、進路への期待と意欲も向上し、小学校の授業に対し目的意識をもって積極的に取り組む姿勢がよく見られるようになった。
- 生徒会・児童会の連携により、相互の学校への理解が深まり、児童生徒間の協力体制が構築された。また、小学生の保護者や地域住民には、小学校卒業後の生徒の成長した様子と地域に根差した中学生の姿を見せることができた。
- 部活動単位で参加する地域行事を通して、生徒は地域からの参加依頼に応じる立場から、関係地区の地域住民と共にイベントを盛り上げる運動の一翼を担う立場へと成長した。
- 「赤ちゃん幼児ふれあい体験」授業では、参加した保護者から「生徒の生命尊重への意識が向上する様子を目の当たりにし、充実感を得た」との感想ももらった。このような授業を通して、赤ちゃんや幼児をもつ地域の保護者の学校への関心が高まり、参加希望者が増加した。
- 上記のような取組が、地域の絆づくりや、地域社会の核となる学校の創造に貢献している。

## ●その他

・公民館との協働により、地域の方による着付け教室を実施。・ICTの授業の補助として(株)ベネッセコーポレーションに来てもらっている。・土曜チャレンジスクールでは、毎回パソコンを使用しながらの学習。・未来くるワーク体験(中学生職場体験事業)には、銀行等の多くの企業が協力。



「わくわく夢講座」の様子



「着付け教室」の様子

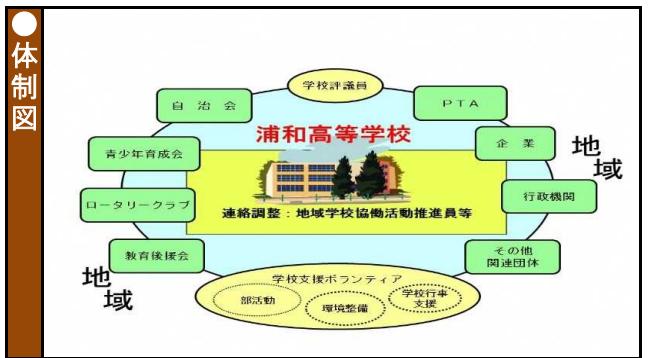
こんな活動です

# 地域の教育力を生かした学び —地域全体で生徒の成長を支えて—

埼玉県さいたま市	●活動名 市立浦和高等学校地域学校協働活動	●関係する学校名 さいたま市立浦和高等学校
----------	--------------------------	--------------------------

協働活動開始年度	平成 23 年度以前	関係学校数	1 校	のべ学級数	25 学級	のべ児童・生徒数	1011 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		2人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	<a href="http://urawashi-h.ed.jp/">http://urawashi-h.ed.jp/</a>						

●連絡先	さいたま市立浦和高等学校	☎ 048-886-2151
------	--------------	----------------



- 活動の概要・経緯
- ①地域イベント参加。北浦和阿波おどり大会、浦和おどり、浦和区民祭、浦和区タウンミーティング、サイエンスフェスティバル等。
  - ②異校種交流。特別支援学校との交流会、授業における幼稚園との連携、中学校の進路学習行事への講師派遣、中学生を招いた部活動体験等。
  - ③生徒によるボランティア活動。全国ろうあ者体育大会の審判等、書き損じはがきの老人ホームへの寄付等。
  - ④留学生との交流。ロータリークラブとの連携による留学生受け入れ、埼玉大学の留学生との交流、市の友好都市の修学旅行団の歓迎会等。
  - ⑤学校評価懇話会。学校評議員、PTA役員、生徒、教職員からなる会議を年2回開催し、学校運営の報告と意見交換を行った。
  - ⑥PTA等による支援活動。保護者会による部活動支援、教育後援会による学校施設・環境整備支援、PTA文化祭参加(工芸講習会)等。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域課題解決型学習として、選挙啓発を目的とした活動を行っている。市選挙管理委員会と連携し、野球部員及び放送部員が、防災無線等で放送される選挙放送のアナウンス収録を行った。また、美術部員が、市の公共施設や自治会掲示板等に掲示するための選挙啓発ポスターの作成に協力。
- ②生徒の進路意識の向上を図るため、大学・企業・病院・地域住民等に参画いただき、様々な進路指導講演会を企画。「医療セミナー」では、地域の病院と連携し、医療系を進路に考えている生徒に対して、医師、看護師、理学療法士等による講演会を実施した。「社会人講演会」では、医師など3名の卒業生を招き、学生時代の経験や、社会人としての取組を話してもらった。「OB・OG懇談会」では、主に地域に在住する卒業生のうち、大学生を分業別に計30名招き、大学生活の様子や高校在学中の取組を話してもらった。

### 【実施に当たっての工夫】

学校の方針として、生徒が積極的に校外の活動に参加し、多くの地域住民の皆様から評価していただく機会を大切にしている。教職員がコーディネーター役となり、部活動の一環として取り組んでいることが、同時に地域の課題解決につながり貢献できるよう工夫している。「社会に開かれた教育課程」の実現のためには、地域課題解決型学習が重要なことから、行政との連携を密にし、市の事業に積極的に生徒が参画できるよう、学校と市でアイデアを出し合っている。

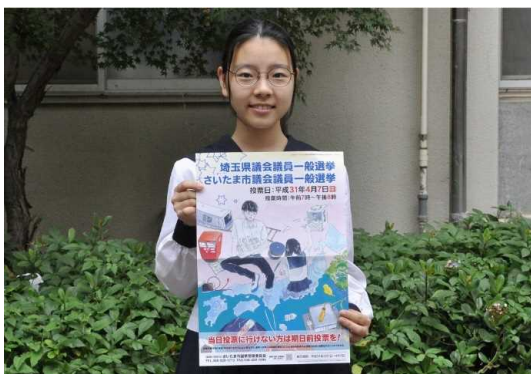
生徒の進路意識の向上を図るため、地域の教育力や、本校への協力を惜しまない地域の人材、地元在住の卒業生は、本校の財産であると捉え、有効に活用するよう工夫している。具体的には、本校は創立80周年を迎えようとしており、各界で活躍する卒業生も多く、在学時の経験などは説得力を持つことから、幅広い多様な職種の方を招聘するなど工夫している。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①学校と地域住民(自治会等)との意見交換は、教育以外のことについての気づきがある。
- ②部活動体験や中学校への生徒派遣など、中学生の進路指導に貢献。
- ③部活動単位の生徒の地域事業への参加が多く、発表の場の提供と誇りの醸成ができています。
- ④市事業や地域の団体を通じた外国人との交流は、生徒のグローバル感覚を養うのに効果的。
- ⑤PTA及び教育後援会による支援は、生徒、教職員ともにその恩恵を実感。
- ⑥進路指導における外部の人材活用は、生徒の将来計画に大いに役立っている。
- ⑦活動を通して、地域から生徒たちが必要とされることが多くなった。

## ●その他

主な連携先:自治会, 近隣幼稚園, 近隣小・中・高等・特別支援学校, 近隣大学, PTA, 教育後援会(あけぼの会), 各種ボランティア, 浦和東ロータリークラブ, さいたま市, 武蔵野銀行, 避難所運営委員会, 近隣老人ホーム等。



山た市の選挙管理委員会と連携したポスターの原画を提供した山田樹花さん

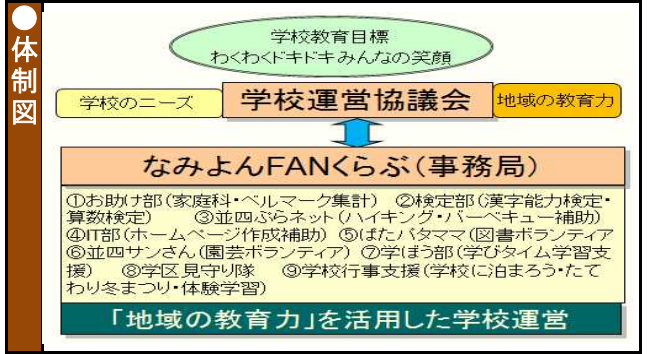


埼玉協同病院と連携した医療セミナーの皆さまによる講演会

こんな活動です

# 地域の教育力を生かした「なみよんFANくらぶ」による学校教育の創造

神奈川県横浜市		●活動名 並木第四小学校地域学校協働活動				●関係する学校名 横浜市立並木第四小学校	
協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	14 学級	のべ児童・生徒数	336 人
活動区分	学校支援活動		—		—		
	—		放課後子供教室		—		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		
	—		—		5人		
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有	
	平成30年4月1日設置		—	90人	—	—	
参考URL	<a href="https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/namiki4/">https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/namiki4/</a>						
●連絡先	横浜市立並木第四小学校			☎ 045-701-3506			



●活動の概要・経緯

平成25年から地域学校協働本部である「なみよんFANくらぶ」の地域学校協働活動がスタートし、在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者や近隣の地域団体とも連携が図られるようになった。「出来る時に出来ることを」を合言葉に、学校の教育的なニーズに対し、保護者・地域の方々が、得意な分野や興味あることを生かした活動が展開されている。

授業中や放課後の学習補助や植栽・ICT等の環境整備、登下校の見守りなど、主に8つのグループから構成されており、それぞれの活動について、「なみよんFANくらぶ」通信を発行し、保護者だけでなく、自治会・町内会にも積極的に情報発信を行っている。

## ● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

<8つのグループ活動>

○「お助け部」家庭科学習(調理、裁縫)の補助、給食白衣の修繕、ベルマーク集計等 ○「検定部」漢字・算数検定の会場準備、補助 ○「並四ぶらネット(おやじの会)」運動会等の行事の補助、ハイキングやバーベキュー等の企画・開催 ○「IT部」学校ホームページ作成の補助、校内PC整備の補助 ○「ばたパタママ」読書タイムでの読み聞かせや図書室の装飾・本の修繕 ○「並四サンさん」花壇の整備、草取り、水やり、運動会では、正門・西門の花壇を装飾 ○「学ぼう部」放課後学習支援(キッズクラブの時間に勉強を見守り) ○「学区見守り隊」児童の登下校時の見守り

学校は、全校児童が「なみよんFANくらぶ」や地域団体の方々に感謝の気持ちを伝える場として、年度初めに応援団紹介集会、年度末に応援団感謝集会を設けている。

【実施に当たっての工夫】

活動を希望する方が、柔軟に参加・活動できるよう入会の方法や会員の情報共有の仕組みが簡潔になっている。会員となる方は、エントリーシートに記入して登録する。登録と同時に、「なみよんFANくらぶ」事務局を通じて学校教育ボランティア保険への加入手続きも行なわれる。運営からの連絡は主にスマホアプリを利用し、「〇月〇日に家庭科の見守りが必要です」といった支援要請や、当日の活動報告がリアルタイムで届く方法となっている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○在校生の保護者だけでなく、卒業生の保護者や近隣の地域団体とも連携を図っているため、学校・家庭・地域で、子どもたちを育てていこうとする姿がみられる。

○地域交流室の受付管理を「なみよんFANくらぶ」事務局が担うことにより、地域団体の利用が増え、無料で部屋を借りることができるようになった。

○地域の方が気軽に学校に入って来られるようになり、「自分の子が並木第四小学校出身なので懐かしい」という声も聞かれる。つづきクラブ・富岡飛行倶楽部・柴漁港の漁師などが、昔遊び体験や餅つきをサポートするなど、地域団体との連携も推進されている。

## ● その他

○地域のNPO法人野口英世よこはま顕彰会の方々による出前授業、横浜市立大学の医学生による出前授業、ロバの会による認知症講座、並木男声合唱団による芸術鑑賞会、地域の方による戦争講話など地域の方々との連携がますます充実してきた。



「なみよんFANくらぶ」の活動の様子。応援団感謝集会や地域の方々への感謝の気持ちを伝える場として、年度初めに応援団紹介集会、年度末に応援団感謝集会を設けている。



「なみよんFANくらぶ」の活動の様子。地域の方々が学校に来てくれて下さっていることに感謝の気持ちを伝える場として、年度初めに応援団紹介集会、年度末に応援団感謝集会を設けている。

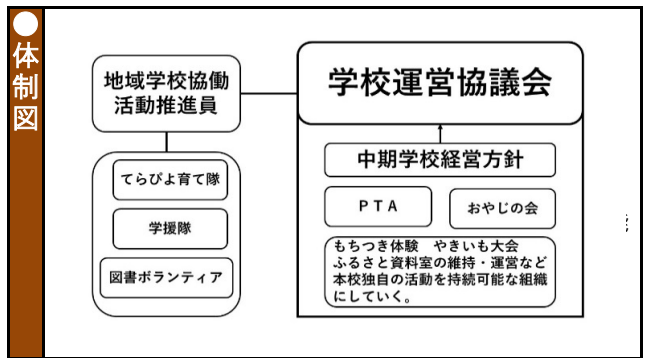
こんな活動です

# 地域と学校で『まち』を大切に子どもを楽しく育て隊！

神奈川県横浜市	●活動名 寺尾小学校地域学校協働活動	●関係する学校名 横浜市立寺尾小学校
---------	-----------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	23 学級	のべ児童・生徒数	652 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		—	
	—	—		4人		—	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成28年10月1日設置	—	45人	—	—		
参考URL	<a href="https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/terao/">https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/terao/</a>						

●連絡先	横浜市立寺尾小学校	☎ 045-581-7084
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

学校は、地域の方々の深い愛情に包まれながら、まちと関わり合いながら学び、『まち』を大切に子どもを目指し、地域学校協働活動に取り組んでいる。学校運営協議会においては、学校が取り組む教育活動について理解が得られ、地域とともにある学校運営が実現できている。

- 地域の方々との交流を通じた安全な学校環境の整備、挨拶を通じた地域の方々との交流。
- 地域の教育力を活用した「ふるさと資料室」の活用、トリムコースの活用など地域資源を活かした教育活動の実施。
- 平成4年にトリムコース落成式が行われ、平成7年にはふるさと資料室が開室された。平成19年におやじの会が発足し、平成28年には学校運営協議会が設置されるなど、長きにわたって地域からの支援がある。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

<具体的な活動内容> ○おやじの会・ふるさと資料室主催の春・秋のトリムコース整備活動(トリムコースやピオトープ、竹藪の整備、老朽化した平均台の撤去、危険な木々や蔓の剪定等)。○毎週水曜日の朝活動の時間の「よむよむタイム」での図書館ボランティアによる読み聞かせ。○「わくわく全校遠足」での保護者ボランティアによる交通整理や巡回、ポイントラリーのサポート活動。○茶摘み&茶もみ体験学習への協力。○伝統の「寺尾新田」の学習(代掻き・田植え)での協力。地域の店から稲の苗をいただき、ふるさと資料室の器具を活用。○体力テストでのボランティア活動。○「ふるさと寺尾縁日&花火大会」での地域の方々やおやじの会の協力。○ブロックで行われている地域防災拠点訓練・罹災者支援ネットワーク対応訓練への協力。○「ふるさと資料室」にある社会科資料(昔の寺尾の生活)の管理。

上記の他にも、餅つきなどの行事への協力や、学区探検や家庭科等への学習支援も行っている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 学校運営協議会は、各専門委員会(防犯・防災部会、学習支援部会、環境部会)で構成されており、学校運営協議委員と教職員の連携・協力が図られている。
- 人権・福祉委員会の進行による「学援隊がんばります宣言の会」を実施した。学援隊の方々を学校に迎え、代表児童が「がんばります宣言」を発表することで、児童の安全に対する意識を高めたり、学援隊の方々とのつながりを深めたりしている。
- 「トリムコースを守ろう」の活動の様子を神奈川県全域・東京多摩地域の地域情報紙であるタウンニュース(鶴見区版)で発信した。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 平成30年に発足した“てらび育て隊”があることで、これまで独自で行われていた、それぞれの団体主催の行事が有機的に連携して実施することができており、「ふるさと寺尾」を楽しく学び、地域を愛する子どもが育っている。
- 子どもが安心して心豊かな学校生活を送るための教育活動が実現できている。
- トリムコースがあることで、子どもは緑の多い環境で、自然と触れ合ったり、のびのびと遊んだりすることができている。
- 学校運営協議会が設置されたことにより、より質の高い教育が提供できるようになった。年3回開催する中で、学校の活動報告に対する意見だけでなく、予定されている活動に対しての協力の申し出や、よりよい活動に向けての意見などがもらえるようになった。

## ● その他

令和元年度よりスタートした地域の保護者ボランティアによる児童(主に1年生の授業サポート)の見守り活動、平成19年よりスタートした学援隊による登下校の見守り活動など、地域の方々の見守り活動が充実している。



しおム  
てやコ  
いじさ  
のスト  
の会ー  
がの寺  
活動尾  
を春の  
サ整名  
ポ備詞  
ー活ト  
トリ



て隊登  
児ー下  
童区校  
の役の  
安所見  
全守や  
守警  
察活  
も動  
も「  
協学  
働援  
し



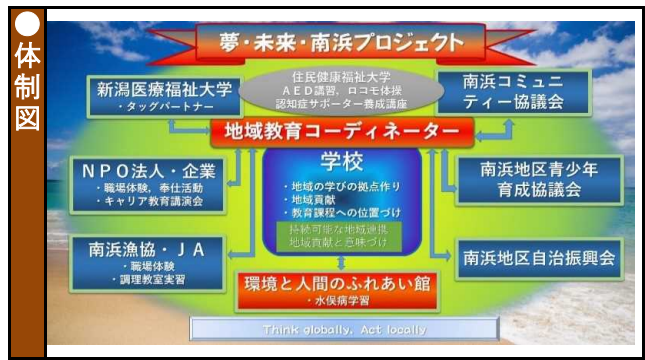
こんな活動です

# 「夢・未来・南浜」プロジェクト — 地域と融合した持続可能な取組 —

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	南浜中学校地域学校協働本部	新潟市立南浜中学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	117 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数			2人
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携			有
参考URL	http://minamihama-j.blog-niigata.net/						

●連絡先 新潟市教育委員会地域教育推進課 ☎ 025-226-3277



●活動の概要・経緯

○新潟市の最も北に位置する南浜地区は、市内でも有数の高齢化地域である。この地域課題に地域と学校が一体となって取り組むことで、地域と学校がWin-Winの関係で子供たちを育むべく、平成23年に地域と学校パートナーシップ事業の取組を開始し、同時に地域コーディネーターが配置された。地域課題解決に向け、子供が学ぶべきことは何か、地域に参画・貢献できることは何かを探りつつ、未来の南浜をどうするのかをイメージしながら様々な取組を行ってきた。

○「中学生も南浜の大切な力」という考えのもと、活動のフィールドを学校だけでなく地域に広げて行った。また、地元の大学との連携により、より専門性の高い取組を展開している。さらに、地域の学びの拠点として、様々な機会を提供し、未来を見据え、将来を担う地域の人材を育成するという目的に向かい、子供も大人も互いに学び合う、学校を核にした地域づくりを進めている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①コミ協福祉部が新潟医療福祉大学とタイアップして行っている「健康福祉住民大学」の一環で、救命救急・AED講習、認知症サポーター養成講座、ロコモ体操を中学校で中学生も参加して実施。
- ②「学びの拠点作り」として短歌講座(2回)、書道講座(8回)を実施、郷土料理の学習(のっぺい汁、笹団子)に地域住民も参加。
- ③新潟水俣病学習を地域学習・人権学習として、新潟医療福祉大(3年生)、環境と人間ふれあい館(1年生)と連携し実施。
- ④日本舞踊ワークショップ、古町芸妓講話、日本舞踊公演鑑賞会を「大好きにいがた体験」事業で実施。生徒数を超える地域住民が参加。
- ⑤地域防災講話(6月)で学んだことをベースに、地域防災訓練(10月)に参加し実践。校区内2か所の地域防災訓練に参加。
- ⑥文化祭での「夢教室」の実施。そば打ち、演劇、ヨガ、寄せ植えなど11の教室を地域住民が講師となり生徒や保護者に指導。

### 【実施に当たっての工夫】

- 地域と学校が一体となって共に学び合い、地域づくりに貢献できるような取組を実施する。地域コーディネーターを中心に各関係機関等に依頼するほか、ロコモ等を利用して気軽に地域の方々に参加できるように工夫している。
- 「健康福祉住民大学」の中学校実施は、各専門機関のプログラムにより実施されるケースが多いため、生徒たちが深く考え主体的に活動できると共に、確かな地域づくりの基礎となっている。
- 普段から「地域と学校が共に」という意識が地域に根付いており、あらゆる教育活動に地域の方々に参加できるように、パートナーシップ通信や学校だより、ブログなどで広報している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 生徒と地域の方が「学び」とおして交流することで、生徒の多様な価値観に接することができ、寛容の精神が育まれた。また、多様ななかかわりを経験することで社会性の向上が見られた。(生活意識調査、昨年度比75.5ポイントから86.6ポイントへ向上。)
- 地域とのつながりが密になり、地域の方々とのコミュニケーションが活性化されたため、生徒の生活学習意識調査の結果で「自己肯定感」の学校全体の肯定的評価が、昨年度比62.8ポイントから81.3ポイントに向上した。
- 地域の学校に対する認識が変化し、数居の高かった「学校支援」から「学びの拠点」に移行することができ、学校がより身近な存在となり「学校を核にした地域づくり」の基盤ができた。

## ● その他

連携先:NPO森の会,南浜病院,エミタイ,北地区歴史文化研究会,北区社会福祉協議会,包括支援センター,新潟商工会議所,いなほ会,新潟太陽福祉会,アルビレックス新潟等。新潟医療福祉大学生ボランティア,敬和学園高校生徒との交流も行っている。



合生認  
徒徒知  
いを・症  
元地サ  
に域ポ  
グ・ー  
ル専ー  
プ家養  
発の成  
表の講  
し話し



け地救  
域命  
の方救  
々が急  
なら々  
らと・A  
学中ED  
ぶ生講習  
姿が共  
に助

こんな活動です

# 「WE LOVE 関屋 いきいきプロジェクト」とボランティア活動の推進

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	関屋小学校地域学校協働本部	新潟市立関屋小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	9 学級	のべ児童・生徒数	173 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.niigata-sekiya-e.city-niigata.ed.jp/">http://www.niigata-sekiya-e.city-niigata.ed.jp/</a>						



●連絡先	新潟市教育委員会地域教育推進課	☎ 025-226-3277
------	-----------------	----------------

子どもたちは明るく活動的で学力も安定し、学校全体が和やかな雰囲気である。地域や保護者は学校に対して協力的で「子どもたちを地域で守り育てる」という意識が強い。一方、意識調査やアンケートの結果を見ると、「地域への関心や地域から学んでいる意識」の肯定的評価があまり高くない。そこで「地域とかかわり、地域から学び、地域のことを考える活動」を更に充実させ、「地域を愛し、地域を誇りに思い、よりよい地域を創ろうとする子どもの育成」を目指して取り組んでいる。また、子どもたちのエネルギーの源は、自尊感情である。「自分が好き。役に立っている。やればできる。」という気持ちの高まりが生活の充実につながる。自尊感情は、多くの人と接する中で認められたり、ほめられたりする中から高まる。そこで、教育活動の中に積極的に外部人材によるボランティア活動を導入し、たくさんの保護者・地域の方々と連携する教育活動に取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○各学年で、地域とかかわりながら地域の良さをを知る活動「地域教育プログラム」が組まれている。1年生は「昔の遊び体験」で地域の方々と交流をした。2年生は「町探検」、3年生は「一日店員活動」、4年生は「地域の環境学習」、5年生は「コメ作り」、6年は「地域の福祉」の学習で地域について調べ、自分たちでできることやよりよい未来のビジョンを考え発信する学習活動を展開した。地域の方から教えていただいたり話し合ったりする活動を取り入れ、取組の成果を参観日等で地域の方々に発信した。

○公民館と連携し関屋映像研究会の講師を派遣してもらい、地域住民と子どもが共に学ぶ場を実施したり、地域コミュニティ協議会との共催で地域の方の学びの場を実施したりと地域とのネットワーク作りを進めている。地域の方が積極的に学校にかかわっている。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①地域と学校パートナーシップ事業推進会議で意見交換をする活動を取り入れ、団体の代表やPTA役員等が、地域の子どものをどう育てていけばよいかについて話し合った。地域の意見を知る貴重な場となっている。
- ②月に一度、「校長室カフェ」として地域に校長室を開放し、地域の方々や保護者が誰でも来室可能としている。地域の活動や学校の教育活動などを双方向で伝え合う機会となっている。
- ③地域コーディネーターを中心に新規事業開拓や活動の充実に向けて公民館やコミュニティ協議会、育成協、保護者と連携した取組を進めることで年間延べ700人近くのボランティアが日常的に来校している。子どもたちにとっても地域住民にとっても学校が「自己実現できる場」、「生きがい」や「やりがい」を見つけることのできる場となっている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○1年生の「昔遊び体験」に来られたボランティアからは「元気をもらった。」「伝えられてとてもよかった。」との感想をいただいた。子どもたちも教えてもらうことでより深い学びとなった。「地域の人から話を聞いて分かったりできたりすること」についての肯定的評価は、50.3%から61.7%と向上している。どの活動でも、子どもたちと学校と地域のそれぞれが「Win-Winの関係」を生み出している。

○推進会議で、関係者とファシリテーションを通して地域と学校等が「どんな子どもを育てたいか」を共に考えた。また、「校長室カフェ」も地域の意見や情報を得る貴重な場となっている。地域と学校が同じ場で、共通の話題で考え実践することを通して、地域の教育力も高まり、学校と地域の取組を同じ方向にする効果があり有意義な場となった。

## ● その他

上記の他にも、「新潟青陵大学」「新潟大学」「新潟高等学校」「はまぐみ特別支援学校」「新潟市役所」「日本赤十字社新潟県支部」「校区内の商店」「交番」「関屋ふれあいランド」「関屋ひまわりクラブ」「社会福祉協議会」等の団体・施設等と連携・協働をしている。



【昔遊び体験】昔の遊びで、地域の方と子どもたちが触れ合う機会を大切にしています。



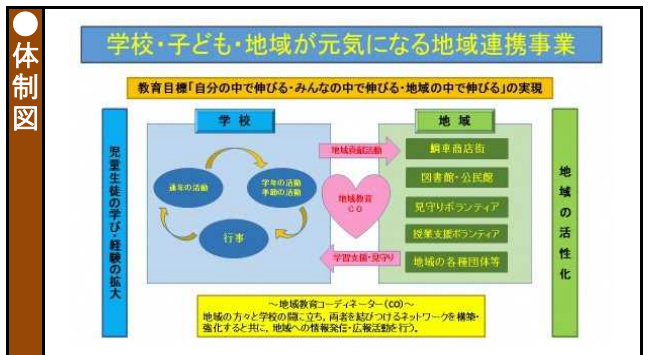
【校長室カフェ】毎月一回の地域や保護者の方々と校長室で意見交換を行っています。

# 学校・子ども・地域が元気になる地域連携事業

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	西特別支援学校地域学校協働本部	新潟市立西特別支援学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	29 学級	のべ児童・生徒数	111 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	—				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—		1人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無		
	令和4年4月1日設置		67人				
参考URL	<a href="http://www.nishitoku.city-niigata.ed.jp">http://www.nishitoku.city-niigata.ed.jp</a>						

●連絡先	新潟市教育委員会地域教育推進課	☎ 025-226-3277
------	-----------------	----------------



●活動の概要・経緯

学校の所在する巻地区は、農業を地域の主な産業とし、周辺の拠点として歴史があり、古くからの祭礼や民謡の「巻甚句(まきじょんく)」、郷土玩具の「鯛車(たいぐるま)」など地域にゆかりの豊かな文化資産をもつという特徴がある。特別支援学校は児童生徒の通学区域が広域となるため、なかなか地域に根ざした活動を行いにくいという課題があったが、地元商店街との交流を重ね、地域での体験型の授業を継続する中で、地域と学校のネットワークが強化されてきた。その過程で、「学校と地域の双方にメリットのある活動」こそが児童生徒の経験の拡大や自己肯定感の向上につながり、地域の中の学校としての役割を果たすことにつながると考え、『学校・子ども・地域が元気になる地域連携事業』の取組を実施するに至る。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 一人一人の実態に応じて、じっくりと学習に取り組む特別支援学校の特性を生かし、人とのかかわりを軸として体験の中で学ぶ学習活動が年間を通して展開されている。「さつまいも植え・収穫」や「絵手紙教室」、「巻甚句指導」のような季節ごとの活動、「ランニングの誘導・見守り」や「絵本の読み聞かせ」などの日々の活動がバランス良く配置されている。
- 学校と地域を結ぶネットワークを整備し、学校・地域双方にメリットのある活動を展開している。地元商店街と連携し作品展を行ったり、運動会に向けて振り付けを習った「巻甚句」をまき夏まつりでも披露したりすることで、児童生徒にとってごく自然な形で地域貢献活動を継続して取り入れてきた。様々な分野のゲストティーチャーを招き体験するだけでなく、夏まつりや駅前駐車場の清掃活動等への参加、地域へ出かけ継続して貢献活動を行うスタイルを大切にしている。

### 【実施に当たっての工夫】

- 地域コーディネーターの尽力により、様々な専門性を持つ学校支援ボランティアが増え、活動の幅が着実に広がっている。また、学校と地域の各種団体という線のつながりから、「学校とつながる・子ども達とつながるネットワーク」の強化につながっている。
- 年間の活動計画作成の段階から学校支援ボランティアとの連絡を密に取ることで、活動をバランス良く配置するようにしている。
- 児童生徒の実態に合わせ、見通しを持って活動できるように、学年ごとの活動や季節に合った活動を継続している。
- ボランティアや講師が継続してかかわることで、個別の児童生徒の実態に合わせた支援をしてもらっている。いろいろな立場のボランティアや講師と多くかかわることで、活動を認めてもらえることで自己肯定感を高め、かかわる力を高めている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 多くの学校支援ボランティアと定期的・継続的に接することで、児童生徒のコミュニケーション・体験の幅が格段に広がることはもちろん、地域の方から認められ、褒められることで自己肯定感の向上にも大きく寄与している。
- 学習支援ボランティアへのアンケートでは90%以上の人から「活動が自分自身の生きがいになっている」「自分の方が元気をもらっている」など肯定的な回答を得ている。
- 商店街の交流館との連携を継続することで、校外の活動場所、学校の活動を知ってもらうPR拠点の確保につながっている。

## ● その他

商店街の他に、西川図書館、巻総合高等学校家庭科部、地元和太鼓集団「越王太鼓」、読み聞かせサークル、高齢者福祉施設、栽培収穫支援農家等、多くの機関・団体と連携・協力体制が構築されている。



でき鯛車商店街交流館囲炉裏



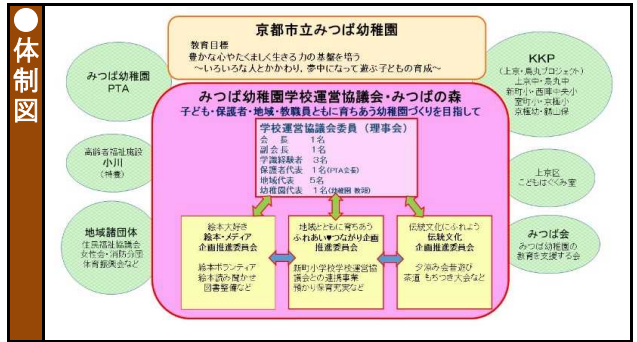
まき夏まつりパレードへの参加(巻甚句披露)

こんな活動です

# 子ども・保護者・地域・教職員 ともに育ちあう幼稚園づくりを目指して

京都府京都市	●活動名 みつばの森・みつば幼稚園学校運営協議会	●関係する学校名 京都市立みつば幼稚園
--------	-----------------------------	------------------------

協働活動開始年度	平成18年度	関係学校数	1校	のべ学級数	3	のべ児童・生徒数	83人
活動区分	学校支援活動					地域人材育成	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		3人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数		延べ登録人数	45人	企業・NPO等との連携	無
参考URL	<a href="http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=500302">http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=500302</a>						
●連絡先	京都市教育委員会 生涯学習部		☎		075-251-0456		



●活動の概要・経緯

3園の統合に伴い平成7年に開園したみつば幼稚園は、地域の温かい支援と熱い思いの下、幼稚園の中で全国で2番目となる学校運営協議会「みつばの森」の発足から今年度で14年目を迎える。「みつばの森」は、子ども・保護者・地域・教職員が共に育ちあう幼稚園づくりを目指し、各代表者を構成員とした理事会と地域学校協働活動を企画・実施する企画推進委員会から構成され、平成20年からは「絵本メディア」、「ふれあい♥つながり」、「伝統文化」の3つの企画推進委員会を組織し活動している。「みつばの森」では幼稚園教育目標を一層意識しながら、幼稚園PTAをはじめ、地域諸団体、近隣の新町小学校学校運営協議会、隣接の小川高齢者施設と連携するなど、幼稚園と地域をつなぎ、地域の力が幼稚園教育や幼児の育ちに活きるよう、また、それぞれの活動が充実するよう取り組んでいる。さらに、平成28年度には文部科学省から幼児期の教育内容など深化・充実調査研究の研究協力園として委託を受け、「幼児が地域に親しみ愛着を持つことを目指して」をテーマに研究を行うなど、日々の活動から研究実践に至るまで、地域と協働した取組を幅広く展開している。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①絵本大好き「絵本メディア企画推進委員会」:えほん室での見守り、在園児・未就園児への絵本読み聞かせ、図書整備、預かり保育や催し時には読み聞かせやグレースライオンズクラブと連携した活動を実施。
- ②地域とともに育ちあう「ふれあい♥つながり企画推進委員会」:預かり保育の充実(ミニ運動会・しおりづくりなど)、新町小学校学校運営協議会との連携による事業(夕涼み会での昔遊びコーナー担当・幼小交流の充実)、小川高齢者施設との交流見守り・宿泊保育の見守りなどの活動を実施。
- ③伝統文化にふれよう「伝統文化企画推進委員会」:学校運営協議会とPTAとの共催事業である地域の力を活かしたもちつき大会や夕涼み会での浴衣着付け、地域女性会による5歳児の茶道体験などの活動を実施。

### 【実施に当たっての工夫】

- ・えほん室での絵本ボランティアの活動では、絵本ボランティアの名札カードを掲示し、教職員も積極的に名前を呼びかけ、顔と名前がわかり人となりのつながりができるように工夫している。図書整備や絵本補修により「心地よいえほん室」が保たれ、人が集う場となっていると同時に、教員の仕事量軽減となっている。
- ・学校運営協議会会長が地域少年補導役員であることや本園と新町小学校の学校運営協議会理事を兼ねる方の橋渡しにより、地域諸団体との連絡調整が行いやすい。地域の方々の力で、茶道体験や宿泊保育での花火体験、夕涼みでの浴衣着用等園児の経験や多様な体験機会の創出に繋がっている。
- ・学校運営協議会とPTAによるもちつき大会は園児にとって直接体験ができる場であると同時に、保護者にも地域の人に教えを受けながら餅を蒸しや餅を丸めることを経験してもらうことにより、大人にとっても地域に生きる伝統文化を学び、地域への愛着を育ててもらい良い機会となっている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・園児は伝統文化をはじめとする様々な直接体験を通して、地域に親しむことができ、幼稚園での豊かな生活に繋がっている。また、地域学校協働活動に参加された方からは、「園児から元気もらった」、「自分の子育てを振り返る機会になった」などの声が聞かれ、お互いにとって心豊かになる活動ができています。
- ・園児にとっては初めての学校である幼稚園において保護者以外の人との関係を築くにあたり、地域学校協働活動への参加を通して、様々な人との出会いや温かな関わりがあり、自分たちが多くの人に見守られ、地域や社会に繋がっているのを感じたり知ったりすることができる機会となっている。
- ・核家族化が進み地域自治会に属しない家庭が増える中、地域学校協働活動への参加を通して園児や保護者が地域や地域の人を知り、馴染みを持つことでできている。そうしたことが小学校以降の学校・地域での保護者の積極的な活動に繋がっており、地域で子どもたちを育てようという機運の高まりにも大いに繋がっている。

## ●その他

地域の協力により実施しているもちつき大会や、学校運営協議会理事による調整により実現した警察音楽隊・カラーガード隊による交通安全啓発を実施。



かまどの直火でもち米を蒸す様子を見学。“火”の熱さ、湯気や煙などを体感。地域の方も「子どもの応援は力になるね!」と笑顔!



地域の協力を得て  
《もちつき大会》



保護者と園児をはじめ、隣接する高齢者施設の皆さんも共に楽しんだ。

京都府警察音楽隊・カラーガード隊による交通安全啓発

こんな活動です

# 子どもを核に 学校・地域・保護者が協働し、 笑顔いっぱい やさしさいっぱい 夢が広がる 学校づくり

●活動名	●関係する学校名
京都府京都市 梅小路小学校学校運営協議会「梅っ子パートナーズ」	京都市立梅小路小学校

協働活動開始年度	平成20年度	関係学校数	1校	のべ学級数	14学級	のべ児童・生徒数	264人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成	—			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	—			
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	<a href="http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/umekouji-s/">http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/umekouji-s/</a>						

●連絡先	京都市教育委員会 生涯学習部	☎	075-251-0456
------	----------------	---	--------------



明治期からの歴史と地域の熱い思いを受け継ぎ開校24年目を迎えた梅小路小学校は、平成8年4月1日に安寧小学校、大内小学校の統合により誕生、校区には「安寧・梅選・大内」の3自治学区がある。学校運営協議会の発足前から、「地域の子どもは、地域で育てる」、「学校と地域は車の両輪」という地域の方々の考えの下、地域と連携し、学校運営を行ってきた。平成20年12月に学校運営協議会が発足して以来、平成21・22年度、24・25年度、26・27年度と6年間にわたって文部科学省からの研究指定を受け、コミュニティ・スクールに関する各種実践を進めてきたことが素地となり、現在、梅小路小学校学校運営協議会「梅っ子パートナーズ」は充実期を迎えている。

「学校支援活動」、「地域課題解決学習」、「地域人材育成」、「放課後まなび教室」の活動を企画・実施するために8の企画推進委員会を設置し、年間を通じて多種多様な地域学校協働活動を活発に行っている。子どもたちの豊かな学びや健やかな成長を願うと共に次年度の地域の担い手を育てるため、地域の各種団体が「スポーツ」、「文化」、「食育」、「安全見守り」、「園芸」、「環境」等それぞれの得意分野において子どもたちのために力を発揮されていることが、持続可能かつ充実した地域学校協働活動の実施に繋がっている。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- 学校支援活動…各教科、交通安全教室等の授業補助、わくわく土曜学習での補充学習支援、部活動支援、登下校時の見守り活動、校内環境整備などを実施。
- 地域課題解決学習…総合的な学習の時間に、地域の商店街や歴史的建造物、京都水族館、梅小路公園等をフィールドに「地域との連携・協働(地域の特色を生かし、地域とつながる)」をテーマに、学校運営協議会の大きな協力を得て、校区内の地域資源を生かした幅広い活動を実施。
- 地域人材育成…グランドゴルフやアクアビクス等のスポーツ、茶道や華道等の伝統文化、京野菜を使った親子料理教室等の食育など、各種事業を実施。
- 放課後まなび教室…日常の取組をはじめ、季節ごとに各種イベントを実施。

### 【実施に当たっての工夫】

- ①教職員全員が、地域学校協働活動を企画・実施する各企画推進委員会へ参加し、地域の方と共に活動している。年度当初に学校運営協議会理事や全企画推進委員が一堂に会する総会が開催され、年間に複数回、地域の方と教職員とが各種事業や授業準備、打ち合わせのために企画推進委員会を開いている。
- ②学校評価に加え、学校の取組やその成果を役員会でお知らせするとともに、「梅っ子パートナーズだより」やホームページ、学校だよりによって地域や保護者に学校運営協議会の取組を随時お知らせしている。
- ③地域の方から支援を受けることだけでなく、年度末には地域の方を学校へ招き「感謝の会」を開いたり、子どもたちが育てた花をプレゼントしたり、子どもたちが地域に貢献できる取組を実施する等、子どもと地域が双方向の関係となるような活動を展開している。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ①学校と地域の距離が近くなった。子どもを核として教職員、地域の方、保護者がつながり、互いの絆が深まった。(コミュニティの広がり・深まり)
- ②地域の方々が学校運営に携わっているという実感をもつと共に、梅小路小学校が「自分たちの学校である」という意識が高まり、学校の取組に対する理解も深まった。取組を重ねる中で、3自治学区間の絆も強くなり、多種多様な活動の実施に繋がっている。
- ③子ども:「地域の方々に大切にされている」という自覚を持つことができ、自己肯定感が高まると同時に、地域を大事にする思いや地域の方への感謝の気持ちももてるようになった。  
地域の方:子どもからの感謝の気持ちが伝わり、生きがい、自己有用感が高まると同時に、未来のまちづくりへの夢が広がっている。  
→梅小路小学校には、子ども・地域の方・保護者・教職員のやさしい気持ちが広がり、たくさんの人の笑顔があふれている。

## ● その他

活動は、地域の方の思いから企画されたものと、教職員の思いから企画されたもの、本校の教育課題を解決するために企画されたものがある。どの活動もねらいを共有したうえで実施し、事後しっかりと振り返りを行い、次年度につなげている。



学校支援活動「授業補助」  
第3学年 社会科 七輪体験



地域人材育成  
「文化に触れる」  
第6学年 茶道体験

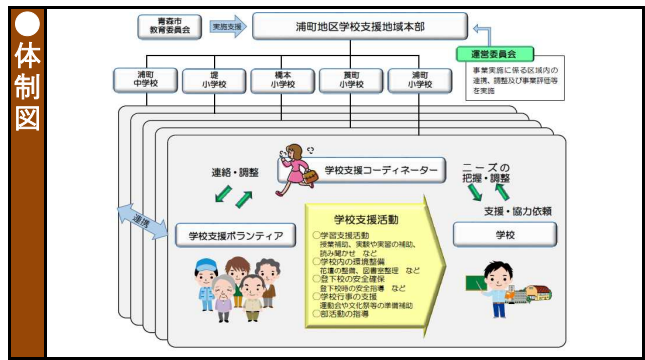
こんな活動です

# 「地域は教室、地域は世界の入り口」 ～子どももボランティアも笑顔になる活動～

青森県青森市	●活動名	●関係する学校名
	浦町地区学校支援地域本部	浦町中学校 堤小学校 貫町小学校 橋本小学校 浦町小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	5 校	のべ学級数	57 学級	のべ児童・生徒数	1265 人
活動区分	学校支援活動	—		—		—	
	—	放課後子供教室		—		—	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	—	—	8人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	平成31年4月1日設置	—	249人	—	—		
参考URL	—						

●連絡先 青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課 ☎ 017-718-1376



●活動の概要・経緯

学校と地域が一体となって、次世代の子どもの健全な育成をめざす体制を整えるために、平成20年10月に「学校支援地域本部」を設置した。学校は、社会に開かれた教育課程の実践のため、地域人材や地域素材を活用した、良質できめ細やかな教育活動を展開している。

配置されているコーディネーターは、学校と学校支援ボランティア、あるいはボランティア間の連絡調整を行っており、学校のニーズに応じたコーディネートを実施するために、保護者をはじめ地域住民の参画に向けたボランティアリストを作成する他、地域にある諸団体、諸機関とのコミュニケーションを密にし、積極的に情報収集や地域への情報発信に努めている。

## ● 活動の特徴・工夫

- 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】
- ①【多様な教育活動の支援】青森市中心部の立地を活かし、地域住民をゲストティーチャーとして授業の中に取り入れ子どもの経験・体験の拡大につながる教育活動を実践
  - ②【ボランティア募集の工夫】予め学校のニーズを把握、それに応じたボランティアを募集、年度初めから「即戦力」として活動
  - ③【地域団体との連携】学校支援コーディネーターは「社会福祉協議会」「防犯協会」「民生委員連絡会」「町会連合会」等にも積極的に参加し、情報共有に努め、学校と地域社会とのパイプ役として活動
  - ④【教育活動とボランティアの交流】様々な学校行事に地域住民を招待、学校と地域住民とのコミュニケーションを深めている
  - ⑤【地域と学校のコラボ活動】おやじの会の「地域ねぶた」など地域住民が参加する郷土の特色を生かした活動

【実施に当たっての工夫】

- ・学校の窓口となる教諭や学年主任等と共に、学校のニーズを把握しながら年間活動計画を年度当初に作成して効率的にコーディネートをを行うため、学校のニーズに基き計画的なボランティア募集によりボランティアの方々それぞれに活躍の機会が多く得られている。
- ・学校でボランティアが活動する際にはコーディネーターも同席し、活動の様子を記録する他、活動後にはボランティアとの話し合いの場を設け、次の活動に生かすなど、PDCAを重視している。
- ・地域にある諸団体とのコミュニケーションを深めるため日ごろからコーディネーターが率先して各種団体の会議に参加。多方面からの情報収集と地域への情報発信に努め、企画調整に役立てている。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- 【学校の教育力アップ】子どもたちの経験・体験が増え、多様な授業展開や学習意欲の喚起につながっている。また、地域住民との触れ合いを通し、子どもたちの規範意識やコミュニケーション能力の向上につながっている。
- 【地域の教育力アップ】地域住民が自らの経験を学校教育に生かすことで自己実現や生きがいにつながっている。また、地域住民同士のコミュニケーションが深まり、地域の活性化につながっている。
- 【地域のネットワークアップ】より多くの地域住民が学校教育にかかわることで、相互理解を深め、学校を核とした「地域全体」で子どもを育てる体制づくりにつながっている。

## ● その他

毎週決まった曜日に実施している、教員のOBによる放課後学習は子どもたちの学習に対する自信につながっている。おやじの会主催の「地域ねぶた」運行は、地域の小・中学校の児童生徒や地域住民が参加する郷土色を生かしたイベントである。



教員のOBによる放課後学習の様子



地域参加する小・中学校の児童生徒の「地域ねぶた」運行

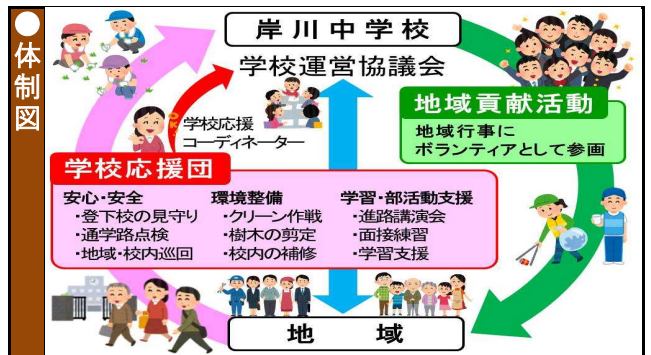
こんな活動です

# 中学生のパワーを地域に生かす「地域貢献活動」

埼玉県川口市	●活動名 岸川中学校・学校応援団	●関係する学校名 川口市立岸川中学校
--------	---------------------	-----------------------

協働活動開始年度	平成30年度	関係学校数	1校	のべ学級数	15学級	のべ児童・生徒数	403人
活動区分	学校支援活動		—		—	地域人材育成	
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	—	配置人数	1人		
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
参考URL	https://kishikawa.official.jp/						

●連絡先	川口市教育委員会学校教育部指導課	☎ 048-259-7661
------	------------------	----------------



●活動の概要・経緯

平成24年度に設置された「学校応援団」は、学校応援コーディネーターを中核に、①安心・安全、②環境整備、③学習・部活動支援に取り組んでいる。具体的には、登下校時の挨拶運動や見守り活動、学校や地域のクリーン作戦、地域人材を活用した進路学習や面接練習など、様々な活動を展開している。

「地域貢献活動」では、生徒が地域のお祭りや運動会等の行事の運営補助として積極的に参画し、地域の方とのコミュニケーションを深めている。これらの取組を実施するに当たり、学校応援団がボランティア募集や当日の支援等を行っており、平成30年度は生徒の約半数が活動した。

平成30年度に学校運営協議会が設置され、学校応援団との連携体制を構築し、活動が充実してきている。

## ●活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①「学校応援団」: 登下校時の挨拶運動や見守り活動、学校や地域のクリーン作戦、地域人材を活用した進路学習や面接練習など、地域の方々による教育活動への支援が活発である。
- ②「地域貢献活動」: 地域のお祭りや運動会、夏休みのラジオ体操など、様々な地域行事において、生徒がボランティアとして運営補助等に参画している。(平成30年度実績: 全校生徒の49%、延べ387人が参加)
- ③「学校運営協議会との連携体制」: スローガンに「学校が元気に、地域が元気に」を掲げ、学校応援コーディネーターが学校運営協議会のメンバーとなり、学校応援団との連携体制を深めている。

### 【実施に当たっての工夫】

<ビジョンの共有> 「地域貢献」は、学校運営協議会の協議・承認を経て、学校の重点指導項目の1つに掲げており、教育課程外の活動ではあるが、生徒が活躍できる場としてボランティア活動の推進に、地域と学校が一体となって取り組んでいる。

<連携・協働による広報活動> 地域行事へのボランティア募集に当たっては、学校応援団がポスターを作成し校内に掲示している。また、学校のWEBサイトに地域の情報を掲載する等、校内外に向けて積極的に発信している。

<コーディネーターの役割> 進路学習に向けた準備として、警察や消防等の諸機関や地元企業等に講師を依頼したり、地域のパトロール活動の充実に向けて自治会とPTAの連携を深めたりしている。

## ●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

生徒は、下校時の見守り活動や挨拶運動等で地域の方と挨拶を交わしたり、地域行事に参画し様々な年代の方と関わったりすることで、コミュニケーション能力を育むとともに、地域の担い手としての自覚が高まり、自己有用感を高めることにつながっている。

学校応援団と学校運営協議会が連携することにより、地域と学校が双方向の関係を築くとともに、自治会同士の連携やPTAとの協力体制など、学校を中心としたネットワークが構築されてきている。

学校のWEBサイトに地域情報を掲載する等、平成30年8月にリニューアルして以来、1年間で20万アクセスを超え、地域や保護者の学校への関心が高まっている。

## ●その他

・地域のお祭りで吹奏楽部が演奏する等、部活動としても地域に貢献している。



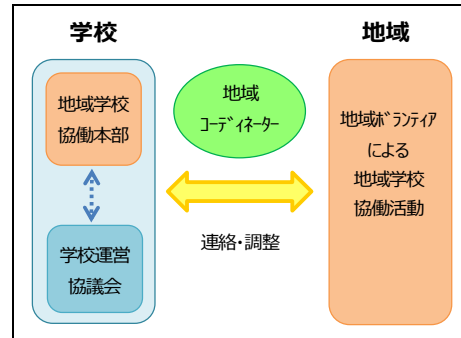
校内ポスターでボランティアを募集



地域の運動会（ゲートボール）で中学生がボランティアとして参加

石川県金沢市		●活動名 金沢市立犀川小地域学校協働本部				●関係する学校名 金沢市立犀川小学校			
協働活動開始年度	平成 28 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	13 学級	のべ児童・生徒数	257 人		
活動区分	学校支援活動		—		地域人材育成				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		—		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人			
学校運営協議会	指定・設置日		ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	無			
参考URL	<a href="http://cms.kanazawa-city.ed.jp/saigawa-e/">http://cms.kanazawa-city.ed.jp/saigawa-e/</a>								
●連絡先	金沢市教育委員会生涯学習課				☎ 076-220-2441				

●体制図



●活動の概要・経緯  
平成28年度に犀川小学校支援地域本部を立ち上げ、学校支援活動を実施。実施2年目となる平成29年度より、金沢市立犀川小地域学校協働本部として新体制を整え、学校支援活動で培ったノウハウを活かしながら地域学校協働活動を展開。また、本事業を土台とし、平成29年9月よりコミュニティ・スクールの運営を開始。2つの事業を両輪とし、学校・保護者・地域団体が連携・協働しながら様々な活動に取り組んでいる。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ・夏休み中に、地域の先生によるサマースクールを実施。子どもたちが興味深く取り組める内容や、金沢ならではの伝統工芸である蒔絵や陶芸を取り入れ、地域人材の育成にもつながった。また、講師となる「地域の先生」はすべて謝礼なしのボランティアで実施した。(蒔絵教室、作って遊ぶ(工作)教室、面白科学教室、マスコットづくり教室、ちぎり絵教室、陶芸教室)
- ・地域の先生による土曜授業を実施。(1年生体操教室、2年生パルーンアート教室、3年生押し花しおり教室、4年生イラスト教室、5年生アートフラワー教室、6年生木工)
- ・校内生け花、朝の読み聞かせ、見守り活動、環境整備、夏休みの学習支援などの学校支援活動を実施。

【実施に当たっての工夫】

- ・様々な分野の地域ボランティアの方に携わっていただき、子どもたちにとって幅広い学びの場となるようにした。
- ・公民館長である地域コーディネーターと公民館主事が連携、情報共有し、学校の要望を参考にしながら、「地域の先生」を的確に効率よく手配した。
- ・近隣の高校生がボランティアとして参加し、世代を超えて、学校を核とした地域交流の場を創出した。
- ・活動後には、公民館報や全戸配布するコミュニティ・スクールだよりに実施報告を掲載し、地域住民へ広く周知・理解を促した。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

- ・子どもたちは経験したことのない活動に興味を持ち、意欲的に取り組むことができた。
- ・作成した作品を公民館と小学校の合同文化祭に展示し、児童の成果発表の場と、学校と地域の交流を創出した。
- ・「地域の先生」として子どもたちとふれあった地域の方々には、子どもたちの育ちに関わる喜びを感じられ、地域活性化の一助となった。

●その他

校内生け花活動、朝の読み聞かせ、夏休みの学習支援など



地域先生による土曜授業  
(アートフラワー教室)



環境整備  
活動  
(花植え活動)



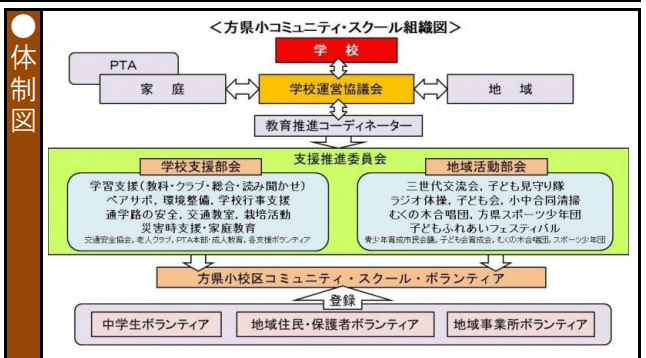
こんな活動です

# 方県っ子を方県みんなで育てます ～自然豊かな環境の中で質の高い教育を目指す～

岐阜県岐阜市	●活動名	●関係する学校名
	方県地域コミュニティ活動	岐阜市立方県小学校

協働活動開始年度	平成 24 年度	関係学校数	1 校	のべ学級数	6 学級	のべ児童・生徒数	87 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習		地域人材育成			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数		配置人数		2人	
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携		有	
参考URL	http://cms.gifu-gif.ed.jp/katagata-e/						

●連絡先	岐阜市立方県小学校	☎ 058-238-8611
------	-----------	----------------



●活動の概要・経緯

- 平成24年度に学校運営協議会を設置し、岐阜市型コミュニティ・スクールの指定を受ける。「方県っ子を方県みんなで育てます」をテーマに、自然豊かな環境の中で、質の高い教育の方県、子育てにより環境の方県、文化の薫る方県、あいさつが響く方県をめざし、学校・家庭・地域が一体となって「子どもにとってよいこと」を第一に考えて活動している。
- コミュニティ・スクールの主な取り組みは、学校支援部会、地域支援部会の2部会からなる支援推進委員会が進める。学校支援部会は学校の学習環境の幅を広げるためのサポートや防犯・交通安全のための見守り活動を、地域支援部会は子どもの地域参画や個性伸長の機会の提供を行っている。また、地元企業・施設等との連携により、地域性のある様々な体験学習に取り組んでいる。

## ● 活動の特徴・工夫

### 【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①学習ボランティアによる支援：伊自良川調べ、書写、茶の湯、俳句、ミシン、昔遊び、読み聞かせ等の支援を、年間のべ95回実施。
- ②保護者ボランティアによる学習支援「ベアサポ(ベアレント・サポート)」：算数等の補習支援を、隔週1回実施。
- ③諸団体による合同企画：支援推進委員会やその他の地域の諸団体による合同企画「方県子どもフェスティバル」を実施。
- ④地域ウォークラリー：自治会や寺社、地元企業の協力により縦割り班で地域を巡る「ウッキッキウォークラリー」を毎年5月に実施。
- ⑤「生活の作文コンクール」：家庭・地域生活での感動を綴る作文コンクールを実施し、入賞作品を冊子にして家庭・地域に配付。
- ⑥地元企業等との連携：サツマイモや大豆栽培、豆腐作り、花苗工場や鶏卵工場の見学、高齢者福祉施設との交流などを実施。

### 【実施に当たっての工夫】

コミュニティ・スクールの中核となる学校運営協議会は、連合自治会長が会長、公民館長と校長がそれぞれ副会長に就き、テーマ「方県っ子を方県みんなで育てます」に沿った協議を重ね、願いの共有や方針決定を行う。

支援推進委員会は、青少年育成市民会議会長が会長、老人クラブ会長が副会長に就き、諸団体間の連絡調整役を担う。また、学習ボランティア等の募集は、支援推進委員会が募集チラシを作成し、方県地域全戸に回覧するなどして募り、ボランティア代表であるコーディネーターと教頭・教務主任が連携して支援方法等の打ち合わせを行い、具体的な支援活動につないでいる。

## ● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・支援推進委員会を通して、コミュニティ・スクール化以前は繋がりが薄くばらばらに活動していた諸団体(PTA、子ども会、スポーツ少年団、合唱団、青少年育成市民会議、老人クラブ、交通安全協会等)や学習ボランティアの間に交流が生まれ、子どもの健全育成という共通の願いのもと、育成者である大人同士の連携がすすんでいる。

・支援推進委員会に属さない諸団体(社会福祉事業団、消防団、水防団、体育振興会、赤十字等)や地元企業・施設(農協、鶏卵業、花苗業、高齢者福祉施設等)との連携も広がり、コミュニティ・スクールを核とした地域と学校のパートナーシップに広がりを感じられるようになってきた。

## ● その他

校区が広く、集落間が田畑で隔てられた地域であるため、これまで「子ども見守り隊」が組織されていなかった、平成30年度より、自治会の働きかけにより、「方県小校区子ども見守り隊」が立ち上げられ、約30人のボランティアが見守り活動に携わるようになった。



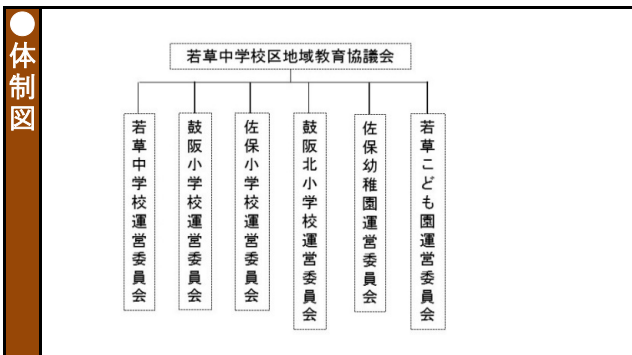
児童会行事「ウッキッキウォークラリー」で地域の寺社を訪ね、鐘つきをしていく様子



5年生総合指導により、学習ボランティアに誘われて、伊自良川で魚類を調べ、子ども見守り隊

奈良県奈良市	●活動名	●関係する学校名
	若草中学校区地域教育協議会	奈良市立若草中学校 奈良市立鼓阪小学校 奈良市立佐保小学校 奈良市立鼓阪北小学校 奈良市立佐保幼稚園 奈良市立若草こども園

協働活動開始年度	平成 20 年度	関係学校数	6 校	のべ学級数	47 学級	のべ児童・生徒数	969 人
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成				
	学校支援活動(学習、環境整備、見守り等)	放課後子供教室					
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数				
	1人		37人				
学校運営協議会	指定・設置日	ボランティアの数	延べ登録人数	企業・NPO等との連携	有		
	令和1年6月12日設置		283人				
参考URL	<a href="http://www.naracity.ed.jp/wakakusa-/index.cfm/1.0.17.html">http://www.naracity.ed.jp/wakakusa-/index.cfm/1.0.17.html</a>						



●連絡先	奈良市教育委員会事務局 地域教育課	☎ 0742-34-5366
------	-------------------	----------------

●活動の概要・経緯

若草中学校区地域教育協議会は、平成20年に組織され12年目となる。広い中学校区内にある6校園の連携を大切にしながら、地域にある財産(世界遺産・環境)を最大限教育に活かせる支援を行っている。学校園と地域・家庭と、活動にかかわる指導者のつながりを意識し、こども園・幼稚園、小学校、中学校の子育てに一つの道筋ができればとの思いで活動している。地域に数多く現存する世界遺産を中心とした歴史・伝統・文化の学習と、地域の環境保全に取り組む事業を通して、子どもたちが生まれ育った地域を誇りに思えることの大切さや地域の良さを自ら発信できる力をつけさせる活動が継続的の事業として成果が出ていることを確認できる。

●活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

- ①地域の世界遺産である東大寺の僧侶を招き文化講演会を開催。地域と学校が協働し、3年間を一つのサイクルとして企画・実施。広報ポスターを近鉄奈良駅前に掲示して地域に広くPRした。
- ②小・中学校が合同で行う「佐保川清掃」や、専門家やNPO法人の指導を受けて取り組む「ピートープ・バタフライガーデンを通しての自然環境学習」「バラタナゴ保全活動」などを通して地域の環境保全を自らの問題と捉え、自分たちができることを考え実践させている。
- ③鼓阪北小学校、鼓阪小学校が地域と協働で取り組む「菜の花プロジェクト」では、採れた菜種油を東大寺と春日大社に灯明油として届けるなど世界遺産学習と環境教育を体系的につないでいる。
- ④放課後子ども教室でも奈良先端科学技術大学院大学との連携でプログラミング教室や奈良女子大学との連携で学習相談を行う等、他団体との連携を積極的に行っている。

【実施に当たっての工夫】

長年、学校と協働して活動している地域の人々やコーディネーターが、子どもたちの11年間の継続した学びを意識しながら、地域で守り活かしてきた世界遺産や環境を、次世代の子どもたちへつなげていく教育を行うために、各学校園の取り組みに合わせ、近隣大学やNPO法人と連携し活動している。文化講演会は協議会の活動を周知する目的も持っており、広報ポスターを近鉄奈良駅前に掲示させてもらうことで、一般の方にも参加してもらうことができた。この文化講演会を次年度にも繋げていくために、アンケート調査で満足度を調査し、改善を図っている。また、活動全体についても、学校評価アンケートの利用やそれぞれの活動のアンケート実施等、参加者の満足度や感想を知ることにも努め、次に繋げていく工夫としている。

●地域学校協働活動を実施しての効果・成果

広い中学校区に点在する6校園で、こども園・幼稚園と小学校、小学校と中学校、学校園と地域などの連携事業を通して、地域のつながりを大切にし、子どもたちが自尊感情を高める機会、自他の命を大切にすることを考える機会を創出することができている。特に、地域に数多く現存する世界遺産と地域の環境保全事業から、子どもたちが生まれ育った地域に誇りを持つことの大切さや地域の良さを自ら発信できる力が育まれている。佐保小学校では伝統ともなっているマーチングバンドの活動で、講師や教員の指導の下、地域のイベントや学校行事の場で日頃の練習の成果を披露し、地域とのつながりや地域活性化にも貢献しており、地域の伝統を受け継ぐ心が子どもたちにも根付いている。

●その他

「菜の花プロジェクト」ではNPO法人宙塾と連携して行っている。また、他にも近隣大学と各学校園の取り組みに合わせ連携を行うなど、地域と学校の多様な連携が展開されている。



世界的遺産(鼓阪北小学校)の環境教育を体系的に



近隣大学と連携して開催した放課後子ども教室(鼓阪小学校)